

令和8年度

〔2026〕

# 履修の手引



滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

# 目 次

## 第1章 総則

1	授業科目の区分	1
2	単位制度	1
3	学期および授業	2
4	履修の登録	5
5	試験	7
6	成績評価および単位の認定	8
7	卒業要件	10
8	副専攻科目について	10
9	他学部・他学科科目の履修	11
10	他大学の科目の履修（単位互換制度）	11
11	編入学生の履修	11
12	生成AIの利用	12
13	その他	12

## 第2章 学部等別履修の手引

1	全学共通科目履修の手引	13
	Ⅰ 全学共通基礎科目	18
	Ⅱ 人間学	21
	Ⅲ 地域教育プログラムー地域基礎科目	24
	Ⅳ キャリア教育・ボランティア関連科目	29
	Ⅴ 資格関連科目	32
	Ⅵ 日本語・文化関連科目	32
2	近江楽士（地域学）副専攻履修の手引	34
3	環境科学部科目履修の手引	36
4	工学部科目履修の手引	69
5	人間文化学部科目履修の手引	98
6	人間看護学部科目履修の手引	142

## 第3章 資格取得の手引

1	本学における免許・資格等の取得について	155
2	各学部・学科における教育職員免許の取得について	156
	人間看護学部における養護教諭免許の取得について	180
	生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について	183
3	「学芸員」の資格取得について	185
4	「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について	187
5	「看護師国家試験受験資格」について	190
6	「保健師国家試験受験資格」について	191
7	「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について	192
8	「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について	194
9	「インテリアプランナー登録資格」について	195
10	「自然再生士補資格」について	196
11	「社会調査士資格」について	198
12	「地域調査士資格」について	199
13	「GIS学術士」について	200
14	「毒物劇物取扱責任者」について	200
15	「甲種危険物取扱者試験受験資格」について	201
16	「施工管理技士受験資格」について	202
17	「電気通信主任技術者資格」について	203
18	「電気主任技術者資格」について	204
19	「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について	205
20	「社会福祉主事任用資格」について	206

## 2026（令和8）年度授業科目一覧

授業科目一覧	207
--------	-----

## 滋賀県立大学 学位授与方針（ディプロマポリシー）

滋賀県立大学では、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を以下のとおり定めます。これらの能力を獲得するとともに、各学部に所定の年限在学し、全学ならびに各学部・学科の定める教育理念・教育目的に沿って設定された教育プログラムや授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に学位を授与し、卒業を認定します。

学位：学士

- A. 「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等の「全学共通科目」の履修を通じて、基礎的な知識・技術を養うとともに、社会環境の変化に柔軟に対応できる豊かな人間性と、課題を発見、分析、解決する能力に加え、自ら探求する態度と姿勢を身につける。
- B. 各学部・学科の特性に応じて編成された体系的な教育を通じて、専門的な知識・技術を養うとともに、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につける。

## 滋賀県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

滋賀県立大学は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」として、未知の時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成するため、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

### A. 全学共通科目

広い視野と実践力を養い、大学の目的である高度化・総合化および柔軟性・多様性を実現するため、「全学共通科目」として、外国語（英語、第二外国語）、健康・体力科学、情報処理の3科目群からなる「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等を設置します。

「人間学」では、主体的に学び、考える学生を育てることを意図して、「人間」という存在について具体的、現実的な問題を通して考え、人間と社会を深く見つけながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を身につけることを目指します。

### B. 専門教育科目

専門的な知識や技能を高めるとともに、主体性、創造力および課題発見・解決能力等の育成を目指し、各学部・学科に専門教育科目を設置します。

各学部・学科の専門科目の編成に関しては、専門基礎科目（学部共通科目）、複数学科共通科目、学科専門科目といった構成およびその配当年次によって、基礎的科目から発展（応用）的科目への学習の流れに沿って展開します。

### C. 副専攻

主専攻の学びを更に社会で活用できる能力を養うため、学部学科を横断した教育プログラムとして、近江楽士（地域学）副専攻を設置します。

副専攻では、「地域に根ざし、地域に学び、地域を学ぶ大学」として、地域・地元志向の授業科目を配置し、コミュニケーション力・構想力・実践力の3つの要素からなる変革力を養成します。

# 第1章 総則

第1章は、「履修の手引」総則編です。

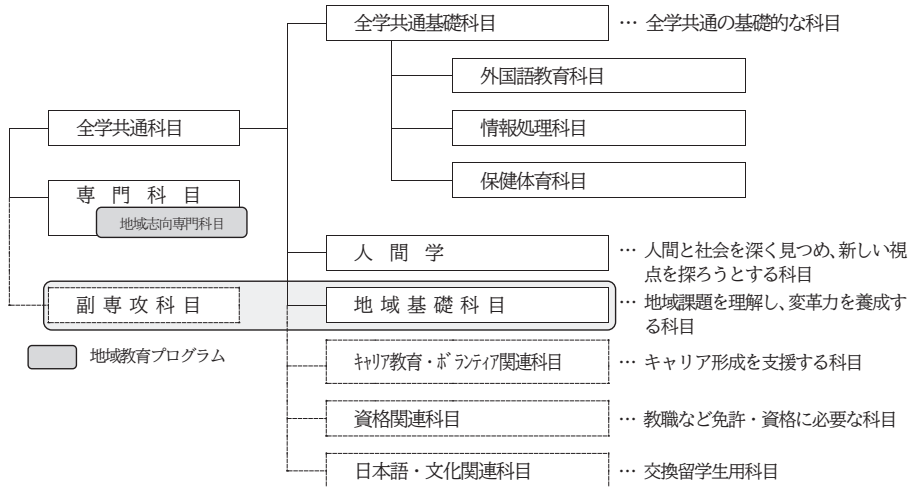
全学にわたる共通事項を中心に記載しました。

重要事項が多いので、熟読の上、誤りのないように気をつけてください。

# 1 授業科目の区分

本学の教育課程は、**全学共通科目**と**専門科目**に区分されています。全学共通科目は、**全学共通基礎科目**と**人間学**、**地域基礎科目**、**キャリア教育・ボランティア関連科目**、**資格関連科目**、**日本語・文化関連科目**から編成されています。なお、各学科の卒業要件は、全学部共通である全学共通基礎科目・人間学・地域基礎科目と各学科で定める専門科目で構成されています（詳細は、各学科の卒業要件を参照してください）。

また、全学部生が履修できる副専攻として、近江楽士（地域学）副専攻を設けています。地域基礎科目（全学共通科目）、地域志向専門科目（専門科目）等と合わせて地域教育プログラムを構成します。



# 2 単位制度

各授業科目の単位数は 45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位とすることを標準としています。本学では、授業の形態による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により授業科目ごとに単位数を定めています。

- (1) **講義科目**の場合  
15 時間の授業をもって 1 単位とします。  
(1 時限を 2 時間相当としているため、15 回の授業をもって 2 単位となる)
- (2) **演習科目**の場合  
30 時間の授業をもって 1 単位とします。
- (3) **実験、実習および実技科目**の場合  
45 時間の授業をもって 1 単位とします。

ただし、授業科目によっては、15 時間から 30 時間の範囲内で定める時間の講義や演習の授業をもって、1 単位としている場合があります。

また、環境科学部の「環境フィールドワーク」のように、1 科目が講義、演習および実習からなっていて 20 時間の授業をもって 1 単位としている場合があります。

講義時間は30時間(15時間/単位×2単位)ですので、残り60時間分の予習・復習を行うことが前提となります。

また、各授業科目の単位の取扱いについては、各学科で定めるカリキュラムに基づき、次のように卒業要件に算入されます。

- ◆ 必修科目：当該学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目
- ◆ 選択科目：自らの履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目(選択必修科目を含む)
- ◆ 自由科目：自らの履修目的に応じて自由に履修できるが、卒業要件に算入しない科目

### 3 学期および授業

#### (1) 学期

本学は、1学年を前期と後期に分ける前期・後期制を採用しています。

授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ◆ 前期科目：前期のみで授業を完結する科目
- ◆ 後期科目：後期のみで授業を完結する科目
- ◆ 通年科目：前期と後期を通じて授業を行う科目

また、実施方法によって、次のように区分されます。

- ◆ 通常授業：原則として毎週行われる授業
- ◆ 集中授業：一定時期に集中的に連続して行われる授業(主に夏季・冬季休業期間中に行われる)
- ◆ 隔週授業：隔週で行われる授業
- ◆ クォーター型授業：開講学期の前半または後半で行われる授業
- ◆ 変則授業：規則性のある曜日時限ではなく、特定の日時で行われる授業

#### (2) 授業時間

本学の授業時間帯は次のとおりです。

ただし、実験、実習などでは次の時間帯とは異なる場合があります。

1	限	9時00分～10時30分
2	限	10時40分～12時10分
休 憩		
3	限	13時10分～14時40分
4	限	14時50分～16時20分
5	限	16時30分～18時00分

#### (3) 休講

休講の場合は、USP oで知らせますので、USP oの「休講情報」に注意してください。

#### (4) 補講

休講等の事情で予定どおり授業が行われなかった場合は、原則として「補講」を行います。

補講の時期、場所、方法などはUSP oにより連絡しますので注意してください。

(5) 授業の欠席

病気その他やむを得ない理由により授業を欠席する場合は、必要な証明書を添えて、所定の欠席理由書を次により提出することができます（交通機関の運休は、直接、授業担当教員へ提出）。

- ・事前に教務課窓口へ提出すること
- ・事前に提出できない場合は、欠席事由が解消した後1週間以内に教務課窓口へ提出すること
- ※ 夏季集中休暇、年末年始などにより欠席事由解消後1週間以内に提出できない場合は、事前に電話等により教務課に連絡すること
- ・欠席理由書は同じものを2部提出すること

教務課では、提出された欠席理由書の内容を確認後、1部を返却します。各自必要科目分をコピーし、直接、当該科目の授業担当教員のもとに持参し、理由を説明してください。ただし、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務課の指示に従ってください。

欠席理由書は、欠席の時期と理由を授業担当教員に報告するものです。欠席の取り扱いおよび成績評価は、授業担当教員の判断となります。

- ※ 集中講義については、欠席を報告する理由に該当し、総授業時間の1/3以上欠席することとなった場合は、欠席理由書の提出ではなく、「4履修の登録(4)集中講義の履修登録修正」を確認してください。
- ※ 病気等やむをえない理由により定期試験を受けることができず追試験の受験を希望する場合は、「5試験(5)追試験」の手続きが必要です。

欠席を報告する理由	必要な証明書
病気・けが(14日以上2カ月以内) ※1 災害 交通機関の運休 ※3 3親等以内の葬儀 ※4 正課実習 その他大学が認める理由 ※5	医師の診断書(療養期間が明記されたもの) ※2 被災証明書 運休証明書 葬儀日がわかる証明書(会葬礼状、葬儀証明書等) 実習証明書または実習の日時がわかる資料 理由書(本人以外の証明)

学校保健安全法に定める学校感染症		出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ	治療するまで
第二種	インフルエンザ ※2	発症した後(発症の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ解熱した後2日
	百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発症した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹(三日ばしか)	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退後2日
	新型コロナウイルス感染症 ※2	発症した後(発症の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日
第三種	結核	感染のおそれがないと認められるまで
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症	医師が感染のおそれがないと認めるまで

※1 「病気・けが」のうち14日未満の欠席は、欠席理由書受付の対象外となりますので、必要に応じて個別に授業担当教員に報告してください。

なお、学校保健安全法に定める学校感染症に罹患し欠席する場合に限り、14日未満であっても欠席理由書を提出できます。定められた出席停止期間の欠席を報告してください。

※2 インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症に必要な添付書類は次のとおりとします。

医療機関を受診した際に発行された下記A(①～③)の書類、もしくはBの書類を添付してください。

A ① 医療機関が発行した診療報酬明細書(検査の名称が記載されていること。領収書のみは不可)

② 医療機関名が書かれた検査結果

③ 医療機関もしくは処方薬局が発行した薬剤情報提供書(お薬の説明)

B 医師が発行した診断書(原則、本学指定様式)

・提出書類は氏名・受診日・医療機関名(薬剤情報提供書の場合は薬局名でも可)が記載されていること。

・書面によりA②検査結果が発行されない場合は、A①と③により総合的に判断し受理します。

・検査キットによる自己検査で「陽性」であっても、手続きには医療機関の受診が必要です。

※3 「交通機関の運休」で欠席する場合

必要な証明書を添えて、欠席理由書を直接、授業担当教員へ提出してください。

※4 「3親等以内の葬儀」で欠席する場合(忌引き)

葬儀の日を含む下表の日数(土曜・日曜・祝日を含む連続した日数)を限度とする。

死亡した者	欠席できる日数		
配偶者	10日		
	血族	姻族	
父母	7日	3日	血族とは血縁関係のある人、姻族とは婚姻によって親族関係が生じた人を指します。
子	5日	1日	
祖父母・兄弟姉妹	3日	1日	
おじ・おば・曾祖父母等	1日	1日	

※5 「その他大学が認める理由」で欠席する場合

・課外活動において全国大会またはそれと同等以上の大会に出場する場合

・就職活動(最終選考相当)

・裁判員制度により裁判員として裁判所に出頭する場合

## (6) 気象警報の発表・公共交通機関の不通等と授業についての措置

暴風警報等が発表された場合または公共交通機関が全面運行停止(※)となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象・交通状況	授業についての措置
彦根地域または彦根市域を含む地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報が発表されたとき	①警報発表中は休講(授業中に警報発表の場合、その次の授業から休講) ②午前6時30分現在、警報発表中の場合、午前中は休講 ③午前10時までに警報解除の場合、午後から授業を行う ④午前10時現在、警報発表中の場合、午後も休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき(ストライキ、災害、台風等)	①午前6時30分現在、運行停止の場合、午前中は休講 ②午前10時までに運転再開の場合、午後から授業を行う ③午前10時現在、運行停止の場合、午後も休講
その他	不測の事態の発生を起因として、学長が授業を行うことが困難と認める場合、必要な範囲で休講等の措置を行うことがあります。

※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、原則として、JR西日本琵琶湖線(京都―米原間)の全線または一部線区が全便不通(一時的な運転見合わせは除く)の場合をさします。

○ 休講情報については随時更新されますので、USPOで確認してください。

○ 学外実習に関しては、当該学部からの指示に従ってください。

## 4 履修の登録

授業を履修するためには、履修登録をする必要があります。これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないこととなります。また、CAP制（(7)を参照）とGPA制度（「6 成績評価および単位の認定」を参照）とも密接に関係していますので、別途配布される「履修登録ガイド」をよく確認するとともに、次の点に注意して慎重に行ってください。

### (1) 履修登録の期間

前期・後期それぞれ開講約1週間前から開講後約1週間までを履修登録期間としています（※1）。前期開講科目は前期の履修登録期間終了までに、後期開講科目は後期の履修登録期間終了までに必ず登録してください（※2）。

※1 具体的な日程は、「履修登録ガイド」を確認してください（以下（2）～（5）も同様）。

※2 前期の履修登録期間では後期開講科目の履修登録もできます。1年間の履修計画を立てるという観点から、前期登録期間に1年分登録し、後期の期間で修正するという方法を推奨します。とくに3年次、4年次はゼミ配属や卒業見込み判定がありますので必ず前期に1年分の登録をするようにしてください。

### (2) 履修登録の確認

前期・後期それぞれ開講3週目頃（4月下旬、10月中旬）に履修登録の確認期間を設けています。登録漏れがないかなどをしっかりと確認し、この期間に修正してください。

### (3) 履修取消

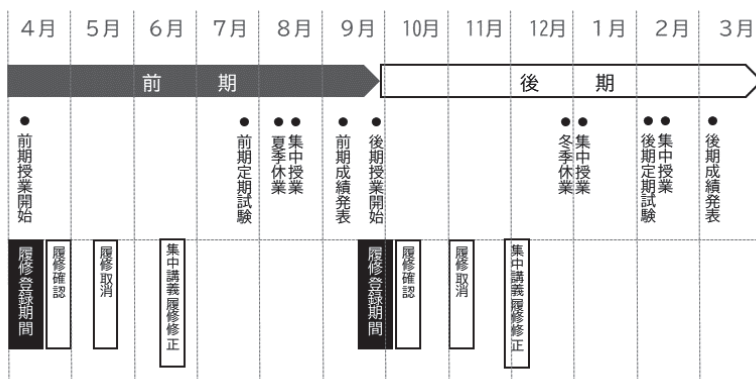
授業開講5週目頃（5月中旬、11月上旬）に、履修登録した科目の履修を取り消す期間を設けています。実際に授業に出席したものの、履修科目が多すぎて十分な学修時間がとれないなどの理由により、履修登録を取り消すことが可能です。

### (4) 集中講義の履修登録修正

集中講義は上記（2）（3）とは別に、前期は6月下旬、後期は11月末頃に履修登録の確認・修正期間を設けています。他の講義やインターンシップとの日程重複が生じた場合はこの期間に修正してください。なお、集中講義は「欠席を報告する理由」に該当し、総授業時間の1/3以上欠席することになった場合は、当該講義開始前に履修の取消が可能です。病気等の理由により事前に手続きできない場合は、欠席事由解消後1週間以内に教務課窓口で手続きしてください。

### (5) 履修登録確定後の登録修正

上記の期間以外は原則として履修の登録および取消を認めていません。ただし、病気・事故等やむを得ない事情による場合はこの限りではありません。その場合は教務課まで申し出てください。



## (6) クラス制

外国語、情報処理、健康・体力科学については、受講者数が多いためクラス制を採用しています。外国語と情報処理は時間割の配布と同時にクラスを指定します。健康・体力科学は希望コースを調査後にクラスを指定します。いずれも指定されたクラスで受講してください。なお履修登録は教務課で事前に行います。また、語学の再履修クラスは別途教務課の案内に従ってください。

## (7) CAP制

CAP制とは1単位あたり45時間の学修時間（「2単位制度」を参照）を確保するため、学修すべき授業科目を精選し、授業内容を深く真に身につけることを目的とし、履修科目として登録できる単位数の上限を定めるものです。学生にとっては、学修計画をしっかりと立てた上で履修登録することが求められます。本学では1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を49単位と設定しています。この上限を超えないようよく考えて学修計画を立ててください（3年次編入学生にはCAP制を適用しない）。

ただし、優れた成績を修めた学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認めます（一部学科のみ）。また、学外実習や夏季休業、冬季休業に実施される集中講義など一部CAP制から除外される科目があります。下記の情報および毎学期開始前の掲示・配布物やオリエンテーションなどで確認してください。

### ① CAP制から除外される科目

- 1) 集中講義または集中講義に相当する科目
- 2) 各学科等が指定した科目（USPoにリストを掲出します）
- 3) 卒業研究、卒業論文、卒業制作
- 4) 他学部他学科科目
- 5) 教職課程、学芸員課程、副専攻等の開講科目のうち、修得しても卒業要件に算入できない科目
- 6) 本学のカリキュラムとは別に他大学等で履修する授業科目

※ 履修取消制度（(3)を参照）により取り消した科目は対象外とします。

※ 前期に履修して修得できなかった科目で上記1)～6)に該当しない科目は除外されません。

### ② 成績優秀者への上限値引き上げについて

成績優秀者は履修単位数の上限を引き上げることができます。成績優秀者の認定は、直前の学期のGPAにより行い、CAP制の上限を超えて年間の履修登録を希望する場合に、USPoを通じて申請を行うことができます（1年次は後期から）。GPAの基準値や対象となる学科、履修登録の上限から引き上げる単位数等は下記のとおりです。

引き上げ基準	引き上げ単位数等
直前の学期のGPAが 3.00以上	<p>学期ごとに2単位引き上げ（年間で最大4単位引き上げ） ※年度が変わると通常の上限に戻ります。</p> <p>&lt;イメージ&gt;</p> <p>1年次前期終了時のGPAが3.00以上 → 1年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p> <p>1年次後期終了時のGPAが3.00以上 ※年度が変わるので49単位に戻る → 2年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p> <p>さらに2年次前期終了時のGPAも3.00以上 → 2年次の上限 … 51単位 + 2単位 = 53単位</p> <p>2年次後期終了時のGPAが3.00以上 ※年度が変わるので49単位に戻る → 3年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p>
<p>※引き上げ制度は次の学科のみ適用されます。（記載のない学科では引き上げ不可）</p> <p>〔 環境生態学科、環境社会システム学科、環境建築デザイン学科、生物資源管理学科、材料化学科、機械システム工学科、地域文化学科、生活デザイン学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科 〕</p>	

## (8) 人間学・地域教育プログラムの履修登録

人間学および地域教育プログラムについては、予め履修定員を設けている科目や教室の収容人数により受講者の調整を行う科目があります（定員等については、「人間学」「地域教育プログラム」のページ参照）。

詳細は「履修登録ガイド」を確認してください。

※人間学・地域教育プログラム以外にも、定員を超えた場合に受講者の選定を行う科目があります。詳しくは「履修登録ガイド」または教務課からの案内で確認してください。

## (9) 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください（履修規程第3条）。

- ① 登録をしていない科目
- ② 既に単位を修得した科目
- ③ 授業時間が重複する科目

## (10) 履修資格

科目によっては、既に他の科目を履修していることが履修の条件となっているものがあります。どの科目を履修しておく必要があるかはシラサスの「履修資格」欄に記載されています。誤って履修すると、原則として単位は認定されませんので、よく読んで登録してください。

## (11) 時間割の変更

開講期や曜日・時間が変更になったり、急遽不開講になったりなど、時間割が変更となった場合は、USP oにてお知らせしますので、必ず確認の上、履修登録するようにしてください。

## (12) 履修登録に関する相談窓口教員

履修登録手続きに関する問い合わせは、教務課で随時受け付けます。各学科には履修登録に関する相談窓口となる教員がいます（「学生便覧」の「履修登録相談窓口教員一覧表」に記載）ので、各自の履修計画を立てるにあたって積極的に相談してください。

# 5 試験

試験には、次の2種類があります。

- ◆ **定期試験**：学期末に期間を定めて行われる試験
- ◆ **平常試験**：授業の中で担当教員によって個別に随時行われる試験

## (1) 定期試験の実施

定期試験は各学期末に試験期間を設定され、行われます。

試験の時間割・教室は、事前にUSP oに掲載しますので、注意してください。実施日時および実施教室の変更がある場合も、USP oに掲載します。

## (2) 試験期間中における風雪時の対応について

原則として、試験日程は風雪等の天候とは関係なく、予定どおり実施します。ただし、各試験科目の担当教員が常試験延期等の判断を行う場合があるので、USP oを確認してください。

また、試験当日に公共交通機関に遅れが生じた場合は、適宜、実施について判断します。

## (3) 定期試験の受験上の注意

- ① 受験する学生は、特別の指示がない限り、試験開始5分前に指定された教室に入る必要があります。
- ② 受験中は必ず、**学生証を机上に置いてください**。万一学生証を忘れた場合は、教務課で仮受験票の交付を受けてください。
- ③ 答案には、学籍番号、氏名を必ず記入してください。
- ④ 受験者の試験開始後20分を経過した場合の入室は認められません。また、開始後30分までは退出できません。

#### (4) 不正行為

定期試験で不正行為があると認められた者は、懲戒処分（退学、停学または訓告）を受けるほか、不正行為をした科目だけでなく、その学期の定期試験で受験する予定の科目、またすでに受験した科目を含め、すべての科目が不可となります。

また、各授業科目内で行う中間試験、小テストなどの定期試験以外の試験において不正行為があると認められた者は、当該科目が不可となります。

#### (5) 追試験

病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けることができない者には、事情により追試験を行うことがあります。

追試験の受験を希望する者は、「追試験願」に必要な証明書（次表参照）を添付して、定期試験実施前にあらかじめ教務課まで提出してください。緊急の事情により事前に提出できない場合は、**試験開始時間までに電話等により事情を教務課に連絡してください。**

この場合は、事後提出であっても追試験願を受理することがありますが、**提出期限は原則として当該試験期間最終日の3日後までです。**

追試験を願ひ出る理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書
災害	被災証明書
交通事故、交通機関の遅延・運休	事故証明書、遅延・運休証明書
3親等以内の葬儀	葬儀日がわかる証明書（会葬礼状等）
正課実習	実習証明書または実習の日時がわかる資料
その他大学が認める理由	理由書（本人以外の証明）

追試験願を提出した者は、教務課から書類を受け付けたことを証する「追試験願受付書」を受け取り、該当する授業担当の教員と追試験実施について、直接相談してください。

なお、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務課の指示に従ってください。

※注：追試験願受付書は、受験を認めることを意味するものではなく、窓口である教務課が追試験願を受け付けたことのみを証するものです。

#### (6) 不可または不合格となった科目について

定期試験等において、不可または不合格となった者に対する再試験を行いません。（ただし、やむを得ない事情により再試験が必要と認める場合は、教授会の議を経て、実施することがあります。）

不可または不合格になった授業科目については、翌年度以降に改めて再履修することができます。

## 6 成績評価および単位の認定

#### (1) 成績評価

成績の評点は、定期試験、平常試験、レポート、制作物、実技などを総合して、100点満点で採点されます。

成績の評価の基準は次のとおりで、成績証明書の評価欄には、秀・優・良・可・不可で記載されます。

評 点	評 価
90点以上	秀
80点以上90点未満	優
70点以上80点未満	良
60点以上70点未満	可
60点未満	不可

その他に、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」で表示することがあります。

#### (2) 単位の認定

秀、優、良、可および合格ならびに認定の場合は、単位の修得が認められます。

不可および不合格の場合は、単位の修得は認められません。

追試験の対象とは認められない理由による定期試験の欠席により、成績評価資料を欠く場合には、履修を放棄したとみなしますので、単位の修得は認められません。

### (3) 成績通知

成績の通知については、原則、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務課から本人に対しUSPOを通じて行います（授業時期等の理由により通知が遅れることがあります）。

### (4) GPA (Grade Point Average) 制度

#### ① GPAとは

本学では、「秀・優・良・可・不可」の成績評価に加えて、GPAによる成績評価制度を導入しています。

GPAとは、履修登録した全科目のうち、GPA算出対象となる科目（以下「算出対象科目」という）の成績を4.5から0までの数値に置き換え、これに当該科目の単位数を掛けて、その合計を算出対象科目の総単位数で割った数値です。

「秀・優・良・可・不可」が科目ごとの学業成果を表すのに対して、GPAは、「不可」となった科目も含め、学生が履修登録した算出対象科目の学業成果および学業への取り組み結果の総合的な値として表すこととなります。修学指導を受ける際や履修計画・学習計画を立てる際の参考として活用してください。

#### ② GPAの計算方法

本学では、一般的によく用いられている計算方法（秀, 優, 良, 可, 不可をそれぞれ4, 3, 2, 1, 0のような数値に置き換えて平均を算出）ではなく、原成績（評点）による順位との相違が生じないファンクショナルGPAを採用しています。GPAは次の計算式で算出されます。

#### 【GPAの計算式】

$$GPA = \frac{\text{（グレード・ポイント（※）} \times \text{当該科目の単位数）の総和}}{\text{算出対象科目の単位数の総和}}$$

$$\text{※グレード・ポイント} = \frac{\text{（当該科目の評点} - 55）}{10}$$

（ただし、評点が不可（評点が60点未満および履修放棄）の場合、グレード・ポイントは一律に0点となります。）

#### 【GPA計算例】

科目名	A	B	C	D	E	F	計
単位数	2	1	3	2	2	2	12
評点	90	75	30	80	60	100	
評価	秀	良	不可	優	可	秀	
グレード・ポイント	3.5	2.0	0	2.5	0.5	4.5	
グレード・ポイント×単位数	7	2	0	5	1	9	24

（注）同じ評価でも、評点が異なるとグレード・ポイントが変わってきます。不可の科目を再履修して可上になった場合、グレード・ポイントは上書きされます。

$$GPA = \frac{3.5 \times 2 + 2.0 \times 1 + 0 \times 3 + 2.5 \times 2 + 0.5 \times 2 + 4.5 \times 2}{2 + 1 + 3 + 2 + 2 + 2} = \frac{24}{12} = 2.0$$

#### ③ GPA計算の対象となる科目・対象とならない科目

GPA計算の対象となる科目は、以下の要件を満たすものです。

- 1) 100点満点で成績評価する科目
- 2) 卒業要件単位に算入できる科目（卒業要件を超過して履修する単位を含む）

したがって、成績が「合格」、「認定」と表記される科目や資格（教員免許、学芸員等）取得のために開講されている科目（卒業要件単位に算入できる科目を除く）は、GPA計算の対象となりません。

また、他の大学の授業科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定した場合（単位互換制度）は、同様にGPA計算の対象となりません。

#### ④ GPAの活用について

GPAの値は、成績優秀者の表彰制度、高等教育の修学支援制度（日本学生支援機構奨学金等<sup>\*1</sup>）、各種入学選抜の際の指標などに利用されています（取扱いは学科ごとに異なる）。さらに、海外への留学の際<sup>\*2</sup>には、留学先受入校からGPA値を求められることもあります。

- ※1 日本学生支援機構の給付型奨学金は年度末に適格認定があり、GPA順位が指標のひとつとされています。詳細は事務局から配布する案内や当該機構のWEBサイトで確認してください。
- ※2 留学や奨学金の申請などの際、必要となるGPAについては、算出方法が異なる場合がありますので、注意するとともに個別に問い合わせるようにしてください。

### (5) 素点平均について

交換留学の審査や一部成績表彰に素点平均が用いられることがあります。素点平均は以下のように算出します。

$$\text{素点平均} = \frac{\text{各々の成績が確定した科目の評点に当該科目の単位数を乗じた値の合計}}{\text{成績評価が確定した科目の単位数の合計}}$$

(注) 評点のつかない科目、評点が0点の科目は除外されます。再履修科目は上書きされます。

### (6) 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について

本学では、学生は自らの成績評価に疑義のある場合、その成績の根拠等について当該科目の担当教員に対して開示を求めることができます。

#### ① 疑義申し立てができる場合

- ・出席、課題提出、試験等に照らして、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法と基準等から、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・その他、具体的かつ明確な理由をもって成績評価に疑義があると思われる場合

#### ② 手続き等について

まずは当該科目の担当教員に対し、直接確認を求めてください。オフィスアワー等を活用して担当教員を訪ねましょう。

担当教員から教示がない場合、あった場合でも説明が足りない、明確な根拠が示されていない等の事由により疑義が解消されない場合、または非常勤講師等により直接の確認が困難な場合に限り、「成績評価の疑義申し立ておよび根拠等にかかる開示の願出書」により、学生支援センター長（教務課）を通じて成績評価の根拠等について文書により開示するようお願いすることができます。

#### ③ 制度による願出ができる期間

担当教員への確認および願出書の提出ができる期間は、成績が通知された日から原則として3週間以内です。成績保留等により成績通知書に記載されなかった科目については、当該科目の成績の確定について掲示された日から原則として3週間以内です。期限を過ぎたものは受付できません。

願出書の様式や、その他詳細については、教務課担当までご相談ください。

## 7 卒業要件

本学を卒業するためには、次の条件をすべて満たさなければなりません。

- ① 4年以上在学すること（休学期間は在学期間に含まれない）。
  - ② 所属学科のカリキュラムに従って、卒業要件としての必要単位を修得すること。
- 各学科の卒業要件については、それぞれの第2章の各学部学科の説明を熟読してください。

## 8 副専攻科目について

本学における副専攻とは、所属する学部学科の履修プログラム（主専攻）に加えて履修可能な学部学科横断的プログラムです。所属学科の専門性に加えて、それらを社会に還元するための基礎的・総合的能力を修得します。本学の学生であれば、どの学部学科に所属していても履修することができます。

現在開講している副専攻は、近江楽土（地域学）副専攻です。地域基礎科目を基に、更にこれを展開、応用させ、地域課題とその解決法について体系的に学び、コミュニケーション力、構想力および実践力を兼ね備えた変革力を身につけることを目指します。

近江楽土（地域学）副専攻には、コミュニティ・ネットワークとソーシャル・アントレプレナーの2つのコースがあります。

副専攻の履修は任意ですが、積極的に受講してください。履修する場合は、履修登録期間中にUSPOに掲示される「副専攻履修申請」より申請手続きを行ってください。なお、各科目を受講するタイミングについては、各学科の時間割に合わせて、配当年次によらず、柔軟に履修することを認めています。

## 9 他学部・他学科科目の履修

本学では、所属する学科のカリキュラムに授業科目として指定されていない他学部、他学科の科目も、学則に基づいて履修することを認めています。

ただし、教室の収容人数制限や実験機器・設備の数、資格課程上の制約等の理由からすべての開講科目が他学部・他学科科目として履修できるわけではありません。また、履修した科目の単位を所属学科の卒業単位に算入するには限度があるなどの一定の制約がありますので注意してください。

- ① 他学部または他学科の科目の履修を希望する場合、事前に文書で承諾を得る必要はありません（工学部を除く）。
- ② 履修登録後に、受講人数の制限から、やむを得ず受講を取り消すことがあります。
- ③ 他学部または他学科で修得した単位を卒業要件として認める単位数については、各学部、学科で定めています。各学部、学科の卒業要件を確認してください。

## 10 他大学の科目の履修（単位互換制度）

単位互換制度とは、他の大学の授業科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定するものです。この制度は学則に基づいたもので、履修の幅が広がり、幅広い視野の育成に役立つものとなります。本学では、次の2つの単位互換制度を実施しています。履修できる授業科目、手続、卒業単位への算入方法等については、各制度で異なります。学年当初に制度に関する資料を配布しますので、それらを参考にしてください。

### （1）環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度

滋賀県にキャンパスを置く環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟大学の間で実施している単位互換制度です。滋賀県特有の内容をテーマとした科目や各大学の特徴的な科目を履修できます。修得した単位は「他学部他学科相当科目」として扱われます。

### （2）滋賀大学単位互換制度

滋賀大学の単位互換制度対象科目を履修できます。修得した単位は、科目により「人間学」「他学部他学科相当科目」または「自由科目」として扱われます。

## 11 編入学生の履修

編入学生の履修すべき授業科目、単位数ならびに成績の評価については、編入する年次の学生のものと同じになります。

例えば、2026（令和8）年度3年次編入生が履修すべき授業科目等については、2024（令和6）年度入学生と同一になります。

## 12 生成 AI の利用

近年、ChatGPTをはじめとする生成 AI の利用が急速に広がり、大学における学修や研究においても利活用の機会が増えており、利便性や生産性の向上が期待される一方で、生成 AI には誤情報やバイアス、著作権・個人情報の問題などのリスクも存在します。

本学では、学生が生成 AI を適切に利用し、自らの学修を主体的に深めるための基準（ガイドライン）を定めています。（詳細はホームページやUSPOに掲載していますので、参考してください。）

生成 AI は今後さらに発展し、社会で不可欠な技術となっていくことが予想されます。生成 AI の利点とリスクを理解し、主体的かつ責任ある学びを実践してください。

- 生成 AI の出力をそのままレポート等に使用してはいけません。  
生成 AI の回答をそのまま提出する行為は、学修の本質である主体的な学びを損なうため不適切です。また、生成 AI の出力には誤情報や無断利用された著作物が含まれる場合があり、著作物を無断で利用することは剽窃となる恐れがあります。
- 授業資料や研究データなどに含まれる個人情報、機密情報、未公開情報を生成 AI に入力してはなりません。  
生成 AI によっては入力内容が学習に利用され、第三者への出力に含まれる場合があります。
- 生成 AI を利用した場合は、そのことを必ず明記してください。  
文献・資料の引用と同様に、利用した生成 AI の名称・利用日・利用目的・利用箇所等をレポート末尾や脚注に記載してください。  
自分の提出物の内容に対する責任は、最終的に自分自身にあります。
- 授業ごとの指示に従ってください。  
授業によっては、生成 AI の利用が制限されたり、完全に禁止されることがあります。授業担当教員の指示に従ってください。

## 13 その他

各授業科目を担当する教員はUSPOのシラバスに記載されているとおりですが、各担当教員の研究室については、USPOのリンクに掲載されている「（共通）学生便覧」の担当教員一覧表を参照してください。

なお、他大学等からの出講となる非常勤講師については、A棟内に非常勤講師控室がありますが、在室は当該授業日の出講時限の前後のみとなりますので、注意してください。

### (1) 留学中に修得した単位について

留学中に修得した単位は、申し出により認定され、他学部・他学科学科目と同様に扱われます（国際コミュニケーション学科を除く）。また、本学科目として読み替えを申請することもできます。ただし、卒業単位として認められるかどうか等は、各学部・学科によって取扱いが異なります。詳細については、教務課に問い合わせてください。

### (2) 授業アンケートの実施について

授業内容やカリキュラムの改善や、学生自身の学習行動の振り返り等を行うために授業アンケートを実施しています。今後の授業運営や効果的な学修のため、しっかりとアンケートに取り組んでください。

実施にあたっては、該当授業中に担当教員から指示があります。

なお、担当教員には集計結果のみが示されるため、個人を特定する情報が提供されることはありません。

### (3) オフィスアワーについて

オフィスアワーは、授業の内容や学習の進め方などについて、学生からの相談を受ける時間を各教員が指定し、学生を支援する制度です。学生のみ皆さんの積極的な活用を期待します。

各教員のオフィスアワーは、USPOに掲載します。「共通>教員スケジュール」より、教員名を指定して、確認してください。

## 第2章 学部等別履修の手引

第2章は、「履修の手引」各則編です。

各学部・学科毎に科目の履修について、卒業要件等を記載していますが、これらは、原則として入学年度のもので適用されますので、自分が入学した年の「履修の手引」の該当部分を参照ください。ただし、変更されている事項もあります。

# 1 全学共通科目

## 1 全学共通科目の学修到達目標

本学は、「人が育つ大学」「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに掲げ、環境と人間をキーワードとした幅広い学問分野を進展させてきました。

全学共通教育では、「全学共通基礎科目」や「人間学」などのカリキュラムを導入しています。これらの科目では、人間と社会を深く見つめながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、問題解決力、行動力などの実践的な能力を養います。全学共通教育の具体的な学修到達目標は以下の通りです。

- A. 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、多面的に学習し、複雑化・流動化していく社会に対応できる知識を身につける。（知識・理解）
- B. 市民としての責任感と倫理観を身につける。（態度・倫理）
- C. 人間や社会を深く見つめ、そこから問題の発見、解決に取り組むための能力を身につける。（思考・判断）
- D. 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力を身につける。（技能・技術）
- E. 情報リテラシー、数量的スキル、表現力など社会人として生きていくために必要な汎用的能力を身につける。（汎用的能力）
- F. 地域の現実的な課題を解決するために必要な素養と態度を身につける。（態度・倫理）

## 2 全学共通科目の教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

全学共通科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指す「全学共通基礎科目」と広い視野、深い教養とともに、問題解決力、行動力などの実践的な能力を身につける「人間学科目」、「地域基礎科目」などにより構成され、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

### I 全学共通基礎科目

#### I-1 外国語教育科目

言語による国際的なコミュニケーションの能力を身につけるとともに、留学や外部検定の対策のための科目を配置します。

#### I-2 情報処理科目

情報化社会における基本的なルールやマナーを学ぶとともに、情報機器の操作、大学生として必要なレポート作成やプレゼンテーションの技術などを学ぶための科目を配置します。

#### I-3 保健体育科目

健康・体力の保持増進に必要な知識および実践能力を習得するとともに、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るための能力を身につけることを目指します。

### II 人間学

人間と社会を深く見つめ、人間という存在について考えることにより、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を養います。

### III 地域基礎科目

地域における問題発見や課題解決のために必要な知識、さらにはそれらを生かすための実践的な能力を身につけることを目指します。

### IV キャリア教育科目

大学卒業後の自分にあつたキャリア(働き方、生き方)を考える力を養うとともに、就職活動に必要な基本的な知識および実践的なスキルを身につけるための科目、就業体験プログラムを配置します。

## V 資格関連科目

第3章を参照してください。

## VI 日本語・文化関連科目(交換留学生向け科目)

日本語の習得を通じて日本の社会、文化、歴史、芸術、産業等を学ぶとともに、諸外国と日本との文化的差異を探究するための科目を配置します。

## 3 全学共通科目の内容・構成

## I 全学共通基礎科目

全学共通基礎科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指しています。

この科目は全学の学生を対象として、

- (1) 言語による国際的なコミュニケーションのための外国語教育
  - (2) 国際的な情報伝達に欠かせない情報処理
  - (3) 健康に対する知識と体力を養うための健康・体力科学
- の、3つの分野からなっています。

## II 人間学

人間学は、必修の1科目2単位に加え、残り42科目について3科目群から各1科目2単位、3科目群からの合計で3科目6単位以上を修得することが卒業要件として必要です。

## III 地域教育プログラムー地域基礎科目

地域基礎科目は、必修1科目(2単位)に加え、残り10科目から選択して1科目2単位以上、合計2科目4単位以上を修得することが卒業要件として必要です。

## IV キャリア教育・ボランティア関連科目

キャリア科目として「キャリア形成への道A・B」や「インターンシップA・B・E」などのキャリア教育科目を開講しています。災害の復興支援活動や学校ボランティア活動などについても、所定の条件を満たせば「ボランティア活動」として単位を取得することができます。卒業要件に算入されない自由科目となりますが、成績に記載されます。

## V 資格関連科目

資格取得のために必要となる科目です。卒業単位には算定されません。

## VI 日本語・文化関連科目(交換留学生向け科目)

交換留学生を主な受講対象とした科目です。原則として卒業単位には算定されません。

## 4 全学共通基礎科目履修上の注意

## ①クラス指定

第一外国語(英語)および情報処理(情報リテラシー、情報科学概論)、保健体育(健康・体力科学)はそれぞれクラスを指定します。必ず指定の曜日時間で履修登録をしてください。

## ②再履修

全学共通科目の必修科目の単位を修得できずに、翌年度以降で再履修する場合は、履修登録期間に忘れずにUSPOで登録してください。

## ③超過修得単位の取扱い

全学共通科目の必要単位数は30単位(必修18単位、選択科目12単位)ですが、外国語、人間学、地域基礎の各選択科目から12単位を超えて修得した場合は、各学部の規定により学部の専門科目として一定の単位まで卒業要件単位に含むことができます。自分が所属の各学部・学科の卒業要件を参照してください。

表1：全学共通科目年次別配当表

		科目名	単 位	1年		2年		3年		4年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
外国語科目 (国際コミュニケーション 学科を除く)	必修 8単位	英語ⅠA	1	○							
		英語ⅠB	1		○						
		英語ⅡA	1	○							
		英語ⅡB	1		○						
		英語ⅢA	1			○					
		英語ⅢB	1				○				
		英語ⅣA	1			○					
		英語ⅣB	1				○				
	選択 (注1)	Intermediate Academic English	1	○		○		○		○	
		Advanced Academic English I	2		○		○		○		○
		Advanced Academic English II	2		○		○		○		○
		Lecture and Discussion in English	2		○		○		○		○
		Academic Lectures in English	2		○		○		○		○
		リスニング(中級)	2					○		○	
		リーディング(中級)	2						○		○
		Integrated English	2					○		○	
		Introduction to Discussion & Debate	2					○		○	
		Essay Writing	2						○		○
		English for Business	1					○		○	
		English in Media	2						○		○
独・仏・ 中・朝から 1言語を選 択必修4単 位 (注2)	第二外国語ⅠA	1	○								
	第二外国語ⅠB	1		○							
	第二外国語ⅡA	1			○						
	第二外国語ⅡB	1				○					
	実用英語演習ⅠA	1			○						
	実用英語演習ⅠB	1				○					
外国語科目 (国際コミュニ ケーション 学科)	必修 8単位	英語ⅠA・B	各1	○							
		英語ⅡA・B	各1	○							
		英語ⅢA・B	各1	○							
		英語ⅣA・B	各1		○						
	選択	Lecture and Discussion in English	2		○		○		○		○
		Academic Lectures in English	2		○		○		○		○
		第二外国語ⅠA	1	○							
		第二外国語ⅠB	1	○							
独・仏・ 中・朝・か ら1言語を 選択必修4 単位	第二外国語ⅡA	1		○							
	第二外国語ⅡB	1		○							
	情報科学概論	2		○							
	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	○								
保健体育	必修 2単位	健康・体力科学Ⅰ	1		○						
		健康・体力科学Ⅱ	1			○					
人間学 (注3)	必修 2単位	人間探求学	2	○							
	選択必修 6単位	3科目群(「生きる」「考える」「つくる」)から各1科目2単位を選択必修	84	○	○	○	○	○	○	○	
地域基礎 (注3)	必修 2単位	地域共生論	2	○							
	選択必修 2単位	必修以外の地域基礎科目(11科目22単位)から1科目2単位を選択必修	22	○	○						

注1 選択科目のうち、Intermediate Academic Englishは主にTOEFL ITPまたはIELTS、Advanced Academic English IはIELTS、Advanced Academic English IIはTOEFL iBTの受験に向けた内容となります。

注2 国際コミュニケーション学科を除く学科での外国語教育科目の選択必修4単位分は、学科によって履修パターンが異なります。次ページ以降の「表2」にしたがって履修計画を立ててください。

注3 人間看護学部のみ、選択必修のうち2単位が必修となります。(詳細は、人間看護学部のページを参照してください)

全学共通科目のカリキュラムマップ

区分	授業科目名	単位数	必修・選択 等の別	全学共通科目 教育目標					
				A	B	C	D	E	F
全学共通基礎科目	英語 I A	1	必修				◎		
	英語 I B	1	必修				◎		
	英語 II A	1	必修				◎		
	英語 II B	1	必修				◎		
	英語 III A	1	必修				◎		
	英語 III B	1	必修				◎		
	英語 IV A	1	必修				◎		
	英語 IV B	1	必修				◎		
	ドイツ語 I A	1	選択				◎		
	ドイツ語 I B	1	選択				◎		
	ドイツ語 II A	1	選択				◎		
	ドイツ語 II B	1	選択				◎		
	フランス語 I A	1	選択				◎		
	フランス語 I B	1	選択				◎		
	フランス語 II A	1	選択				◎		
	フランス語 II B	1	選択				◎		
	中国語 I A	1	選択				◎		
	中国語 I B	1	選択				◎		
	中国語 II A	1	選択				◎		
	中国語 II B	1	選択				◎		
	朝鮮語 I A	1	選択				◎		
	朝鮮語 I B	1	選択				◎		
	朝鮮語 II A	1	選択				◎		
	朝鮮語 II B	1	選択				◎		
	日本語 I A (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 I B (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 II A (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 II B (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 III A (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 III B (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 IV A (留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語 IV B (留学生のみ)	1	選択				◎		
	Intermediate Academic English	1	選択				◎		
	Advanced Academic English I	2	選択				◎		
	Advanced Academic English II	2	選択				◎		
	Lecture and Discussion in English	2	選択				◎		
	Academic Lectures in English	2	選択				◎		
	リスニング (中級)	2	選択				◎		
	リーディング (中級)	2	選択				◎		
	Integrated English	2	選択				◎		
	Introduction to Discussion & Debate	2	選択				◎		
	Essay Writing	2	選択				◎		
	English for Business	1	選択				◎		
	English in Media	2	選択				◎		
	実用英語演習 I A	1	選択				◎		
	実用英語演習 I B	1	選択				◎		
	情報処理	情報科学概論	2	必修		○			◎
		情報リテラシー (情報倫理を含む)	2	必修		○			◎
	保健体育	健康・体力科学 I	1	必修	◎				
		健康・体力科学 II	1	必修	◎				

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	全学共通科目 教育目標						
				A	B	C	D	E	F	
人間学	必修	人間探求学	2	必修	○	○	○			
	生きる	自然のしくみB	2	選択	◎	○	○			○
		農業と環境A	2	選択	◎	○	○			○
		食と健康	2	選択	◎		○			
		人間と病気	2	選択	◎		○			
		生命・人間・倫理	2	選択	○	◎	○			
		精神保健論	2	選択	◎	○	○			○
		キャリア形成への道B	2	選択	◎	○	○		○	○
		経済学	2	選択	◎	○	○		○	
		憲法	2	選択	○	◎	○			
		Japan Studies VI	2	選択	○	○	○	◎		○
	アジアフィールド実習 I	2	選択	○	○	◎	○			
	アジアフィールド実習 II	2	選択	○	○	◎	○			
	考える	自然のしくみA	2	選択	◎	○	○		○	
		名著から学ぶ環境問題	2	選択	◎	○	○			
		都市・建築を考える	2	選択	◎	○	○			
		生活の中にある力学	2	選択	◎		○		○	
		コンピュータとインターネット	2	選択	○	○			◎	
		地域と文化	2	選択	○		◎			○
		歴史と文化	2	選択	◎		○			○
		人間関係の科学A	2	選択	◎		○			
		人間関係の科学B	2	選択	◎		○			
		国際文化概論	2	選択	○	○	◎			
		差別と人権（向和問題）	2	選択		○	◎			○
		キャリア形成への道A	2	選択	○	◎	○		○	
		Japan Studies VII	2	選択	○	○	○	◎		○
		World Societies I	2	選択	○	○	○	◎		○
		World Societies II	2	選択	○	○	○	◎		○
		異文化理解A	2	選択	○	○	○	◎		
	つくる	都市・建築をつくる	2	選択	◎	○	○			
		農業と環境B	2	選択	◎	○	○			
		暮らしの中の材料	2	選択	◎	○	○		○	
		自然科学入門	2	選択	○	○			◎	
		機械の再発見	2	選択	◎	○	○		◎	
		機械の役割と仕組み	2	選択	◎		○		◎	
		技術の歴史	2	選択	◎		○		○	
電子社会と人間		2	選択	○	○	◎				
電子システムの最先端		2	選択	◎	○	○		○		
比較住居論		2	選択	◎	○	○				
生活と健康		2	選択	◎						
ジェンダー平等をつくる		2	選択	○	○	◎			○	
地域基礎科目		必修	地域共生論	2	必修	○	○	○		◎
		選択必修	地域社会福祉論	2	選択	○	○	○		◎
	地域コミュニケーション論		2	選択	○	○	○	○	◎	
	地域づくり人材論		2	選択	○	○	○		◎	
	びわこ環境行政論		2	選択	○	○	○		◎	
	多文化共生論		2	選択	○	○	○		◎	
	地域産業・企業から学ぶ社長講義		2	選択	○	○	○		◎	
	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション		2	選択	○		○		◎	
	近江の美		2	選択	○			○	◎	
	地域診断法		2	選択	○	○	○		◎	
	ソーシャル・ビジネス概論		2	選択	○	○	○		◎	

※滋賀大学単位互換制度で人間学として提供されている科目はカリキュラムマップには掲載していません。

# I 全学共通基礎科目

## 1. 外国語教育科目

### (1) 単位

#### ①国際コミュニケーション学科

・必修科目：

第一外国語として英語 I A・B～IV A・B までの8単位が必修です。

・選択必修科目：

第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から一言語を選択して1年次に4単位履修する必要があります。なお、原則として言語の変更はできません。

・選択科目：

第一外国語では、選択科目として Lecture and Discussion in English と Academic Lectures in English の2科目が開講されます。

#### ②国際コミュニケーション学科を除く学科

・必修科目：

1～2年次で第一外国語として英語 I A・B～IV A・B までの8単位が必修です。

・選択必修科目：

第二外国語として、1年次にドイツ語 I A・B、フランス語 I A・B、中国語 I A・B、朝鮮語 I A・B から一言語を選択し2単位を履修します。2年次には、1年次に履修した第二外国語 II A・B の2単位を引き続き履修するか、実用英語演習 I A・B の2単位を履修し、選択必修科目として計4単位の修得が必要です。

※第二外国語 II A・B を履修するか、実用英語演習 I A・B を履修するかは 1年次の夏季休業期間中に希望調査を行い、クラス編成を行います。原則として、言語の変更はできません。また、選択必修としての第二外国語の単位を修得し終えるまでは、実用英語演習と他の第二外国語を同時に履修することも原則としてできません。選択必修としての第二外国語の単位を修得し終えれば、他の第二外国語や実用英語演習を選択科目として履修することは可能ですが、卒業単位に含まれるかどうかは各学部・学科の卒業要件の項目を参照してください。

・選択科目：

第一外国語では、より深く語学を修得するために選択科目として Intermediate Academic English、Advanced Academic English I、Advanced Academic English II、Lecture and Discussion in English、Academic Lectures in English、リスニング（中級）、リーディング（中級）、Integrated English、Introduction to Discussion & Debate、Essay Writing、English for Business、English in Media の12科目が開講されます。詳細は、各学科の配当表を参照してください。

表2：各学部・学科における外国語選択必修科目の履修方法

学部学科	1年次		履修の流れ	2年次	
	前期科目	後期科目		前期科目	後期科目
人間文化学部地域文化学科 人間文化学部人間関係学科	第二外国語 I A	第二外国語 I B	2年次も同じ言語の第二外国語 II A・II B を引き続き履修する。	第二外国語 II A	第二外国語 II B
環境科学部 工学部 人間文化学部生活デザイン学科 人間文化学部生活栄養学科	第二外国語 I A	第二外国語 I B	2年次に、同じ言語の第二外国語 II A・II B を引き続き履修するか、第二外国語に代替可能な実用英語演習 I A・I B を履修するかのどちらかを選択する。	第二外国語 II A 実用英語演習 I A	第二外国語 II B 実用英語演習 I B
人間看護学部	第二外国語 I A	第二外国語 I B	2年次に、同じ言語の第二外国語 II A・II B を引き続き履修するか、第二外国語に代替可能な実用英語演習 I A・I B を履修するかのどちらかを選択する。 ただし、実用英語演習 I A・I B の履修を強く推奨する。	第二外国語 II A 実用英語演習 I A	第二外国語 II B 実用英語演習 I B
人間文化学部国際コミュニケーション学科	第二外国語 I A 第二外国語 I B	第二外国語 II A 第二外国語 II B			

※実用英語演習ⅠAとⅠBは連続して履修しなければなりません。

※実用英語演習ⅠAとⅠBは、原則1年次の12月のTOEIC<sub>®</sub>-IPテストの成績によりクラス編成を行いますので、第二外国語を実用英語演習に変更する学生は、12月のTOEIC<sub>®</sub>-IPテストを受験してください。

## (2) 「外国人留学生等」の外国語履修について

外国人留学生の外国語履修について次のように取り扱うこととします。ただし、学部学科によっては、特定の言語の履修を義務づけている場合がありますので、履修登録の前に必ず所属学科の相談窓口教員に確認してください。

第一外国語：英語ⅠA・B～ⅣA・Bまたは日本語ⅠA・B～ⅣA・Bから8単位を選択必修

第二外国語：ドイツ語ⅠA・B、ⅡA・B、フランス語ⅠA・B、ⅡA・B、中国語ⅠA・B、ⅡA・B、朝鮮語ⅠA・B、ⅡA・B、実用英語演習ⅠA・B、英語ⅠA・B～ⅣA・B、日本語ⅠA・B～ⅣA・Bから4単位を選択必修（国際コミュニケーション学科を除く）

- ① 第一外国語と第二外国語とで同一の言語を履修することはできません。
- ② 母語に関する科目（全学共通科目外国語科目および国際コミュニケーション学科初習外国語科目）は履修することができません。ただし、担当教員の許可を得て、聴講することはできます。また、Lecture and Discussion in EnglishとAcademic Lectures in Englishについては英語母語話者も履修可能です。

### 外国語科目一覧（国際コミュニケーション学科を除く）

科目名	単位数	年次	期間	科目名	単位数	年次	期間
英語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	ドイツ語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
英語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	ドイツ語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
英語ⅢA・B	各1	2	各前・後期	フランス語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
英語ⅣA・B	各1	2	各前・後期	フランス語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
日本語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
日本語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
日本語ⅢA・B	各1	2	各前・後期	朝鮮語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
日本語ⅣA・B	各1	2	各前・後期	朝鮮語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
				(実用英語演習ⅠA・B)※	(各1)	(2)	(各前・後期)

※「実用英語演習ⅠA・ⅠB」の扱いは学科により異なります。各学科の配当表を参照してください。

### 外国語科目一覧（国際コミュニケーション学科）

科目名	単位数	年次	期間	科目名	単位数	年次	期間
英語ⅠA・B	各1	1	前期	ドイツ語ⅠA・B	各1	1	前期
英語ⅡA・B	各1	1	前期	ドイツ語ⅡA・B	各1	1	後期
英語ⅢA・B	各1	1	前期	フランス語ⅠA・B	各1	1	前期
英語ⅣA・B	各1	1	後期	フランス語ⅡA・B	各1	1	後期
日本語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅠA・B	各1	1	前期
日本語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅡA・B	各1	1	後期
日本語ⅢA・B	各1	2	各前・後期	朝鮮語ⅠA・B	各1	1	前期
日本語ⅣA・B	各1	2	各前・後期	朝鮮語ⅡA・B	各1	1	後期

### 【参考】e-learningシステムによる英語学習について

本学学生は、e-learningシステムを利用することができます。学生一人ひとりに与えられたアカウントを使用し、学内外からWebを使って英語の自己学習ができます。大学のLL教室や情報処理演習室だけでなく、自身のPCやタブレット、スマートフォンから英語学習が可能となります。TOEICやTOEFLなど外部検定テスト向けのコースもありますので、活用してください。

利用には登録手続き（自己負担あり）が必要となります。利用を希望する場合は、学生支援センターまでお問い合わせください。

また、本学では自身の英語学習の成果を確認するため、年に2回、TOEIC®-IPテストを受験することができます。

## 2 情報処理科目

「情報リテラシー（情報倫理を含む）」、「情報科学概論」の2科目4単位が必修です。上記2科目で数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を構成します。詳しい内容については、大学ホームページで確認してください。

## 3 保健体育科目

「健康・体力科学Ⅰ」、「健康・体力科学Ⅱ」が必修で、2単位の修得が卒業要件となります。

健康・体力科学Ⅰ・Ⅱは、下記の開講コースが用意されています。各コースの詳しい内容については、USPOで確認してください。

### (1) 授業の内容

#### 【健康・体力科学Ⅰ】

##### 第1回

全体ガイダンスー健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方、種目説明、履修コース（種目）の決定

##### 第2回以降

コース（種目）別ガイダンスー授業の進め方、授業内容等、選択コースによって異なります。

#### 【健康・体力科学Ⅱ】

##### 第1回

履修コース（種目）の決定、コース（種目）別ガイダンス

##### 第2回以降

基本から応用へ、選択コース（種目）によって異なります。

### (2) 注意事項

#### ①コース選択

授業科目ごとに開設されている種目の中から、自らの能力、適性、興味、関心に基づいて、それぞれ1種目を選択します。種目定員を超える場合は抽選等により調整します。原則として、同じ種目を継続して選択することはできません。なお、怪我や身体に障害のある学生には、運動処方コースが準備されています。

【開講コース】※健康・体力科学ⅠとⅡで異なります。

屋内球技コース（バドミントン、バスケットボール、卓球）

屋外球技コース（サッカー、テニス、ソフトボール）

運動処方コース（フィットネスプログラム、ボディコンディショニング、ヘルスサイエンス、ニュースポーツ）

#### ②授業形態

授業の展開では、基本的にはグループ学習とし、計画・実践・分析・総括といった実験実習の活動形態を重視します。

#### ③服装

実技授業における服装はスポーツウェアを着用し、靴は選択種目に適したものを利用してください。

#### ④更衣室

体育館の更衣室のロッカーを自由に利用できますが、長期の個人的利用を認めません。

#### ⑤貴重品管理

体育館の貴重品ロッカーを利用し、各自で貴重品を管理してください。

## Ⅱ 人間学

(人間存在と環境・社会を深く見つめる人間学)

### 1 人間学の考え方

大学に入学してからは、それぞれの専門分野の学習と、独立した個人としての志を育てるための4年間を過ごすことになります。この両者のバランスが重要なのですが、従来の大学教育で行われていた一般教養の組み立て方は、とすれば並列的に客観的知識として教える内容と、それを教えられる学生とが乖離したままの傾向がありました。変化の早い時代に大学で主体的に学び、考える学生が育つには、それとは異なる新しい座標軸の設定が要請されてきました。

本学ではこの要請に応えるために、開学当初から従来の一般教養とは異なった「人間学」という科目群を設けています。日々、複雑化・流動化してゆく現代社会の中で、人間というものを深く見詰め、そこから今後の指針を自ら見出していける学生が育つことを願って設けられたものです。これらの科目では、具体的、現実的な問題を通して「人間」という存在について考え、将来、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を、学生諸君自らがそれぞれの個性にしたがって身につけることを目標にしています。

身につけた知識や技術が高度で、専門的であるほど、人間・環境・社会・文化というものの理解も深く、幅広くなっていかなければならないでしょうし、それによってこそ専門分野の感性も磨かれるという思いが背景にあります。

本学では、この「人間学」の趣旨にふさわしい43科目(単位互換制度による科目含む)を用意しました。

これら43科目のうち、「人間探求学」を必修科目に指定します。自己表現能力開発を目指す少人数グループ形式の「人間探求学」は本学でまず学ぶべきものとして、1年次前期の必修科目とします。

また、「人間探求学」以外の科目は、3科目群に分けられた選択必修科目です。これら科目については原則として科目名と共に、その科目で具体的に扱う内容を表した副題を設けてシラバスに記し、科目選択の参考となるようにしました。

### 2 科目群について

人間学の選択必修科目は「生きる」「考える」「つくる」の3科目群に分けられています。各科目群からそれぞれ1科目2単位以上の修得が必要です。なお、低学年で集中的に履修することなく、高学年でも履修するように心がけてください。

### 3 所属学科提供科目以外での履修について

人間学は、所属学科の専門科目では学ぶことのできない幅広い知識や人間性を養うことを目的としていますので、自身の所属する学科から提供された科目ではなく、他学科から提供された科目を中心に履修することを推奨します。

## 2026(令和8)年度人間学 科目一覧

### (1)必修科目:1科目2単位

科目名称	配当年次	単位数	備考
人間探求学	1・前	2	

## (2) 選択必修科目:各科目群よりそれぞれ1科目2単位以上

科目群	科目名称	配当年次	単位数	定員	提供学科	備考
生きる Live	自然のしくみ B	1,2,3,4・後	2		環境生態	
	農業と環境 A	1,2,3,4・後	2		生物資源	
	食と健康	1,2,3,4・前	2	90	生活栄養	注1
	人間と病気	1,2,3,4・前	2		人間看護	
	生命・人間・倫理	1,2,3,4・後	2		人間看護	人間看護学科は必修
	精神保健論	1,2,3,4・前	2		人間看護	注2
	キャリア形成への道 B	2,3,4・前	2	50		キャリア教育関連
	経済学	1,2,3,4・後	2			
	憲法	1,2,3,4・後	2	150		注3
	Japan Studies VI	1,2,3,4・後	2	50		
	アジアフィールド実習 I	1,2,3,4	2	15		注4
アジアフィールド実習 II	2,3,4	2	15		注4	
AI・情報倫理	1,2,3,4	2		滋賀大学	注9	
考える Think	自然のしくみ A	1,2,3,4・後	2		環境生態	
	名著から学ぶ環境問題	1,2,3,4・後	2		環境社会システム	
	都市・建築を考える	1,2,3,4・前	2		建築デザイン	
	生活の中にもみる力学	1,2,3,4・後	2	50	機械システム	注5 注10
	コンピュータとインターネット	1,2,3,4・後	2		機械システム	注5 注10
	地域と文化	1,2,3,4・前	2		地域文化	
	歴史と文化	1,2,3,4・後	2		地域文化	
	人間関係の科学A	1,2,3,4・前	2		人間関係	
	人間関係の科学B	1,2,3,4・後	2	150	人間関係	
	国際文化概論	1,2,3,4・後	2		国際コミュ	注6
	差別と人権(同和問題)	1,2,3,4・前	2		人間看護	
	キャリア形成への道 A	1,2,3,4・前	2	50		キャリア教育関連
	Japan Studies VII	1,2,3,4・前	2	50		
	World Societies I	1,2,3,4・前	2	50		
World Societies II	1,2,3,4・後	2	50			
異文化理解 A	1,2,3,4・前	2	15		注7	
つくる Make	都市・建築をつくる	1,2,3,4・前	2		建築デザイン	
	農業と環境 B	1,2,3,4・後	2		生物資源	
	暮らしの中の材料	1,2,3,4・前	2		材料化学	
	自然科学入門	1,2,3,4・前	2		材料化学	
	機械の再発見	1,2,3,4・後	2	50	機械システム	注5 注10
	機械の役割と仕組み	1,2,3,4・前	2		機械システム	注5 注10
	技術の歴史	1,2,3,4・後	2		機械システム	注5 注10
	電子社会と人間	1,2,3,4・後	2		電子システム	
	電子システムの最先端	1,2,3,4・前	2		電子システム	注5
	比較住居論	1,2,3,4・前	2	100	生活デザイン	注8
	生活と健康	1,2,3,4・前	2		人間看護	
	ジェンダー平等をつくる	1,2,3,4・後	2	200		
AI 概論	1,2,3,4	2		滋賀大学	注9	

注1 「食と健康」は、生活栄養学科の学生は自由科目となります。そのため、卒業要件に算入されません。

- 注2 「精神保健論」は、人間看護学科の学生は人間学科目ではなく必修の学科専門基礎科目として卒業要件に算入されます。
- 注3 教育職員免許の必修となる科目で定員を超える登録があった場合は、免許取得希望者(前期「教職論」の履修登録を行った者)を優先します。免許取得希望者で定員を超えた場合は、定員に限らず免許取得希望者全員の履修を認めます。ただし、希望者は当該年度履修登録時に期限内にUSPoの「資格・成績」>「希望資格登録」により登録のあった者に限ります。また、「憲法」で定員を超える登録があった場合は、保健師資格取得希望者についても、定員に限らず保健師資格希望者全員の履修を認めます。ただし、2年次の人間看護学部所属の学生で、1年次にUSPoのマイステップ登録で保健師資格取得希望の登録をしている者かつ、「教職論」を履修している者に限ります。
- 注4 「アジア・フィールド実習Ⅰ」「アジア・フィールド実習Ⅱ」は、海外短期研修における特別講義です。ベトナム、タイ、バングラデシュ等アジア諸国の大学と提携し相手国の学生も参加する共通のプログラムとして、10日程度実施されます。履修者希望多数の場合、選考することがあります。詳細は別途お知らせします。
- 注5 「生活の中にみる力学」「コンピュータとインターネット」「機械の再発見」「機械の役割と仕組み」「技術の歴史」「電子システムの最先端」は、工学部の学生は自由科目となります。そのため、卒業要件に算入されません。
- 注6 「国際文化概論」は、国際コミュニケーション学科の学生は人間学科目ではなく、学科専門科目「比較宗教論」として卒業要件に算入されます。
- 注7 「異文化理解A」は、海外短期研修における特別講義です。4月中旬に授業日程等の詳細について発表されるとともに、参加者の募集が行われる予定です。
- 注8 「比較住居論」は、生活デザイン学科、人間関係学科の学生は人間学科目ではなく学科専門科目として卒業要件に算入されます。
- 注9 「AI・情報倫理」「AI概論」は滋賀大学彦根キャンパスでの開講となります。滋賀大学との単位互換協定に基づき、履修し、修得した単位は、本学の人間学として4単位まで卒業要件に算入できます。滋賀大学の科目の履修を希望する学生は、年度初めに所定の期日までに教務課へ履修願を提出する必要があります。

注10 各科目の開講年度

	2026年度 (令和8)	2027年度 (令和9)	2028年度 (令和10)	2029年度 (令和11)	2030年度 (令和12)
生活の中にみる力学			○	○	○
技術の歴史	○			○	○
機械の再発見	○	○			○
コンピュータとインターネット	○	○	○		
機械の役割と仕組み		○	○	○	

<その他留意事項>

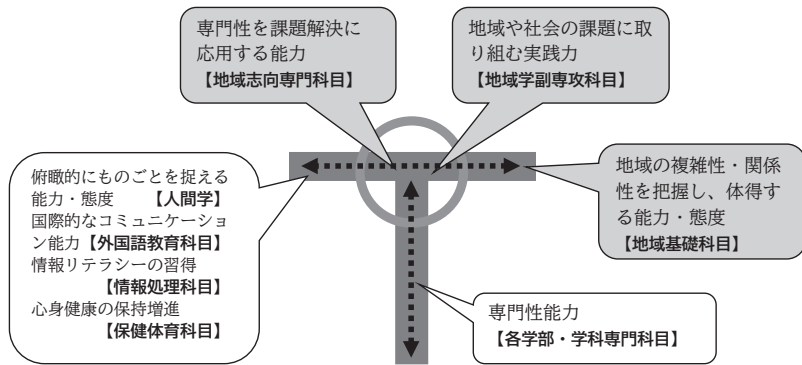
- ※ 教室収容人数に限りがあるため、収容人数を超える履修希望者がいた場合は、受講者の調整・抽選を行うことがあります。履修登録については「(8)人間学・地域教育プログラムの履修登録(P.7)」を参照してください。
- ※ 学科専門科目として卒業要件に算入される科目で定員を超える登録があった場合は、当該学科の学生を優先します。
- ※ 編入学生のカリキュラムは、編入学年度のカリキュラムではなく、編入した年次の学生と同一のカリキュラムが適用されます。

### Ⅲ 地域教育プログラム－地域基礎科目

#### 地域教育プログラムの位置づけ

経済、社会、環境の大きな変化の中であって、これからの時代に生きる若い世代には、これまでの仕組みの延長線上に自らの能力を磨くだけでなく、変化する時代を生き抜き、持続可能な社会の創造を担う能力と資質を養うことが求められています。

滋賀県立大学では、この課題に応える未来志向の変革力を身につけた人材を育成するため、2015年度から教育カリキュラムを大幅に改め、これまでの、専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力を養うことに加えて、現実を生起する諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養うために、新たに地域教育プログラムを整備・体系化しました。



地域教育プログラムの位置づけ

(T字型の人材＝未来志向の変革力を身につけた人材育成)

地域には、教室では学べないことがたくさんあります。地域の現場に飛び込み、生きた課題に触れることで、大学で獲得した知識や技術を生かすための「センス」を養うことができます。また、多くの地域の人との出逢いは、知識や技術の獲得につながるだけでなく、就職をはじめ、人生を豊かにする財産となります。

「地域教育プログラム」では、より豊かな学びの成果を得るために、大学と地域の様々な主体が連携・協働して学生の学びの場を構築し、地域の人や自然とのつながりを築くための基本的な作法やマナーから、地域を理解し、地域の人々や仲間を巻き込み、課題解決を実践するための技法などを身につけていきます。これらは、変わりゆく社会の中で、1人ひとりが輝くための必須の能力です。

#### 身につける力

地域や社会の課題に対して既成概念や常識を打ち破り、新たな価値を創造し未来を拓く力「変革力」の修得を目指します。この変革力を以下の3つの側面から養います。

【コミュニケーション力】 他者を理解し共感し豊かな対話を可能にする力

【構想力】 地域の過去や現状に関する正しい認識の上で、あるべき未来の姿を描き出す力

【実践力】 自ら率先して行動し、人をまきこみ、試行錯誤しながら構想を実現に導く力

## 地域教育プログラムの特徴 ～地域のサポーターが学びを支援～

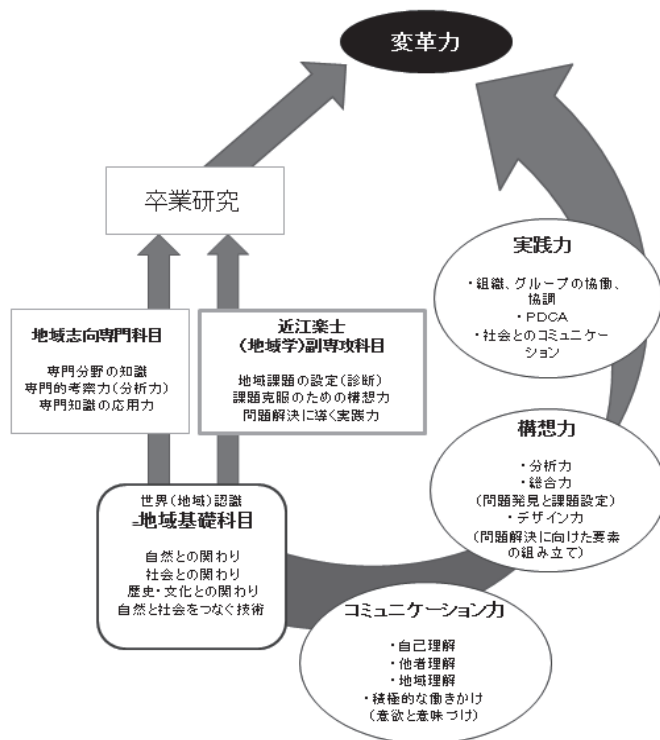
様々な分野の教員と先輩、そして学生の育ちを応援してくれる地域のサポーターが連携して学びの場を提供します。多くの地域の人びとを教室に招き、また逆に地域に向向いて、生の地域課題や地域の魅力に触れ、対話やグループワーク、ワークショップや活動への参加など、アタマとカラダとココロの全部を動かす「アクティブラーニング」によって、生きた知と実践力を身に付けていきます。

## 地域教育プログラムがめざす変革力醸成のためのステップ

地域教育プログラムは、各学部学科の学びの中で、無理なく学ぶ事ができるように配置されています。

専門的な学びにおいても「地域」を志向した科目（地域志向専門科目）が配置され、自らの専門と社会や地域とのつながりについて考察を深めることができます。卒業研究や卒業制作においてもそうしたつながりに配慮した発想を生かすことが可能となります。

地域教育プログラムでの学びと各学部学科の専門科目における学びの相乗効果で、専門的な能力と共に、コミュニケーション力、構想力、実践力に基づく変革力が身に付くのです。





## 地域教育プログラム関連科目

### (1) 地域基礎科目

地域基礎科目は地域教育プログラムの基礎となる科目群です。

地域基礎科目は全学共通科目ですので、全学部生は次の必修科目および選択必修科目を履修してください。

必修科目： 1科目2単位  
選択必修科目： 1科目2単位以上  
 合計： 2科目4単位以上

#### ① 必修科目：1科目2単位

科目名称	配当年次	単位数	備考
地域共生論	1・前	2	

#### ② 選択必修科目：1科目2単位以上 \*下記配当年次以外の年次でも受講可能

科目名称	配当年次	単位数	定員	備考
地域コミュニケーション論	1・後	2	60	地域活動実践ターム(注1)に実施
地域診断法	1・後	2	50	副専攻(CN必修)
ソーシャル・ビジネス概論	1・後	2	50	副専攻(SE必修)
地域社会福祉論	1・後	2	120	人間看護学科は必修で2年次後期に 配当
地域づくり人材論	1・後	2		
びわこ環境行政論	1,2,3,4・後	2		注2
多文化共生論	1・前	2		隔年開講(奇数年開講)
地域産業・企業から学ぶ 社長講義	1・後	2	150	
SDGsと滋賀のグローバル・ イノベーション	1・前	2	100	
近江の美	1・前	2	100	隔年開講(偶数年開講)

(注1) 地域活動実践タームとは、全学的に地域活動の実践を促進する休業期間中の特定期間を言います。

具体的な期間は学年暦を参照してください。

(注2) 「びわこ環境行政論」は、環境社会システム学科の2020(令和2)年度以降入学生は地域基礎科目ではなく、学科専門科目として卒業要件に算入されます。

(注3) 地域コミュニケーション論、地域診断法、ソーシャル・ビジネス概論以外の選択必修科目を地域課題科目といたします。

(注4) 定員を超える登録があった場合は、受講者の選定を行います(詳細は「4 履修の登録」を参照のこと)。

(2) 地域志向専門科目（詳細は各学部のシラバスを参照）

地域志向専門科目は、各学部学科の専門科目の中で地域志向の科目です。副専攻の履修要件ではありませんが、地域教育の一環として積極的に履修することを推奨します。

学部	科目名称	学科	科目名称	学科
環境科学部	環境フィールドワークⅠ	全学科	地域システム論	社
	環境フィールドワークⅡ	全学科	地域調査法演習	社
	環境フィールドワークⅢ	全学科	地域環境計画	建
	理論生態学	態、資	都市・地域計画	建
	琵琶湖環境学	態	木匠塾	建
	ファシリテーション技法・演習	社	地域資源管理学	資
	環境心理学	社	地域情報処理学	資
工学部	材料科学実験Ⅱ	材	電子システム工学実験Ⅳ	電
	機械システム工学概論	全学科		
人間文化学部	環琵琶湖文化論実習	全学科	コミュニケーション論	関
	地域と空間	地	現代社会福祉論	関
	地域研究論	地	社会変動論	地、関
	地域文化財論B	地	社会問題の社会学	関
	近世近江論	地	生涯学習論	関
	生活デザイン学外演習	デ	社会運動論	関
	道具デザイン演習Ⅲ	デ	日本社会論	地、関
	道具計画論	デ	多文化社会論 A	国
	食品加工実習	栄		
人間看護学部	看護学概論	看	小児看護学概論	看
	在宅看護学概論	看	成人看護学概論	看
	公衆衛生看護学概論	看	母性看護学概論	看
	精神看護学概論	看	老年看護学概論	看

(3) 近江楽士（地域学）副専攻

「2 近江楽士（地域学）副専攻の履修について」を参照してください。

(4) 中期インターンシップ（「キャリアステップC」「インターンシップE」）

「Ⅳ キャリア教育・ボランティア関連科目」の「2. キャリア形成支援に係る取組」を参照してください。

## IV キャリア教育・ボランティア関連科目

### 1. キャリア教育科目について

みなさんが社会人として自立するためには、自身のキャリアを考えることが大切です。キャリアを築く重要な要素は学部学科における専門科目となります。

さらに、みなさん自身の人間形成や将来設計を描き、職業観を育成するとともに自己の職業適性を考え、職業意識を高める機会として、キャリア形成に有効な科目をキャリア教育科目として示しています。

開講科目は下表の通りです。

#### ■キャリア教育科目

科目名	単位数	配当年次	備考
キャリア形成への道 A	2	1, 2, 3, 4・前	人間学科目、【副題】基礎
キャリア形成への道 B	2	2, 3, 4・前	人間学科目、【副題】発展
キャリアステップ A	1	2・前	卒業要件単位にならない
キャリアステップ B	2	2・前	卒業要件単位にならない
キャリアステップ C	3	2・前	卒業要件単位にならない。地域教育プログラム関連科目
インターンシップ A	1	3・前	卒業要件単位にならない
インターンシップ B	2	3・前	卒業要件単位にならない
インターンシップ E	3	3・前	卒業要件単位にならない。地域教育プログラム関連科目

## 2. キャリア形成支援に係る取組

みなさんの社会的・職業的自立に向けたキャリア形成意識を涵養するため、本学ではインターンシップを始めとするキャリア形成支援に係る取組(以下、「インターンシップ等」という。)を実施しています。

- 1) インターンシップ等とは、学生が自らの専攻や将来希望する職業に関連した職場で業務を体験することです。本学では、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育み、自己の適性や志向に照らして進路を考え、キャリア意識を高めることを目的に、単位認定型のインターンシップ等プログラムを実施しています。
- 2) インターンシップ等の基本理念
  - ① 本学の教育理念「人が育つ」に基づき、学生の「学習」と「社会人としての成長」を促す。
  - ② 社会体験を通じて、学問への社会的要請と意義を理解する。
  - ③ 社会や職業における諸課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を高める。
- 3) インターンシップ等の基本方針
  - ① 専門知識の有用性や学習を意識づける契機とする。
  - ② ガイダンスを経て、事前研修・就業体験・事後研修を含むものとし、学生のキャリア形成を促進する教学プログラムの一環である。
- 4) インターンシップ等の種類

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ等」を基本とする。

ほかに、企業・団体が独自に公募するインターンシップ等に学生が自ら応募する「自由応募型インターンシップ等」、学部・学科からの紹介で専門的分野の「学部学科・研究科等専門型インターンシップ等」がある。
- 5) 単位認定されるインターンシップ等の内容
  - ① 対象・授業科目名
    - A. 全学部全学科の2年次
      - 「キャリアステップA」(就業体験が5日以上9日間である。) 1単位
      - 「キャリアステップB」(就業体験が10日以上14日間である。) 2単位
      - 「キャリアステップC」(就業体験が15日間以上である。) 3単位
    - B. 全学部全学科の3年次
      - 「インターンシップA」(就業体験が5日以上9日間である。) 1単位
      - 「インターンシップB」(就業体験が10日以上14日間である。) 2単位
      - 「インターンシップE」(就業体験が15日間以上である。) 3単位
  - \*自由科目とし、卒業単位には加えない。
  - \*2年次および3年次で履修する場合、同一の就業体験先で就業体験することは不可とする。
  - ② 実施時期：4月のガイダンス、6月～7月事前研修、夏季休業期間に就業体験、10月事後研修(報告会)
  - ③ 履修登録：受入先決定後行うのでWeb登録は不要。インターンシップ等ガイダンスで説明する。
  - ④ 保険の加入義務：実習中の事故に備え、全員、賠償責任保険に加入する。
  - ⑤ 成績評価：就業体験に原則として全て出席していることを前提に「事前学習レポート」「実習日誌」「受入担当者報告書(評価書)」「報告書レポート」の4点を総合的に評価する。
  - ⑥ その他：実習にかかる報酬等は支払われない(無報酬である)。交通費、食費は自己負担である。ただし、受入企業・団体が交通費等を補助する場合は、この限りではない。
  - ⑦ 注意：インターンシップ等に申込をした後は、特別な事情がない限り辞退できない。

## 滋賀県立大学インターンシップ等の流れ

	学生	大学	受入先(企業・団体)
2月～3月	受入問合せ・有無、要件の確認【大学⇄受入先】		
4月下旬	ガイダンス		
	ガイダンスブック配布【学生←大学】		
5月～6月	応募票等受付、申込先の決定(必要に応じて選考)【学生⇄大学】		
	申込手続き 5月～6月(順次)		
	申込書(履歴書)・学長への同意書・賠償責任保険確認書(手続)・誓約書 事前学習レポートの提出【学生→大学】		
	受入の依頼 6月(順次)		
	依頼文書・申込書・誓約書・覚書(協定書)・事前学習レポート 実習プログラム(様式)の送付【大学→受入先】		
	受入の承諾(選考の場合も)		
承諾書・実習プログラム・協定書受領【大学←受入先】			
実習プログラム通知【学生←大学】			
7月	事前研修Ⅰ(マナー講座) 6月下旬～7月上旬		
	事前研修Ⅱ(就業体験心得・手続き等確認) 7月下旬		
	実習日誌・その他文書等配布【学生←大学】		(場合によって打合せ)【受入先と学生】
8月～9月	インターンシップ等参加	受入先訪問	インターンシップ等受入
	実習日誌の記録	就業体験参観等	就業体験指導
	実習報告レポート・パワーポイントの提出【学生→大学】		
	評価書・実習日誌の送付【大学←受入先】		
10月下旬	報告会・グループディスカッション【参加学生全員】		
11月	インターンシップ等単位認定		

インターンシップ等参加者は、次の①～④に必ず出席すること

- ① ガイダンス 数回実施 (いずれか1回出席)
- ② 事前研修Ⅰ(マナー講座等) 2回実施 (いずれか1回出席)
- ③ 事前研修Ⅱ 2回実施 (いずれか1回出席)
- ④ 報告会Ⅰ 2回実施 (いずれか1回出席) 報告会Ⅱ(全員出席)

### 3. ボランティア関連科目について

本学では学生のボランティア活動についても、下記の要件で単位を認定しています。単位の認定を希望する場合、教務課まで相談に来てください。

- 1) 科目名：「ボランティア活動」
- 2) 単位数：1 単位（自由科目とし、卒業要件単位には含まれません）
- 3) 成績評価：「合格・不合格」
- 4) 活動対象（※1）：災害救助法が適用される災害に対する復興支援活動  
学校や教育委員会から要請を受けた学校ボランティア活動  
その他、全学共通教育推進機構長が認めるボランティア活動
- 5) 活動期間：30 時間以上のボランティア活動（複数期間の通算可）
- 6) 休業期間中以外の取扱い：不可（休業期間中のみを対象とする（※2））

※1 有償ボランティアは除く。

※2 ただし、授業を欠席することなくボランティア活動を行った場合は、学業期間中であって  
も認めることとします。

単位認定にあたっては、下記の申請、報告が必要となります。

1. 事前届（単位認定申請書）
2. ボランティア活動の現認が確認できる現認証明書
3. 事後報告（活動レポート）  
※活動終了後 3 週間までに提出すること

## V 資格関連科目

教育職員免許、学芸員、保健師受験資格等の資格取得のために必要となる科目です。卒業単位には算定されません。

資格関連科目の詳細については、第3章を参照してください。

## VI 日本語・文化関連科目

### Japanese/culture classes

日本語・文化関連科目は、主に交換留学生を対象とする科目です。

Japanese/culture related classes are mainly for exchange students.

- (1) 日本語基礎 (Basic Japanese)

初級～中級の日本語を学ぶ交換留学生を主な対象に、日本語基礎（初級）ⅠA・B～日本語基礎（中級）ⅢA・Bを開講します。

学部の私費外国人留学生で、日本語レベルが日本語能力試験（JLPT）のN2レベル以下の学生は、補講として一部科目を履修出来る場合がありますが、卒業要件単位に算入することはできません。

“Japanese(beginner)ⅠA・B”～“Japanese(intermediate)ⅢA・B” classes are provided mainly for exchange students whose Japanese level is beginner to intermediate. Non-Exchange undergraduate international students whose JLPT scores are N2 or lower may be able to attend those classes as supplementary, but those students are unable to earn credits for graduation requirement.

科目名 Subject	単位数 credits	期間 semester
日本語基礎（初級）ⅠA・B Japanese(beginner)ⅠA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初級）ⅡA・B Japanese(beginner)ⅡA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初級）ⅢA・B Japanese(beginner)ⅢA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅠA・B Japanese(low-intermediate)ⅠA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅡA・B Japanese(low-intermediate)ⅡA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅢA・B Japanese(low-intermediate)ⅢA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅣA・B Japanese(low-intermediate)ⅣA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（中級）ⅠA・B Japanese(intermediate)ⅠA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（中級）ⅡA・B Japanese(intermediate)ⅡA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（中級）ⅢA・B Japanese(intermediate)ⅢA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall

(2) 日本語 (Japanese) ※全学共通基礎科目 (再掲)

上級の日本語を学ぶために、日本語ⅠA・B～日本語ⅣA・Bを開講します。これらの日本語科目を受講する場合、(1)の日本語基礎は受けることができません。

“Japanese I.A.B” ~ “Japanese IV.A.B” are provided for international students who are advanced Japanese level. If you take those Japanese classes, you are unable to take the Basic Japanese classes mentioned above (1).

科目名 Subject	単位数 credits	期間 semester
日本語ⅠA・B JapaneseⅠA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語ⅡA・B JapaneseⅡA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語ⅢA・B JapaneseⅢA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall
日本語ⅣA・B JapaneseⅣA・B	各1 1 each	各前・後期 spring/fall

- (3) Traditional Japanese Culture
- (4) Intensive Japanese Language
- (5) Intensive Japanese Culture
- (6) Japanese Culture and Society in Community
- (7) Japan Studies I : Art in Japan
- (8) Japan Studies II : History of Japanese Film
- (9) Japan Studies III : Japanese Society through Pop Culture
- (10) Japan Studies IV : Japanese Society and Culture in Japanese
- (11) Japan Studies V : Localization of Japanese Media
- (12) Japan Studies VI : Societal Challenges for Modern Japan
- (13) Japan Studies VII : Japanese Security
- (14) Lecture and Discussion in English: Views on Nature in the Japanese Literary Tradition
- (15) Academic Lectures in English: Nature and People in Shiga and Japan

※(12) および (13) は人間学。(14)および(15)は外国語科目。

※(12) and (13) are reposts of humanity classes. (14) and (15) are reposts of foreign language classes.

おうみがくし

## 2 近江楽士（地域学）副専攻の履修について

### 1. 近江楽士（地域学）副専攻とは

近江楽士（地域学）副専攻とは、地域基礎科目の履修を通して習得した基礎的な知識・能力を向上させて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」からなる「変革力」を身につけるために、主専攻（各学科）に所属しながら履修することができる全学共通の副専攻課程です。

近江楽士（地域学）副専攻の修了要件を満たした学生には、主専攻の修了時に、卒業証書・学位記と合わせて「近江楽士」の称号を授与します。

近江楽士（地域学）副専攻ではコミュニティ・ネットワーク（CN）コースとソーシャル・アントレプレナー（SE）コースの2コースを設置しており、卒業後の進路目標や各人の志向に合わせて、いずれかのコースを選択することができます。また、更に意欲のある学生は、両方のコースを履修することができます。

コース別	育成人材イメージ	付与される称号
コミュニティ・ネットワーク（CN）コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域再生に向けた取り組みをデザインする人材。</li> <li>・行政やNPO、市民活動等の分野でリーダーシップを発揮する人材。</li> </ul>	近江楽士（コミュニティ・ネットワーク）
ソーシャル・アントレプレナー（SE）コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・ビジネスやビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業家的人材。</li> <li>・起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材。</li> </ul>	近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）

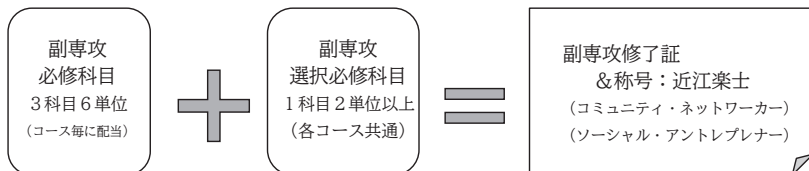
近江楽士（地域学）副専攻の履修を希望する学生は、履修登録期間中にUSPoに掲示される「副専攻履修申請」より申請手続きを行ってください。

### 2. 近江楽士（地域学）副専攻の教育目標

本学は、開学以来、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」を掲げ、地域の様々な主体（住民、団体、企業、行政等）との連携による様々な教育活動を実践してきました。

近江楽士（地域学）副専攻では、この特徴を生かした「地域教育プログラム」の一環として、「変革力」を実践できるノウハウを学ぶカリキュラムを導入しています。これらの科目では、地域の具体的な課題をテーマに、地域の様々な主体との連携のもとに、地域で主体的に活動できる実践力を養います。近江楽士（地域学）副専攻の教育目標（称号授与方針）は以下の通りです。

- 地域やものごとの特性について、情報を収集し、客観的および複眼的な視点で分析し、その本質を見極め判断する能力を身につける。（態度・倫理）（技能・技術）
- 地域や社会の課題を解決するために用いる様々な手法に関する知識を習得し、それらを活用する技術を身につける。（知識・理解）（技能・技術）
- 地域や社会の未来のありようを見据え、旧来の固定観念や既成事実にとらわれない柔軟な思考と発想を有した構想力を身につける。（思考・判断）
- 地域や社会の課題解決を実践するノウハウを備え、実際の現場において様々な主体と連携し、主体的に活動に取り組み、課題解決を実践できる実践力を身につける。（汎用的能力）



### 3. 近江楽士（地域学）副専攻の修了要件

コース毎に配当・指定する「必修科目」3科目6単位と両コース共通の「選択必修科目」1科目2単位以上を修得し、所属する学科の修了要件を満たすと、副専攻の修了が認められます。

副専攻修了者には、履修したコースに応じてそれぞれ「近江楽士（コミュニティ・ネットワークラー：CN）」または「近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー：SE）」の称号を授与します

科目名	必修・選択必修の別	配当年次 (推奨)	単位数	定員	称号授与方針との対応 <sup>※3</sup>			
					A	B	C	D
地域診断法 <sup>※2</sup>	必修 (CN)	1・後 <sup>※4</sup>	2	50	◎		○	
システム思考法	必修 (CN)	2,3,4・前	2	40		◎	○	
問題解決デザイン論	必修 (CN)	2,3,4・後	2	40		○	◎	
ソーシャル・ビジネス概論 <sup>※2</sup>	必修 (SE)	1・後 <sup>※4</sup>	2	50	◎		○	
MBA入門	必修 (SE)	2,3,4・前	2	40		○	◎	
ビジネス・プランニング	必修 (SE)	2,3,4・後	2	40	○	◎		
地域デザインA	選択必修 (CN推奨)	2,3,4・前	2					◎
地域デザインB	選択必修 (CN推奨)	2,3,4・前	2					◎
地域デザインC	選択必修 (SE推奨)	2,3,4・後	2					◎
地域デザインD	選択必修 (SE推奨)	2,3,4・前	2					◎

※1 コミュニティ・ネットワークラー (CN) コースは地域デザインAまたはB、ソーシャル・アントレプレナー (SE) コースは地域デザインCまたはDの選択科目を履修することを「推奨」します。

コミュニティ・ネットワークラーコースおよびソーシャル・アントレプレナーコースの両方の履修を希望する場合は、それぞれの要件を満たすことが必要となります。そのため、地域デザインA、B、C、Dの履修においては、少なくとも2科目の履修が求められることに注意してください。

※2 「地域診断法」「ソーシャル・ビジネス概論」は地域基礎科目として卒業要件単位に算入され、CAP制の対象となります。そのほかの科目は自由科目として取り扱い、卒業要件単位に算入されません。

※3 称号授与方針との対応、は前記2「近江楽士（地域学）副専攻の教育目標」に記載のA～Dの教育目標（称号授与方針）との対応を示し、◎は強く対応するものを表します。

※4 他の科目を履修する前に履修することを推奨しますが、2年次以降でも履修は可能です。

### 4. 身につける力

（必修科目）

「コミュニティ・ネットワークラーコース」必修科目は、地域診断という手法を用いて物事の本質を見るための見方、考え方を学ぶ「地域診断法」、課題解決のための様々な考え方や手法を身につける「システム思考法」、そしてイノベーションを起こすために活用されているデザインシンキング（デザイン思考）の手法を学ぶ「問題解決デザイン論」の3つの科目からなり、「地域」を題材に、具体的に地域課題を解決できるノウハウを学んでいきます。

「ソーシャル・アントレプレナーコース」必修科目は、社会的な課題や地域課題の解決手法としてのソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスについて概要を学ぶ「ソーシャル・ビジネス概論」、企業や組織のマネジメント、ビジネスに関する知識とノウハウをビジネスゲームや経営者との対話を通じて学ぶ「MBA入門」、そして、地域における「起業」や企業における「第2創業」、あるいはそれらを支援する立場を視野に入れ、具体的な事業企画のノウハウを学ぶ「ビジネス・プランニング」の3つの科目からなり、ビジネスの手法を用いた地域課題解決や将来の起業あるいは地域に根ざした新たななりわい創出に必要な知識やノウハウ、心構えを身につけます。

（選択必修科目）

2コース共通の選択必修科目「地域デザインA、B、C、D」は、様々な地域で活動する地域共生センター教員と産官学の第一線で活動する「地域人」等地域の多彩な協力者がスクラムを組む指導体制と、本学が地域と共同で活動を推進する各地の拠点を活用した実践活動への参画を通じた学びとなります。必修科目で学んだノウハウをもとに、地域の多様な人々との対話や連携を体験することは、自分自身の能力のブラッシュアップを図るうえで決定的に重要な機会となります。そこには「滋賀県立大学の学生だから学べる」実践体験やネットワークの形成があります。このような科目の構成により、近江楽士（地域学）副専攻のプログラムでは、地域課題を実践的に解決できる、未来志向の変革力を身につけた人材を育成します。

## 3 環境科学部科目履修の手引

### 1. 環境科学部の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

#### (1) 学位授与方針

環境科学部は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を以下のとおり定めます。

- A 環境問題を多角的に俯瞰するための幅広い知識と倫理観を身につけ、自然科学・社会科学の両側面から理解し判断できる。(知識・理解) (思考・判断)
- B 自らの専門分野における環境問題の解決、あるいは自然環境と調和した人間社会を創造するための高度な専門知識・技術を有している。(知識・理解) (技術・技能)
- C 直面する環境問題に関心を持ち、問題解決に向けて主体的・協同的に取り組むことができる。(意欲・関心) (態度)
- D 専門分野に関する調査研究の内容や成果等を、口頭発表、論文作成などの手法を用いて表現するとともに他者と論理的に議論できる。(技術・技能) (思考・判断)

#### (2) 教育課程の編成・実施方針

環境科学部は、琵琶湖とその周辺を主なフィールドとした実践的な環境教育を基幹とし、以下の方針に沿った教育カリキュラムを編成しています。

- A <人間学・地域基礎・健康体力科学科目>： 人間・環境・社会・文化について多面的に理解し、論理的・倫理的・主体的に思考判断できる能力を養う。
- B <外国語教育・情報処理科目>： 外国語によるコミュニケーション能力、読解力、および必要な情報を入手・発信する能力を養う。
- C <学部共通基礎科目・複数学科共通科目>： 自然科学と社会科学の両面から幅広い知識を身につけることで、多様で複雑な環境問題に対して自らの見解を柔軟に形成できる能力を養う。
- D <学科専門科目・複数学科共通科目>： 自らの専門分野における環境問題に関心をもち、問題の発見と解決あるいは自然環境と調和した人間社会の創造に必要な専門知識、技術、実践力等を身につける。また、専門分野に関する調査研究の内容や成果等を、口頭発表、論文作成などの手法を用いて表現するとともに、他者と論理的に議論できる能力を養成する。

### 2. 環境科学部共通科目の履修について

- ① 環境フィールドワーク (FW) は、1年次にFWⅠ、2年次にFWⅡ、3年次にFWⅢがあります。これらのうちFWⅠとFWⅡは必修科目で、FWⅢは選択科目です。FWⅢはテーマにより実施時期が異なるので、通年講義で3単位とします。
- ② 専門科目は、学部共通基礎科目、複数学科共通科目、学科専門科目からなっています。これらの科目の履修の仕方については各学科の指示にしたがってください。
- ③ 専門科目の中には同じ科目名の後にⅠ、Ⅱを付した科目があります。これらはそれぞれ独立した科目ですが、できるだけⅠを付した科目から履修し、その後Ⅱを付した科目を履修するようにしてください。
- ④ 基礎数学Ⅰ、Ⅱは、高校で数学Ⅲを履修していない1回生を対象にしています。高校で同科目を履修したものは、履修するに及びません。
- ⑤ 3回生までに単位履修が十分でないときは、4年次に卒業研究の単位履修を認めないことがあります。その条件は、各学科で決められています。

### 3. 環境生態学科専門科目の履修について

#### (1) 環境生態学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

##### ■教育目標

環境生態学科の学生には、授業を通して、実際の環境での問題を発見し、その対処法を提案することを求めます。環境問題を発見して解析する能力を養うため、幅広い分野で少人数制の先鋭的な授業を展開しています。我々のカリキュラムは、従来の基礎科学のうち環境問題解決に特に必要な基礎分野を統合して学習することから始まります。その上で、各分野で特に重要な事項に関する実習・実験科目を履修します。この段階では、実際の野外環境を題材として学習します。4年生では一年かけて卒業研究にとりくみます。学生は滋賀県の恵まれたフィールドにじかに触れ、環境調査への即戦力的実力を身に付けます。

##### ■学位授与方針

環境生態学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を取得した上で、環境生態学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 人間・社会・環境の関係について多様な側面から理解できる。(知識・理解)
- B. 外国語で意思疎通し、与えられた課題について情報を入手し発信する基礎能力を養う。(技術・技能)
- C. 生態系の構造と機能を探求するのに必要な科学的基礎力を修得する。(知識・理解)
- D. 様々な生態系の構造と機能、地域の課題について幅広い知識を身につけ、それらについて自然科学(物理学・化学・生物学・地球科学)的方法論を用いて理解できる。(知識・理解)
- E. 生態系の保全と修復に関する知識を身につけるとともに、その保全修復に積極的に関わる態度を持つ。(知識・理解)(興味・関心)(思考・判断)
- F. 物理的・化学的・生物的・地球科学的環境因子の調査測定、解析に必要な技術を修得する。(技術・技能)
- G. 環境問題、地域課題の解決に対し、専門知識に基づいて自らの見解を形成できる。(知識・理解)(興味・関心)(思考・判断)
- H. 調査結果等を口頭発表、論文作成等の適切な手法を用いて表現できる。(技術・技能)(思考・判断)(興味・関心)
- I. 他者と論理的に議論できる。(技術・技能)(思考・判断)(興味・関心)

##### ■教育課程の編成・実施方針

環境生態学科では、実際の環境問題を発見し、その対処法を提案する能力を培うことを目的として、必要な分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム(教育課程)を編成しています。科目履修のモデルとして構造・機能・保全修復科学の科目について陸域環境保全コースおよび水域環境保全コースを設置し、専門化を行います。

#### <人間学・健康体力科学・専門科目>

- A. 人間・社会・環境の関係について多様な側面から理解できる能力を養うための科目を配置している。

<外国語教育科目・専門科目>

- B. 外国語で意思疎通し、与えられた課題について情報を入手し発信する基礎能力を養うための科目を配置している。

<情報処理・専門科目>

- C. 生態系の構造と機能を探求するのに必要な科学的基礎力を修得するための科目を配置している。

<専門科目・地域志向専門科目>

- D. 様々な生態系の構造と機能について幅広い知識を身につけ、それらを自然科学（物理学・化学・生物学・地球科学）的方法論を用いて理解できる能力を修得するための科目を配置している。

<専門科目>

- E. 生態系の保全と修復に関する知識を身につけるとともに、その保全修復に積極的に関わる態度を養うための科目を配置している。

<専門科目>

- F. 物理的・化学的・生物的・地球科学的環境因子の調査測定、解析に必要な技術を修得するための科目を配置している。

<人間学・専門科目・地域基礎教育・地域志向専門科目>

- G. 環境問題に対し、自らの見解を形成できる能力を養うための科目を配置している。

<人間学・専門科目・地域基礎教育・地域志向専門科目>

- H. 調査結果等を口頭発表、論文作成等の適切な手法を用いて表現できる能力を身につけるための科目を配置している。

<人間学・専門科目>

- I. 他者と論理的に議論できる能力を身につけるための科目を配置している。

区分	授業科目名	学位授与方針に対する関与の程度								
		A 知識・理解	B 技術・技能	C 知識・理解	D 知識・理解	E 思考・判断	F 技術・技能	G 知識・理解	H 技術・技能・判断・興味・関心	I 技術・技能・判断・興味・関心
学部共通基礎科目	環境フィールドワークⅠ							◎	◎	◎
	環境フィールドワークⅡ						◎	◎	◎	◎
	環境フィールドワークⅢ						◎	◎	◎	◎
	環境科学概論Ⅰ				◎		◎			
	環境科学概論Ⅱ				◎					
	基礎数学Ⅰ			◎						
	基礎数学Ⅱ			◎						
	環境経済学入門	○								
	環境監査	○								
	環境財政	○								
環境政策学	○									
環境アセスメント	○									
環境数学Ⅰ・演習			◎							
環境数学Ⅱ・演習			◎							
環境物理学Ⅰ			◎							
地球科学Ⅰ			◎							
環境統計解析学			◎					○		
環境地下水学				◎						
水環境政策論	○						○			
測量学			○				○			
環境水文学			○	○						
環境法	○									
地域環境政策論	○						○			
環境解析学・同実験						◎		○		
地球環境システム論				○						
湖沼環境学			○	◎						
土壌環境化学			○	○						
農業環境学			○			○				
陸域生態系保全修復論					◎		○			
地球環境化学			○	◎						
理論生態学					◎	○				
環境微生物学					◎	○				
集水域生態系保全修復論					◎		○			
琵琶湖環境学			○	◎						
環境安遷学			◎							
環境生物学Ⅰ			◎							
環境生物学Ⅱ			◎							
環境生物学実験			◎			○				
環境物理学Ⅱ			◎							
環境物理学実験			◎			○				
環境化学Ⅰ			◎							
環境化学Ⅱ			◎							
環境化学実験			◎			○				
地球科学Ⅱ						○				
地球科学実験			◎			○				
森林環境学			○	◎						
遺伝学			○	◎						
海洋環境学			○	◎						
大気環境学			○	◎						
集水域環境学			○	◎						
集水域環境学・同実験						◎		○		
生物資源統計学Ⅰ						○				
動物生態学			○							
環境疫学			○	◎						
環境汚染システム論			○	◎						
微生物機能論			○	◎						
陸域環境学・同実験						◎		○		
水域環境学・同実験						◎		○		
分子生物学			○	○						
環境毒性学			○	◎						
陸域物質循環論			○	◎						
環境リスク解析法					◎	○				
水域生態系保全修復論					◎		○			
環境生態学特別実習					◎		◎		◎	
環境学野外実習Ⅰ					◎		◎		◎	
環境学野外実習Ⅱ					◎		◎		◎	
環境学野外実習Ⅲ					◎		◎		◎	
科学英語Ⅰ		◎								
科学英語Ⅱ		◎								
環境生態学基礎演習				◎			◎		◎	
環境生態学演習Ⅰ								◎	◎	
環境生態学演習Ⅱ								◎	◎	
卒業研究Ⅰ				○	○	◎	◎	◎	◎	
卒業研究Ⅱ				○	○	◎	◎	◎	◎	

環境科学部

環境生態学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	人間探求学 地域共生論	健康体力科学Ⅰ 地域基礎科目	健康体力科学Ⅱ					
人間学科目								
B	第一外国語ⅠA ※1 第一外国語ⅠA ※2 第二外国語ⅠA ※2	第一外国語ⅠB ※1 第一外国語ⅠB ※1 第二外国語ⅠB ※2	第一外国語ⅢA ※1 第一外国語ⅣA ※1 第二外国語ⅡA ※2 実用英語演習ⅠA	第一外国語ⅢB ※1 第一外国語ⅣB ※1 第二外国語ⅡB ※2 実用英語演習ⅠB	科学英語Ⅰ	科学英語Ⅱ		
C	情報リテラシー 基礎数学Ⅰ 環境数学Ⅰ・演習 環境化学Ⅰ 環境生物学実験	情報科学概論 基礎数学Ⅱ 環境数学Ⅱ・演習 環境化学実験 環境物理学Ⅰ 環境生物学Ⅰ 環境変遷学	環境統計解析学 環境物理学実験 地球科学Ⅱ 地球科学Ⅰ 地球科学実験	環境化学Ⅱ 環境生物学Ⅱ	環境物理学Ⅱ			
D	環境科学概論Ⅰ	環境生態学基礎演習 環境科学概論Ⅱ 琵琶湖環境学	海洋環境学 湖沼環境学 環境地下水学 大気環境学 集水域環境学 森林環境学	微生物機能論 環境汚染システム論 地球環境化学 環境医学	環境生態学特別実習 環境毒性学 陸域物質循環論			
E				環境微生物学 理論生態学	水圏生態系保全 修復論 集水域生態系保全 修復論 環境リスク解析法 陸域生態系保全 修復論			
F	環境学野外実習Ⅰ	環境生態学基礎演習	環境フィールドワークⅡ	集水域環境学・同実験 環境解析学・同実験 環境フィールドワークⅡ	環境生態学特別実習 環境フィールドワークⅢ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	
G	地域共生論 環境フィールドワークⅠ	環境生態学基礎演習	環境フィールドワークⅡ	陸域環境学・同実験 水圏環境学・同実験 環境フィールドワークⅡ	環境生態学特別実習 環境フィールドワークⅢ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	
H	人間探求学 地域共生論 環境フィールドワークⅠ	環境生態学基礎演習	環境フィールドワークⅡ	環境生態学特別実習 環境フィールドワークⅢ	環境生態学特別実習 環境フィールドワークⅢ	環境生態学演習Ⅰ 卒業研究Ⅰ	環境生態学演習Ⅱ 卒業研究Ⅱ	
I	人間探求学 地域共生論 環境フィールドワークⅠ	環境生態学基礎演習	環境フィールドワークⅡ	環境生態学特別実習 環境フィールドワークⅢ	環境生態学特別実習 環境フィールドワークⅢ	環境生態学演習Ⅰ 卒業研究Ⅰ	環境生態学演習Ⅱ 卒業研究Ⅱ	

※1 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。  
 ※2 トイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

環境科学部

## (2) 環境生態学科卒業要件

[2026 (令和8) 年度入学生用]

1 全学共通科目 (計 30単位以上) 必修18単位、選択必修12単位以上

① 共通基礎科目 18単位以上

第一外国語 ※ 英語 (IA~IVB) 8単位(必修)

第二外国語 ※ ドイツ語 (IA~IIB)、フランス語 (IA~IIB)、中国語 (IA~IIB)、朝鮮語 (IA~IIB) のうちから4単位以上 (選択必修)  
ただし、「第二外国語IIA・IIBは「実用英語演習IA・IB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4単位

保健体育 健康・体力科学I・II 2単位

② 人間学 8単位以上 (「人間探求学」は必修)

③ 地域基礎 4単位以上 (「地域共生論」は必修)

2 専門科目 (計 100単位以上) 必修54単位、選択46単位以上

① 必修 年次別配当表に指定する科目 54単位

② 選択 年次別配当表に指定する科目から46単位以上

ただし、全学共通科目で30単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、10単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位の算入することができる。(学則第38条)

合計 130単位以上

### 【卒業研究等履修要件】

合計100単位以上。110単位以上の取得が望ましい。

### 【卒業研究審査基準】

1 卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的の妥当性
- (2) 研究方法の的確性・独創性
- (3) 研究内容の新規性・学術性・社会性
- (4) 研究内容の論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
- (5) 卒業論文の論理性

2 卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 上記1ならびに2による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

(3) 環境生態学科年次別配当表

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前後	前後	前後	前後	
2 専門科目						
2.1 学部共通基礎科目						
環境フィールドワークⅠ	3	○				必修
環境フィールドワークⅡ	3		○			必修
環境フィールドワークⅢ	3			○	○	選択
環境科学概論Ⅰ	2	○				必修
環境科学概論Ⅱ	2	○				必修
基礎数学Ⅰ	2	○				選択
基礎数学Ⅱ	2	○				選択
2.2 複数学科共通科目						
環境経済学入門	2	○				選択
環境監査	2			○		選択
環境財政	2			○		選択
環境政策学	2		○			選択
環境アセスメント	2			○		選択
環境数学Ⅰ・演習	3	○				選択
環境数学Ⅱ・演習	3	○				選択
環境物理学Ⅰ	2	○				必修
地球科学Ⅰ	2		○			必修
環境統計解析学	2		○			必修
環境地下水学	2		○			選択
水環境政策論	2			○		選択
測量学	2		○			選択
環境水文学	2		○			選択
環境法	2			○		選択
地域環境政策論	2		○			選択
環境解析学・同実験	4		○			必修
湖沼環境学	2		○			選択
土壌環境化学	2			○		選択
農業環境学	2			○		選択
陸域生態系保全修復論	2			○		選択
地球環境化学	2			○		選択
理論生態学	2			○		選択
環境微生物学	2			○		選択
集水域生態系保全修復論	2			○		選択

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前	後	前	後	
2.3 学科専門科目						
琵琶湖環境学	2	○				必修
環境変遷学	2	○				必修
環境生物学Ⅰ	2	○				必修
環境生物学Ⅱ	2		○			選択
環境生物学実験	2	○				選択
環境物理学Ⅱ	2			○		選択
環境物理学実験	2		○			選択
環境化学Ⅰ	2	○				必修
環境化学Ⅱ	2		○			選択
環境化学実験	2	○				選択
地球科学Ⅱ	2		○			選択
地球科学実験	2		○			選択
森林環境学	2		○			選択
遺伝学	2		○			選択
海洋環境学	2		○			選択
大気環境学	2		○			選択
集水域環境学	2		○			選択
集水域環境学・同実験	4		○			必修
生物資源統計学Ⅰ	2	○				選択
動物生態学	2		○			選択
環境疫学	2			○		選択
環境汚染システム論	2			○		選択
微生物機能論	2			○		選択
陸域環境学・同実験	4			○		必修
水域環境学・同実験	4			○		必修
分子生物学	2	○				選択
環境毒性学	2			○		選択
陸域物質循環論	2			○		選択
環境リスク解析法	2			○		選択
水域生態系保全修復論	2			○		選択
環境生態学特別実習	3			○		必修
環境学野外実習Ⅰ*	1	○	○	○	○	選択
環境学野外実習Ⅱ*	1		○	○	○	選択
環境学野外実習Ⅲ*	1			○	○	選択
科学英語Ⅰ	1			○		必修
科学英語Ⅱ	1			○		必修
環境生態学基礎演習	1	○				必修
環境生態学演習Ⅰ	1				○ (○)	必修
環境生態学演習Ⅱ	1				(○) ○	必修
卒業研究Ⅰ	3				○ (○)	必修
卒業研究Ⅱ	3				(○) ○	必修

\*環境学野外実習はⅠ，Ⅱ，Ⅲの順に履修すること。

## 環境生態学科・専門科目履修モデル

※構造科学と機能科学の選択科目に関しては、陸域環境保全コースまたは水域環境保全コースの科目を一通り履修することが推奨されます。関心領域や卒業後の進路をよく考えてコースを選択してください（他コースの推奨科目も履修できます）。

### <学部共通基礎科目>

太字…必修科目, 細字…選択科目

	学年	学期			
<学部共通基礎>	1	前	<b>環境科学概論 I</b>	<b>環境フィールドワーク I</b>	基礎数学 I
		後	<b>環境科学概論 II</b>	基礎数学 II	
	2	前	<b>環境フィールドワーク II</b>		
		3	前・後	<b>環境フィールドワーク III</b>	

### <複数学科共通科目および学科専門科目>

	学年	学期			
<学科基礎>	1	前	<b>環境化学 I</b>	環境生物学実験	環境数学 I・演習
		後	<b>環境物理学 I</b>	<b>環境生物学 I</b>	<b>琵琶湖環境学</b>
	2	前	<b>環境変遷学</b>	<b>環境生態学基礎演習</b>	環境化学実験
			環境数学 II・演習		
		後	<b>地球科学 I</b>	地球科学 II	環境物理学実験
		前	地球科学実験		
3	前	環境生物学 II	環境化学 II		
	後	<b>科学英語 I</b>	環境物理学 II		
			陸域環境保全コース 推奨科目	両コース共通	水域環境保全コース 推奨科目
<構造科学>	2	前 後	森林環境学 大気環境学	環境地下水学 集水域環境学	海洋環境学 湖沼環境学
<機能科学>	3	前	環境疫学	環境汚染システム論 地球環境化学	微生物機能論
	3	後	陸域物質循環論		環境毒性学
<保全修復科学>	3	前 後	理論生態学 陸域生態系保全修復論	環境リスク解析法 集水域生態系保全修復論	環境微生物学 水域生態系保全修復論
<解析科学>	2	前 後	<b>環境統計解析学</b>	<b>集水域環境学・同実験</b>	
	3	前	<b>環境解析学・同実験</b>		
<野外科学>	1	前	環境学野外実習 I	<b>水域環境学・同実験</b>	
	2	前	環境学野外実習 II		
	3	前	環境学野外実習 III		
<卒業研究>	3	後	環境生態学特別実習	<b>卒業研究 I</b>	
	4	前	環境生態学演習 I		
	4	後	環境生態学演習 II		<b>卒業研究 II</b>

## 4. 環境社会システム学科専門科目の履修について

### (1) 環境社会システム学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

#### ■教育目標

環境社会システム学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標にカリキュラムが組まれています。環境政策や環境計画は、さまざまなプロジェクトの設計、イベントの計画、ビジネスの構築、行政計画において必要となる、環境を配慮した目標達成のための人間および社会を対象とした政策や計画です。したがって、環境政策や環境計画を学ぶために、人間行動や社会システムに関する科目群と環境および環境と人間活動の相互作用に関する科目群および環境フィールドワークの延長としての実習、演習系の科目群が配置されています。これらの科目群を学んだ後に、フィールドワークを踏まえた卒業研究を通して政策や計画の理論と技法を身につけることができるようにカリキュラムが編成されています。

#### ■学位授与方針

環境社会システム学科は、卒業時点において学生が身に付けるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境社会システム学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 環境政策と環境計画についての知識を習得し理解する。(知識・理解)
  - ・環境を配慮した政策や計画について学ぶ。
  - ・環境問題と関連する人間行動や社会システムについて理解する。
  - ・環境および環境と人間活動の相互作用についての知識を習得する。
  - ・環境政策と環境計画の理解に必要な知識を学ぶ。
- B. 環境問題に対して思考・判断する能力を獲得する。(思考・判断)
  - ・プロジェクトの設計やイベントの計画を通じて環境問題について考える。
  - ・ビジネスの構築や行政計画から環境問題の解決策を検討する。
  - ・環境を配慮した政策や計画の目標を達成するための思考能力と判断力を身に付ける。
- C. 地域環境問題や地球環境問題についての興味や関心を養成する。(興味・関心)
  - ・環境フィールドワークによる現場での体験から学ぶ。
  - ・環境政策や環境計画の実態について調べる。
  - ・環境問題と人間や社会とのかかわりについて興味を持つ。
  - ・環境問題が発生してきた地域に関心を持つ。
- D. 環境を配慮した社会の実現につながる技能や技術を習得する。(技能・技術)
  - ・政策や計画を作成するための技法を習得する。
  - ・環境を配慮した政策や計画を導入するために支援となるような技法を学ぶ。
  - ・環境問題の解決につながる研究を論文の作成と口頭による発表によって、わかりやすく伝える技術を身に付ける。
- E. 環境政策や環境計画に携わるための態度を養成する。(意欲・態度)
  - ・環境問題に関連するイベントや会議に主体的に参加することができる。
  - ・環境政策や環境計画に従事している人にインタビューをすることができる。
  - ・自分から環境問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる。
- F. 地域の課題と専門分野との関わりが理解できる。(知識・理解)
- G. 地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる。(技術・技能) (思考・判断) (興味・関心)

## ■教育課程の編成・実施方針

環境社会システム学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標に、環境政策や環境計画に関する科目を習得するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて編成しています。

### A. 基礎・理論系科目

政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶ。

### B. 基礎・技法系科目

フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から、計画演習といった環境問題にかかわる政策・計画を行う基礎的な技法を学ぶ。

### C. 発展・技法系科目

政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶ。

### D. 発展・理論系科目

政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶ。

### E. 選択科目

政策立案・計画策定にかかわる多様な領域の考え方を学ぶ。

## (2) 環境社会システム学科専門科目履修上の注意

環境社会システム学科科目配当表を参照しながらこの説明を読んでください。

当学科で学士（環境科学）の学位授与の資格を得るためには、所定の科目の単位を修得しなければなりません。科目配当表に示すように、全科目は、基礎・理論系と基礎・技法系、発展・技法系、発展・理論系といったグループから構成されています。前のページに示した全学共通科目に加えて、環境社会システム学科科目配当表にリストしてある学科必修科目のグループから全科目（39 単位）、学科選択必修科目Aのグループから15 単位以上、学科選択必修科目のBグループから20 単位以上を必ず選択しなければなりません。残りの単位は選択必修A、選択必修B、選択科目のグループから選択することになります。科目群構成を参考にして系統的な履修を心がけてください。

この配当表に記載のない科目（他学部他学科の科目）を選択してもよいですが、この場合15 単位に限り、学士（環境科学）の学位授与資格に必要な専門科目に組み入れることができます。

### ・学科選択科目のグループの概要

基礎・理論系科目：政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶための科目群です。

基礎・技法系科目：フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から、計画演習といった環境問題に関わる政策・計画をおこなう技法を学ぶための科目群です。

発展・技法系科目：政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶための科目群です。

発展・理論系科目：政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶための科目群です。

選択科目：政策立案・計画策定に関わる多様な領域の考え方を学ぶための科目群です。

### ・選択に際しての留意事項

- ① 高学年に配当されている科目を低学年のうちに履修したいときは、事前に担当教員の許可が必要です。
- ② 学科科目配当表の選択科目のグループにリストされていても、実験演習科目の場合は、履修に先立ち担当教員の許可が必要です。配当表にリストされていない他学部他学科の実験演習科目の場合もこれと同じです。
- ③ 学年担任、あるいは人間探求学（月曜日2時限）の教員のアドバイスを受けて、履修科目を決定することが望まれます。

科目名	DP-A. 知識・理解	DP-B. 思考・判断	DP-C. 興味・関心	DP-D. 技術・技術	DP-E. 態度	DP-F. 知識・理解	DP-G. 技術・技術・思考・判断・興味・関心
環境FWⅠ	◎	◎	◎		◎	◎	◎
環境FWⅡ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
環境FWⅢ		◎		◎	◎	◎	◎
環境科学概論Ⅰ	◎		◎				
環境科学概論Ⅱ	◎		◎				
基礎数学Ⅰ		◎					
基礎数学Ⅱ		◎					
環境経済学入門	B	B		B			
地域調査法	◎	◎		◎			
びわこ環境行政論	A	A	A				
環境生物学Ⅰ	◎						
環境物理学Ⅰ	◎						
経済学Ⅰ	B	B		B			
環境水文学		◎					
地球科学Ⅰ	◎						
環境法	B	B					
経済学Ⅱ(国際経済を含む)	B	B		B			
社会学		B		B			
森林環境学	◎						
政治学Ⅰ		◎					
地域開発論	B	B	B				
地域環境政策論	B		B				
法学概論(国際法を含む)		◎					
環境経営学	A		A				
環境計画学	◎		◎				
環境経済学	B	B	B	B			
環境財政	B	B	B	B			
環境政策学	◎	◎					
景観計画		◎					
政治学Ⅱ(国際政治を含む)		◎					
水環境政策論	B	B					
環境アセスメント	A	A	A				
環境会計	B	B	B	B			
環境化学Ⅰ	◎						
環境監査	A	A		A			
環境公正論	B	B					
サステイナブルデザイン論		◎					
資源経済学	B		B				
環境シミュレーション		A		A			
動物生態学	◎						
基礎統計		◎					
市民参加論	B		B				
地域システム論	B	B	B			B	B
応用数学		◎					
環境経済分析の基礎	A	A		A			
環境社会学	B		B				
地域調査法演習	◎	◎		◎		◎	◎
ファシリテーション技法・演習		A		A			A
応用統計学Ⅰ	◎	◎		◎			
環境情報	A	A					
環境心理学	B	A		B		B	B
応用統計学Ⅱ	◎	◎		◎			
合意形成支援技法・演習		A		A			
地理情報システム論	A	A		A			
社会システム分析設計・演習	A	A		A			
環境マネジメント論		A		A			
社会調査実習		A		A	A		
廃棄物管理論	B			B			
エネルギー変換工学	◎						
政策形成・施設演習	◎	◎	◎		◎		
海外環境政策演習	A	A	A				
環境社会システム基礎演習Ⅰ		◎	◎	◎	◎		
環境社会システム基礎演習Ⅱ		◎	◎	◎	◎		
環境社会システム演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎		
環境社会システム演習Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎		
環境社会システム演習Ⅲ	◎	◎	◎	◎	◎		
環境社会システム演習Ⅳ	◎	◎	◎	◎	◎		
卒業研究Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎		
卒業研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎		

◎=必修、○=選択、A=選択必修A、B=選択必修B



### (3) 環境社会システム学科卒業要件

[2026 (令和8) 年度入学生用]

<b>1 全学共通科目 (計 30 単位以上) 必修 18 単位、選択必修 12 単位以上</b>	
① 共通基礎科目	18 単位以上
第一外国語 ※ 英語 (IA~IVB)	8 単位(必修)
第二外国語 ※ ドイツ語 (IA~IIB)、フランス語 (IA~IIB)、中国語 (IA~IIB)、朝鮮語 (IA~IIB) のうちから 4 単位以上 (選択必修)	
	ただし、「第二外国語 IIA・IIB は「実用英語演習 IA・IB」で代替可
	※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理	情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4 単位 (必修)
保健体育	健康・体力科学 I・II 2 単位 (必修)
② 人間学	8 単位以上 (「人間探求学」2 単位は必修)
③ 地域基礎	4 単位以上 (「地域共生論」2 単位は必修)
<b>2 専門科目 (計 100 単位以上) 必修 39 単位、選択必修 35 単位以上、選択 26 単位以上</b>	
① 必修	年次別配当表に指定する科目 39 単位
② 選択必修	年次別配当表の A グループから 15 単位以上、B グループから 20 単位以上、合計 35 単位以上 (超過分は「③選択」に参入できる)
③ 選択	科目配当表に指定する科目から 26 単位以上 ただし、全学共通科目で 30 単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、15 単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。(学則第 38 条)
合計	130 単位以上

注意) 入学時の履修の手引は、卒業するまで保管しておくこと。履修の手引は大学と学生との間の契約書のようなものです。履修の手引は毎年改訂されますが、入学時の履修の手引に記載されていたことが適用されます。

#### 【卒業研究履修要件】

全学共通科目：26 単位以上

全学共通基礎科目 18 単位以上 (卒業要件に示す必修 18 単位を含む)

人間学 6 単位以上

地域基礎 2 単位以上

専門科目：84 単位以上

専門必修科目 31 単位以上

選択必修科目 35 単位以上 (科目配当表の「選択必修 A」から 15 単位以上、  
「選択必修 B」から 20 単位以上)

専門選択科目\* 18 単位以上

\*認定される科目とされない科目があるので十分留意すること。

#### 【卒業研究審査】

1 卒業研究 (卒業論文) は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的の明確性や新規 (独創) 性
- (2) 論文の論理展開の明快さ
- (3) 目的達成のための調査量
- (4) 結論としての知見の社会的あるいは学術的な有用性
- (5) 十分な分析と考察
- (6) 論文の完成度
- (7) プレゼンテーション技法と質疑応答能力

2 卒業研究 (卒業論文) は、審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 1 および 2 に基づき審査し、その後の修正を経た最終提出をもって合否を決定する。

## (4) 環境社会システム学科年次別配当表 (2026 (令和8) 年度入学生)

科目名	担当教員	単位	1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後	備考
2 専門科目							
2.1 学部共通基礎科目							
環境フィールドワークⅠ		3	○				必修
環境フィールドワークⅡ		3		○			必修
環境フィールドワークⅢ		3			○ ○		選択
環境科学概論Ⅰ		2	○				必修
環境科学概論Ⅱ		2	○				必修
基礎数学Ⅰ		2	○				選択
基礎数学Ⅱ		2	○				選択
2.2 複数学科共通科目							
環境経済学入門		2	○				選択必修B
地域調査法		2	○				必修
環境物理学Ⅰ		2	○				選択
経済学Ⅰ		2	○				選択必修B
環境水文学		2		○			選択
地球科学Ⅰ		2		○			選択
経済学Ⅱ(国際経済を含む)		2		○			選択必修B
社会学		2		○			選択必修B
地域開発論		2			○		選択必修B
地域環境政策論		2		○			選択必修B
水環境政策論		2			○		選択必修B
環境経営学		2		○			選択必修A
環境計画学		2		○			必修
環境経済学		2		○			選択必修B
環境財政		2			○		選択必修B
環境政策学		2		○			必修
景観計画		2		○			選択
環境法		2			○		選択必修B
環境アセスメント		2			○		選択必修A
環境会計		2			○		選択必修B
環境監査		2			○		選択必修A
環境公正論		2			○		選択必修B
サステイナブルデザイン論		2			○		選択
資源経済学		2			○		選択必修B
環境シミュレーション		2		○			選択必修A
2.3 学科専門科目							
環境生物学Ⅰ		2	○				選択
森林環境学		2		○			選択
法学概論(国際法を含む)		2		○			選択
政治学Ⅰ		2			○		選択
政治学Ⅱ(国際政治を含む)		2			○		選択
環境化学Ⅰ		2			○		選択
動物生態学		2			○		選択
基礎統計		2	○				必修
市民参加論		2		○			選択必修B
地域システム論		2	○				選択必修B
応用数学		2	○				必修
びわこ環境行政論		2	○				選択必修A
環境経済分析の基礎		2	○				選択必修A
環境社会学		2	○				選択必修B
地域調査法演習		1	○				必修
ファンリレーション技法・演習		3	○				選択必修A

科目名	単位	1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後	備考	
応用統計学Ⅰ	2		○			必修	
環境情報	2			○		選択必修A	
環境心理学	2		○			選択必修B	
応用統計学Ⅱ	2		○			必修	
合意形成支援技法・演習	3		○			選択必修A	
地理情報システム論	2			○		選択必修A	
社会システム分析設計・演習	3		○			選択必修A	
環境マネジメント論	2			○		選択必修A	
社会調査実習	1			○	○	選択必修A	
廃棄物管理論	2			○		選択必修B	
エネルギー変換工学	2				○	選択	
海外環境政策演習	2				○	選択必修A	
政策形成・施設演習	2	○				必修	
環境社会システム基礎演習Ⅰ	1		○			必修	
環境社会システム基礎演習Ⅱ	1		○			必修	
環境社会システム演習Ⅰ	1			○		必修	
環境社会システム演習Ⅱ	1				○	必修	
環境社会システム演習Ⅲ	1				○	○	必修
環境社会システム演習Ⅳ	1				○	○	必修
卒業研究Ⅰ	3				○	○	必修
卒業研究Ⅱ	3				○	○	必修

環境社会システム学科 2026 (令和8) 年度科目配当表

学年/学期	全学共通基礎	人間学・地域基礎	基礎・理論系(必修)	基礎・技法系(必修)	基礎・技法系(選択必修)	発展・理論系(選択必修)	発展・理論系(選択必修B)	選択科目	
前期	1	人間探求学	2	環境フィールドワークI	3	地域システム論	2	基礎数学I	
	1	地域共生論	2	地域調査法	2	環境経済学入門	2		
1年	2								
	1		環境科学概論II	2	政策形成・施設演習	2	ファンクショナル技法・演習	3	環境社会学
	1		応用数学	2	ひびこ環境行政論	2	環境社会学I	2	基礎数学II
	1		基礎統計	2	環境経済分析の基礎	2	経済学I	2	環境生物学I
	1		健康・体育科学I						環境物理学I
2		健康・体育科学II							
2年	1		応用統計学I	2	環境フィールドワークII	3	環境社会学II(国際経済を含む)	2	地球科学I
	1		環境社会学II	2	環境社会学システム基礎演習I	1	環境社会学II(国際経済を含む)	2	森林環境学
前期	1		環境社会学II	2	環境社会学システム基礎演習I	1	社会学	2	環境水文学
	1		環境政策学	2	環境社会学システム基礎演習II	1	社会学	2	環境水文学
後期	1		環境計画学	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	法学概論(国際法を含む)
	1		環境計画学	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	法学概論(国際法を含む)
3年	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
前期	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
後期	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
4年	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
	1		環境社会学II	2	環境社会学II	2	環境社会学II(国際経済を含む)	2	環境社会学II(国際経済を含む)
合計/単位	20	4	16	23	このうちから15単位以上選択	30	このうちから20単位以上選択	36	
	卒業要件単位	18	12	39	15	36	20	61	
全学共通基礎科目				必修単位合計		選択必修B		選択科目	
18				39		15		20	

ただし、全学共通科目で30単位を超えた分の科目および他学部・他学科の開講科目については、15単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位の単位に算入することができる。

## 5. 環境建築デザイン学科専門科目の履修について

### (1) 環境建築デザイン学科の学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

#### ■教育目標

本学科は、我が国で初めて創設された環境科学部に属する建築学科です。従来の工学的建築の枠組み、専門性を超えて、自然と人間・社会の相互の関係性、連続性、人間の生活に根ざした視点に価値をおく環境科学的枠組みが必要であるという共通の認識のもと、建築や地域・都市を深く探求し、創造的な提案をしていく専門的な能力を個々に養いつつ、それらの総合化を目指しています。そのプロフェッションをキーワードで示せば、「循環」「再生」「持続」「長寿命」「省エネ」「景観」「融合」「調整」「生態」などがあげられます。強い意志で環境問題を理解し、環境倫理を持つ建築の学生を輩出するのが本学科の目標です。

#### ■学位授与方針

環境建築デザイン学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境建築デザイン学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につけること（知識・理解）（興味・関心）
  - A-1. 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、興味に応じて多面的に学習し、大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見いだしていく能力を身につけること（知識・理解）
  - A-2. 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につけること（知識・理解）
- B. 技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し、技術者・デザイナーとしての責任感と倫理観を身につけること（知識・理解）（興味・関心）
- C. 力学、数学、フィールドワーク、情報処理技術、および環境建築デザイン分野の全般に関わる基礎的な知識と技法を身につけること（知識・理解）（技能・技術）
- D. 環境建築デザインの各分野の専門的な知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識と技法を身につけるとともに、それらを応用して与えられた課題を整理・探究する能力を身につけること（知識・理解）（思考・判断）
- E. 環境建築デザイン分野の様々なデザイン技法を習得し、さらにそれらを基礎として演習・実習を通じて高度な設計・デザイン技能を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
  - E-1. 環境建築デザインの幅広い課題に関する演習を通じて、課題の分析・解決・提案、及びそれらをデザインに表現する能力を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
  - E-2. 環境建築デザインの幅広い課題に関する実習を通じて、地域の課題を理解し、解決するための技術と技能を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
- F. 自分の論点や考えを制作や論文を用いて、わかり易く論理的に表現する能力とともに、それを口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う能力を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
- G. 環境の一部としての建築を計画・設計するという意識をもち、建築プロフェッションとしての明確な目的意識をもち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につけること（技能・技術）（興味・関心）

#### ■教育課程の編成・実施方針

環境建築デザイン学科は、環境と調和し持続発展可能な社会の建設に資する建築・環境デザイナーを養成するという目的のために、必要な分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリに分けてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

#### <全学共通基礎科目>

- A. 人間と環境や社会について広く理解し、環境科学の基礎的な知見を身につけるための、人間学に関する科目
- B. 学士としての基本的な能力を身につけるための語学、健康・体力科学、情報科学・情報処理に関する科目

#### <学部共通基礎科目>

- C. 環境建築デザインの基礎となる環境科学の基礎的な知識と調査・分析手法について学ぶ科目
- D. 環境建築デザインに関わる主題や論点についてその背景と課題について学ぶ科目

#### <専門基礎科目>

- E. 環境建築デザイン分野に共通する基礎的な知識と論理を習得し、デザインと表現の技法を身につける科目

<専門展開科目>

- F. 環境建築デザインの高度な知識と理論、技法を習得する科目  
計画、デザイン、歴史・理論、エンジニアリングの4つの分野の科目群を系統的に履修する

<演習・実習科目>

- G. 専門科目で修得した知見をもとに、環境建築デザインの幅広い課題の理解と分析、解決と提案を行う技術を実践を通じて習得する演習科目  
H. 専門科目で修得した知見を基に地域の課題を理解し解決するための技術と技能を習得する科目

<卒業研究・卒業設計>

- I. 上記の教育課程で修得した知見と技術を応用し、研究テーマに関して卒業論文または卒業設計としてまとめる

(2) 環境建築デザイン学科科目履修上の注意

- ① 専門科目は (I) 環境科学部全体の共通科目 (II) 複数の学科間での共通科目 (III) 各学科の学生を対象とする科目——の3群から構成されます。複数学科共通科目として挙げている科目は、人間・社会環境を積極的に形成する上で基本となる価値観と方法論を講述します。学科によって必修・選択・選択必修の区分が異なるので注意してください。環境建築デザイン学科の専門科目は、さらにその内容から、(a) デザイン系 (b) 歴史・理論系 (c) 計画系 (d) 技術系の4分野に大別されます。

(a) デザイン系

建築、ランドスケープ、都市は人の手によっていかようにもデザインすることができる。人と、生活、もの、生態、自然、社会、歴史など相互の様々な関係性を相対的な環境という視座で形にしていけることがデザインである。その関係性を解き明かし、実践するための意匠論、手法論、造形論、職能論などを学ぶ。

(b) 歴史・理論系

建築とそれを取巻く環境を成立させる理論的根拠を包括的に学ぶと同時に、今日の建築がいかなる社会的、さらには時代的背景をもって生産されているか探究する。また、これまでどのような建築・環境が生まれ出され、どのような変遷をたどってきたのか、日本・西洋の建築の歴史を通して学ぶ。

(c) 計画系

環境と共生する持続可能な社会の構築をめざし、都市・農村・自然地域における空間の構造と、その計画論について探究する。これからの建築・ランドスケープ・都市を創造するため、住居をはじめとする居住空間、都市・集落の生活空間と地域環境、景観の保全・活用、定住環境と持続・再生、計画制度とまちづくり等に着目した空間論・計画論を学ぶ。

(d) 技術系

建築物の設計は、美しさ、快適性とともにも安全性、環境性に配慮する必要がある。技術系の科目は、力の流れを理解し、いかに骨組みを構成するかを学ぶ構造計画、構造力学、構造材料実験および私たちの生活に不可欠な光・音・熱についての基礎技術を学ぶ環境工学などの講義、実験、演習で構成される。

- ② 上記4つの科目群は最終的には扱う対象をそれぞれ異にし、また対応する社会的職能も分かれますので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨が求められることになります。総合的な能力を得るためにも、幅広く履修することを勧めます。

- ③ 各科目群に関連した科目が他学科・他学部の科目の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧めます。別表に履修することが望ましい他学科・他学部の科目の主要なものを例示してあります。

他学科・他学部の科目（所定の必要単位を超える人間学科目と外国語科目を含む。）履修のうち10単位までは科目にかかわらず、卒業単位として認定されます。

なお、他学科・他学部開講の実験・実習科目の履修を希望する者は、履修登録に先立って科目担当教員の了解を得る必要があります。

- ④ 卒業研究・卒業制作については、原則、Ⅰを履修した後でないⅡは登録できません。卒業研究・卒業制作Ⅰ、卒業研究・卒業制作Ⅱは、同一年度に連続して履修するのが基本であって、複数年度にわたって、もしくは期間をあけて履修するのは、留学、休学等特別の事情がある場合に限られます。

環境建築デザイン学科 カリキュラムマップ

環境科学部

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	学位授与方針に対する関与の程度										
					A1	A2	B	C	D	E1	E2	F	G		
学部共通基礎科目	環境フィールドワークⅠ	3	必修	1・前期				◎							
	環境フィールドワークⅡ	3	必修	2・前期				◎							
	環境フィールドワークⅢ	3	選択	3・前後				◎							
	環境科学概論Ⅰ	2	必修	1・前期			◎								
	環境科学概論Ⅱ	2	必修	1・後期			◎								
	基礎数学Ⅰ	2	選択	1・前期				◎							
基礎数学Ⅱ	2	選択	1・後期				◎								
複数学科共通科目	景観計画	2	選択	2・後期					◎						
	構造力学Ⅰ	2	必修	2・前期					◎						
	環境経済学入門	2	選択	1・前期											
	ランドスケープデザイン	2	選択	2・前期			◎								
	環境政策学	2	選択	2・後期			◎								
	サステナブルデザイン論	2	選択	3・前期				◎							
	環境監査	2	選択	3・前期			◎								
	環境アセスメント	2	選択	3・前期			◎								
	環境計画学	2	選択	3・後期			◎								
	環境公正論	2	選択	3・前期			◎							◎	
	環境財政	2	選択	3・前期			◎								
	文化財・保存修景論A	2	選択	4・前期				◎							
	環境・建築デザイン概論	2	必修	1・前期				◎							
	専門科目	建築一般構造	2	選択	1・前期			◎	◎						
イメージ表現法		2	必修	1・前期					◎				◎		
建築数学・物理		2	選択	1・後期			◎	◎						◎	
地域環境計画		2	選択	1・後期				◎							
CAD演習Ⅰ		2	必修	2・後期			◎								
設計基礎演習		2	必修	1・後期					◎				◎		
構造計画		2	必修	1・後期					◎						
CAD演習Ⅱ		2	選択	3・後期			◎			◎					
設計演習Ⅰ		3	必修	2・前期						◎				◎	
環境設計Ⅰ		2	選択	2・前期					◎						
西洋建築・思潮史		2	選択	2・前期					◎						
建築構造プログラミング		2	選択	3・後期				◎	◎						
環境造形論		2	選択	2・後期				◎	◎						
内部空間論		2	選択	2・後期					◎						
環境共生論		2	選択	3・後期				◎	◎						
建築環境工学		2	必修	2・後期					◎						
設計演習Ⅱ		3	必修	2・後期						◎				◎	
設計演習Ⅲ		3	必修	3・前期						◎				◎	
設計演習Ⅳ		1	選択	3・後期						◎				◎	
日本建築史		2	選択	3・前期					◎						
都市・地域計画		2	選択	3・前期					◎						
環境設計Ⅱ		2	選択	3・前期					◎						
構造力学Ⅱ		2	必修	2・後期					◎						
建築環境工学演習		2	選択	3・後期					◎						
建築生産施工		2	必修	3・前期					◎						
環境技術史		2	選択	3・後期					◎						
構造材料実験		2	必修	3・後期					◎						
アジア建築史		2	選択	3・後期					◎						
環境設備		2	必修	3・前期					◎						
環境機能論		2	選択	3・前期				◎		◎					◎
建築法規		2	必修	2・後期					◎						
環境建築デザイン演習		3	選択	3・後期						◎				◎	
木匠塾		2	選択	1,2,3,4・通年										◎	◎
地域産学連携実習Ⅰ		2	選択	1,2,3,4・前期										◎	
地域産学連携実習Ⅱ	2	選択	1,2,3,4・後期										◎		
卒業研究・卒業制作Ⅰ	3	必修	4・前期					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
卒業研究・卒業制作Ⅱ	3	必修	4・後期					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

学位授与 方針	卒業科目名									
	1年		2年		3年		4年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人間探求学	健康・体力科学 I	健康・体力科学 II							
	人間学科目									
A-2	第一外国語 I A	第一外国語 I B	第一外国語 II A	第一外国語 II B						
	第一外国語 II A	第一外国語 II B	第一外国語 III A	第一外国語 III B						
	第二外国語 I A	第二外国語 I B	第二外国語 II A	第二外国語 II B						
			実用英語演習 I A	実用英語演習 I B						
B	地域共生論				環境公正論	環境計画学				
	環境科学概論 I	環境科学概論 II			環境アセスメント					
	環境経済学入門			環境政策学	環境監査					
					環境財政					
C	環境フィールドワーク I		環境フィールドワーク II		環境フィールドワーク III					
	情報リテラシー	情報科学概論								
	基礎数学 I	基礎数学 II								
	環境建築デザイン概論	建築数学・物理			建築概論	建築構造プログラミング	環境共生論			
	建築一般構造			環境造形論	サステイナブルデザイン論					
				CAD演習 I		CAD演習 II				
D	建築一般構造	構造計画	構造力学 I	構造力学 II		構造材料実験				
		建築数学・物理				建築構造プログラミング	卒業研究・卒業制作 I	卒業研究・卒業制作 II		
				建築環境工学	建築設備	環境共生論				
		地域環境計画		建築法規	都市・地域計画	建築環境工学演習				
		環境設計 I			環境設計 II		文化財保存修養 A			
E				ランドスケープデザイン	景観計画	建築生産施工				
					内部空間論	サステイナブルデザイン論	卒業研究・卒業制作 I	卒業研究・卒業制作 II		
				西洋建築史	環境造形論					
					日本建築史	環境技術史				
						アジア建築史				
E-1	イメージ表現法	設計基礎演習	設計演習 I	CAD演習 I	設計演習 II	CAD演習 II				
						設計演習 III	設計演習 IV	卒業研究・卒業制作 I	卒業研究・卒業制作 II	
						環境概論	環境建築デザイン演習			
E-2										
F										
	イメージ表現法	設計基礎演習	設計演習 I	設計演習 II	設計演習 III	環境建築デザイン演習	設計演習 IV	卒業研究・卒業制作 I	卒業研究・卒業制作 II	
G										
	地域共生論					環境公正論		卒業研究・卒業制作 I	卒業研究・卒業制作 II	
						環境概論				

環境科学部

### (3) 環境建築デザイン学科卒業要件

[2026 (令和8) 年度入学生用]

---

1 全学共通科目 (計 30単位以上) 必修18単位、選択必修12単位以上

---

① 共通基礎科目 18単位以上

第一外国語※ 英語 (IA~IVB) 8単位(必修)

第二外国語※ ドイツ語 (IA~IIB)、フランス語 (IA~IIB)、中国語 (IA~IIB)、朝鮮語 (IA~IIB) のうちから4単位以上 (選択必修)  
ただし、「第二外国語IIA・IIBは「実用英語演習IA・IB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4単位

保健体育 健康・体力科学I・II 2単位

---

② 人間学 8単位以上 (「人間探求学」は必修)

地域基礎 4単位以上 (「地域共生論」は必修)

---

2 専門科目 (計 100単位以上) 必修49単位、選択51単位以上

---

① 必修 年次別配当表に指定する科目 49単位

② 選択 科目配当表に指定する科目から51単位以上

ただし、全学共通科目で30単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、10単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位数に算入することができる。(学則第38条)

---

合計 130単位以上

---

#### [卒業研究履修要件]

- 1 3年次終了までに、全学共通基礎科目を16単位以上(編入生に対しては14単位以上)取得していること。
- 2 3年次終了までに、専門科目の必修単位43単位の内41単位以上取得していること。
- 3 4年次に取得しなければならない単位数が「卒業研究・卒業制作I」「卒業研究・卒業制作II」以外に12単位以下であること。

上記1、2、3を全て満たしていなければならない。

この要件を満たしていない場合、「卒業研究・卒業制作I」「卒業研究・卒業制作II」の履修登録ができない。卒業見込証明書の発行も受けられない。

#### [卒業研究等審査基準]

- 1 卒業研究 (卒業論文・卒業制作) は、以下の評価項目によって審査する。
  - (1) 研究又は制作の目的とその妥当性
  - (2) テーマの新規性・学術性・社会性
  - (3) 方法的確信性・独創性
  - (4) 論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
  - (5) 論理構成及び結論 (表現) の妥当性なお、卒業制作は、以上に加えてプレゼンテーションの手法・技術・密度・完成度について評価する。
- 2 卒業研究 (卒業論文・卒業制作) は、発表会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
- 3 1および2による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

## (4) 環境建築デザイン学科年次別配当表

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前後	前後	前後	前後	
2 専門科目						
2.1 学部共通基礎科目						
環境フィールドワークⅠ	3	○				必修
環境フィールドワークⅡ	3		○			必修
環境フィールドワークⅢ	3			○	○	選択
環境科学概論Ⅰ	2	○				必修
環境科学概論Ⅱ	2	○				必修
基礎数学Ⅰ	2	○				選択
基礎数学Ⅱ	2	○				選択
2.2 複数学科共通科目						
景観計画	2		○			選択
構造力学Ⅰ	2		○			必修
環境経済学入門	2	○				選択
ランドスケープデザイン	2		○			選択
環境政策学	2		○			選択
サステナブルデザイン論	2			○		選択
環境監査	2			○		選択
環境アセスメント	2			○		選択
環境計画学	2				○	選択
環境公正論	2			○		選択
環境財政	2			○		選択
文化財・保存修景論A	2				○	選択
2.3 学科専門科目						
環境・建築デザイン概論	2	○				必修
建築一般構造	2	○				選択
イメージ表現法	2	○				必修
建築数学・物理	2	○				選択
地域環境計画	2	○				選択
CAD演習Ⅰ	2		○			必修
設計基礎演習	2	○				必修
構造計画	2	○				必修
CAD演習Ⅱ	2			○		選択
設計演習Ⅰ	3		○			必修
環境設計Ⅰ	2		○			選択
西洋建築・思潮史	2		○			選択
建築構造プログラミング	2			○		選択
環境造形論	2		○			選択
内部空間論	2		○			選択
環境共生論	2			○		選択
建築環境工学	2		○			必修
設計演習Ⅱ	3		○			必修
建築法規	2		○			必修
設計演習Ⅲ	3			○		必修
設計演習Ⅳ	1				○	選択
日本建築史	2			○		選択
都市・地域計画	2			○		選択
環境設計Ⅱ	2			○		選択

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前後	前後	前後	前後	
構造力学Ⅱ	2		○			必修
建築環境工学演習	2			○		選択
建築生産施工	2			○		必修
環境技術史	2			○		選択
構造材料実験	2			○		必修
アジア建築史	2			○		選択
環境設備	2			○		必修
環境職能論	2			○		選択
環境建築デザイン演習	3			○		選択
木匠塾	2	○	○	○	○	選択
地域産学連携実習Ⅰ	2	○	○	○	○	選択
地域産学連携実習Ⅱ	2	○	○	○	○	選択
卒業研究・卒業制作Ⅰ	3				○(○)	必修
卒業研究・卒業制作Ⅱ	3				(○)○	必修

環境建築デザイン学科推奨科目一覧表（他学部・他学科で開講される推奨科目）

- ① 以下の一覧表に示す他学部・他学科で開講される科目は、その内容が環境建築デザイン学科の専門科目を学ぶ上で、より理解を深めることができる本学科の「推奨科目」である。
- ② 推奨科目の履修にあたっては、卒業要件の参入条件について、学科卒業要件を読んで十分理解しておくこと。
- ③ 以下の表の履修年次は、本来開講されている他学部・他学科での履修年次であるので注意すること。

推奨科目名	単位	本来開講されている他学部・他学科での履修年次				開講学部・学科
		1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後	
比較住居論	2	○	○	○	○	人間学、生活デザイン・人間関係学科
人間行動論	2	○				生活栄養・人間関係学科
地域文化財論A※	2	○	○			地域文化学科
人間工学	2		○			生活デザイン学科
文化財情報論	2		○	○		地域文化学科
地域文化財論B	2	○	○			地域文化学科

※地域文化財論Aは隔年開講（奇数年度開講、偶数年度不開講）

デザインマインドを持った環境市民の創出

■環境建築デザイン学科カリキュラム

【専門科目の分類】 ■環境建築デザイン学科専門科目 ※学部共通基礎科目 ●複数学科共通科目	後期 ■環境建築デザイン学科専門科目 ■卒業研究・卒業制作Ⅱ 学科教員 4年後期 必修	4回生 ●文化財・保存学論A 4年前期 選択	■地域産学連携実習 I・II 1~4年前、後期 選択
	前期 ■卒業研究・卒業制作Ⅰ 学科教員 4年前期 必修	■建築構造プログラミング 3年後期 選択 ■構造材料実験 3年後期 必修 ■CAD演習Ⅱ 3年後期 選択 ■建築環境工学演習 3年後期 選択	■環境共生論 3年後期 選択 ■環境設備 3年前期 必修 ■建築生産施工 3年前期 必修 ■構造力学Ⅱ 2年後期 必修 ■建築環境工学 2年後期 必修 ●構造力学Ⅰ 2年前期 必修 ■構造計画 1年後期 必修 ■建築数学・物理 1年後期 選択
※環境FWⅢ 3年通年 選択	後期 ■環境職能論 3年前期 選択 ●サステイナブルデザイン論 3年前期 選択 ■環境設計Ⅱ 3年前期 選択	3回生 ■環境・建築デザイン演習 3年後期 選択 ■設計演習Ⅳ 3年後期 選択 ■設計演習Ⅲ 3年前期 必修 2回生 後期 ●設計演習Ⅱ 2年後期 必修 前期 ●ランドスケープデザイン 2年前期 選択 ■環境設計Ⅰ 2年前期 選択	■環境技術史 3年後期 選択 ■アジア建築史 3年後期 選択 ■日本建築史 3年前期 選択 ■内部空間論 2年後期 選択 ■環境造形論 2年後期 選択 ■西洋建築・思想史 2年前期 選択
※環境FWⅡ 2年前期 必修	後期 ●都市・地域計画 3年前期 選択 ●景観計画 2年後期 選択 ■建築法規 2年後期 必修 ■地域環境計画 1年後期 選択	1回生 後期 ■設計基礎演習 1年後期 必修 前期 ■イメージ表現法 1年前期 必修	■環境工学演習 1年後期 必修
※環境FWⅠ 1年前期 必修	■環境設計Ⅰ 2年前期 選択 ■建築一般構造 1年前期 選択	■環境・建築デザイン概論 学科教員 1年前期 必修	
環境ワークブック	計画 ■環境・建築デザイン概論 Design Exercise	設計演習 History/ Theory / 講義科目 Design Exercise	技術 Engineering

## 6. 生物資源管理学科専門科目の履修について

### (1) 生物資源管理学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

#### ■教育目標

環境負荷の少ない持続可能な社会を形成するために、生物機能の開発・利用、および新しい生物生産技術と生物資源管理技術の必要性が叫ばれています。生物資源管理学科では、このような社会からの期待に応える意志と能力を有する人材を育成しています。このため、学生諸君は幅広い分野を体系的に学びつつ、2回生後期からは「生物機能利用コース」と「環境農学コース」に分かれ、専門分野の知識・技術を修得します。また、フィールドワークなど現場に密着した学習から、実験室内の最先端の分析・研究技術まで一貫した教育体制により、社会で活躍できる実力と実践力を身に付けます。

#### ■学位授与方針

生物資源管理学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を取得した上で、生物資源管理学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 人間と自然・社会の関係について多面的に理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につける。（知識・理解）
  - A-1. 幅広い教養を習得し、環境問題を解決するための基礎的能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および文章表現能力を身につける。（知識・理解）
  - A-2. 外国語によるコミュニケーション能力および異文化を理解する能力を身につける。（知識・理解）
- B. 生物資源管理学の基礎となる知識と技術を身につける。（知識・理解）
- C. 生物資源管理学に関連する幅広い専門知識を身につける。（知識・理解）
- D. 生物資源管理学の幅広い分野について俯瞰した上で、自ら選択した個別分野について深く理解し、応用できる能力を身につける。（知識・理解）（技能・技術）
  - D-1. 各専門分野における専門知識を体系的に身につけ、自ら選択した個別分野について、高度な専門知識と応用力を身につける。（知識・理解）
  - D-2. 地域課題と専門分野の関係性についての知識を身につける。（知識・理解）
  - D-3. 実験・実習を通じて、実践的な専門技術、結果の解析能力、論理的思考力およびレポート作成能力を身につける。（技能・技術）
- E. 地域課題の解決に向けて、生物資源管理学の専門知識を応用する能力を身につける。（技能・技術）（思考・判断）（興味・関心）
- F. 生物資源管理学に関係する諸問題を、自らの専門性に基づいて発見し、問題解決に向けて主体的・協同的に行動できる能力を身につける。（思考・判断）（興味・関心）
- G. 専門分野の調査研究結果を他者に分かりやすく発表し、論理的にディスカッションできる能力、および科学論文の作成能力を身につける。（技能・技術）

#### ■教育課程の編成・実施方針

生物資源管理学科では「生物資源と環境に関わる幅広い視野と知識を持ち、生物資源の管理と活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成する」という目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

- A. 人間性・倫理観形成科目（教養・言語科目）
  - 人間と自然・社会の関係について多面的に理解することで、豊かな人間性と倫理観を養成する。
  - A-1. 教養形成科目：幅広い教養を習得し、環境問題を解決するための基礎的能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および文章表現能力を養成する。
  - A-2. 言語教育科目：外国語によるコミュニケーション能力および異文化を理解する能力を養成する。
- B. 生物資源管理学基礎科目  
生物資源管理学の基礎となる知識と技術を養成する。
- C. 生物資源管理学関連科目  
生物資源管理学に関連する幅広い専門知識を養成する。
- D. 生物資源管理学科目  
生物資源管理学の幅広い分野について俯瞰した上で、自ら選択した個別分野について深く理解し、応用できる能力を養成する。

- D-1. 生物資源管理学専門科目  
各専門分野における専門知識を体系的に身につけ、自ら選択した個別分野について、高度な専門知識と応用力を養成する。
- D-2. 生物資源管理学地域志向専門科目  
地域課題と専門分野の関係性についての知識を養成する。
- D-3. 生物資源管理学実験・実習科目  
実験・実習を通じて、実践的な専門技術、結果の解析能力、論理的思考力およびレポート作成能力を養成する。
- E. 生物資源管理学地域志向応用科目  
地域課題の解決に向けて、生物資源管理学の専門知識を応用する能力を養成する。
- F. 生物資源管理学応用・展開科目(1)  
生物資源管理学に関係する諸問題を、自らの専門性に基づいて発見し、問題解決に向けて主体的・協同的に行動できる能力を養成する。
- G. 生物資源管理学応用・展開科目(2)  
専門分野の調査研究結果を他者に分かりやすく発表し、論理的にディスカッションできる能力、および科学論文の作成能力を養成する。

## (2) 科目履修上の注意

- ① 専門科目は、(a) 環境科学部全体の学部共通基礎科目、(b) 複数学科共通科目、および(c) 学科専門科目から構成されています。資格関連科目については、「資格取得等の手引」の項を見てください。
- ② 複数学科共通科目と学科専門科目の履修にあたっては、卒業後の進路をよく考えて、学科が提供する履修コースの選択を踏まえたうえで、体系的に講義科目を履修することが望まれます。詳しくは学科のオリエンテーションで説明します。
- ③ 生物資源統計学Ⅰ、生物資源統計学Ⅱ、生物資源管理学実験・実習Ⅰ～Ⅺおよび環境フィールドワークⅢは選択必修科目で、計13科目(27単位)から8科目(16単位)以上を履修してください。生物資源管理学実験・実習Ⅰ～ⅩⅠの実習分野は以下のとおりです。
- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 植物栽培分野          |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 植物生化学・遺伝・組織培養分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 動物資源管理分野        |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 微生物・菌類分野        |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 遺伝子工学分野         |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 作物保護分野          |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅶ | 土壌・水質分析分野       |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 土壌物理・気象分野       |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | 測量実習            |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅹ | 経営・経済分野         |
- ④ 4年次における卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、学科教員の各研究室に所属して行うことになります。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、同一の教員の指導を受けるのを常とします。さらに、研究内容によっては、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修時期に制約を受ける場合があります。  
なお、3年次までに単位履修が不十分な場合、4年次において卒業研究Ⅰ・Ⅱと生物資源管理学演習Ⅰ・Ⅱを履修できないことがあります。
- ⑤ 他学科開講の実験・実習の履修を希望する者は、科目担当教員の了解を事前に得なければなりません。
- ⑥ 次年度以降、科目名が改訂・変更される場合があります。新科目名：旧科目名の読み替え表(対応表)は4月上旬の学科オリエンテーションで配布します。また、時間割表には新科目名と旧科目名の両方が表記されます。

生物資源管理学科 カリキュラムツリー

学習・教育目標	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	環境7-44*7-ク1 環境科学概論Ⅰ 人間探求学	環境科学概論Ⅱ 健康・体力科学Ⅰ	環境7-44*7-クⅡ 健康・体力科学Ⅱ		環境7-44*7-クⅢ			
A-2	第一外国語ⅠA※1 第一外国語ⅡA※1 第二外国語ⅠA※2	第一外国語ⅠB※1 第一外国語ⅡB※1 第二外国語ⅠB※2	第一外国語ⅢA※1 第一外国語ⅣA※1 第二外国語ⅡA※2 実用英語演習ⅠA	第一外国語ⅢB※1 第一外国語ⅣB※1 第二外国語ⅡB※2 実用英語演習ⅠB	人間学科目			
B	環境化学Ⅰ 環境物理学Ⅰ 環境生物学実験 基礎数学Ⅰ 環境数学Ⅰ・演習	環境生物学Ⅰ 環境化学実験 基礎数学Ⅱ 環境数学Ⅱ・演習	地球科学Ⅰ 環境物理学実験 地球科学実験	環境生物学Ⅱ 環境解科学・向実 験	環境化学Ⅱ			
C	環境経済学入門 地域調査法	経済学Ⅰ	環境地下水学 森林環境学 環境統計解析学 ランドスケープデザイン 構造力学Ⅰ 経済学Ⅱ 地域開発論 社会学	湖沼環境学 景観計画 環境経済学 環境経営学 環境財政 環境政策学	環境微生物学 理論生態学 地球環境化学 環境汚染のリスク論 環境疫学 資源経済学 環境会計 環境監査 環境アセスメント 環境法 水環境政策論	集水域生態系保全特修論 陸域生態系保全特修論 環境シミュレーション		
D-1	生物資源管理科学概論	生物資源統計学Ⅰ 分子生物学 植物生産学	生物資源統計学Ⅱ 地域資源管理科学 農業経済学 環境水文学 水質管理学 土壌環境物理学 土壌環境化学 家畜生産学 動物生物学 水産資源学 植物栄養学 環境植物生理学 作物学 園芸学 遺伝学	生物資源統計学Ⅱ 地域資源管理科学 農業経済学 水資源利用学 地域情報処理学 測量学 水理学 家畜生産環境学 昆虫管理学 魚類学 植物栄養学 環境植物生理学 作物学 園芸学 遺伝学 作物保護学	専門外書講読Ⅰ 専門外書講読Ⅱ 水資源保全学 流域環境管理科学 土壌環境情報学 水利環境施設学 農業環境学 動物資源管理科学 環境動物学 養魚科学 植物資源開発学 微生物工学			
D-2	地域共生論 地域基礎科目 地域調査法	地域開発論	地域情報処理学 地域資源管理科学					
D-3		生物資源管理科学実験・実習Ⅲ 生物資源管理科学実験・実習Ⅳ	生物資源管理科学実験・実習Ⅴ 生物資源管理科学実験・実習Ⅵ	生物資源管理科学実験・実習Ⅶ 生物資源管理科学実験・実習Ⅷ	生物資源管理科学実験・実習Ⅸ 生物資源管理科学実験・実習Ⅹ	生物資源管理科学実験・実習Ⅺ 生物資源管理科学実験・実習Ⅻ	環境7-44*7-クⅢ	
E	環境7-44*7-ク1		環境7-44*7-クⅡ		環境7-44*7-クⅢ	卒業研究Ⅰ 生物資源管理科学 演習Ⅰ	卒業研究Ⅱ 生物資源管理科学 演習Ⅱ	
F, G						卒業研究Ⅰ 生物資源管理科学 演習Ⅰ	卒業研究Ⅱ 生物資源管理科学 演習Ⅱ	

※1 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、初習英語(留学生のみ)、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

環境科学部

(3) 生物資源管理学科卒業要件

[2026 (令和8) 年度入学生用]

1 全学共通科目 (計 30単位以上) 必修18単位、選択必修12単位以上

① 共通基礎科目 18単位以上

第一外国語※ 英語 (IA~IVB) 8単位(必修)

第二外国語※ ドイツ語 (IA~IIB)、フランス語 (IA~IIB)、中国語 (IA~IIB)、朝鮮語 (IA~IIB) のうちから4単位以上 (選択必修)

ただし、「第二外国語IIA・IIBは「実用英語演習IA・IB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4単位

保健体育 健康・体力科学 I・II 2単位

② 人間学 8単位以上 (「人間探求学」は必修)

③ 地域基礎 4単位以上 (「地域共生論」は必修)

2 専門科目 (計 100単位以上)

必修 年次別配当表に指定する11科目22単位

選択必修 年次別配当表に指定する選択必修13科目27単位から16単位以上

選択 年次別科目配当表に指定する選択科目、および選択必修科目のうち必修単位を超える単位数あわせて62単位以上

ただし、複数学科共通科目のうち生物資源管理学科が提供する科目 (年次別配当表に「選択・資源」と記入) と学科専門科目から32単位以上を履修しなければならない

なお、全学共通科目で30単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、10単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。(学則第38条)

合計 130単位以上

【卒業研究等履修要件】

	取得単位数	
	3年次前期終了時	3年次後期終了時
全学共通基礎科目	12	16
専門科目 (必修・選択必修)	18	26
専門科目 (選択)	46	50
うち学科提供科目	20	26
専門科目 (合計)	64	76

(4)生物資源管理学科年次別配当表

区分	授業科目名	単位数	必修・選択の別	学年・学期	学科のDPとの対応										
					A-1	A-2	B	C	D-1	D-2	D-3	E	F	G	
学部共通基礎科目	環境フィールドワークⅠ	3	必修	1・前期	◎								◎		
	環境フィールドワークⅡ	3	必修	2・前期	◎								◎		
	環境フィールドワークⅢ	3	選択必修	3・通年	◎								◎	◎	
	環境科学概論Ⅰ	2	必修	1・前期	◎										
	環境科学概論Ⅱ	2	必修	1・後期	◎										
	基礎数学Ⅰ	2	選択	1・前期			○								
基礎数学Ⅱ	2	選択	1・後期			○									
複数学科共通科目	環境数学Ⅰ・演習	3	選択	1・前期			○								
	環境数学Ⅱ・演習	3	選択	1・後期			○								
	環境物理学Ⅰ	2	選択	1・後期			○								
	地球科学Ⅰ	2	選択	2・前期			○								
	環境解析学・同実験	4	選択	2・後期			○								
	環境経済学入門	2	選択	1・前期				○							
	経済学Ⅰ	2	選択	1・後期				○							
	環境地下水学	2	選択	2・前期				○							
	経済学Ⅱ(国際経済を含む)	2	選択	2・前期				○							
	ランドスケープデザイン	2	選択	2・前期				○							
	社会学	2	選択	2・前期				○							
	環境統計解析学	2	選択	2・前期				○							
	構造力学Ⅰ	2	選択	2・前期				○							
	水環境政策論	2	選択	3・後期				○							
	環境財政	2	選択	2・前期				○							
	景観計画	2	選択	2・後期				○							
	湖沼環境学	2	選択	2・後期				○							
	環境経営学	2	選択	2・後期				○							
	環境経済学	2	選択	2・後期				○							
	環境政策学	2	選択	2・後期				○							
	資源経済学	2	選択	3・前期				○							
	環境法	2	選択	3・前期				○							
	環境会計	2	選択	3・前期				○							
	環境監査	2	選択	3・前期				○							
	環境アセスメント	2	選択	3・前期				○							
	地球環境化学	2	選択	3・前期				○							
	理論生態学	2	選択	3・前期				○							
	環境微生物学	2	選択	3・前期				○							
	集水域生態系保全修復論	2	選択	3・後期				○							
	陸域生態系保全修復論	2	選択	3・後期				○							
	環境シミュレーション	2	選択	3・後期				○							
	地域調査法	2	選択	1・前期				○		○					
	地域開発論	2	選択	2・後期				○		○					
環境水文学	2	選択・資源	2・前期					○							
土壌環境化学	2	選択・資源	2・前期					○							
測量学	2	選択・資源	2・後期					○							
農業環境学	2	選択・資源	3・前期					○							
学科専門科目	環境化学Ⅰ	2	選択	1・前期			○								
	環境化学Ⅱ	2	選択	3・前期			○								
	環境生物学Ⅰ	2	選択	1・後期			○								
	環境生物学Ⅱ	2	選択	2・後期			○								
	環境化学実験	2	選択	1・後期			○								
	環境生物学実験	2	選択	1・前期			○								
	地球科学実験	2	選択	2・前期			○								
	環境物理学実験	2	選択	2・前期			○								
	森林環境学	2	選択	2・前期				○							
	環境汚染システム論	2	選択	3・前期				○							
	環境疫学	2	選択	3・前期				○							
	生物資源管理学概論	2	必修	1・前期					◎						
	植物生産学	2	選択	1・後期					○						
分子生物学	2	選択	1・後期					○							

環境科学部

専門科目

区分	授業科目名	単位数	必修・選択の別	学年・学期	学科のDPとの対応															
					A   1	A   2	B	C	D   1	D   2	D   3	E	F	G						
学科専門科目 専門科目	生物資源統計学Ⅰ	2	選択必修	1・後期				○												
	生物資源統計学Ⅱ	2	選択必修	2・後期				○	○											
	遺伝学	2	選択	2・前期					○											
	水産資源学	2	選択	2・前期					○											
	家畜生産学	2	選択	2・前期					○											
	水質管理学	2	選択	2・前期					○											
	土壌環境物理学	2	選択	2・前期					○											
	動物生態学	2	選択	2・後期					○											
	環境植物生理学	2	選択	2・後期					○											
	作物保護学	2	選択	2・後期					○											
	農業経営学	2	選択	2・後期					○											
	農業経済学	2	選択	2・前期					○											
	植物遺伝資源学	2	選択	2・後期					○											
	水理学	2	選択	2・後期					○											
	園芸学	2	選択	2・後期					○											
	水資源利用学	2	選択	2・後期					○											
	養魚飼料学	2	選択	3・後期					○											
	植物栄養学	2	選択	2・後期					○											
	水利環境施設学(隔年開講:奇数)	2	選択	2,3・前期					○											
	土壌環境情報学(隔年開講:偶数)	2	選択	2,3・前期					○											
	害虫管理学	2	選択	3・前期					○											
	植物病害防除論	2	選択	3・前期					○											
	家畜生産環境学	2	選択	3・前期					○											
	動物資源管理学	2	選択	3・後期					○											
	専門外書講読Ⅰ	1	必修	3・前期				◎		◎										
	専門外書講読Ⅱ	1	必修	3・後期				◎		◎										
	流域環境管理学	2	選択	3・後期					○											
	微生物工学	2	選択	3・前期					○											
	植物資源開発学	2	選択	3・後期					○											
	魚類学	2	選択	3・前期					○											
	環境動物学	2	選択	3・後期					○											
	水資源保全学	2	選択	3・後期					○											
	作物学	2	選択	2,3・後期					○											
	地域情報処理学	2	選択	2・後期					○	○	○									
	地域資源管理学	2	選択	2・後期						○	○									
	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	2	選択必修	3・前期								○								
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	2	選択必修	3・後期									○							
	生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2	選択必修	2・前期									○							
	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	2	選択必修	3・後期										○						
	生物資源管理学実験・実習Ⅴ	2	選択必修	2・後期										○						
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	2	選択必修	3・前期											○						
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	2	選択必修	3・前期												○					
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	2	選択必修	3・前期													○				
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	2	選択必修	2・前期											○						
生物資源管理学実験・実習Ⅹ	2	選択必修	2・後期												○					
生物資源管理学実験・実習Ⅺ	2	選択必修	3・後期													○				
生物資源管理学演習Ⅰ	1	必修	4・前期														◎	◎	◎	
生物資源管理学演習Ⅱ	1	必修	4・後期															◎	◎	
卒業研究Ⅰ	3	必修	4・前期															◎	◎	
卒業研究Ⅱ	3	必修	4・後期																◎	

この配当表は2026年度入学生用です。2025年度以前の入学生は「入学年次の履修の手引」を参照してください。  
2026年度入学生は、この配当表にない「学科専門科目」を履修することはできません。

生物資源管理学科履修モデル

生物機能利用コースでは、生物機能を用いた物質生産や環境改善に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。

環境農学コースでは、生物資源の生産・循環、土壌・水資源の保全・活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。

科目区分	科目名(学年・学期)		望ましい取得単位数	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	4・前期 生物資源管理学科演習Ⅰ	4・前期	
	卒業研究Ⅱ	4・後期 生物資源管理学科演習Ⅱ		4・後期
	両コース共通		環境農学コース	
コース実験・実習	生物機能利用コース	生物資源管理学科実験・実習Ⅱ 3・後期 生物資源管理学科実験・実習Ⅳ 3・後期 生物資源管理学科実験・実習Ⅴ 2・後期	生物資源管理学科実験・実習Ⅵ 3・前期 生物資源管理学科実験・実習Ⅶ 3・前期 生物資源管理学科実験・実習Ⅹ 2・後期 生物資源管理学科実験・実習Ⅺ 3・後期	
	コース別に	生物資源管理学科実験・実習Ⅷ 2・前期 環境フィールドワークⅢ 3・通年	コース別に 5科目10単位以上	
	コース専門	植物遺伝資源学 2・後期 植物病害防除論 3・前期 微生物工学 3・前期 植物資源開発学 3・後期 養魚飼料学 3・後期	動物資源管理学科 3・後期 害虫管理学科 3・前期 作物学 2,3・後期	コース別に 6科目12単位以上
コース基礎	植物生産学 1・後期 遺伝学 2・前期 水質管理学 2・前期 測量学 2・後期 動物生態学 2・後期 地域資源管理学 2・後期	分子生物学 1・後期 家畜生産学 2・前期 土壌環境化学 2・前期 環境植物生理学 2・後期 農業経済学 2・前期 農業経営学 2・後期	生物資源統計学Ⅱ 2・後期 環境水文学 2・前期 作物保護学 2・後期 水資源利用学 2・後期	11科目22単位以上
	環境物理学実験 2・前期	環境化学実験 1・後期	地球科学実験 2・前期	2科目4単位以上
	環境物理学Ⅰ 1・後期	環境化学Ⅰ 1・前期	地球科学Ⅰ 1・後期	2科目4単位以上

## 4 工学部科目履修の手引

### 1. 工学部の学習・教育目標について

科学技術の進歩は、人類に豊かな生活とグローバルな物の流通と人の交流をもたらしたが、その反面、科学技術がもたらす地球環境問題が顕在化してきています。

工学部では、材料化学科、機械システム工学科、電子システム工学科の3学科において、持続可能な社会を実現するための「ものづくり」を通じて、自然と共生できるより豊かな社会、より暮らしやすい社会の構築に向けて、我が国および地域の産業のリーダーになれる技術者、また世界的な視野をもって社会に貢献できる各専門分野の技術者の育成を目指しています。そのための学習・教育目標として次の事項を掲げています。

- 1) 人間社会の深い理解と豊かな人間性を身につけるとともに、科学技術が自然環境に与える影響を理解する
- 2) 工学の幅広い基礎知識の習得と、それを基礎として工業技術の高度化、先端化、複合化に対応できる専門知識と先端技術を身につけ、課題を解決する応用力を養う
- 3) 実験、実習、演習などの実践教育を通して、明確な目的意識を持ち、自主的な学習姿勢と独創的な思考力を習得する
- 4) 世界的立場から工学を眺めることができる広い視野と、環境問題に配慮した新しい技術を創出できる豊かな創造力を養う
- 5) 日本語による論理的な記述、表現の力を身につけるとともに、学際的な交流ができ、国際的に活躍できるコミュニケーション能力を身につける
- 6) 技術者として目的意識を持ち、自主的、計画的に仕事を進める能力を身につける
- 7) 地域課題と専門科目の関わりが理解でき、地域課題の解決に向け専門知識を応用できる能力を身につける

これらの学習・教育目標を達成するために、各学科では、それぞれ学科の学習・教育目標を設定しています。

### 2. 科目の履修について

#### (1) 全学共通科目の履修について

各学科の科目配当表に示すように、主に1年次、2年次に配当されていますので、内容などについては全学共通科目の項目を参照してください。

#### (2) 専門科目の履修について

各学科の専門科目については、「科目配当表」に各年次の順に科目名を示しています。科目名の後に単位数、配当期を前：前期、後：後期、通：通年の記号で示しています。低学年では、講義や実験は学部共通基礎科目が中心になり、2年次、3年次になると各学科の基礎科目が配当されています。必修の科目は当然履修しなければなりません、選択の専門科目もなるべく広い範囲にわたって受講することが望まれます。

他学部専門科目および規定単位数以外の全学共通科目の履修は、あわせて6単位を限度として、専門科目の卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、所属する学科の学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けてください。工学部他学科開設科目の履修など、その他履修に関する詳細については各学科の指示を受けてください。

3年次、4年次では、学科専門科目が配当されています。これらの中で卒業研究以外は選択科目ですが、広い視野を持つために様々な分野の科目を広範囲で積極的に受講することを勧めます。

また、最終学年では、卒業研究が必修で、各研究室に配属されて研究の進め方を学び、最先端の研究の一端を担うこととなります。

なお教職免許取得など各種資格取得を希望する場合は、「資格取得の手引」を参照してください。

以上の科目について、各学科における卒業に必要な必修科目、単位数など、卒業要件に注意して履修を検討してください。

### 3. 工学部卒業要件

2026（令和8）年度入学学生適用の卒業要件です。2025（令和7）年度以前入学生は、入学年度の卒業要件が適用されますので、入学年度の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

---

(1) **全学共通科目**（計30単位以上） 必修18単位、選択必修12単位以上

---

①全学共通基礎科目 18単位以上

---

第一外国語※ 英語（ⅠA～ⅣB） 8単位(必修)

第二外国語※ ドイツ語（ⅠA～ⅡB）、フランス語（ⅠA～ⅡB）、中国語（ⅠA～ⅡB）、朝鮮語（ⅠA～ⅡB）のうちから4単位以上（選択必修）  
ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡBは「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論 4単位（必修）

保健体育 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位(必修)

---

②人間学 8単位以上（「人間探求学」は必修）

---

③地域基礎 4単位以上（「地域共生論」は必修）

---

---

(2) **専門科目** 学部共通基礎科目・複数学科共通科目・学科基礎科目・学科専門科目  
100単位以上

---

**合計** 130単位以上

---

註1：他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、所属する学科の学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けてください。

註2：卒業要件の詳細については各学科の項を見てください。

註3：修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）1科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足科目の再試験を認める場合があります。

#### 4. 自己学習について

本学では、15～45 時間の授業をもって1単位としています。例えば、1時限の授業が15回（1学期は15週の授業で構成）で2単位の講義科目は、1時限（90分）を2時間相当としている（ただし、次ページ以降の表中の授業科目別授業時間は実際の授業時間です）ため、授業時間が30時間であり、15時間の授業で1単位です。また、同様の授業で1単位の演習科目は、30時間の授業で1単位です。しかし、大学設置基準には、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすると定められています。従って、大学での授業だけでは不足しており、学生はその不足分（1単位あたり45時間と実際の授業時間との差）の自己学習（予習・復習、等）を各自行う必要があります。例えば、上記の講義科目に必要な自己学習時間は60時間であり、演習科目に必要な自己学習時間は15時間です。

以上のことを考慮して、工学部では学生の自己学習時間確保のための取り組みを組織的に行っており、その一環として、主要科目では、宿題やレポート、授業中に行う演習や小テストの予習、等を課すことにしています。それらの具体的な内容は、各授業科目のシラバスに記載されていますので、そちらを参照して下さい。

なお、シラバスに記載されている指示は最低限ですので、実際にはそれ以上の自己学習が必要です。また、シラバスに自己学習に関する具体的な指示がない授業科目（専門科目だけでなく全学共通科目も含みます）についても、学生の自己学習を前提とした講義が行われます。いずれにしろ、大学設置基準に定められた必要学修時間と授業時間との差の学修時間は、みなさんが各自の自己学習により補うことが必要であることに注意して下さい。

## 材料化学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

### ■学位授与方針

材料化学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築のために、科学技術に裏打ちされた材料技術の進歩に貢献できる、研究者・技術者の養成を目的としています。そこで材料化学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、材料化学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

- A 「人間」という存在を深く見つけ、人間と環境・社会の関係について地域特性への配慮も含めて多面的に理解し、技術者が社会に対して負っている責任と使命を実践する能力を身につける（思考・判断）
- B 英語や他の外国語で生活および材料科学技術分野に関する必要な情報発信ができる、コミュニケーション基礎能力を身につける（技能・技術）
- C 工学の基礎となる数学、自然科学、情報科学および情報処理についての理解と活用能力を身につける（知識・理解）
- D 工学とその基礎となる学問の幅広い分野に基づいて、技術について俯瞰的に見ることが出来る能力を身につける（興味・関心）
- E 材料の物性、構造や機能、これらの解析方法、および材料製造方法についての、金属、セラミックス、有機材料、高分子材料に共通する基本的な知識と、それを材料開発、プロセス開発に応用する能力を身につけ、さらに地域産業・地域環境の視点からも材料化学について理解する（知識・理解）
- F 様々な材料の特性、製造方法、機能性について、その構造と関係づけて理解し、材料設計およびプロセス設計へと活用できる能力を身につける（知識・理解）
- G 与えられた課題に対して適切な実験計画を立案・遂行して、得られたデータをもとに現象について考察し論理的に説明し記述できる能力、卒業研究などを通して自主的・継続的に学習できる能力、伝えたい専門的内容を論理的で判り易く説明し議論できるコミュニケーション能力等を身につける（思考・判断）（技能・技術）

### ■教育課程の編成・実施方針

材料化学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築のために、科学技術に裏打ちされた材料技術の進歩に貢献できる、研究者・技術者を養成するという目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

- A 滋賀県立大学の卒業生に共通する学力を身につけるための科目
  - A-1 学士としての基本的人間力を身につけるための語学、健康・体力科学、情報科学・処理に関する科目
  - A-2 人間そのもの、および人間と環境・社会の関係を理解し、科学技術に正しく携わるために必要な広い視野を身につけるための、人間学および地域基礎に関する科目
- B 科学技術への取り組みの背景となる工学部共通科目
  - B-1 工学についての幅広い視点を身につけるための科目
  - B-2 事象を論理的かつ定量的に扱うための基礎となる数学に関する科目
- C 多様な材料に共通する内容について学ぶ科目
  - C-1 材料化学とその応用を俯瞰し材料全体へのイメージを養うことで個々の材料への理解に資する科目
  - C-2 材料の研究および開発において的確な実験を行い、得られた結果を適切に解釈できるようにするための、分析化学に関係する科目および実験に関する科目
  - C-3 材料全般に共通する考え方を身につけて応用できるようにするための物理化学系および材料力学系科目
- D 個別の材料について基礎から応用まで学ぶ科目
  - D-1 主に無機系の材料や複合材料、電子デバイスなどに関連する無機化学および無機・金属材料系の科目
  - D-2 主に有機系の材料や複合材料、環境調和型材料などに関連する有機化学および有機材料系科目
- E 卒業研究  
材料科学の発展にはどのようなアプローチが必要かを、実践を通して学ぶ卒業研究





材料化学科 カリキュラムマップ (その3)

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数(時間)	授業時間(時間)							学位授与方針に対する関与の程度							
						人文学科 社会科学語	自然科学 情報技術	専門分野					その他専門	A	B	C	D	E	F	G
								材料の構造と性質	材料のプロセス	材料機能設計利用	実験の計画実行解析									
学部共通基礎科目	材料科学概論	2	必修	1・前	23			5	3	15								◎		
	機械システム工学概論	2	選択	1・前	23					3								◎		
	電子システム工学概論	2	選択	1・前	23					3								◎		
	微積分Ⅰ	2	必修	1・前	23													◎		
	微積分Ⅱ	2	選択	1・後	23													◎		
	線形代数Ⅰ	2	必修	1・前	23													◎		
	線形代数Ⅱ	2	選択	1・後	23													◎		
	基礎力学	2	必修	1・前	23													◎		
	基礎電磁気学	2	必修	1・後	23													◎		
	基礎化学	2	必修	1・前	23		15	8										◎		
	電子と化学結合	2	必修	1・後	23			23										◎		
	基礎電気電子回路	2	選択	1・後	23								23					◎		
	微分方程式	2	選択	2・前	23								8							◎
	工業数学	2	選択	2・後	23			15					8					◎		
	物理学実験	2	必修	2・後	45			45												◎
	科学技術英語	2	必修	3・前	23		5		6	6	6				○					◎
	技術者倫理	2	選択	3・後	23		14						9	◎						◎
	学科基礎科目	分析化学	2	必修	1・前	23			15	8										◎
分析・環境化学実験		2	必修	1・前	45			23	23											◎
無機化学Ⅰ		2	必修	2・前	23				23											◎
材料力学		2	選択	2・前	23						8		15					◎		
化学工学		2	選択	2・後	23					22.5									◎	
基礎熱力学		2	必修	1・後	23				23											◎
無機化学基礎		2	必修	1・後	23				23											◎
有機化学Ⅰ		2	必修	1・後	23			3	6	14										◎
化学熱力学		2	必修	2・前	23			9	14											◎
反応速度論		2	必修	2・後	23					23										◎
無機化学Ⅱ		2	必修	2・後	23				18	5										◎
有機化学Ⅱ		2	必修	2・前	23			3	6	14										◎
有機化学Ⅲ		2	必修	2・後	23			3	6	14										◎
機器分析Ⅰ		2	必修	2・前	23				23											◎
生化学Ⅰ		2	選択	2・後	23			11	12											◎
定量・機器分析および同実験		2	必修	2・前	45				15			30								◎
物理化学総合および同演習		2	必修	3・前	23			9	14											◎
無機化学総合および同演習		2	必修	3・前	23			8	8	8										◎
電気化学		2	選択	2・後	23			8	8	8										◎
分子・統計力学		2	選択	3・後	23			18		5										◎
固体物性基礎		2	選択	2・後	23			8	8	8										◎
有機化学Ⅳ	2	選択	3・後	23			8	8	8										◎	
機器分析Ⅱ	2	必修	3・前	23			17			6									◎	
生化学Ⅱ	2	選択	3・前	23			8	8	8										◎	
有機化学総合および同演習	2	必修	3・前	23			3	6	13.5										◎	
材料計算化学および同演習	2	選択	3・後	23			15	8	8										◎	
材料科学実験Ⅰ	3	必修	3・前	90			8	8	8	68									◎	
材料科学実験Ⅱ	3	必修	3・後	90			8	8	8	68									◎	
学科専門科目	金属材料	2	選択	3・前	23			11		12										◎
	セラミックス材料	2	選択	3・前	23			8	8	8										◎
	エネルギー・界面科学	2	選択	3・前	23			8	3	12										◎
	高分子合成	2	選択	3・前	23			11	6	6										◎
	高分子物性	2	選択	3・後	23			3	8	12										◎
	環境調和化学	2	選択	3・後	23			8	8	8										◎
	材料開発工学	2	選択	3・前	23			3	5	15										◎
	先端材料科学	2	選択	3・後	23			8	8	8										◎
	材料組織学	2	選択	3・後	23			8	8	8										◎
	複合材料	2	選択	3・後	23			8	8	8										◎
	卒業研究Ⅰ	4	必修	4・前	45		2	6	6	6	26				◎					◎
	卒業研究Ⅱ	4	必修	4・後	45		2	6	6	6	26				◎					◎

材料化学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	人間探求学 地域共生論	健康体力科学 I	健康体力科学 II			技術者倫理		
	人間学科目・地域基礎科目							
B	第一外国語 I A ※1 第一外国語 II A ※1 第二外国語 I A ※2	第一外国語 I B ※1 第一外国語 II B ※1 第二外国語 I B ※2	第一外国語 III A ※1 第一外国語 IV A ※1 第二外国語 II A ※2 実用英語演習 I A	第一外国語 III B ※1 第一外国語 IV B ※1 第二外国語 II B ※2 実用英語演習 I B	科学技術英語		卒業研究 I	卒業研究 II
	情報リテラシー (情報倫理を含む) 微積分 I 線形代数 I	情報科学概論 微積分 II 線形代数 II	微分方程式	工業数学				
D	基礎化学 基礎力学 材料科学概論 機械システム工学概論 電子システム工学概論	電子と化学結合 基礎電磁気学 基礎電気電子回路	材料力学	化学工学	材料開発工学			
	基礎熱力学 分析化学	化学熱力学 機器分析 I	反応速度論 電気化学	物理化学総合および同演習 機器分析 II	分子・統計力学			
F	無機化学基礎	無機化学 I	無機化学 II 固体物性基礎	無機化学総合および同演習 金属材料 セラミックス材料 エネルギー・界面科学	先端材料科学 材料組織学 材料計算法学および同演習 環境調和化学 有機化学 IV 高分子物性 複合材料			
	有機化学 I	有機化学 II	有機化学 III 生化学 I	有機化学総合および同演習 高分子合成 生化学 II				
G	分析・環境化学実験	定量・機器分析および同実験	物理学実験	材料科学実験 I 物理化学総合および同演習 無機化学総合および同演習 有機化学総合および同演習 科学技術英語	材料科学実験 II 材料計算法学および同演習	卒業研究 I	卒業研究 II	

※1 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。  
 ※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

# 工学部材料化学科卒業要件

【2026（令和8）年度入学生】

(1) 全学共通科目 (計30単位以上) 必修18単位 選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目 18単位以上	
第一外国語※ 英語 (ⅠA～ⅣB)	8単位 (必修)
第二外国語※ ドイツ語(ⅠA～ⅡB)、フランス語(ⅠA～ⅡB)、中国語(ⅠA～ⅡB)、朝鮮語(ⅠA～ⅡB)のうちから4単位以上(選択必修)	
ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。	
情報処理	情報リテラシー (情報倫理を含む) 2単位 (必修) 情報科学概論 2単位 (必修)
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位 (必修)
②人間学	8単位以上 (「人間探求学」は必修)
③地域基礎	4単位以上 (「地域共生論」は必修)
(2) 専門科目 学部共通基礎科目・学科基礎科目・学科専門科目 (計100単位以上)	
必修66単位, 選択34単位以上	
①必修	科目配当表に指定する科目 66単位
②選択	科目配当表に指定する科目および工学部他学科配当表記載の科目から 34単位以上
合計	130単位以上

註1:

外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ⅠA～ⅣBまたは日本語ⅠA～ⅣBから選択必修(8単位)。第二外国語は、ドイツ語ⅠA～ⅡB、フランス語ⅠA～ⅡB、中国語ⅠA～ⅡB、朝鮮語ⅠA～ⅡB、実用英語演習ⅠA・ⅠB、英語ⅠA～ⅣB、日本語ⅠA～ⅣBから選択必修(4単位以上)。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註2:

他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、材料化学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

工学部材料化学科 年次別科目配当表  
(1)2026(令和8)年度入学生

区 分		1 年 次		2 年 次	
全学 共通 科目	全学 共通 基礎 ※2	◎英語ⅠA	1前	◎英語ⅢA	1前
		◎英語ⅠB	1後	◎英語ⅢB	1後
		◎英語ⅡA	1前	◎英語ⅣA	1前
		◎英語ⅡB	1後	◎英語ⅣB	1後
○第二外国語ⅠA※1		1前	○第二外国語ⅡA※1	1前	
○第二外国語ⅠB※1		1後	○第二外国語ⅡB※1	1後	
◎情報リテラシー(情報倫理を含む)		2前	○実用英語演習ⅠA	1前	
◎情報科学概論		2後	○実用英語演習ⅠB	1後	
◎健康・体力科学Ⅰ		1後	◎健康・体力科学Ⅱ	1前	
Intermediate Academic English		1前	Advanced Academic EnglishⅠ	2後	
		Advanced Academic EnglishⅡ	2後		
人 間 学	◎人間探求学	2前	上記必修科目以外の人間学科目から、4年間で6単位選択必修		
地 域 基 礎	◎地域共生論	2前	上記必修科目以外の地域基礎科目から、4年間で2単位選択必修		

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

工 学 部	学 部 共 通 基 礎	◎材料科学概論	2前	微分方程式	2前
		機械システム工学概論	2前	工業数学	2後
		電子システム工学概論	2前	◎物理学実験	2後
		◎微積分Ⅰ	2前		
		微積分Ⅱ	2後		
		◎線形代数Ⅰ	2前		
		線形代数Ⅱ	2後		
		◎基礎力学	2前		
		◎基礎電磁気学	2後		
		◎基礎化学	2前		
		◎電子と化学結合	2後		
		基礎電気電子回路	2後		
専 門 科 目	学 科 基 礎	◎分析化学	2前	材料力学	2前
		◎分析・環境化学実験	2前	化学工学	2後
◎基礎熱力学		2後	◎無機化学Ⅰ	2前	
◎無機化学基礎		2後	◎化学熱力学	2前	
◎有機化学Ⅰ		2後	◎反応速度論	2後	
			◎有機化学Ⅱ	2前	
			◎有機化学Ⅲ	2後	
			◎無機化学Ⅱ	2後	
			◎機器分析Ⅰ	2前	
			電気化学	2後	
		固体物性基礎	2後		
		生化学Ⅰ	2後		
		◎定量・機器分析および同実験	2前		
	学 科 専 門				

◎:必修 ○:選択必修 無印:選択

	3年次	4年次	配当単位数
全学 共通 基礎	リスニング(中級) 2前 リーディング(中級) 2後 Integrated English 2前 Introduction to Discussion & Debate 2前	Essay Writing 2後 English for Business 1前 English in Media 2後	必修 14 選択必修 18 選択 22
	Lecture and Discussion in English 2後 Academic Lectures in English 2後		
人間学			必修 2 選択必修 70
地域基礎			必修 2 選択必修 22

学部 共通 基礎	◎科学技術英語 2前 技術者倫理 2後		必修 18 選択 16
学科 基礎	分子・統計力学 2後 有機化学Ⅳ 2後 生化学Ⅱ 2前 ◎機器分析Ⅱ 2前 ◎有機化学総合および同演習 2前 材料計算法学および同演習 2後 ◎材料科学実験Ⅰ 3前 ◎材料科学実験Ⅱ 3後 ◎物理化学総合および同演習 2前 ◎無機化学総合および同演習 2前		必修 40 選択 18
学科専門	金属材料 2前 セラミックス材料 2前 エネルギー・界面科学 2前 高分子物性 2後 高分子合成 2前 環境調和化学 2後 材料開発工学 2前 先端材料科学 2後 材料組織学 2後 複合材料 2後	◎卒業研究Ⅰ 4前 ◎卒業研究Ⅱ 4後	必修 8 選択 20



## 機械システム工学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

### ■学位授与方針

機械システム工学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、機械システム工学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

- A. 自然環境、社会、人間に関する理解、および技術の役割に関する理解
  - A-1. 自然環境、社会、人間について、地球的視点や地域の視点、さまざまな立場から多面的に理解し、幅広く深い教養を身につける。（興味・関心、態度）
  - A-2. 技術が、自然環境、社会、人間に及ぼす影響を理解して、技術者が負っている責任を自覚できる。（興味・関心、態度）
- B. 国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける。（技能・技術）
- C. 数学、力学、電磁気学、化学、情報技術に関する基礎学力を修得し、これらを機械システム工学に適用できる能力を身につける。（知識・理解、技能・技術）
- D. 機械システム工学専門科目に関する能力
  - D-1. 機械システム工学の概要を学習し、機械システム工学の基礎を修得するとともに、機械システム工学全般を見渡せる能力を育成する。（知識・理解、思考・判断）
  - D-2. 機械システム工学の基礎である材料と構造、エネルギー、流れ、力と運動、応用である計測制御、生産技術に関する学力を身につける。（知識・理解）
  - D-3. 講義で学んだ知識を、実験・実習・演習を通してより具体的に機械システム工学を理解し、ものづくりに応用できる能力を身につける。（知識・理解、技能・技術）
- E. 社会が要求する実際的な課題を、種々の専門知識を活用して解決する実践的なデザイン能力を身につける。（興味・関心、技能・技術）
- F. 自分の意見を論理的に整理し相手にわかりやすく伝える力、相手の意見を聴き理解する力を身につける。（思考・判断、技能・技術、表現）
- G. 自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力、継続的に自己啓発と学習を続けていく力を身につける。（思考・判断、興味・関心、態度、意欲）
- H. 課題の解決への道筋を明らかにする力、目標に向け確実に行動する力を身につける。（思考・判断、態度）

## ■教育課程の編成・実施方針

機械システム工学科は、機械工学の基礎と体系的なセンスと、高機能的な機械の設計・開発能力を備え、柔軟な発想能力を発揮する技術者を養成します。この目標を達成するために、下記のように「教養科目」および「基礎から応用にわたる幅広い専門科目」によって、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

### <教養科目>

技術者として社会に貢献することを目指して、広い視野とコミュニケーション能力を身につけるために、語学、健康・体力科学、情報処理などの基礎科目および人間学、人間探求学を配置する。

### <工学部共通専門科目>

高校で学んだ数学や物理を体系的に学び直し、広範な工学に関する知識を習得することによって工学的思考の方法を学ぶために、工学に共通する基礎科目を配置する。

### <機械システム工学科専門科目>

- ・導入科目：機械システム工学への入門として、身近な工業製品の分解・再組立などを通して「ものづくり」の基礎を体験するための導入科目を配置する。
- ・基礎科目：機械システムの数理解理解や表現能力を深く身につけるために、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、制御工学などの機械システム工学の基礎科目を配置する。
- ・実習科目：機械システムの製作のための基本的な加工技術の実習と機械製図の実習を通して「ものづくり」の感性を養うための実習科目を配置する。
- ・応用科目：機械の力学の応用を学ぶとともに、情報処理、メカトロニクス、生産工学など、機械の制御法、知能化・生産の方法について学ぶための応用科目を配置する。
- ・実験・演習科目：実験・演習を通して機械システムの設計、試作、機能評価を総合的に学ぶための実験演習科目を配置する。

### <卒業研究>

4年間の学びの締めくくりとして、機械システム工学としての問題の捉え方、課題の設定の仕方、問題解決へのアプローチの方法などを実践的に体得し、「ものづくり」に必要な実力を養うために、卒業研究を実施する。







機械システム工学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名								
	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A-1	人間探求学 地域共生論	健康・体力科学 I	健康・体力科学 II						
	地域基礎科目(1科目2単位選択必修)								
	人間学(3科目6単位選択必修)								
A-2	地域共生論					技術者倫理			
B	第一外国語 I A※1 第一外国語 II A※1 第二外国語 I A※2	第一外国語 I B※1 第一外国語 II B※1 第二外国語 I B※2	第一外国語 III A※1 第一外国語 IV A※1 第二外国語 II A※2 実用英語演習 I A	第一外国語 III B※1 第一外国語 IV B※1 第二外国語 II B※2 実用英語演習 I B	科学技術英語			卒業研究	
C	情報アプリア (情報倫理を含む) 微積分 I 線形代数 I	情報科学概論 微積分 II 線形代数 II	プログラミング基礎 微分方程式	工業数学				数値解析	
	基礎物理学 基礎化学 材料科学概論 電子システム工学概論	物理学実験 電子と化学結合 基礎電磁気学 基礎電気電子回路				確率統計			
D-1	機械システム工学概論 機械システム工学セミナー	工業力学 機械製作 物理学実験	材料力学 I 機械製作実習	熱力学 I 流体力学 I	科学技術英語 機械力学 I				
D-2		工業力学 機械製作	材料力学 I 材料力学 II	熱力学 I 熱力学 II 流体力学 I 流体力学 II 機械材料科学	熱力学 II 流体力学 II 機械力学 I 制御工学 I 生産工学 金属加工学 機械四力学演習 情報処理基礎 計測工学 科学技術英語	エレクトロニクス 伝熱学 機械力学 II 制御工学 II メカトロニクス		システム工学 ロボット工学 特殊加工学	
D-3		物理学実験	機械設計図 機械製作実習	機械設計演習 I	機械設計演習 II 機械工学基礎実験 機械四力学演習	機械設計演習 III		卒業研究	
E					機械設計演習 II 機械システム創造実験	卒業研究			
F	機械システム工学セミナー 人間探求学	物理学実験			機械工学基礎実験	卒業研究			
G	機械システム工学セミナー				機械システム創造実験	卒業研究			
H					機械工学基礎実験	卒業研究			

※1 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

## 工学部機械システム工学科卒業要件

2026(令和8)年度入学生適用の卒業要件です。

<b>(1) 全学共通科目</b> (計30単位以上) 必修18単位、 選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目 18単位以上	
第一外国語※	英語(ⅠA～ⅣB) 8単位(必修)
第二外国語※	ドイツ語(ⅠA～ⅡB)、フランス語(ⅠA～ⅡB)、中国語(ⅠA～ⅡB)、 朝鮮語(ⅠA～ⅡB)のうちから4単位以上(選択必修) ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理	情報リテラシー(情報倫理を含む)2単位(必修) 情報科学概論 2単位(必修)
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位(必修)
②人間学	8単位以上(「人間探求学」は必修)
③地域基礎	4単位以上(「地域共生論」は必修)
<b>(2) 専門科目</b> 学部共通基礎科目・複数学科共通科目・ 学科基礎科目・学科専門科目 (計100単位以上)	
①必修	学科の科目配当表に指定する必修科目 66単位
②選択	学科の科目配当表に指定する選択科目 28単位以上
合 計	130単位以上

註1：

外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ⅠA～ⅣBまたは日本語ⅠA～ⅣBから選択必修(8単位)。第二外国語は、ドイツ語ⅠA～ⅡB、フランス語ⅠA～ⅡB、中国語ⅠA～ⅡB、朝鮮語ⅠA～ⅡB、実用英語演習ⅠA・ⅠB、英語ⅠA～ⅣB、日本語ⅠA～ⅣBから選択必修(4単位以上)。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註2：

工学部他学科専門科目、他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、工学部他学科専門科目および他学部開設科目の履修を希望するとき、機械システム工学科長の許可を得た後に、その科目を担当する教員の許可を受けること。

機械システム工学科 年次別科目配当表

(1) 2026 (令和8) 年度入学生

		1 年 次		2 年 次	
全学 共通 科目	全学 共通 基礎 ※2	◎英語ⅠA	1前	◎英語ⅢA	1前
		◎英語ⅠB	1後	◎英語ⅢB	1後
		◎英語ⅡA	1前	◎英語ⅣA	1前
		◎英語ⅡB	1後	◎英語ⅣB	1後
○第二外国語ⅠA※1		1前	○第二外国語ⅡA※1	1前	
○第二外国語ⅠB※1		1後	○第二外国語ⅡB※1	1後	
◎情報リテラシー(情報倫理を含む)		2前	◎実用英語演習ⅠA	1前	
◎情報科学概論		2後	○実用英語演習ⅠB	1後	
◎健康・体力科学Ⅰ		1後	◎健康・体力科学Ⅱ	1前	
		Intermediate Academic English	1前	Advanced Academic EnglishⅠ	2後
			Advanced Academic EnglishⅡ	2後	
	人間学	◎人間探求学	2前		
		上記必修科目以外の人間学科目から、4年間で3科目6単位選択必修			
	地域基礎	◎地域共生論	2前		
		上記必修科目以外の地域基礎科目から、4年間で1科目2単位選択必修			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

工 学 部	専門 科目	学部 共通 基礎	材料科学概論	2前	◎微分方程式	2前
			電子システム工学概論	2前	工業数学	2後
			◎機械システム工学概論	2前		
			◎微積分Ⅰ	2前		
◎微積分Ⅱ			2後			
◎線形代数Ⅰ			2前			
線形代数Ⅱ			2後			
◎基礎力学			2前			
◎基礎電磁気学			2後			
◎基礎化学			2前			
電子と化学結合	2後					
基礎電気電子回路	2後					
◎物理学実験	2後					
	複数学 科 共 通			◎プログラミング基礎	2前	
	学 科 基 礎	◎機械製作	2後	◎材料力学Ⅰ	2前	
◎工業力学		2後	◎機械設計製図	2前		
機械システム工学セミナー		2前	機械要素	2前		
			◎熱力学Ⅰ	2後		
				◎流体力学Ⅰ	2後	
				◎機械材料学	2後	
				材料力学Ⅱ	2後	
				◎機械製作実習	2前	
				◎機械設計演習Ⅰ	2後	
	学 科 専 門					
		1年次必修	20	2年次必修	18	

◎：必修 ○：選択必修 無印：選択

	3年次	4年次	配当単位数
全学 共通 基礎	リスニング(中級) 2前	Essay Writing 2後	必修 14
	リーディング(中級) 2後	English for Business 1前	選択必修 18
	Integrated English 2前	English in Media 2後	選択 22
	Introduction to Discussion & Debate 2前		
	Lecture and Discussion in English 2後		
	Academic Lectures in English 2後		
人間学			必修 2 選択必修 70
地域基礎			必修 2 選択必修 22

学部 共通 基礎	◎科学技術英語 2前		必修 22
	◎技術者倫理 2後		選択 12
複数 学科 共通	情報処理基礎 2前		必修 4
	◎確率統計 2後		選択 2
学科 基礎	◎機械力学Ⅰ 2前		必修 32
	◎制御工学Ⅰ 2前		選択 20
	◎生産工学 2前		
	熱力学Ⅱ 2前		
	流体力学Ⅱ 2前		
	機械力学Ⅱ 2後		
	制御工学Ⅱ 2後		
	計測工学 2前		
	伝熱学 2後		
	◎機械設計演習Ⅱ 2前		
	◎機械設計演習Ⅲ 2後		
学科 専門	◎機械工学基礎実験 2前		
	◎機械システム創造実験 2後		
	機械四力学演習 2前		
	金属加工学 2前	数値解析 2前	必修 8
	メカトロニクス 2後	ロボット工学 2前	選択 14
エネルギー変換工学 2後	システム工学 2前		
	特殊加工学 2前		
	◎卒業研究 8通		
	3年次必修 20	4年次必修 8	専門必修 66

※ 機械システム工学科配当の専門科目は、配当学年よりも先だって履修することはできません。

## 電子システム工学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

### ■学位授与方針

電子システム工学科は、電気・電子・情報工学分野の高度な技術と知識に裏打ちされた創造力豊かな高度専門職業人の養成を目的としている。そのため学生は、次の能力を身につけることが求められる。

- A 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につける (③興味・関心)
- B 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける (④技能・技術)
- C 電子システム工学分野の基礎となる、大学工学部共通基礎レベルの数学、物理学、化学および情報処理技術に関する知識とそれらを応用する能力を身につける (①知識・理解)
- D 電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につける (①知識・理解)
- E 電子システム工学分野の実験、実習の実践を通して、工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につける (④技能・技術)
- F 自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う、日本語によるコミュニケーション能力を身につける (④技能・技術)
- G 技術者としての明確な目的意識を持ち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につける (②思考・判断)
- H 地域の課題と専門分野との関わりが理解でき、地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる能力を身につける (①知識・理解)

### ■教育課程の編成・実施方針

電子システム工学科は、電気・電子・情報工学分野の高度な技術と知識に裏打ちされた創造力豊かな高度専門職業人を養成するという目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を次のようなカテゴリーに分けて編成している。

- A 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につける科目
- A-1 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、興味に応じて多面的に学習し、大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見出していく能力を身につける科目
- A-2 技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し、技術者としての責任感と倫理観を身につける科目
- B 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける科目
- C 電子システム工学分野の基礎となる、大学工学部共通基礎レベルの数学、物理学、化学および情報処理技術に関する知識とそれらを応用する能力を身につける科目
- D 電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につける科目
- D-1 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について、大学工学部学科専門レベルの基礎知識とそれらを駆使して課題を探索し組み立て解決する能力を身につける科目
- D-2 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術の中から興味に応じて選択した個別技術について、大学工学部学科専門レベルの高度な専門知識とそれらを駆使して課題を探索し組み立て解決する能力を身につける科目
- E 電子システム工学分野の実験、実習の実践を通して、工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につける科目
- E-1 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について、大学工学部学科専門レベルの実験遂行能力と、結果の解析・考察・説明能力および報告書の作成能力を身につける科目
- E-2 電子システム工学分野の技術者に要求される実験計画能力と問題や課題を理解し設定する能力および与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけて計画的に仕事を進め成果としてまとめるエンジニアリングデザイン能力と実行力を身につける科目
- F 自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う、日本語によるコミュニケーション能力を身につける科目
- G 技術者としての明確な目的意識を持ち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につける科目
- H 地域の課題と専門分野との関わりが理解でき、地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる能力を身につける科目

電子システム工学科 カリキュラムマップ (その1)

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数(時間)	授業時間(時間)		学位授与方針に対する関与の程度									
						学習内容の区分		A	B	C	D	E	F	G	H		
						人文科学 社会科学 語学	数学 自然科学 情報技術									専門分野	
全学共通科目 全学共通基礎科目	英語ⅠA(留学生は必修でない)	1	必修	1・前期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅠB(留学生は必修でない)	1	必修	1・後期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅡA(留学生は必修でない)	1	必修	1・前期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅡB(留学生は必修でない)	1	必修	1・後期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅢA(留学生は必修でない)	1	必修	2・前期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅢB(留学生は必修でない)	1	必修	2・後期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅣA(留学生は必修でない)	1	必修	2・前期	22.5	22.5			◎								
	英語ⅣB(留学生は必修でない)	1	必修	2・後期	22.5	22.5			◎								
	ドイツ語ⅠA	1	選択	1・前期	22.5	22.5			○								
	ドイツ語ⅠB	1	選択	1・後期	22.5	22.5			○								
	ドイツ語ⅡA	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	ドイツ語ⅡB	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	フランス語ⅠA	1	選択	1・前期	22.5	22.5			○								
	フランス語ⅠB	1	選択	1・後期	22.5	22.5			○								
	フランス語ⅡA	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	フランス語ⅡB	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	中国語ⅠA	1	選択	1・前期	22.5	22.5			○								
	中国語ⅠB	1	選択	1・後期	22.5	22.5			○								
	中国語ⅡA	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	中国語ⅡB	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	朝鮮語ⅠA	1	選択	1・前期	22.5	22.5			○								
	朝鮮語ⅠB	1	選択	1・後期	22.5	22.5			○								
	朝鮮語ⅡA	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	朝鮮語ⅡB	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅠA(留学生のみ)	1	選択	1・前期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅠB(留学生のみ)	1	選択	1・後期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅡA(留学生のみ)	1	選択	1・前期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅡB(留学生のみ)	1	選択	1・後期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅢA(留学生のみ)	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅢB(留学生のみ)	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅣA(留学生のみ)	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	日本語ⅣB(留学生のみ)	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	Intermediate Academic English	1	選択	1~4・前期	22.5	22.5			○								
	Advanced Academic English I	2	選択	1~4・後期	22.5	22.5			○								
	Advanced Academic English II	2	選択	1~4・後期	22.5	22.5			○								
	Lecture and Discussion in English	2	選択	1~4・後期	22.5	22.5			○								
	Academic Lectures in English	2	選択	1~4・後期	22.5	22.5			○								
	リスニング(中級)	2	選択	3,4・前期	22.5	22.5			○								
	リーディング(中級)	2	選択	3,4・後期	22.5	22.5			○								
	Integrated English	2	選択	3,4・前期	22.5	22.5			○								
	Introduction to Discussion & Debate	2	選択	3,4・前期	22.5	22.5			○								
	Essay Writing	2	選択	3,4・後期	22.5	22.5			○								
	English for Business	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5			○								
	English in Media	2	選択	3,4・後期	22.5	22.5			○								
	実用英語演習ⅠA	1	選択	2・前期	22.5	22.5			○								
	実用英語演習ⅠB	1	選択	2・後期	22.5	22.5			○								
	情報科学概論	2	必修	1・後期	22.5		22.5				◎						
	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	必修	1・前期	22.5		22.5				◎						
	健康・体力科学Ⅰ	1	必修	1・後期	22.5	22.5			◎								
	健康・体力科学Ⅱ	1	必修	2・前期	22.5	22.5			◎								



電子システム工学科 カリキュラムマップ (その3)

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数(時間)	授業時間(時間)		学位授与方針に対する関与の程度										
						学習内容の区分		人文科学 社会科学 語学	自然科学 情報技術	専門分野	A	B	C	D	E	F	G	H
						人文科学 社会科学 語学	自然科学 情報技術											
学部共通基礎科目	材料科学概論	2	選択	1・前期	22.5		22.5							○				
	機械システム工学概論	2	選択	1・前期	22.5		22.5							○				
	電子システム工学概論	2	必修	1・前期	22.5		22.5							◎				
	微積分Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5							◎				
	微積分Ⅱ	2	必修	1・後期	22.5		22.5							◎				
	線形代数Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5							◎				
	線形代数Ⅱ	2	選択	1・後期	22.5		22.5							◎				
	基礎力学	2	必修	1・前期	22.5		22.5							◎				
	基礎電磁気学	2	必修	1・後期	22.5		22.5							◎				
	電子と化学結合	2	選択	1・後期	22.5		22.5							◎				
	基礎化学	2	必修	1・前期	22.5		22.5							◎				
	基礎電気電子回路	2	必修	1・後期	22.5		22.5							◎				
	物理学実験	2	必修	1・後期	45		45							◎				◎
	工業数学	2	必修	2・後期	22.5		22.5							◎				
	微分方程式	2	選択	2・前期	22.5		22.5							◎				
	科学技術英語	2	必修	3・前期	22.5	22.5								◎				
	技術者倫理	2	必修	3・後期	22.5	22.5								◎				
	確率統計	2	必修	2・後期	22.5		22.5							◎				
	プログラミング基礎	2	必修	2・前期	22.5		22.5							◎				
	情報処理基礎	2	選択	2・前期	22.5		22.5							◎				
	電子システム工学セミナー	2	選択	1・前期	67.5		67.5								○			○
	電磁気学Ⅰ	2	必修	2・前期	22.5		22.5							◎				
	電磁気学Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5		22.5							◎				
	電気回路Ⅰ	2	必修	2・前期	22.5		22.5							◎				
	電気回路Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5		22.5							◎				
	電子回路Ⅰ	2	必修	2・後期	22.5		22.5							◎				
	量子力学概論	2	選択	2・前期	22.5		22.5							◎				
	物性デバイス基礎論	2	選択	2・後期	22.5		22.5							◎				
	半導体基礎	2	必修	2・後期	22.5		22.5							◎				
	微積分統論	2	選択	2・前期	22.5		22.5							◎				
	コンピュータハードウェア	2	必修	2・後期	22.5		22.5							◎				
	アルゴリズムとデータ構造	2	必修	2・前期	22.5		22.5							◎				
	プログラミング言語	2	必修	2・後期	22.5		22.5							◎				
デジタル信号処理	2	選択	2・後期	22.5		22.5							◎					
通信情報理論	2	選択	2・前期	22.5		22.5							◎					
電子システム工学実験Ⅰ	2	必修	2・前期	67.5		67.5								◎			◎	
電子システム工学実験Ⅱ	2	必修	2・後期	67.5		67.5								◎			◎	
電子回路Ⅱ	2	必修	3・前期	22.5		22.5							◎					
電気電子計測Ⅰ	2	必修	3・前期	22.5		22.5							◎					
電気電子計測Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
電気エネルギーシステム工学	2	選択	3・前期	22.5		22.5							◎					
半導体デバイス	2	選択	3・前期	22.5		22.5							◎					
制御工学	2	選択	3・前期	22.5		22.5							◎					
電力工学Ⅰ	2	選択	3・前期	22.5		22.5							◎					
電力工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
情報通信工学	2	選択	3・前期	22.5		22.5							◎					
コンピュータアーキテクチャ	2	選択	3・前期	22.5		22.5							◎					
コンピュータソフトウェア	2	必修	3・前期	22.5		22.5							◎					
電子システム工学実験Ⅲ	2	必修	3・前期	67.5		67.5								◎			◎	
電子システム工学実験Ⅳ	2	必修	3・後期	67.5		67.5								◎			◎	
電気電子設計製図	1	必修	3・前期	22.5		22.5							◎					
電磁波工学	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
電気機器	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
集積回路設計基礎	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
電子デバイス	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
通信システム工学	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
通信ネットワーク工学	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
プラズマ工学	2	選択	4・前期	22.5		22.5							◎					
パワーエレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5		22.5							◎					
光エレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5		22.5							◎					
ロボット工学	2	選択	4・前期	22.5		22.5							◎					
電気関係法規・施設管理	2	選択	3・後期	22.5		22.5							◎					
卒業研究	8	必修	4・通年	90		90							◎	◎	◎	◎		

※複数数学科共通科目

電子システム工学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	人間探求学							
	「人間学」の選択科目から3科目選択必修							
B		健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ			技術者倫理		
	英語ⅠA※1 英語ⅡA※1 第二外国語ⅠA※2	英語ⅠB※1 英語ⅡB※1 第二外国語ⅠB※2	英語ⅢA※1 英語ⅣA※1 実用英語演習ⅠA 第二外国語ⅡA※2	英語ⅢB※1 英語ⅣB※1 実用英語演習ⅠB 第二外国語ⅡB※2	科学技術英語			
C	情報リテラシー (情報倫理を含む)	情報科学概論	プログラミング基礎	工業数学				
	微積分Ⅰ 線形代数Ⅰ 基礎力学 基礎化学	微積分Ⅱ 線形代数Ⅱ 物理学実験 基礎電磁気学 基礎電気電子回路 電子と化学結合	微積分統論 微分方程式	確率統計				
D	電子システム工学概論 機械システム工学概論 材料科学概論		電磁気学Ⅰ 電気回路Ⅰ	電磁気学Ⅱ 電子回路Ⅰ 電気回路Ⅱ	電気電子計測Ⅰ 電子回路Ⅱ 制御工学 電力工学Ⅰ 電気エネルギーシステム工学 半導体デバイス 電気エネルギーシステム工学 半導体デバイス 量子力学概論 通信情報理論 アルゴリズムとデータ構造 情報処理基礎	電磁気学Ⅱ 電子回路Ⅱ 制御工学 電力工学Ⅰ 電気エネルギーシステム工学 半導体デバイス 電気エネルギーシステム工学 半導体デバイス 量子力学概論 物性デバイス基礎論 デジタル信号処理 プログラミング言語 コンピュータハードウェア 電気電子設計製図	電磁気学Ⅱ 電子回路Ⅱ 制御工学 電力工学Ⅱ 電気機器 電子デバイス 集積回路設計基礎 通信ネットワーク工学 通信システム工学 電気関係法規・施設管理	ロボット工学 プラズマ工学 パワーエレクトロニクス 光エレクトロニクス
								卒業研究
E	電子システム工学セミナー		電子システム工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅲ	電子システム工学実験Ⅳ		卒業研究
F		物理学実験	電子システム工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅲ	電子システム工学実験Ⅳ		卒業研究
G	電子システム工学セミナー							卒業研究
H	地域共生論					電子システム工学実験Ⅳ		
	「地域基礎」の選択科目から1科目選択必修							

工学部

※1 留学生は英語および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可であり、留学生は英語、日本語も選択可。

## 工学部電子システム工学科卒業要件

2026（令和8）年度入学学生適用の卒業要件です。

(1)全学共通科目（計30単位以上） 必修18単位、 選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目 18単位以上	
第一外国語※	英語（ⅠA～ⅣB） 8単位（必修）
第二外国語※	ドイツ語（ⅠA～ⅡB）、フランス語（ⅠA～ⅡB）、中国語（ⅠA～ⅡB）、朝鮮語（ⅠA～ⅡB）のうちから4単位以上（選択必修） ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理 保健体育	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論 4単位（必修） 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位（必修）
②人間学	8単位以上（「人間探求学」は必修）
③地域基礎	4単位以上（「地域共生論」は必修）

(2)専門科目	学部共通基礎科目・複数学科共通科目 学科基礎科目・学科専門科目 必修65単位、選択35単位以上	(計100単位以上)
①学部共通基礎科目・複数学科共通科目		28単位以上
	学科の科目配当表に指定する必修科目	28単位
	学科の科目配当表に指定する選択科目	0単位以上
②学科基礎科目		46単位以上
	学科の科目配当表に指定する必修科目	29単位
	学科の科目配当表に指定する選択科目	17単位以上
③学科専門科目		20単位以上
	学科の科目配当表に指定する必修科目	8単位
	学科の科目配当表に指定する選択科目	12単位以上

合計 130単位以上

### 註1：

外国人留学生の外国語の履修については、次の通りとする。第一外国語は、英語ⅠA～ⅣBまたは日本語ⅠA～ⅣBから選択必修（8単位）。第二外国語は、ドイツ語ⅠA～ⅡB、フランス語ⅠA～ⅡB、中国語ⅠA～ⅡB、朝鮮語ⅠA～ⅡB、実用英語演習ⅠA・ⅠB、英語ⅠA～ⅣB、日本語ⅠA～ⅣBから選択必修（4単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

### 註2：

電子システム工学科の科目配当表に指定する専門科目以外に、工学部他学科の科目配当表に指定する専門科目も、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、履修を希望する科目を担当する教員の許可を受けること。

### 註3：

他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、電子システム工学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

4年次末の時点で、修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）1科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足単位の再試験を認めることがある。

工学部電子システム工学科 年次別科目配当表

(1) 2026 (令和8) 年度入学生

区分	1 年 次	2 年 次	
全学 共通 科目	◎英語ⅠA ◎英語ⅠB ◎英語ⅡA ◎英語ⅡB ○第二外国語ⅠA※1 ○第二外国語ⅠB※1 ◎情報リテラシー(情報倫理を含む) ◎情報科学概論 ◎健康・体力科学Ⅰ Intermediate Academic English	1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 2 前 2 後 1 後 1 前 Advanced Academic English I Advanced Academic English II	◎英語ⅢA ◎英語ⅢB ◎英語ⅣA ◎英語ⅣB ○第二外国語ⅡA※1 ○第二外国語ⅡB※1 ○実用英語演習ⅠA ○実用英語演習ⅠB ◎健康・体力科学Ⅱ 2 後 2 後
	人間学	◎人間探求学 上記必修科目以外の人間学科目から、4年間で6単位選択必修	2 前
	地域基礎	◎地域共生論 上記必修科目以外の地域基礎科目から、4年間で2単位選択必修	2 前

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

工学部	専 門 科 目	学部 共通 基礎	材料科学概論 機械システム工学概論 ◎電子システム工学概論 ◎微積分Ⅰ ◎微積分Ⅱ ◎線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ ◎基礎力学 ◎基礎電磁気学 電子と化学結合 ◎基礎化学 ◎基礎電気電子回路 ◎物理学実験	2 前 2 前 2 前 2 前 2 後 2 前 2 後 2 前 2 後 2 後 2 前 2 後 2 後	◎工業数学 微分方程式	2 後 2 前
		複数 学科 共通			◎確率統計 ◎プログラミング基礎 情報処理基礎	2 後 2 前 2 前
		学科 基礎	電子システム工学セミナー	2 前	微積分統論 ◎電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ ◎電気回路Ⅰ 電気回路Ⅱ ◎電子回路Ⅰ 量子力学概論 物性デバイス基礎論 ◎半導体基礎 ◎コンピュータハードウェア ◎アルゴリズムとデータ構造 ◎プログラミング言語 デジタル信号処理 通信情報理論 ◎電子システム工学実験Ⅰ ◎電子システム工学実験Ⅱ	2 前 2 前 2 後 2 前 2 後 2 後 2 前 2 後 2 後 2 前 2 後 2 前 2 後
		学科 専門				
		1 年次必修	18	2 年次必修	24	

◎：必修 ○：選択必修 無印：選択

	3年次	4年次	配当単位数
全学 共通 基礎	リスニング (中級) 2前 リーディング (中級) 2後 Integrated English 2前 Introduction to Discussion & Debate 2前	Essay Writing 2後 English for Business 1前 English in Media 2後	必修 14 選択必修 18 選択 22
	Lecture and Discussion in English 2後 Academic Lectures in English 2後		
人間学			必修 2 選択必修 70
地域基礎			必修 2 選択必修 22

学部 共通 基礎	◎科学技術英語 2前		必修 28 選択 12
	◎技術者倫理 2後		必修、選択には それぞれ、複数 学科共通科目の 各2単位を含む。
学科 基礎	◎電子回路Ⅱ 2前		必修 29 選択 32
	◎電気電子計測Ⅰ 2前		
	電気電子計測Ⅱ 2後		
	電気エネルギーシステム工学 2前		
	半導体デバイス 2前		
	制御工学 2前		
	電力工学Ⅰ 2前		
	電力工学Ⅱ 2後		
	情報通信工学 2前		
	コンピュータアーキテクチャ 2前		
◎コンピュータソフトウェア 2前			
◎電子システム工学実験Ⅲ 2前			
◎電子システム工学実験Ⅳ 2後			
◎電気電子設計製図 1前			
学科 専門	電磁波工学 2後	プラズマ工学 2前	必修 8
	電気機器 2後	パワーエレクトロニクス 2前	選択 22
	集積回路設計基礎 2後	光エレクトロニクス 2前	
	電子デバイス 2後	ロボット工学 2前	
	通信システム工学 2後	◎卒業研究 8通	
	通信ネットワーク工学 2後		
	電気関係法規・施設管理 2後		
3年次必修	15	4年次必修	8 専門必修 65

電子システム工学科配当の専門科目は、配当された学年よりも先だって履修することはできません。

## 5 人間文化学部科目履修の手引

### 1. 人間文化学部の学位授与方針

人間文化学部では、以下の学位授与方針の下、各学科に即した教育目標が設けられています。

- A 人間の文化に関する幅広い知識を身につけ、文化のさまざまな側面に対する理解を深める。(知識・理解)
- B 大学で学んだことを手がかりに、多様なできごとに興味と関心を持ち問題を解決しようとする態度を身につける。(興味・関心)
- C 自分の直面している問題に対して柔軟な思考と判断ができる。(思考・判断)
- D 各専門領域に応じた調査・研究を行い、それを表現する技術・技能を身につける。(技術・技能)

### 2. 人間文化学部各学科の教育目標について

#### (1) 地域文化学科

地域文化学科では、環琵琶湖地域を中心に、日本、さらに密接な交流がある中国・朝鮮をも視野に入れて、これらの社会に関わる過去と現在の諸問題を考えていきます。そのために、地域を分析するうえで必要な手法を身につけ、フィールドワーク（現地調査）を通じてそれぞれの地域に生きる人々の姿を見つめ、これからの社会のあり方について研究します。

#### (2) 生活デザイン学科

生活デザイン学科では、生活環境を、生活の容器である住居、身の回りにある道具、人の身体に密着した衣服、そして生活のあり方を裏打ちする構想と、4つの分野に分け、基礎から実践に至るまでの理論を講義するだけではなく、基礎演習、4分野のデザイン演習などにより講義で学んだ理論の理解を深め、デザインスキルを磨く教育を行う。そして、生活環境、生活様式に関わる問題を発見し、具体的な方法論により分析・考察し、解明・解決・提案できる総合的なデザイン能力を持った人材の育成を目指す。

#### (3) 生活栄養学科

現代の日本は世界一の健康寿命国となった反面、生活習慣病、アレルギー性疾患など食生活が要因となる問題がクローズアップされてきている。科学的根拠を基盤としてこれらの問題に対処できる、かつ豊かな人間性をも備えた栄養と食の総合的スペシャリストの育成を目指す。このため、基礎教育の充実とともに、専門科目では多彩な実習・実験を取り入れ実践能力の強化を図る。さらに人間学と人文・社会科学系科目の充実により、豊かな人間性と指導力の育成にも力点を置く。

#### (4) 人間関係学科

人間のさまざまななかかわりのあり方を個人や集団、社会・文化の諸営為のなかでとらえながら、進化や歴史の大きな時間軸も視野に入れつつ、心理学、教育学、社会学の各分野から総合的に学ぶ。一対一の人間関係に焦点を当てるとともに、共同体の人間同士がかかわる社会現象を見渡せるようになることを目標とする。さらに、発達のダイナミクスやコミュニケーションの多様性に着目することによって、人間関係の本質を読み解く能力の獲得を支援する。これらを通じて、社会の生成プロセスに能動的に参画する人間の理論的、実践的基盤の形成を目指す。

#### (5) 国際コミュニケーション学科

グローバル化する現代社会の変化に適切に対応するため、自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とする複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につける。それらを活かして、グローバル化する国際社会および地域社会において活躍できる「知と実践力」を身につけるための教育を行う。

### 3. 科目の履修について

- (1)履修科目の選択にあたっては、「全学共通科目履修の手引」および人間文化学部の「標準年次別科目配当表」、「卒業に必要な要件」、「講義概要」ならびに年度当初に行われる所属学科のオリエンテーションに十分注意の上、履修してください。
- (2)教育職員免許・学芸員資格・栄養士免許・管理栄養士受験資格・二級建築士試験受験資格・木造建築士試験受験資格・インテリアプランナー登録資格・社会調査士資格・食品衛生管理者資格・食品衛生監視員資格の取得を希望する者（栄養士免許・管理栄養士受験資格・食品衛生管理者資格・食品衛生監視員資格の取得は生活栄養学科の学生に限る。）は、「資格取得等の手引」および「標準年次別科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

#### 【凡例】

◎：必修    ○、●、□、▽：選択必修    無印：選択    数字：単位数  
前：前期    後：後期    通：通年

人間文化学部での専門科目の科目名の後のローマ字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳなど）は、原則として受講者がその数字の順番に従って受講しなければならないことを示します。科目名の後のアルファベット（A、B、Cなど）については順番にかかわらず受講することができます。（外国語など全学共通基礎科目についてはこの限りではありません。）

## 4. 各学科の履修について

### (1) 地域文化学科

#### ①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

##### ■学位授与方針

- A. 日本や東アジアの過去・現在の文化について幅広い知識を身につけることが出来る。  
(知識・理解)
- B. 多様な地域文化についての関心を持ち、大学で学んだことをもとに課題を解決しようとする態度を持つ。(思考・判断)
- C. 環琵琶湖地域を中心とするフィールドワーク(現地調査)を通じて、それぞれの地域の社会や文化に対して関心を持ち、自らの見解を形成できる。(興味・関心)
- D. 自分の調査・研究の成果を口頭あるいは文章や地図・図像などの製作物の形で表現することが出来る。(技能・技術)
- E. 人間の心身や自然・社会とのかかわりなどを学習し、国際的に通用するコミュニケーション能力や情報リテラシー・数量的スキル、地域課題の解決に必要な素養、態度などを身につけることができる。(知識・理解、態度・倫理、思考・判断)

##### ■教育課程の編成・実施方針

地域文化学科は、幅広い知識を身につけ、課題を解決する人材を育成するという目的を達成するために、地域文化に関する科目を教授するための過程を以下のように編成している。

- A. 分析力
  - ・史料、資料、図像、地図などから情報を収集し分析する能力を学ぶ。
  - ・現状を分析し目的や課題を明らかにする能力を学ぶ。
  - ・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する情況把握力を養成する。
- B. 思考力
  - ・自ら考える力を養成する。
  - ・論理的に思考する能力を養成する。
- C. 創造力
  - ・既存の概念に束縛されない自由な発想力を養う。
  - ・既存のものを組み合わせて新たな価値を生み出す力を養成する。
- D. コミュニケーション力
  - ・世代、国籍、専門を越えた意思疎通・共感力を養う。
  - ・外国語の運用能力を養成する。
  - ・文字、言葉を越えた意思疎通を養う。
- E. リーダーシップ
  - ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力を養成する。
  - ・目的を設定し確実に実行する力を養う。
  - ・チームで問題解決できるコラボレーション力を養成する。
- F. 変化対応力
  - ・複眼的な広い視野を養う。
  - ・社会的変化、自己を取り巻く環境変化への対応力を養う。
  - ・過去にとらわれない自由な発想力を養う。
- G. 自己実現力
  - ・自己の適性を把握し伸ばす力を養う。
  - ・社会の未来像と自己の将来像を見通す力を養う。
  - ・自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲を養う。

## ②専門科目の履修について

専門科目は、地域文化学科配当表と履修モデルを参照し、年次ごとのバランスを考慮して履修するようにしてください。配当表の\*は隔年開講科目です。年度毎に開講・不開講が変わるので、よく考えて受講計画を立ててください。

### 【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

#### (1) 全学共通科目 (30 単位以上)

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B)第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C)人間学から 8 単位以上 (必修 2 単位を含む)

(D)地域基礎から 4 単位以上 (必修 2 単位を含む)

#### (2) 専門科目 (100 単位以上)

(A)次頁以降の科目配当表に指定する◎印の必修科目 19 単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目 5 単位以上 (註 1)

●印の科目から 2 単位以上、▽印の科目から 2 単位以上、□印の科目から 1 単位以上

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 7 6 単位以上 (註 2)

(註 1) 選択必修科目で 5 単位を超えて取得した単位については、選択科目として卒業要件単位に算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目から 10 単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。また、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、所属する学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

### 【卒業研究・論文履修要件】

地域文化演習Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。

### 【卒業研究審査基準】

地域文化演習Ⅲ・Ⅳ(ゼミ)の担当教員を主査とし、学科教員(論文の主題に応じて)2名を副査とする審査委員が熟読したうえで、口頭試問を実施し、下に示す基準に照らし合わせて可否を判断し、学科会議において最終的に可否決定をする。

- ① 20,000 字を基本とする。
- ② 研究目的が明確であること。
- ③ 研究方法が妥当であること。
- ④ 目的達成のための調査量が十分であること。
- ⑤ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
- ⑥ 卒業論文としての体裁が整っていること。
- ⑦ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

地域文化学科 カリキュラム・マップ

区分	授業科目名	単位数	必修・選択	学年・学期	学位授与方針との対応				
					A	B	C	D	E
人間学	人間探求学	2	必修	1・前					◎
学 科 基 礎	日本文化論	2	選択	1,2・前	◎				
	日本社会論	2	選択	1,2・後	○	○			
	日本史概説	2	選択	1,2・前	◎	○			
	東洋史概説	2	選択	1,2・後	◎				
	考古学	2	選択	1,2・前	◎				
	地域と空間	2	選択	1,2・後	◎				
	民俗学	2	選択	1,2・後	◎				
	地域文化財論A	2	選択	1,2・前		◎			
	地域文化財論B	2	選択	1,2・後	◎				
	基層文化論	2	選択	1,2・後	◎				
	芸術学	2	選択	1,2・後	◎				
	人文地理学A	2	選択	1,2・後	◎				
	社会学概論	2	選択	1,2・前	○	○			
	地域研究論	2	選択	1,2・前	◎	○			
	地域計画概論	2	選択	1,2・前		◎	○		
	社会調査論	2	選択	1,2・前				○	
	現代中国論	2	選択	1,2・前	◎	○			
	世界遺産学概論	2	選択	1,2・前	◎	○			
	日本史料講読	2	選択必修	1,2・通	○			◎	
	漢文講読	2	選択必修	1,2・通				○	
	英書講読	2	選択必修	1,2・通	○			◎	
	地域文化基礎演習	1	必修	1・後	◎			◎	
	専 門 科 目	世界遺産学特論	2	選択	2,3・後	◎	○		
地域文化演習 I		2	必修	2・通	◎			◎	
比較文化論		2	選択	2,3・前	◎				
地域と行政		2	選択	2,3・後		◎			
近世近江論		2	選択	2,3・前	◎				
文化財・保存修景論A		2	選択	2,3・前		◎			
中国地域文化論		2	選択	2,3・後	◎	○			
朝鮮地域文化論		2	選択	2,3・前	◎				
文化人類学特論		2	選択	2,3・前	◎				
哲学概論A		2	選択	2,3・前		◎			
哲学概論B		2	選択	2,3・前		◎			
文化人類学概論		2	選択	2,3・後	◎				
西洋史概説		2	選択	2,3・前	◎				
地域と経済		2	選択	2,3・前		◎			
文化財情報論		2	選択必修	2,3・後				◎	
アジア文献講読A		2	選択必修	2,3・通				◎	
アジア文献講読B		2	選択必修	2,3・通				○	
アジア文献講読C		2	選択必修	2,3・通	○			◎	
美術史実習		1	選択必修	2,3・前			◎		
古文書演習 I		1	選択必修	2,3・後	○			◎	
質のデータ解析論		2	選択必修	2,3・後			○	○	
考古学実習 I		1	選択必修	2,3・前				◎	
考古学実習 II		1	選択必修	2,3・後				◎	
地域統計学 I		2	選択必修	2,3・前				◎	
地域統計学 II		2	選択必修	2,3・後				◎	
民俗学実習		1	選択必修	2,3・後			◎		
古文書演習 II		1	選択必修	2,3・前				◎	
地域計画実習	1	選択必修	2,3,4・後		◎	◎	◎		
美術史A	2	選択	2,3,4・前	◎					
美術史B	2	選択	2,3,4・前	◎					

人間文化学部

区分	授業科目名	単位数	必修・選択	学年・学期	学位授与方針との対応				
					A	B	C	D	E
専門科目	アジア社会論	2	選択	2, 3, 4・後	◎	○			
	人文地理学B	2	選択	2, 3, 4・後		◎			
	近江商人論	2	選択	2, 3, 4・後	○	◎			
	アジア交流論	2	選択	2, 3, 4・前	◎				
	日本文化史論A	2	選択	2, 3, 4・前	◎				
	日本文化史論B	2	選択	2, 3, 4・前	◎				
	文化社会学	2	選択	2, 3, 4・前	○	○			
	対外文化交流論A	2	選択	2, 3, 4・前	◎				
	対外文化交流論B	2	選択	2, 3, 4・後	◎				
	歴史的地域論	2	選択	2, 3, 4・前	○	◎			
	東アジア世界論	2	選択	2, 3, 4・後	◎				
	社会調査方法論	2	選択	2, 3, 4・後				○	
	国際社会論	2	選択	2, 3, 4・前	○				
	社会学史	2	選択	2, 3, 4・前	○				
	地域考古学A	2	選択	2, 3, 4・前	◎				
	地域考古学B	2	選択	2, 3, 4・後	◎				
	地域考古学C	2	選択	2, 3, 4・前	◎				
	地域考古学D	2	選択	2, 3, 4・後	◎				
	中世近江論	2	選択	2, 3, 4・後	◎				
	地域文化演習Ⅱ	2	必修	3・通		◎		◎	
	考古学特論A	2	選択	3, 4・後	◎				
	考古学特論B	2	選択	3, 4・後	◎				
	文化財・保存修景論B	2	選択	3, 4・後		◎			
	民俗学特論	2	選択	3, 4・後		◎			
	現代ジャーナリズム論	2	選択	3, 4・後	○				
	博物館展示論	2	選択	3, 4・後		◎			
	博物館経営論	2	選択	3, 4・前		◎			
	日本・地域交流特論	2	選択	3, 4・後	◎				
	地域経済史論	2	選択	3, 4・後	○	◎			
	中国地域文化特論	2	選択	3, 4・前	◎				
	朝鮮地域文化特論	2	選択	3, 4・前	◎				
地誌学	2	選択	3, 4・前		◎				
自然地理学	2	選択	3, 4・前	○					
社会変動論	2	選択	3, 4・後	○					
地域社会調査実習	1	選択必修	3, 4・通			○	○		
地域文化演習Ⅲ	1	必修	4・前/(後)			◎	◎		
地域文化演習Ⅳ	1	必修	4・(前)/後			◎	◎		
卒業研究・論文Ⅰ	4	必修	4・前/(後)			◎	◎	◎	
卒業研究・論文Ⅱ	4	必修	4・(前)/後			◎	◎	◎	

◎…関連が深い科目

○…関係する科目

学位授与方針	授業科目名				
	1年	2年	3年	4年	
A	日本史概説	中世近江論 / 近世近江論 日本文化史論A・B			
	日本文化論	美術史A・B	日本-地域交流特論		
	芸術学		考古学特論A・B		
	考古学	地域考古学A・B・C・D			
	地域文化財論B / 基層文化論				
	地域と空間 / 民俗学				
	世界遺産学概論				
	東洋史概説	世界遺産学特論 比較文化論 東アジア世界論 / アジア社会論 / アジア交流論 対外文化交流論A・B 朝鮮地域文化論 朝鮮地域文化特論 中国地域文化論			
	現代中国論		中国地域文化特論		
	社会学概論		社会変動論		
	日本社会論	社会学史 / 文化社会学 / 国際社会論			
	地域研究論		現代ジャーナリズム論		
	人文地理学A		自然地理学		
		文化人類学概論 / 文化人類学特講 西洋史概説			
	B		近江商人論 歴史的地域論		
		地域文化財論A	地域経済史論 文化財・保存修景論B		
			文化財・保存修景論A	民俗学特論	
		地域計画概論	地域と経済 / 地域と行政 人文地理学B 哲学概論A・B	地誌学	
				博物館経営論 / 博物館展示論	
		C	環琵琶湖文化論実習	美術史実習 民俗学実習	
				地域社会調査実習	
D		日本史料 / 漢文 / 英書講読	古文書演習 I・II 考古学実習 I・II 文化財情報論 アジア文献講読A・B・C		
		社会調査論	地域計画実習 質的データ解析論 社会調査方法論 地域統計学 I・II		
	地域文化基礎演習	地域文化演習 I	地域文化演習 II	地域文化演習 III・IV	
	人間探求学			卒業研究・論文 I・II	
E	人間探求学				

人間文化学部

【ゼミ別・履修が望ましい科目等一覧】

3年次配当の地域文化演習Ⅱ、4年次配当の地域文化演習Ⅲ・Ⅳは、教員個人（グループの場合もある）が担当するいわゆるゼミにあたります。3年次・4年次は、いずれかのゼミに所属することになります。

ここでは、各ゼミがどのような専門分野を扱うのか、またそのゼミに入るにはどのような科目を履修しておくべきかを示します。ゼミ配属希望者が上限（7名）を超えた場合、人数調整の際にこれらの科目の履修状況を考慮するので、所属したいゼミに即して計画的に履修してください。

<参考>2026（令和8）年度の開設研究室一覧

教員名	専門分野	履修すべき科目
市川 秀之	民俗学	
亀井 若菜	日本美術史	
京楽 真帆子	日本前近代の文化史	
東 幸代	日本近世史、地域史、古文書	日本史料講読・近世近江論を履修済みであること。
佐藤 亜聖	日本考古学	考古学を履修済みであること。考古学実習Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。
塚本 礼仁	人文地理学	人文地理学A、人文地理学Bを履修済みであること。
石川 慎治	保存修景計画、集落研究	地域文化財論A・B、文化財情報論を履修済みであることが望ましい。
萩原 和	地域計画学	地域計画概論、地域と行政の両方を履修済みであること。
横田 祥子	文化人類学、現代中国論	現代中国論と中国地域文化論のいずれかを履修済みであること。
櫻井 悟史	社会学	質的データ解析論を履修済みであること。また、社会学概論・文化社会学・日本社会論のいずれかを履修していることが望ましい。
金 宇大	世界遺産学、東アジア考古学	世界遺産学特論を履修済みであること。また、考古学実習Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。
李 咳鎮	東アジア国際関係史	東洋史概説または対外文化交流論Aを履修済みであることが望ましい。
高木 純一	日本中世史	歴史的地域論、中世近江論のいずれかを履修済みであること。

※市川、亀井は令和8年度末、京楽は令和9年度末退職予定。後任については未定

地域文化学科

2026 (令和8) 年度入学生用【標準年次別 科目配当表】

区分	1年次	2年次		
全学 共通 科目	◎英語ⅠA	1前	◎英語ⅢA	1前
	◎英語ⅠB	1後	◎英語ⅢB	1後
	◎英語ⅡA	1前	◎英語ⅣA	1前
	◎英語ⅡB	1後	◎英語ⅣB	1後
	○第二外国語ⅠA※1	1前	○第二外国語ⅡA※1	1前
	○第二外国語ⅠB※1	1後	○第二外国語ⅡB※1	1後
◎情報リテラシー (情報倫理を含む)	2前	◎健康・体力科学Ⅱ	1前	
◎情報科学概論	2後			
◎健康・体力科学Ⅰ	1後			
Intermediate Academic English	1前	Advanced Academic English I	2後	
		Advanced Academic English II	2後	
人間学	4年間で8単位以上 (人間探求学は1年次必修)			
地域基礎	4年間で4単位以上 (地域共生論は1年次必修)			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分	1年次	2年次		
専門 科目	学部 共通 基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習 ◎ 人間文化論A ● 人間文化論B ● 人間文化論C	2通 2前 2後 2後	
	複数学科 共通	統計学基礎	2前	
	学科 基礎	演習	◎ 地域文化基礎演習	1後
		講義	日本文化論	2前
			日本社会論	2後
			日本史概説	2前
			東洋史概説	2後
	考古学	2前		
	地域と空間	2後		
	民俗学	2後		
	*1 地域文化財論A	2前		
	地域文化財論B	2後		
講読	▽ 日本史料講読 ▽ 漢文講読	2通 2通	▽ 英書講読 2通	
講義	学科 専門	世界遺産学特論	2後	
		比較文化論	2前	
		哲学概論A	2前	
		*1 哲学概論B	2前	
		文化人類学概論	2後	
		西洋史概説	2前	
		□ 文化財情報論	2後	
		地域と経済	2前	
		*2 美術史A	2前	
		*1 美術史B	2前	
*2 アジア社会論	2後			
人文地理学B	2後			
近江商人論	2後			
*1 アジア交流論	2前			
*1 日本文化史論A	2前			
*2 日本文化史論B	2前			
中世近江論	2後			
実習		□ アジア文献講読A	2通	
		□ アジア文献講読B	2通	
		□ アジア文献講読C	2通	
		□ 美術史実習	1前	
演習		□ 地域計画実習(2,3,4年次)	1後	
		□ 古文書演習Ⅰ	1後	
		◎ 地域文化演習Ⅰ	2通	

● : 選択必修 (この中から2単位以上履修)

▽ : 選択必修 (この中から2単位以上履修)

□ : 選択必修 (この中から1単位以上履修)

○ : 選択必修 (第二外国語 4単位以上)

		3年次		4年次	
全学 共通基礎	リスニング(中級)	2	前	Essay Writing	2 後
	リーディング(中級)	2	後	English for Business	1 前
	Integrated English	2	前	English in Media	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2	前	実用英語演習 I B	1 後
	実用英語演習 I A	1	前		
	Lecture and Discussion in English	2	後		
	Academic Lectures in English	2	後		
人間学					
地域基礎					

\*1：隔年開講 奇数年度開講

\*2：隔年開講 偶数年度開講

		3年次		4年次	
学部 共通 基礎					
複数学科 共通					
学科 基礎	演習				
	講義				
	講読				
学科 専門	講義	地域と行政	2 後		
		近世近江論	2 前		
		*2 文化財・保存修景論 A	2 前		
		中国地域文化論	2 後		
		*2 朝鮮地域文化論	2 前		
	文化人類学特論	2 前			
	<input type="checkbox"/> 質的データ解析論	2 後			
	文化社会学	2 前	*1 国際社会論	2 後	
	*1 対外文化交流論 A	2 前	*2 社会学史	2 前	
	*2 対外文化交流論 B	2 後	*2 地域考古学 A	2 前後	
歴史的地域論	2 前	*2 地域考古学 B	2 後		
*2 東アジア世界論	2 後	*1 地域考古学 C	2 前後		
社会調査方法論	2 後	*1 地域考古学 D	2 後		
<input type="checkbox"/> 地域統計学 I	2 前				
<input type="checkbox"/> 地域統計学 II	2 後				
*2 考古学特論 A	2 後	*1 地域経済史論	2 後		
*1 考古学特論 B	2 後	*2 中国地域文化特論	2 前		
*1 文化財・保存修景論 B	2 後	朝鮮地域文化特論	2 前		
民俗学特論	2 後	地誌学	2 前		
博物館展示論	2 後	自然地理学	2 前後		
博物館経営論	2 前	*1 社会変動論	2 後		
日本・地域交流特論	2 後	*1 現代ジャーナリズム論	2 後		
実習	<input type="checkbox"/> 考古学実習 I	1 前			
	<input type="checkbox"/> 考古学実習 II	1 後			
	<input type="checkbox"/> 民俗学実習	1 後			
	<input type="checkbox"/> 地域社会調査実習(3,4年次)	1 通			
演習	<input type="checkbox"/> 古文書演習 II	1 前			
	◎ 地域文化演習 II	2 通	◎ 地域文化演習 III	1 前 / 後	
			◎ 地域文化演習 IV	1 前 / 後	
		◎ 卒業研究・論文 I	4 前 / 後		
		◎ 卒業研究・論文 II	4 前 / 後		

\*「地域文化演習Ⅲ」の修得後に、「地域文化演習Ⅳ」を履修できる。同時履修は不可。

\*「卒業研究・論文Ⅰ」の修得後に、「卒業研究・論文Ⅱ」を履修できる。同時履修は不可。

人間文化学部

2026 (令和8) 年度以降入学生用 地域文化学科 専門科目履修モデル

地域文化学科の科目は、大きく歴史系、地域遺産系、交流系、現代社会系の4つの系に分かれています。それぞれの履修を考えるとよいでしょう。ただし各自の関心に合わせて他の系の科目も履修してください。

区分	歴史系	地域遺産系	交流系	現代社会系	(通分野的科目)
学部共通基礎	実習 (1年次) 必修	◎環境遺産文化論実習			
	講義 (1年次) 必修	◎人間文化論A			
	講義 (1年次) 選択必修科目以上	●人間文化論B、●人間文化論C			
	講義 (1年次) 必修	◎地域文化基礎			
履修教科共通	演習 (1年次) 必修	◎地域文化基礎演習			
	講義 (1,2年次) 選択必修1科目以上	▽漢文講義		▽英書講義	
学科基礎	講義 (1,2年次)	考古学 地域と空間 民俗学 地域文化財論A 地域文化財論B 基層文化論	世界遺産学概論 東洋史概説 現代中国論	日本社会論 人文地理学A 社会学概論 地域研究論 地域計画概論 社会調査論	
	演習 (2年次) 必修	◎地域文化演習I			
履修 (3年次) 必修	演習 (3年次) 必修	◎地域文化演習II			
	演習 (4年次) 必修	◎地域文化演習III/IV	◎卒業研究・論文I・II		
実習 (2,3年次) 選択必修1単位以上	◎地域文化演習I	◎地域文化演習II	◎地域文化演習III/IV		
	◎地域文化演習I ◎地域文化演習II ◎美術史実習	◎地域文化演習I ◎地域文化演習II ◎文化財情報論 ◎民俗学実習	◎地域文化演習I ◎地域文化演習II ◎アジア文獻講義A ◎アジア文獻講義B ◎アジア文獻講義C	◎地域統計学I ◎地域統計学II ◎質的データ解析論 ◎地域計画実習 ◎地域社会調査実習 (2,3,4年次配当) ◎地域社会調査実習 (3,4年次配当)	哲学概論A 哲学概論B 文化人類学概論 西洋史概説 文化人類学特論
講義 (2,3年次)	近世近江論	文化財・保存修養論A	中国地域文化論 朝鮮地域文化論 世界遺産学特論 比較文化論	地域と経済 地域と行政	
	日本文化史論A 日本文化史論B 歴史的地域論 美術史A 美術史B 近江商人論 近世近江論 日本・地域交流特論 地域経済史論	地域考古学A 地域考古学B 地域考古学C 地域考古学D 考古学特論A 考古学特論B 文化財・保存修養論B 民俗学特論	アジア交流論 対外文化交流論A 対外文化交流論B 東アジア世界論	人文地理学B 文化社会学 社会調査方法論 国際社会学 社会学史	
講義 (2,3,4年次)					
講義 (3,4年次)					
学科専門					

## (2) 生活デザイン学科

### ①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

#### ■学位授与方針

- A. 生活環境を構成する住居・道具・服飾・構想の各分野について、基礎から実践に至るまでの知識と理論を理解することができる。(知識・理解)
- B. 演習科目を通して、自分の専攻する分野のデザインスキルを身に付ける。(技能・技術)
- C. 生活環境、生活様式に関わる問題を発見し、具体的な方法論により、分析・考察し、解明・解決・提案できる。(思考・判断)
- D. 生活環境の中のデザインや地域におけるデザインについて関心を持ち、大学で学んだことをもとに、それを改善しようとする態度を持つ。(興味・関心)
- E. 自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章や、制作物の形で表現する事ができる。(技能)

#### ■教育課程の編成・実施方針

生活デザイン学科では、人々の様々な生活シーンに関連する種々の問題を深く洞察し、研究分析を根拠とする実践的なデザイン発想を以て解決・提案のできる人材を育成することを目的としている。その目的を達成するために、生活デザイン学に関する科目を教授するための課程を、以下のカテゴリーに分けて編成している。

#### <人間文化学部全体の共通科目>

人間文化に関する科学的知見と、実践的な調査・分析手法を学ぶ。

#### <複数学科の共通科目>

専門分野に留まらない、幅広い視点から物事を考察するための知見を学ぶ。

#### <本学科の学生を対象とする科目>

当該科目は、生活環境の構成に密接に関連する以下の4分野で大別される。また、4分野をまたぐ科目が配当されている。

##### (a) 住居系：

住空間には、安全性、利便性、社会的公共性など様々な配慮が必要である。人の生活空間である住居および公共空間のインテリアを含むデザインについて、これを実践する為の技術と知識を身につける。

##### (b) 道具系：

人がその生活を支えるために使う工作物（モノ、プロダクト、製品）を道具と定義し、これらのデザインを具体的に実践する為に必要な技術と知識を身につける。

##### (c) 服飾系：

着衣基体としての人体と、自然、社会、文化に広く関わる服飾について、自らの感性を活かして主体的にデザインを行うために必要な技術と知識を身につける。

##### (d) 構想系：

より良い生活や社会の姿を描き、それらを実現する具体的な仕組みをデザインするために必要な技術と知識を身につける。

## ②専門科目の履修について

### 【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

#### (1)全学共通科目 (30 単位以上)

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B)第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修  
ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C)人間学(「比較住居論」を除く)から 8 単位以上(必修 2 単位を含む)。

(D)地域基礎から 4 単位以上(必修 2 単位を含む)。

#### (2)専門科目 (100 単位以上)

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 23 単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から 12 単位以上(註 1)

●印から 2 単位以上、□印から 10 単位以上(住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習、構想デザイン演習のいずれかのⅠ～Ⅲを必修とする)(註 2)

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 65 単位以上(註 3)

(註 1) 選択必修科目で 12 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

(註 2) 生活デザイン論演習Ⅰおよび生活デザイン論演習Ⅱは、原則として、専門演習(住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習、構想デザイン演習)で履修した分野の研究室に配属される。

(註 3) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から 10 単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。

なお、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

### 【卒業研究・制作/論文着手要件】

生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。原則として卒業単位を 110 単位以上修得していること。

### 【卒業研究等審査基準】

1 卒業研究(卒業論文・卒業制作)は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的と研究計画の妥当性
- (2) テーマの新規性・学術性・社会性
- (3) 研究方法の的確性・独創性
- (4) 研究内容の論拠(実験・調査データ・文献資料等)の客観性・実証性
- (5) 論理構成および結論(表現)の妥当性、制作の場合は加えて完成度
- (6) プレゼンテーションの技法と質疑応答能力

- 2 卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
- 3 1および2による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

### 【科目履修上の注意】

専門科目は、人間文化学部全体の共通科目、複数学科の共通科目、本学科の学生を対象とする科目の3群から構成されている。学部共通の環境芸術湖文化論実習、人間文化論Aは必修科目である。複数学科共通科目として挙げられている科目は、人間生活のあり方を追求し、文化的な生活を創造する上で、基礎となる科目である。学科専門科目は、その内容から、(a)住居系、(b)道具系、(c)服飾系、(d)構想系の4分野に大別できる。また、4分野をまたぐ基礎的な科目が、主に1年次および2年次に配当されている。

#### (a) 住居系

住居は人の生活の器である。それは過酷な自然や災害から身を守り、快適な生活を人にもたらす。そして住居が集まって集落や都市ができ、コミュニティが形成され、人の社会活動が生まれる。従って住居には安全性、利便性はもちろんのこと、社会的公共性も強く求められる。そのため住居の計画・設計・建設においては家の構造や、自然の状況、生活の内容に対する豊かな知識と細やかな配慮が必要である。また住居を設計し表現するための実践的な知識、技術も必要である。それらを、講義科目および住環境設計演習を通して身につける。

#### (b) 道具系

人がその生活を支えるために使う技術的工作物（モノ、プロダクト、製品）が道具である。その道具というモノをデザインすることによって人は何かしらのコトを実現する。道具系の科目は、道具を企画・デザインし、広報・宣伝し、流通・販売する社会的行為について学ぶ講義科目と、そのデザインを具体的に実践するために必要な技術と知識を基礎から身につける演習科目で構成される。

#### (c) 服飾系

衣服は人体にとって最も身近な環境である。豊かな感性と論理的思考力、現場での実践力をあわせ持ち、快適で審美的な衣環境を見出すために、素材の基礎知識、衣服の管理、製品の製造と品質、流通・消費者問題に関する事項を学ぶとともに、服飾文化について造詣を深める。感性と専門知識を生かした主体的な服飾デザインを実践するために必要な問題点の分析、アイデアの創出、提案、評価のプロセスを学ぶための講義科目、演習で構成される。

#### (d) 構想系

良い生活や社会の姿を描き、既成概念にとらわれない新たな仕組みや生活価値を創出する。狭い意味でのモノ作りに限定することなく、ヒト・モノ・コトを組み合わせることで、より良い生活価値やビジョン、またそれらを実現する具体的な仕組みを構想する。現実社会からの要請に耐えうる構想デザインを実践するために、調査・分析、アイデア創出、コンセプト設計、プロポーザル、実施、効果検証のプロセスを重視する講義科目、演習で構成される。

上記の4つの科目群は扱う対象が異なり、対応する社会的職能も分かれるので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨選択が求められることになる。しかし、複数分野の科目を履修することによりデザインに関する幅広い知識・技能を得ることが可能である。

各科目群に関連した科目が他学部・他学科の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧める。ただし、同名の他学部・他学科科目は受講できない。環境・建築デザイン学科の「建築一般構造」、「木匠塾」、「構造計画」、「構造力学Ⅰ」は、生活デザイン学科の「一般構造」、「木匠塾」、「構造計画」、「構造力学Ⅰ」と同内容であるため受講できない。

生活デザイン学科 カリキュラムマップ

授業科目の名称	学年・学期	単位数			学位授与方針に対する関与の程度				
		必修	選択必修	選択	A	B	C	D	E
環琵琶湖文化論実習	1・通	2					○	○	○
人間探求学	1・前	2			○		○	○	
比較住居論	1・前			2	○				
デッサン法	1・前		1			○			
生活デザイン基礎演習	1・前	2				○			
社会調査論	1・前			2	○		◎		
デザイン思考	1・前			2			◎		○
こどもの健康(家庭看護を含む)	1,2・前			1	○				
こどもの発達(実習を含む)	1,2・前			1	◎				
食物学(調理実習を含む)	1,2・前			2	◎	○			
生活素材論	2・前			2	○				
色彩学	2・前			2	◎		○		
色彩学演習	2・後		1			◎	○	○	
消費科学Ⅰ	2・後			2	○				
消費科学Ⅱ	3・前			2	○				
生活経営概論	2,3・後			2	◎		○		
ソーシャルデザイン論	2・後			2	○		◎	○	
デジタルデザイン演習A	2・前		1			○			
デジタルデザイン演習B	2・後		1			○			
人間工学	2・後			2	○				
近代デザイン史	1・前			2	○				
生活デザイン論	2・後	2			○				
構造力学Ⅰ	3・後			2	○				
一般構造	2・前			2	○				
建築計画論	2・後			2	○				
インテリアコーディネート概説	2・前			2	○				
空間デザイン論	3・前			2	○				
構造計画	2・後			2	○				
服飾デザイン論	3・後			2	◎		○	○	
基礎設計製図	1・後	2				○			
住環境設計演習Ⅰ	2・前		2		○	◎			
住環境設計演習Ⅱ	2・後		2		○	◎			
住環境設計演習Ⅲ	3・前		2		○				
道具デザイン演習Ⅰ	2・前		2		◎	○		○	
道具デザイン演習Ⅱ	2・後		2		◎	○		○	○
道具デザイン演習Ⅲ	3・前		2		◎	○		○	○
服飾デザイン演習Ⅰ	2・前		2		◎	○		○	○
服飾デザイン演習Ⅱ	2・後		2		◎	○		○	○
服飾デザイン演習Ⅲ	3・前		2		◎	○		○	○
構想デザイン演習Ⅰ	2・前		2		◎	○		○	○
構想デザイン演習Ⅱ	2・後		2		◎	○		○	○
構想デザイン演習Ⅲ	3・前		2		◎	○		○	○
住環境論	3・後			2	◎		○		
服飾造形論	3・前			2	◎		○		
マーケティング論	1・後			2	○		◎		
タイポグラフィ	2・後			2	◎		○		○
人間工学実習	3・前			1	○	○	◎		
道具計画論	3・前			2	○				
現代産業デザイン論	3・前			2	○				
視覚伝達デザイン	3・後		2				○		
プロダクト素材論	3・後			2	◎		○		
建築法規	3・後			2	○				
基礎服飾デザイン	1・後	1			◎	○			
テキスタイルデザイン	2・後			1		○	◎		○
比較道具論	1・後			2	○				
比較衣装論	1・前			2	○				
服飾文化論	2・前			2	○				
社会調査方法論	2・後			2	○		◎		
プレゼンテーション技法	1・後			2	○				
行動デザイン論	3・前			2	○		◎		○
住居計画論	3・前			2	◎		○		
生活デザイン学外演習	1,2,3,4・通			2		○	○	○	○
木匠塾	1,2,3,4・通			2				○	○
生活デザイン論演習Ⅰ	3・前(後)	1			○	○		○	○
生活デザイン論演習Ⅱ	3・後(前)	3						○	○
卒業研究・制作/論文Ⅰ	4・前(後)	4			○	○		○	○
卒業研究・制作/論文Ⅱ	4・後(前)	4			○	○		○	○

人間文化学部

学位 授与 方針	配当学年									
	全学年 通年	1 年		2 年		3 年		4 年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A	基礎 住居 道具 服飾	こどもの健康		食物学	生活デザイン論					
		こどもの発達	プレゼンテーション技法		生活経営概論					
		近代デザイン史		色彩学	人間工学					
		比較住居論		一般構造	建築計画論	住居計画論	住環境論			
				インテリア コーディネート概説	構造計画	空間デザイン論	建築法規	構造力学Ⅰ		
		比較道具論			道具計画論	プロダクト 素材論				
					現代産業 デザイン論	視覚伝達 デザイン				
				タイポグラフィ						
				生活素材論	消費科学Ⅰ	消費科学Ⅱ				
		比較衣裳論		服飾文化論		服飾造形論	服飾デザイン論			
B	基礎 住居 道具 服飾 構想	デッサン法			テキスタイルデザイン					
		生活デザイン 基礎演習		デジタルデザイン演習A	デジタルデザイン演習B					
				住環境設計 演習Ⅰ	住環境設計 演習Ⅱ	住環境設計 演習Ⅲ				
			基礎設計 製図							
				道具デザイン 演習Ⅰ	道具デザイン 演習Ⅱ	道具デザイン 演習Ⅲ				
				基礎服飾 デザイン	服飾デザイン 演習Ⅰ	服飾デザイン 演習Ⅱ	服飾デザイン 演習Ⅲ			
		環琵琶湖文化論実習	構想デザイン 演習Ⅰ	構想デザイン 演習Ⅱ	構想デザイン 演習Ⅲ					
C	基礎 構想	社会調査論			社会調査方法論	人間工学実習				
		デザイン思考	マーケティング論		ソーシャルデザイン論	行動デザイン論				
D	生活デザイン 学外演習 木匠塾					生活デザイン 論演習Ⅰ				
E						生活デザイン 論演習Ⅱ	卒業研究・ 制作/論文Ⅰ	卒業研究・ 制作/論文Ⅱ		

生活デザイン学科

2026 (令和8) 年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		1 年次		2 年次	
全学 共通 科目	全学 共通基礎 ※2	◎英語ⅠA ◎英語ⅠB ◎英語ⅡA ◎英語ⅡB ○第二外国語ⅠA※1 ○第二外国語ⅠB※1 ◎情報リテラシー(情報倫理を含む) ◎情報科学概論 ◎健康・体力科学Ⅰ Intermediate Academic English	1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 2 前 2 後 1 後 1 前	◎英語ⅢA ◎英語ⅢB ◎英語ⅣA ◎英語ⅣB ○第二外国語ⅡA※1 ○第二外国語ⅡB※1 ○実用英語演習ⅠA ○実用英語演習ⅠB ◎健康・体力科学Ⅱ Advanced Academic EnglishⅠ Advanced Academic EnglishⅡ	1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 2 後
	人間学	4年間で8単位以上(人間探求学は1年次必修)			
	地域基礎	4年間で4単位以上(地域共生論は1年次必修)			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国入留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分		1 年次		2 年次	
学 部 共 通 基 礎	◎ 環琵琶湖文化論実習	2 通			
	◎ 人間文化論A ● 人間文化論B ● 人間文化論C	2 前 2 後 2 後			
	複数 学科共通	心理学基礎 統計学基礎 社会調査論	2 前 2 前 2 前		社会調査方法論 *1 生活経営概論
専 門 科 目	[生活デザインの視点] □ デッサン法 ◎ 生活デザイン基礎演習 プレゼンテーション技法 近代デザイン史	1 前 2 前 2 後 2 前		[生活デザインの視点] ◎ 生活デザイン論 人間工学 色彩学 □ 色彩学演習	2 後 2 後 2 前 1 後
	[住居・道具・服飾・構想デザイン] ◎ 基礎設計製図 ◎ 基礎服飾デザイン 比較住居論 比較道具論 比較衣装論 マーケティング論 デザイン思考	2 後 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後 2 前		[住居・道具・服飾・構想デザイン] □ デジタルデザイン演習A □ デジタルデザイン演習B テキストスタイルデザイン タイポグラフィ インテリアコーディネート概説 一般構造 建築計画論 構造計画 消費科学Ⅰ 生活素材論 服飾文化論 ソーシャルデザイン論 □ 住環境設計演習Ⅰ □ 住環境設計演習Ⅱ □ 道具デザイン演習Ⅰ □ 道具デザイン演習Ⅱ □ 服飾デザイン演習Ⅰ □ 服飾デザイン演習Ⅱ □ 構想デザイン演習Ⅰ □ 構想デザイン演習Ⅱ	1 前 1 後 1 後 2 後 2 前 2 後 2 後 2 前 2 前 2 後 2 前 2 後 2 前 2 後 2 前 2 後 2 後
	学科 専門	*1 食物学(調理実習を含む) *2 こどもの健康(家庭看護を含む) *2 こどもの発達(実習を含む)	2 前 1 前 1 前		木匠塾 生活デザイン学外演習

◎：必修

●：選択必修(この中から2単位以上履修)

□：選択必修(この中から10単位以上履修) ただし、住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習、構想デザイン演習のいずれかのⅠ～Ⅲを必修とする

○：選択必修(第二外国語 4単位以上)

人間文化学部

	3年次		4年次	
全学 共通基礎	リスニング (中級)	2 前	Essay Writing	2 後
	リーディング (中級)	2 後	English for Business	1 前
	Integrated English	2 前	English in Media	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2 前		
	Lecture and Discussion in English	2 後		
	Academic Lectures in English	2 後		
人間学				
地域基礎				

\*1 : 隔年開講 奇数年度開講

\*2 : 隔年開講 偶数年度開講

	3年次		4年次	
学部 共通 基礎				
複数 学科共通				
学科 専門	[生活デザインの視点] 人間工学実習	1 前		
	[住居・道具・服飾・構想デザイン] 住環境論	2 後		
	空間デザイン論	2 前		
	建築法規	2 後		
	構造力学 I	2 後		
	道具計画論	2 前		
	*2 現代産業デザイン論	2 前		
	<input type="checkbox"/> 視覚伝達デザイン	2 後		
	消費科学 II	2 前		
	服飾造形論	2 前		
	服飾デザイン論	2 後		
	行動デザイン論	2 前		
	プロダクト素材論	2 後		
住居計画論	2 前			
<input type="checkbox"/> 住環境設計演習 III	2 前			
<input type="checkbox"/> 道具デザイン演習 III	2 前			
<input type="checkbox"/> 服飾デザイン演習 III	2 前			
<input type="checkbox"/> 構想デザイン演習 III	2 前			
◎ 生活デザイン論演習 I	1 前(後)	◎ 卒業研究・制作/論文 I	4 前(後)	
◎ 生活デザイン論演習 II	3 後(前)	◎ 卒業研究・制作/論文 II	4 後(前)	

【生活デザイン学科履修モデル】

【専門科目の分類】		卒業研究・制作／論文				I前 学教科員 4年 必修		II後				
4年次		生活デザイン論演習Ⅰ 学教科員 3年前期 必修				生活デザイン論演習Ⅱ 学教科員 3年後期 必修						
■ 専攻科目 ○ 他学科・他学部 専攻科目	4年次	○建築生産施工 4年前期										
	3年次	■ 建築法規 3年後期	■ 構造力学Ⅰ 3年後期	■ プロダクト 素材論 3年後期	■ 服装伝達 デザイン 3年後期 選択必修	■ 服飾デザイン論 3年後期						
■ 生活デザイン 学分演習 1～4年通年	3年次	○文化財・保存修繕論 A 2・3年前期	■ 環境設計演習Ⅲ 3年前期 選択必修	■ 道具計画論 3年前期	■ 現代産業 デザイン論 3年前期	■ 服飾造形論 3年前期						
		■ 生活発想論 2・3年後期	■ 空間デザイン論 3年前期	■ 住居計画論 3年前期	■ 道具デザイン演習Ⅲ 3年前期 選択必修	■ 消費科学Ⅱ 3年前期	■ 服飾デザイン演習Ⅲ 3年前期 選択必修	■ 構想デザイン 演習Ⅲ 3年前期 選択必修	■ 行動デザイン論 3年前期			
■ 不匠塾 1～4年通年	2年次	■ 人間工学 2年後期	■ デジタルデザイン 演習B 2年後期 選択必修	■ 構想計画 2年後期	■ 色彩学演習 2年後期 選択必修	■ 住環境設計 演習Ⅱ 2年後期 選択必修	■ 道具デザイン 演習Ⅱ 2年後期 選択必修	■ 消費科学Ⅰ 2年後期	■ 服飾デザイン 演習Ⅱ 2年後期 選択必修	■ ソーシャルデ ザイン論 2年後期		
		■ 生活デザイン論 2年後期 必修	■ 社会調査 方法論 2年後期	■ 建築計画論 2年後期	■ 建築文化財論B 2・3年後期	■ インテリアコー ンデザイン 2年前期	■ タイポグラ フィ 2年後期	■ ネクスタイル デザイン 2年後期	■ 消費科学Ⅰ 2年後期	■ 服飾デザイン 演習Ⅰ 2年後期 選択必修	■ 構想デザイン 演習Ⅱ 2年後期 選択必修	
1年次	2年次	■ 生活学 2年前期	■ デジタルデザイン演習A 2年前期 選択必修	■ 住環境設計 演習Ⅰ 2年前期 選択必修	■ 一般構造 2年前期	■ 道具デザイン 演習Ⅰ 2年前期 選択必修	■ 服飾デザイン 演習Ⅰ 2年前期 選択必修	■ 服飾文化論 2年前期	■ 服飾デザイン 演習Ⅱ 2年前期	■ 構想デザイン 演習Ⅰ 2年前期 選択必修		
		■ 物理学(調理 装置を含む) 1・2年前期	■ 食物学 1・2年前期	■ 近代デザイン史 1年前期	■ プレゼンテーション技法 1年後期	■ 基礎設計概図 1年後期 必修	■ 比較芸術論 1年前期	■ 基礎服飾デザイン 1年後期 必修	■ 基礎文化論 1年後期 必修	■ 基礎芸術 文化論実習 1年通年 必修	■ マークアップ 論 1年後期	
フィードワー ク	1年次	■ 社会学調査論 1年前期	■ デザイン法 1年前期 選択必修	■ 生活デザイン 基礎演習 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ デザイン思考 1年前期		
		■ 社会学調査論 1年前期	■ デザイン法 1年前期 選択必修	■ 生活デザイン 基礎演習 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ 比較芸術論 1年前期	■ デザイン思考 1年前期	
		デザイン基礎			住居系		道具系		服飾系		構想系	



### (3) 生活栄養学科

#### ①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針について

##### ■学位授与方針

生活栄養学科は卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、生活栄養学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の人間文化学の学士を授与します。

- A. 栄養学に関する幅広い基礎的な知識を習得する。(知識・理解)
- B. 栄養学の視点からみた健康に関するさまざまな問題に対して大学で学んだ知識を基に科学的根拠をもって自らの見解を形成できる。(思考・判断)
- C. 実験、実習、演習などの実施教育を通して、明確な目的意識を持ち、自主的な学習姿勢を通じて独創的な思考力を習得する。(思考・判断)
- D. 現代社会が抱える栄養学の視点からみた健康に関する問題に対し、大学で学んだ事を基に解決しようとする態度を持つ。(興味・関心)
- E. 個々人の栄養状態を把握し、個々人に最適な栄養管理を行うことができる。(技能・技術)

##### ■教育課程の編成・実施方針

生活栄養学科は、DPを達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

- A 自然環境，社会，人間に関する理解および管理栄養士の役割に関する理解
  - A-1 自然環境，社会，人間について地球的視点や地域の視点、さまざまな立場から多面的に理解し、幅広く深い教養を身につける
  - A-2 人間の活動が人間・社会・自然に及ぼす影響および管理栄養士が社会に対して負っている責任について理解する能力および実践力を養う
- B 国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける
- C 栄養学の基礎となる幅広い分野について理解する
  - C-1 社会・環境の視点からみた健康について理解する
  - C-2 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて理解する
  - C-3 運動の視点からみた健康について理解する
  - C-4 食べ物の視点からみた健康について理解する
- D 専門分野に関する基礎学力を修得する
  - D-1 栄養学の基礎となる基礎栄養学、応用栄養学を理解する
  - D-2 栄養学の応用となる臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、スポーツ栄養学を理解する
  - D-3 講義で学んだ知識を実験、実習、演習を通してより具体的に理解し、栄養管理に応用できる能力を養成する
- E 大学で学んだ栄養学の知識と技術を臨地実習で活用することができる
- F 自分の意見を論理的に整理し相手に分かりやすく伝える力、相手の意見を聴き理解する力を養う
- G 自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力、継続的に自己啓発と学習を続けていく力を養う
- H 課題の解決への道筋を明らかにする力、目標に向け確実に行動する力を身につける

## ②専門科目の履修について

## 【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

## (1)全学共通科目 (30 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B)第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修  
ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C)人間学から 8 単位以上(必修 2 単位を含む)

(D)地域基礎から 4 単位以上(必修 2 単位を含む)

## (2)専門科目 (100 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 68 単位

(B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から 2 単位以上 (註 1)

●印から 2 単位以上

(C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 30 単位以上 (註 2)

(註 1) 選択必修科目で 2 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目のうち、すべての科目から 10 単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。

なお、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することができる。

## 【卒業研究・論文着手要件】

卒業研究・論文の着手(履修登録)時期は、原則として卒業予定年次の 4 月であるが、10 月着手(履修登録)も認めることがある。卒業および資格取得のために取得しなければいけない科目数・単位数が、卒業研究・論文Ⅰ、卒業研究・論文Ⅱ、生活栄養論演習Ⅱa、生活栄養論演習Ⅱb、管理栄養士総合演習を除き、講義科目相当で 10 科目(20 単位)\*以上ある場合は、卒業研究・論文Ⅰおよび生活栄養論演習Ⅱa の履修登録ができない。

\*実験・実習科目 1 科目(1 単位)は、講義科目 2 科目(4 単位)相当とする。

## 【卒業研究審査基準】

1 卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的と研究計画の妥当性
- (2) 研究内容の論拠の客観性・実証性
- (3) 卒業論文の完成度
- (4) プレゼンテーション技法と質疑応答能力
- (5) 研究に対する姿勢

2 卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 上記 1 ならびに 2 による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

生活栄養学科 カリキュラムマップ

区分	授業科目名	単位数	学年学期	学位授与方針に対する関与の程度				
				A	B	C	D	E
全学共通科目	人間学							
	人間探求学	2	1・前期			◎		
専攻科目	健康情報管理実習	1	1・前期	○		◎		
	社会福祉概論	2	1・後期	◎				
	基礎栄養学Ⅰ	2	1・後期	○	◎			
	栄養生化学	2	1・前期	◎				
	食品学総論	2	1・前期	◎				
	食品機能科学	2	1・後期	◎				
	食品基礎実験	1	1・後期		○	◎		
	嗜好と調理実習Ⅰ	1	1・後期		○	◎		
	生体の構造と機能	2	1・後期	◎				
	分子生物学基礎	2	1・前期	◎				
	臨床栄養活動論	2	1・後期	○	◎			
	天然物化学基礎	2	1・前期	◎				
	食品微生物学	2	1・後期	○	◎			
	基礎栄養学Ⅱ	2	2・前期	○	◎			
	応用栄養学Ⅰ	2	2・前期	○	◎			
	運動と健康	2	2・前期	◎				
	栄養教育論Ⅰ	2	2・前期	○	◎			
	栄養教育論Ⅱ	2	2・後期	○	◎			
	栄養教育論Ⅲ	2	3・前期	○	◎			
	栄養生化学実験	1	2・前期		○	◎		
	食品機能科学実験	1	2・後期		○	◎		
	嗜好と調理実習Ⅱ	1	2・前期		○	◎		
	公衆衛生学	2	2・前期	◎				
	食品の調理と加工	2	2・前期	◎				
	疾病の成り立ちⅠ	2	2・前期	◎				
	疾病の成り立ちⅡ	2	2・後期	◎				
	疾病の成り立ちⅢ	2	3・前期	◎				
	臨床栄養学Ⅰ	2	2・後期	○	◎			
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	2・後期		○	○		◎
	食品衛生学	2	2・後期	◎				
	生命科学と人間	2	3・後期	◎	○		○	
	公衆栄養学	2	3・前期	○	◎			
	栄養疫学論	2	3・後期	○	◎			
	公衆栄養学実習	1	3・後期		○	○		◎
	応用栄養学Ⅱ	2	2・後期	○	◎			○
	スポーツ栄養学	2	3・後期	○	◎			
	基礎栄養学実験	1	3・後期		○	◎		
	食品加工実習	1	3・前期		○	◎		
	応用栄養学実習	1	3・前期		○	◎		◎
	栄養生理学実習	1	3・前期		○	◎		
	病態生理学実習	1	3・後期		○	◎		
	臨床栄養学Ⅱ	2	3・前期	○	◎			
	臨床栄養学Ⅲ	2	3・後期	○	◎			
	臨床栄養学実習Ⅱ	1	3・前期		○	○		◎
	栄養教育論実習	1	3・前期		○	○		◎
	給食経営管理論Ⅰ	2	2・後期	○	◎			
	給食経営管理論Ⅱ	2	3・前期	○	◎			
給食経営管理実習	1	3・前期		○	○		◎	
給食衛生管理実習	1	2・後期		○	◎			
食品衛生学実験	1	3・後期		○	◎			
地域保健臨地実習	1	3・前期	○	○	◎	◎	◎	
臨床栄養臨地実習Ⅰ	1	3・前期	○	○	◎	◎	◎	
臨床栄養臨地実習Ⅱ	1	3・前期	○	○	◎	◎	◎	
給食経営管理臨地実習	1	3・前期	○	○	◎	◎	◎	
臨地実習事前事後指導(2回生)	1	2・後期	○	○	◎	◎	◎	
臨地実習事前事後指導(3回生)	1	3・通年	○	○	◎	◎	◎	
専門外書講義	2	3・後期	◎					
生活栄養論演習Ⅰ	1	3・後期		◎	◎	◎		
管理栄養士総合演習	1	4・後期	○	◎	◎	◎		
生活栄養論演習Ⅱa	1	4・前期		◎	◎	◎	◎	
生活栄養論演習Ⅱb	1	4・後期		◎	◎	◎	◎	
卒業研究・論文Ⅰ	4	4・前期	◎	◎	◎	◎	◎	
卒業研究・論文Ⅱ	4	4・後期	◎	◎	◎	◎	◎	

◎は各項目と関係の深い科目

○は各項目と関係する科目

人間文化学部



生活栄養学科

2026 (令和8) 年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分	1年次	2年次		
全学 共通 目	◎英語ⅠA	1 前	◎英語ⅢA	1 前
	◎英語ⅠB	1 後	◎英語ⅢB	1 後
	◎英語ⅡA	1 前	◎英語ⅣA	1 前
	◎英語ⅡB	1 後	◎英語ⅣB	1 後
	○第二外国語ⅠA※1	1 前	○第二外国語ⅡA※1	1 前
	○第二外国語ⅠB※1	1 後	○第二外国語ⅡB※1	1 後
	◎情報リテラシー (情報倫理を含む)	2 前	◎実用英語演習ⅠA	1 前
	◎情報科学概論	2 後	◎実用英語演習ⅠB	1 後
	◎健康・体力科学Ⅰ	1 後	◎健康・体力科学Ⅱ	1 前
	Intermediate Academic English	1 前	Advanced Academic EnglishⅠ	2 後
		Advanced Academic EnglishⅡ	2 後	
人間学	4年間で8単位以上 (人間探求学は1年次必修)			
地域基礎	4年間で4単位以上 (地域共生論は1年次必修)			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分	1年次	2年次		
学部 共通 基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習	2 通		
	◎ 人間文化論A ● 人間文化論B ● 人間文化論C	2 前 2 後 2 後		
複数 学科共通	統計学基礎	2 前		
専門 科目	[社会と健康] 健康情報管理実習※ 社会福祉概論*	1 前 2 後	[栄養と健康] ◎ 基礎栄養学Ⅱ* ◎ 応用栄養学Ⅰ* ◎ 応用栄養学Ⅱ* ◎ 栄養生化学実験*	2 前 2 前 2 後 1 前
	[栄養と健康] ◎ 基礎栄養学Ⅰ* ◎ 栄養生化学* 天然物化学基礎	2 後 2 前 2 前	[食べ物と健康] ◎ 食品機能科学実験* 食品の調理と加工* 嗜好と調理実習Ⅱ*	1 後 2 前 1 前
	[食べ物と健康] ◎ 食品学総論* ◎ 食品機能科学* ◎ 食品基礎実験* ◎ 嗜好と調理実習Ⅰ* 食品微生物学	2 前 2 後 1 後 1 後 2 後	[疾病と健康] ◎ 運動と健康* 公衆衛生学* ◎ 疾病の成り立ちⅠ* ◎ 疾病の成り立ちⅡ※	2 前 2 前 2 前 2 後
	[疾病と健康] ◎ 生体の構造と機能* 分子生物学基礎※ ◎ 臨床栄養活動論※	2 後 2 前 2 後	[臨床の栄養] ◎ 臨床栄養学Ⅰ* ◎ 臨床栄養学実習Ⅰ*	2 後 1 後
	学科		[教育と健康] ◎ 栄養教育論Ⅰ* ◎ 栄養教育論Ⅱ*	2 前 2 後
	専門		[給食経営の管理] ◎ 食品衛生学* ◎ 給食経営管理論Ⅰ* ◎ 給食衛生管理実習*	2 後 2 後 1 後
			[臨地実習] 臨地実習事前事後指導 (2回生) ※	1 後

◎ : 必修 ● : 選択必修 (この中から2単位以上履修)

人間文化学部

	3年次	4年次		
全学 共通基礎	リスニング (中級)	2 前	Essay Writing	2 後
	リーディング (中級)	2 後	English for Business	1 前
	Integrated English	2 前	English in Media	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2 前		
	Lecture and Discussion in English	2 後		
	Academic Lectures in English	2 後		
人間学				
地域基礎				

科目名の後ろの\* は栄養士免許取得に必要な科目、  
 ※は管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な追加科目である。

	3年次	4年次
学部 共通 基礎		
複数 学科共通	生活経営概論 (奇数年開講)	2 後
学科 専門	[社会と健康] 生命科学と人間※ 2 後 ◎ 公衆栄養学* 2 前 栄養疫学論※ 2 後 ◎ 公衆栄養学実習* 1 後 [栄養と健康] スポーツ栄養学※ 2 後 ◎ 基礎栄養学実験* 1 後 [食べ物と健康] ◎ 食品加工実習* 1 前 [疾病と健康] 疾病の成り立ちⅢ※ 2 前 ◎ 応用栄養学実習* 1 前 栄養生理学実習※ 1 前 ◎ 病態生理学実習* 1 後 [臨床の栄養] ◎ 臨床栄養学Ⅱ* 2 前 臨床栄養学Ⅲ※ 2 後 ◎ 臨床栄養学実習Ⅱ* 1 前 [教育と健康] 栄養教育論Ⅲ(含カウンセリング論演習)※ 2 前 ◎ 栄養教育論実習* 1 前 [給食の管理] ◎ 給食経営管理論Ⅱ* 2 前 ◎ 給食経営管理実習* 1 前 ◎ 食品衛生学実験* 1 後 [臨地実習] 地域保健臨地実習※ 1 前 臨床栄養臨地実習Ⅰ※ 1 前 臨床栄養臨地実習Ⅱ※ 1 前 給食経営管理臨地実習* 1 前 臨地実習事前事後指導(3回生)※ 1 通 管理栄養士総合演習※ 1 後 ◎ 生活栄養論演習Ⅱa 1 前 ◎ 生活栄養論演習Ⅱb 1 後 ◎ 卒業研究・論文Ⅰ 4 前 ◎ 卒業研究・論文Ⅱ 4 後 専門外書講義 2 後 ◎ 生活栄養論演習Ⅰ 1 後	

○：選択必修(第二外国語 4単位以上)

## (4) 人間関係学科

### ①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

#### ■学位授与方針

本学科の専門科目群、全学共通教育科目群の履修および在学中の多様な活動を通じて、人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や地域をはじめとする社会のシステム構築に参加するための基礎的、専門的知見と技術を身につけているとともに、多様な立場や職種の人々と対話し、連携する主体としての諸力量を身につけていることが求められる。また、個人の生涯発達と社会の生成、発展のダイナミクスに関心をもち、問題状況を科学的に分析し、理解し、状況の改善に向けて論理的に判断、議論する能力が求められる。以下にも記すこれらの要件を満たした者には人間文化学部から学士（人間文化学）の学位が授与される。

#### A. 知識・理解

人間関係のあり方について心理学・教育学・社会学を中心とする幅広い知識を身につける。

#### B. 思考・判断

B-1 一対一の関係で起こる綿密なコミュニケーションを考える一方で、地域コミュニティなど、多様な社会集団で起こる複雑なコミュニケーションを考えることができる。

B-2 対人関係を短い時間単位で捉えるだけでなく、生涯にわたって発達していく関係として考えることができる。

#### C. 興味・関心

専門性に閉じこもることなく、隣接する分野に積極的な興味と関心を持ち、さまざまな分野の人びとと話し合う態度を身につける。

#### D. 技法・技術

D-1 人間関係を定量的／質的に分析するための技法を身につける。

D-2 多様な人間関係のあり方を議論することができ、それを口頭や文章で表現することができる。

#### E. 知識・理解、態度・倫理、思考・判断

人間の心身や自然・社会とのかかわりなどを学習し、国際的に通用するコミュニケーション能力や情報リテラシー・数量的スキル、地域課題の解決に必要な素養、態度などを身につけ、多様な現実的課題を解決できる能力を養う。

#### ■教育課程の編成・実施方針

本学科では、人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や地域をはじめとする社会のシステム構築に参加できる人間の養成をめざしている。心理学、教育学、社会学など人間関係論にかかわる各分野の関連専門科目が以下のようなカテゴリーに分けて配置され、学生はこれらを学ぶ。さらに学びの集大成として人間関係論にかかわるテーマで卒業研究にとりくみ、論文を作成する。

#### <学科基礎演習・実習科目>

基礎的な演習・実習を通して基本的なスキルや教養を身につける。

#### <学科専門講義科目>

専門的な講義を通して心理学、教育学、社会学をはじめ関連分野の知見を学ぶ。人間関係論をめぐる諸問題に関心を寄せ、視野を広げながら自分の興味を絞り込んでいく。

#### <学科専門演習・実習科目>

研究興味を重ねる教員、学生と共同調査や文献の輪読などを行う。少人数学習の場の活発な議論を通じて専門的な研究力量を養う。問題を発見し、解決するための手法を探る。プレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考のための力を少人数の演習・実習で身につける。

### <卒業研究・卒業論文>

個々人の問題意識にもとづいて設定した研究テーマに沿って、調査・実験・分析する。それらをまとめ、わかりやすく表現する技法を習得し、独創性と論理性を備えた卒業論文を完成させる。

## ②専門科目の履修について

### 【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

#### (1)全学共通科目 (30 単位以上)

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B)第二外国語として、ドイツ語 (I A～II B)、フランス語 (I A～II B)、中国語 (I A～II B)、朝鮮語 (I A～II B) のうちから 4 単位以上を選択必修

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C)人間学 (「比較住居論」を除く。) から 8 単位以上 (必修 2 単位を含む。)

(D)地域基礎から 4 単位以上 (必修 2 単位を含む。)

#### (2)専門科目 (100 単位以上)

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 17 単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から 10 単位以上 (註 1)

●印から 2 単位以上、□印から 8 単位以上

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 73 単位以上 (註 2)

(註 1) 選択必修科目で 10 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から 10 単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。

なお、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

### 【卒業研究・論文着手要件】

人間関係論基礎演習 (1 単位)、人間関係論演習 I (2 単位) を修得済みのこと。

### 【卒業研究審査基準】

1 卒業論文の提出を求める。論文は、以下の評価項目によって複数教員により審査する。

- (1) 研究テーマの新規性・独創性
- (2) 研究方法の妥当性
- (3) 研究内容の学術性
- (4) 研究内容の論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
- (5) 論文全体の構成力・論理性

2 論文とは別に、試問・発表会において複数教員との質疑応答を行い、その結果を評価する。

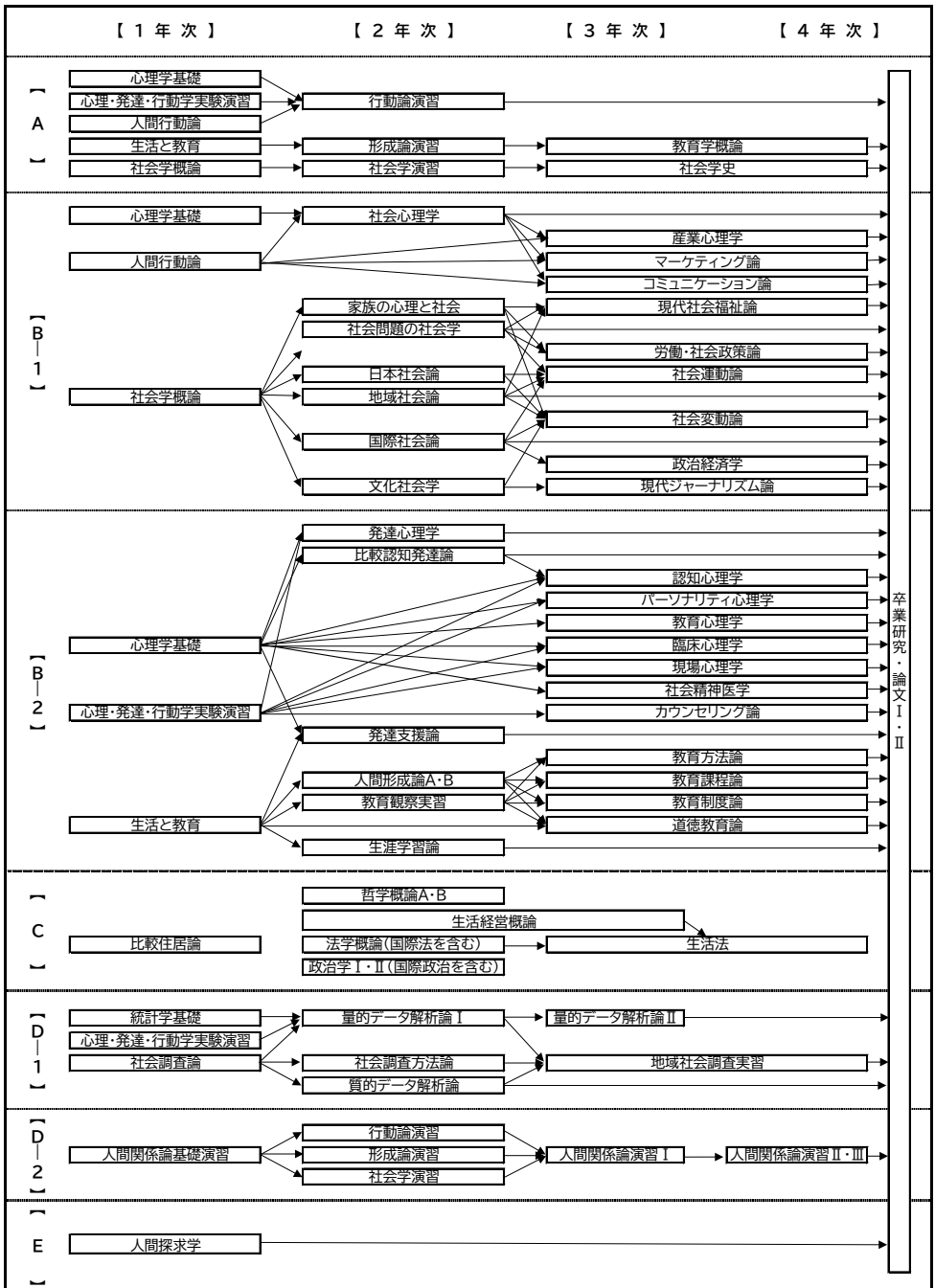
3 上記 1 および 2 による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

人間関係学科 カリキュラムマップ

科目	年次	区分	学位授与方針との対応							
			A	B-1	B-2	C	D-1	D-2	E	
人間探求学	1	全学共通								◎
心理学基礎	1	複数学科共通	◎	◎	◎					
統計学基礎	1	複数学科共通	○				◎			
生活経営概論	2・3	複数学科共通				◎				
心理・発達・行動学実験演習	1	学科専門	◎	◎	◎		◎	○		
人間行動論	1	学科専門	◎	◎	○					
比較住居論	1	学科専門				◎				
生活と教育	1	学科専門	◎	◎	○					
社会学概論	1	学科専門	◎	◎	◎					
人間関係論基礎演習	1	学科専門	○					◎		
社会調査論	1	学科専門	○				◎			
国際社会論	2	学科専門	○	◎	○					
日本社会論	2	学科専門	○	◎	○					
地域社会論	2	学科専門	○	◎	○					
哲学概論A	2	学科専門				◎				
哲学概論B	2	学科専門				◎				
社会問題の社会学	2	学科専門	○	◎	○					
発達心理学	2	学科専門	○	○	◎					
発達支援論	2	学科専門	○	○	◎					
人間形成論A	2	学科専門	○	○	◎					
人間形成論B	2	学科専門	○	○	◎					
比較認知発達論	2	学科専門	○	○	◎					
社会心理学	2	学科専門	○	◎	○					
生涯学習論	2	学科専門	○	○	◎					
教育観察実習	2	学科専門	○	○	◎		○	○		
法学概論(国際法を含む)	2	学科専門				◎				
政治学Ⅰ	2	学科専門				◎				
政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2	学科専門				◎				
文化社会学	2	学科専門	○	◎	○					
家族の心理と社会	2	学科専門	○	◎	○					
社会学演習	2	学科専門	◎	○	○			◎		
行動論演習	2	学科専門	◎	○	○		○	◎		
形成論演習	2	学科専門	◎	○	○			◎		
社会調査方法論	2	学科専門					◎			
量的データ解析論Ⅰ	2	学科専門					◎			
質的データ解析論	2	学科専門					◎			
社会学史	3・4	学科専門	◎	○	○					
社会変動論	3・4	学科専門	○	◎	○					
政治経済学	3・4	学科専門	○	◎	○					
マーケティング論	3・4	学科専門	○	◎	○					
教育心理学	3・4	学科専門	○	○	◎					
臨床心理学	3・4	学科専門	○	○	◎					
社会精神医学	3・4	学科専門	○	○	◎					
現場心理学	3・4	学科専門	○	○	◎					
教育学概論	3・4	学科専門	◎	○	○					
教育方法論	3・4	学科専門	○	○	◎					
認知心理学	3・4	学科専門	○	○	◎					
カウンセリング論	3・4	学科専門	○	○	◎			○		
パーソナリティ心理学	3・4	学科専門	○	○	◎					
道徳教育論	3・4	学科専門	○	○	◎					
コミュニケーション論	3・4	学科専門	○	◎	○					
現代ジャーナリズム論	3・4	学科専門	○	◎	○					
社会運動論	3・4	学科専門	○	◎	○					
労働・社会政策論	3・4	学科専門		◎			○			
現代社会福祉論	3・4	学科専門	○	◎	○					
産業心理学	3・4	学科専門	○	◎	○		○			
教育制度論	3・4	学科専門	○	◎	◎		○			
教育課程論	3・4	学科専門	○	◎	◎					
生活法	3・4	学科専門				◎				
地域社会調査実習	3・4	学科専門	○	○	○		◎			
量的データ解析論Ⅱ	3・4	学科専門					◎			
人間関係論演習Ⅰ	3	学科専門	○	○	◎	○	○	◎		
人間関係論演習Ⅱ	4	学科専門	○	○	◎	○	○	◎		
人間関係論演習Ⅲ	4	学科専門	○	○	◎	○	○	◎		
卒業研究・論文Ⅰ	4	学科専門	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
卒業研究・論文Ⅱ	4	学科専門	◎	◎	◎	◎	◎	◎		

注:◎関連が深い科目 ○関連する科目

人間文化学部



人間関係学科

2026 (令和8) 年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		1 年次		2 年次	
全学 共通科目	全学 共通基礎 ※2	◎英語ⅠA	1 前	◎英語ⅢA	1 前
		◎英語ⅠB	1 後	◎英語ⅢB	1 後
		◎英語ⅡA	1 前	◎英語ⅣA	1 前
		◎英語ⅡB	1 後	◎英語ⅣB	1 後
		○第二外国語ⅠA※1	1 前	○第二外国語ⅡA※1	1 前
		○第二外国語ⅠB※1	1 後	○第二外国語ⅡB※1	1 後
		◎情報リテラシー(情報倫理を含む)	2 前	◎健康・体力科学Ⅱ	1 前
		◎情報科学概論	2 後		
		◎健康・体力科学Ⅰ	1 後		
		Intermediate Academic English	1 前	Advanced Academic English Ⅰ	2 後
				Advanced Academic English Ⅱ	2 後
	人間学	4年間で8単位以上(人間探求学は1年次必修)			
	地域基礎	4年間で4単位以上(地域共生論は1年次必修)			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分		1 年次		2 年次	
専門 科目	学部 共通 基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習	2 通		
		◎ 人間文化論A	2 前		
	● 人間文化論B	2 後			
	● 人間文化論C	2 後			
	複数 学科共通	心理学基礎	2 前	*1 生活経営概論	2 後
		統計学基礎	2 後		
	専門 科目	[心理・発達・行動]		[社会・文化]	
		□ 心理・発達・行動学実験演習	2 通	*1 国際社会論	2 前
		人間行動論	2 前	日本社会論	2 後
		比較住居論	2 前	哲学概論A	2 前
		[集団・組織・人間関係]		*1 哲学概論B	2 前
		生活と教育	2 後	*1 社会問題の社会学	2 前
		[社会・文化]		*2 地域社会論	2 後
		社会学概論	2 前	[心理・発達・行動]	
				*1 発達心理学	2 前
				発達支援論	2 後
	学科 専門			*1 人間形成論A	2 後
				*2 人間形成論B	2 後
				*1 比較認知発達論	2 後
				[集団・組織・人間関係]	
				*2 社会心理学	2 前
				生涯学習論	2 前
				□ 教育観察実習	2 前
				法学概論(国際法を含む)	2 前
				政治学Ⅰ	2 後
				政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2 後
			文化社会学	2 後	
			*2 家族の心理と社会	2 後	
		[学科基礎および演習]		[学科基礎および演習]	
		◎ 人間関係論基礎演習	1 後	□ 社会学演習	2 通
		社会調査論	2 前	□ 行動論演習	2 通
				□ 形成論演習	2 通
				社会調査方法論	2 後
				□ 量的データ解析論Ⅰ	2 前
				質的データ解析論	2 後

●：選択必修(この中から2単位以上履修)

□：選択必修(この中から8単位以上履修)

	3年次		4年次	
全学 共通基礎	リスニング (中級)	2 前	Essay Writing	2 後
	リーディング (中級)	2 後	English for Business	1 前
	Integrated English	2 前	English in Media	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2 前	実用英語演習 IB	1 後
	実用英語演習 IA	1 前		
	Lecture and Discussion in English	2 後		
	Academic Lectures in English	2 後		
人間学				
地域基礎				

\*1：隔年開講 奇数年度開講

\*2：隔年開講 偶数年度開講

	3年次		4年次	
学部 共通 基礎				
複数 学科共通				
学科 専門	[社会・文化]		[集団・組織・人間関係]	
	*2 社会学史	2 前	コミュニケーション論	2 前
	*1 社会変動論	2 後	*1 現代ジャーナリズム論	2 後
	*1 政治経済学	2 後	*2 社会運動論	2 前
	マーケティング論	2 後	*1 労働・社会政策論	2 後
	[心理・発達・行動]		現代社会福祉論	2 後
	教育心理学	2 前	産業心理学	2 後
	臨床心理学	2 後	教育制度論	2 後
	社会精神医学	2 前	*2 生活法	2 前
	現場心理学	2 前	地域社会調査実習	1 通
教育学概論	2 前			
教育方法論	2 前			
*2 認知心理学	2 後			
カウンセリング論	2 前			
道徳教育論	2 前			
*1 パーソナリティ心理学	2 前			
	[学科基礎および演習]		[学科基礎および演習]	
	量的データ解析論Ⅱ	2 後		
	[学科基礎および演習]		[学科基礎および演習]	
	◎ 人間関係論演習Ⅰ	2 通	◎ 人間関係論演習Ⅱ	1 前
			◎ 人間関係論演習Ⅲ	1 後
			◎ 卒業研究・論文Ⅰ	4 前
			◎ 卒業研究・論文Ⅱ	4 後

○：選択必修 (第二外国語 4単位以上)

◎：必修

## 人間関係学科 履修モデル

人間関係学科は、大きく分けて心理・教育・社会の三つの系統に分かれています。  
どの系統を目指すかを考えながら、専門科目の履修を考えるとよいでしょう。  
下表は、各系統の専門科目の履修モデルです。

★なお、以下の必修科目（16単位）は、どの系統を目指す場合も必ず履修して下さい。

必修科目：人間関係論基礎演習（1回生）・環琵琶湖文化論実習（1回生）・人間文化論A（1回生）・人間関係論演習Ⅰ（3回生）・人間関係論演習Ⅱ・Ⅲ（4回生）・卒業研究・論文Ⅰ・Ⅱ（4回生）

心理学系	教育学系	社会学系
<b>選択必修（10単位）：</b>	<b>選択必修（10単位）：</b>	<b>選択必修（10単位）：</b>
心理・発達・行動学実験演習（2） 行動論演習（2） 量的データ解析論Ⅰ（2）	心理・発達・行動学実験演習（2） 形成論演習（2） 教育観察実習（2）	社会学演習（2） 行動論演習（2） 形成論演習（2） 量的データ解析論Ⅰ（2）
社会学演習（2）、形成論演習（2）、教育観察実習（2）のいずれか一つ 人間文化論B、人間文化論Cのいずれか一つ	行動論演習（2）、量的データ解析論Ⅰ（2）、社会学演習（2）のいずれか一つ 人間文化論B、人間文化論Cのいずれか一つ	人間文化論B、人間文化論Cのいずれか一つ
<b>選択科目：</b>	<b>選択科目：</b>	<b>選択科目：</b>
心理学基礎 統計学基礎 人間行動論 生活と教育 社会学概論 社会調査論 国際社会論 社会問題の社会学 発達心理学 発達支援論 人間形成論A 人間形成論B 比較認知発達論 社会心理学 生涯学習論 家族の心理と社会 社会調査方法論 質的データ解析論 社会変動論 マーケティング論 生活経営概論 教育心理学 臨床心理学 社会精神医学 現場心理学 教育学概論 教育方法論 認知心理学 カウンセリング論 パーソナリティ心理学 量的データ解析論Ⅱ コミュニケーション論 現代ジャーナリズム論 社会運動論 労働・社会政策論 現代社会福祉論 産業心理学 教育制度論 教育課程論 生活法 哲学概論A 哲学概論B 地域社会調査実習（1単位）	心理学基礎 統計学基礎 人間行動論 生活と教育 社会学概論 社会調査論 国際社会論 社会問題の社会学 発達心理学 発達支援論 人間形成論A 人間形成論B 比較認知発達論 社会心理学 生涯学習論 家族の心理と社会 社会調査方法論 質的データ解析論 社会変動論 教育心理学 臨床心理学 社会精神医学 現場心理学 教育学概論 教育方法論 認知心理学 カウンセリング論 パーソナリティ心理学 道徳教育論 量的データ解析論Ⅱ コミュニケーション論 現代ジャーナリズム論 社会運動論 労働・社会政策論 現代社会福祉論 産業心理学 教育制度論 教育課程論 生活法 哲学概論A 哲学概論B 政治学Ⅰ 政治学Ⅱ	心理学基礎 統計学基礎 人間行動論 生活経営概論 比較住居論 生活と教育 社会学概論 社会調査論 国際社会論 日本社会論 地域社会論 社会問題の社会学 発達支援論 人間形成論A 人間形成論B 社会心理学 法学概論 文化社会学 家族の心理と社会 社会調査方法論 質的データ解析論 社会学史 社会変動論 政治経済学 マーケティング論 臨床心理学 社会精神医学 現場心理学 教育学概論 パーソナリティ心理学 量的データ解析論Ⅱ コミュニケーション論 現代ジャーナリズム論 社会運動論 労働・社会政策論 現代社会福祉論 産業心理学 教育制度論 生活法 哲学概論A 哲学概論B 政治学Ⅰ 政治学Ⅱ 地域社会調査実習（1単位）



## (5) 国際コミュニケーション学科

### ①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

#### ■学位授与方針

国際コミュニケーション学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を下記のとおり定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、国際コミュニケーション学科の定める人材育成目標を達成した者には学士課程の人間文化学の学位を授与します。

- A-1 本国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養を身につける。(知識・理解)
- A-2 国境を越えた人の移動に伴う諸問題について理解し、グローバル化する世界や地域社会の諸課題に対応できる知と実践力を身につける。(知識・理解)
  
- B. 異なる民族や異なる文化的背景を持つ人間が、いかに共生していけるかという課題に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる。(思考・判断)
  
- C-1 グローバル化の進展により人類の課題となっている多文化共生の未来を拓こうとする態度を持つ。(興味・関心)
- C-2 文化だけでなく人間の持つあらゆる多様性を尊重し、異文化に積極的に関わることによって、新たな関係を創造していく意欲を持つ。(興味・関心)
  
- D-1 英語を中心とする複数の外国語でのコミュニケーション能力を身につける。(技能・技術)
- D-2 自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章(日本語および外国語)で表現することができる。(技能・技術)

#### ■教育課程の編成・実施方針

国際コミュニケーション学科では、本国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とした複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につけ、学生一人一人がグローバル化する現代社会において活躍できる「知と実践力」を身につけるための課程を、以下のようなカテゴリーに分けて編成しています。

##### A. 学科基礎科目

国際的なコミュニケーションの基礎を身につけ、言語学の知識を身につける。

##### B. 言語コミュニケーション科目

- B-1 英語：「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランス良く身につける。
- B-2 実践英語：TOEIC、TOEFLなどの検定試験に対応する力を身につける。
- B-3 初習外国語：ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語によるコミュニケーション能力を身につける。
- B-4 言語と文化：言語・文学・文化など理論的な側面から学ぶ。英語による講義を理解する。

##### C. 多文化コミュニケーション科目

- C-1 多文化共生：多民族・多文化化する現代の世界や地域社会の課題を理解し、それに対応できる知と実践力を身につける。
- C-2 国際教養：国際的視野を身につけ、異文化を理解するための方法論を身につける。
- C-3 国際文化論：世界各地、とりわけ留学先の文化・歴史・社会等への理解を深める。

##### D. 演習科目

各科目群の学びをさらに深め、同時にプレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考、問題発見・解決のための力を少人数の演習で身につける。

##### E. 卒業研究・論文

論理的なアカデミック・ライティングと、内容の独創性を備えた卒業研究・論文で学びを集大成する。

## ②専門科目の履修について

## 【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

## (1)全学共通科目 (30 単位以上)

- (A)第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

- (B)人間学 (「国際文化学概論」を除く。) から 8 単位以上 (必修 2 単位を含む)。

- (C)地域基礎から 4 単位以上 (必修 2 単位を含む)。

## (2)専門科目 (100 単位以上)

- (A) 次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 24 単位  
 (B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目 22 単位以上 (註 1)  
 ●印から 2 単位以上、□印から 10 単位以上、▽印から 10 単位以上。  
 (C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 54 単位以上 (註 2～4)

(註 1) 選択必修科目で 22 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目 (以下、「他学部他学科科目」とする) から 10 単位までは、特に手続きを経ずに専門科目として卒業単位に算入できる。

(註 3) 10 単位を超えて取得した他学部他学科科目の単位は、教授会の議を経て適切と認められた場合に限り、卒業単位に算入できる。

(註 4) 海外留学中に留学先で取得した単位については、所定の手続きを経た上で、原則として 20 単位まで卒業単位に算入できる。

## 【卒業研究・論文履修要件】

基礎演習Ⅰ (1 単位)、基礎演習Ⅱ (1 単位)、発展演習Ⅰ (1 単位)、発展演習Ⅱ (1 単位) を修得済みであること。

## 【卒業研究・論文審査基準】

論文は、(論文の主題に応じて) 複数の学科教員により審査する。審査委員は、下に示す基準に照らし合わせて可否を判断し、学科会議において最終的に可否決定をする。

- ① 使用言語は日本語または英語とする。
- ② 日本語の場合は 12,000 字以上とする。英語の場合は 6,000 語以上とする。
- ③ 研究目的が明確であること。
- ④ 研究方法が妥当であること。
- ⑤ 目的達成のための調査量が十分であること。
- ⑥ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
- ⑦ 卒業論文としての体裁が整っていること。
- ⑧ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

国際コミュニケーション学科 ゼミ別指導内容および履修が望ましい科目等

2年次配当の基礎演習Ⅰ・Ⅱ、3年次配当の発展演習Ⅰ・Ⅱ、4年次配当の研究演習Ⅰ・Ⅱは、各教員がゼミ形式で担当する。特に発展演習Ⅰ・Ⅱと研究演習Ⅰ・Ⅱは、卒業研究に向けて、同じ教員のゼミで指導を受けることを原則とする。

下記に、各教員の専門分野と研究テーマ・方法、履修が望ましい科目等を示すので、履修計画の参考にすること。

<参考>2026年度の開設研究室一覧

教員名	専門分野、 テーマ・方法など	履修が望ましい科目等
ボルジギン・ ブレンサイン	社会史、中国・モンゴル 研究	アジア諸言語、アジア文化論A・B・Cなどを履修 していることが望ましい
吉田 悦子	言語学、英語学、語用 論、談話分析	特になし
マーティン・ ホークス	応用言語学（第二言語習 得）	English Lecture A
山本 薫	英文学（19世紀末から 20世紀初頭の英国小説）	英米文学概論
吉村 淳一	ドイツ語学、ドイツ文化	ドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡB、ドイツ 語コミュニケーション科目、欧米文化論A、欧米文 化特論Aを履修することが望ましい。
河 かおる	韓国・朝鮮研究、在日外 国人研究、ジェンダー論 など	原則として河が担当する語学以外の科目を全て履修 すること。卒論に備えて質的調査方法論を履修する ことが望ましい。いずれもゼミとの併行履修可。
中谷 博美	英語教育、言語学	特になし
間 永次郎	南アジア社会思想史、グ ローバリゼーション研究	比較宗教論、アジア文化特論C、ポストコロニアル 論（ゼミとの併行履修可）
鈴木 遥	人類学、インドネシア地 域研究	文化人類学概論、質的調査方法論
岡本 夢子	フランス文学、フランス 語圏の文化	学科のフランス語関連科目を履修すること。また欧 米文化論B・欧米文化特論Bのうち少なくともどちら かを履修すること（ゼミとの併行履修可）。
瀬戸 貴裕	アメリカ文学、アメリカ 大衆文化	特になし

国際コミュニケーション学科 専門科目 カリキュラムマップ

区分	授業科目名	学年・学期	必修・選択等の別	単位数	学位授与方針との対応								教職科目
					A-1	A-2	B	C-1	C-2	D-1	D-2		
全学共通	人間探求学	1・前	1・前	2								◎	
学科基礎	国際文化論	1・前	必修	2	◎	○	○	○	○				
	文化人類学概論	1・後	必修	2	◎	○	○	○	○				
	質的調査方法論	2・前	選択	2	◎	○	○	○	○				
学科専門	リーディング(中級)	1・後	選択	2	○				○	◎			○
	Introduction to Academic English	1・前	必修	2						◎			◎
	Intermediate Academic English	1・前	選択	1						◎			
	Advanced Academic English I	1・後	選択	2						◎			○
	Advanced Academic English II	1・後	選択	2						◎			◎
	ドイツ語コミュニケーションIA	1・後	選択	2						◎			
	ドイツ語コミュニケーションIB	1・後	選択	2						◎			
	フランス語コミュニケーションIA	1・後	選択	2						◎			
	フランス語コミュニケーションIB	1・後	選択	2						◎			
	中国語コミュニケーションIA	1・後	選択	2						◎			
	中国語コミュニケーションIB	1・後	選択	2						◎			
	朝鮮語コミュニケーションIA	1・後	選択	2						◎			
	朝鮮語コミュニケーションIB	1・後	選択	2						◎			
	モンゴル語コミュニケーションA	1・後	選択	2						◎			
	モンゴル語コミュニケーションB	2・前	選択	2						◎			
	英語学概論	1・後	選択	2	○					◎		○	◎
	English Lecture A	1・後	選択	2	○					◎			○
	日本語教育基礎	1・前	選択	2	○	◎	○	◎			○		
	多文化社会論A	1,2・前	選択□	2	○	◎	○	◎					
	多文化社会論B	1,2・後	選択□	2	○	◎	○	◎					
	国際関係論	1,2・後	選択□	2	◎	○	○	○	○				
	西洋史	1,2・前	選択□	2	◎		○	○	○				
	法学概論(国際法を含む)	1,2・前	選択□	2	◎		○	○	○				
	比較宗教論	1,2・後	選択□	2	◎		○	○	○				
	欧米文化論A	1,2・前	選択□	2	◎		○	○	○				
	欧米文化論B	1,2・前	選択□	2	◎		○	○	○				
	欧米文化論C	1,2・後	選択□	2	◎		○	○	○				○
	欧米文化論D	1,2・後	選択□	2	◎		○	○	○				◎
	アジア文化論A	1,2・前	選択□	2	◎		○	○	○				
	アジア文化論B	1,2・後	選択□	2	◎		○	○	○				
	アジア文化論C	1,2・前	選択□	2	◎		○	○	○				
	アジア文化論D	1,2・後	選択□	2	◎		○	○	○				
	リスニング(中級)	2・前	選択	2	○						◎		○
	Integrated English	2・前	選択	2	○						◎		○
	Introduction to Discussion & Debate	2・前	選択	2							◎	○	◎
	Public Speaking	2・前	選択	2							◎	○	
	Essay Writing	2・後	選択	2							◎	○	
	ドイツ語コミュニケーションIIA	2・前	選択	2							◎		
	ドイツ語コミュニケーションIIB	2・前	選択	2							◎		
	ドイツ語留学対策	2・前	選択	2							◎		
	フランス語コミュニケーションIIA	2・前	選択	2							◎		
	フランス語コミュニケーションIIB	2・前	選択	2							◎		
フランス語留学対策	2・前	選択	2							◎			
中国語コミュニケーションIIA	2・前	選択	2							◎			
中国語コミュニケーションIIB	2・前	選択	2							◎			
中国語留学対策	2・前	選択	2							◎			
朝鮮語コミュニケーションIIA	2・前	選択	2							◎			
朝鮮語コミュニケーションIIB	2・前	選択	2							◎			
朝鮮語留学対策	2・前	選択	2							◎			
ウイグル式モンゴル文字史料講読	2,3,4・後	選択	2							◎			

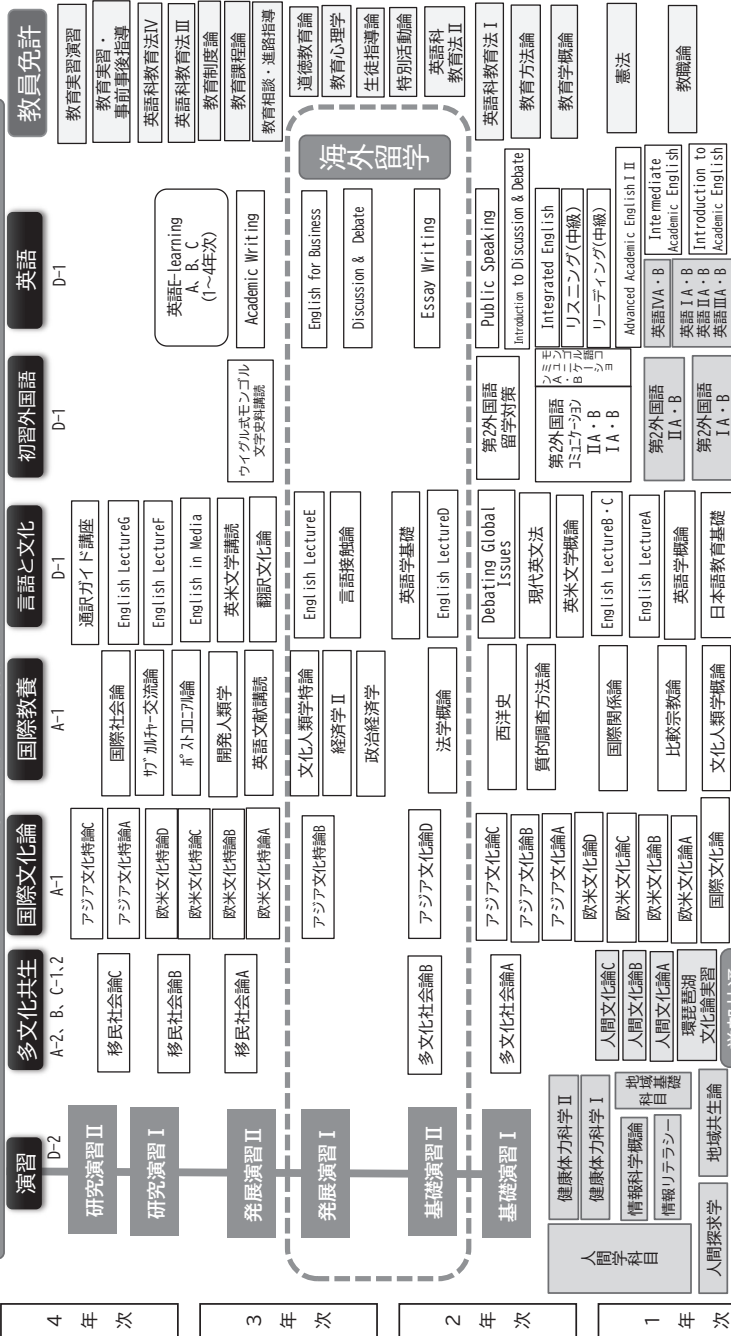
区分	授業科目名	学年・学期	必修・選択等の別	単位数	学位授与方針との対応							教職科目
					A-1	A-2	B	C-1	C-2	D-1	D-2	
	英米文学概論	2・前	選択	2	○					◎		◎
	現代英文法	2・前	選択	2	○					◎		○
	English Lecture B	2・前	選択	2	○					◎		○
	English Lecture C	2・前	選択	2	○					◎		○
	English Lecture D	2・後	選択	2	○					◎		○
	Debating Global Issues	2・前	選択	2	○	◎	○	◎	○	◎	○	
	基礎演習 I	2・前	必修	1	○	○	○	○	○	○	◎	
	基礎演習 II	2・後	必修	1	○	○	○	○	○	○	◎	
	Discussion & Debate	3・前	選択	2	○					◎	◎	
	Academic Writing	3・後	選択	2						◎	◎	
	English for Business	3,4・前	選択	1	○					◎		
	English in Media	3・後	選択	2	○					◎		○
	言語接触論	3・前	選択	2						◎		
	翻訳文化論	3・後	選択	2	○					◎		
	英米文学講読	3・後	選択	2	○					◎		○
	英語学基礎	3・前	選択	2	○					◎	◎	
	English Lecture E	3・前	選択	2	○					◎		○
	English Lecture F	3・後	選択	2	○					◎		○
	移民社会論 A	3,4・後	選必▽	2	○	◎	○	◎				
	移民社会論 B	3,4・前	選必▽	2	○	◎	○	◎				
	移民社会論 C	3,4・後	選必▽	2	○	◎	○	◎				
	文化人類学特論	3,4・前	選必▽	2	◎		○		○			
	英語文献講読	3,4・前	選必▽	2	◎			○		○		
	政治経済学	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			
	経済学 II (国際経済を含む)	3,4・前	選必▽	2	◎		○		○			
	開発人類学	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			
	ポストコロナル論	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			
	国際社会論	3,4・前	選必▽	2	◎		○		○			
	サブカルチャー交流論	3,4・前	選必▽	2	◎		○		○			
	アジア文化特論 A	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			
	アジア文化特論 B	3,4・前	選必▽	2	◎		○		○			
	アジア文化特論 C	3,4・前	選必▽	2	◎		○		○			
	欧米文化特論 A	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			
	欧米文化特論 B	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			
	欧米文化特論 C	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			○
	欧米文化特論 D	3,4・後	選必▽	2	◎		○		○			◎
	発展演習 I	3・前	必修	1	○	○	○	○	○	○	◎	
	発展演習 II	3・後	必修	1	○	○	○	○	○	○	◎	
	通訳ガイド講座	3,4・前	選択	2						◎		
	英語E-learning A	1~4・後	選択	1						◎		
	英語E-learning B	1~4・前	選択	1						◎		
	英語E-learning C	1~4・後	選択	1						◎		
	English Lecture G	4・後	選択	2						◎		
	研究演習 I	4・前(後)	必修	1	○	○	○	○	○	○	◎	
	研究演習 II	4・後(前)	必修	1	○	○	○	○	○	○	◎	
	卒業研究・論文 I	4・前(後)	必修	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	卒業研究・論文 II	4・後(前)	必修	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	海外留学	1,2,3,4	選択	12*		◎	◎	◎	◎	◎	◎	

注：◎関連が深い科目，○関連する科目

\*上限単位数

A-1 自国や諸外国の社会・文化・歴史等に關する幅広い知識や教養を身に付ける。	A-2 国境を越えた人の移動に伴う諸問題について理解し、グローバル化する世界や地域社会の諸課題に対応できる知と実践力を身に付ける。	B 異なる民族や異なる文化的背景を持つ人間が、いかに共生していけるかという課題に多面的な関心をもち、自らを見解を形成できる。	C-1 グローバル化の進展により人類の課題とつながる多文化共生の未来を拓くことに関する態度を持つ。	C-2 文化だけでなく人間性、持つあらゆる多様性を尊重し、異文化に積極的に関わることで、新たな関係を創造していく意欲を持つ。	D-1 英語を中心とする複数の外国語でのコミュニケーション能力を身に付ける。	D-2 自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章(日本語および外国語)で発表することができ。
-----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	----------------------------------------	-------------------------------------------------

## 卒業研究・論文 I II D-2



国際コミュニケーション学科  
2026（令和8）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		1年次		2年次	
全学共通科目	全学共通基礎	◎ 英語 I A・B, II A・B, III A・B	各1 前	◎ 健康・体力科学Ⅱ	1 前
		◎ 英語ⅣA・B	各1 後		
		○ 第二外国語 I A, I B※1	各1 前		
		○ 第二外国語ⅡA, ⅡB※1	各1 後		
		◎ 情報リテラシー（情報倫理を含む）	2 前		
		◎ 情報科学概論	2 後		
		◎ 健康・体力科学Ⅰ	1 後		
		Lecture and Discussion in English	2 後	Academic Lectures in English	2 後
	人間学	◎ 人間探求学	2 前	(1～4年次で、必修2単位を含め8単位以上)	
	地域基礎	◎ 地域共生論	2 前	(1～4年次で、必修2単位を含め4単位以上)	

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。

外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

●□▽：選択必修（●印から2単位以上、□印から10単位以上、▽印から10単位以上）

専 門 学 科 専 門	学部 共通基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習	2 通		
		◎ 人間文化論A	2 前		
		● 人間文化論B	2 後		
		● 人間文化論C	2 後		
	学科 基礎	◎ 国際文化論	2 前	質的調査方法論	2 前
		◎ 文化人類学概論	2 後		
	英語	◎ Introduction to Academic English	2 前	リスニング(中級)	2 前
		Intermediate Academic English	1 前	Integrated English	2 前
		英語 E-learning B (1～4年次)	1 前	Introduction to Discussion & Debate	2 前
		Advanced Academic English I	2 後	Public Speaking	2 前
		Advanced Academic English II	2 後	Essay Writing	2 後
	言語 コミュニケーション	◎ リーディング(中級)	2 後		
		ドイツ語コミュニケーションⅠA, B	各2 後	ドイツ語コミュニケーションⅡA, B, 留学対策	各2 前
フランス語コミュニケーションⅠA, B		各2 後	フランス語コミュニケーションⅡA, B, 留学対策	各2 前	
中国語コミュニケーションⅠA, B		各2 後	中国語コミュニケーションⅡA, B, 留学対策	各2 前	
朝鮮語コミュニケーションⅠA, B		各2 後	朝鮮語コミュニケーションⅡA, B, 留学対策	各2 前	
	モンゴル語コミュニケーションA	2 後	モンゴル語コミュニケーションB	2 前	
言語 と文化	日本語教育基礎	2 前	英米文学概論	2 前	
	英語学概論	2 後	現代英文法	2 前	
	English Lecture A	2 後	Debating Global Issues	2 前	
			English Lecture B	2 前	
			English Lecture C	2 前	
			English Lecture D	2 後	
多文化 共生	□ 多文化社会論A	2 前	□ 多文化社会論B	2 後	
	□ 国際関係論 *2	2 後	□ 法学概論(国際法を含む)	2 後	
国際 教養	□ 西洋史	2 前	□ 比較宗教学論	2 後	
	□ アジア文化論A	2 前	□ 欧米文化論A	2 前	
国際 文化 論	□ アジア文化論B	2 後	□ 欧米文化論B	2 前	
	□ アジア文化論C	2 前	□ 欧米文化論C	2 後	
	□ アジア文化論D	2 後	□ 欧米文化論D	2 後	
演習			◎ 基礎演習Ⅰ	1 前	
			◎ 基礎演習Ⅱ	1 後	
卒論					
海外留学			海外留学(1～4年次)	上限 12	

	3年次	4年次
全学共通基礎		
人間学		
地域基礎		

\*1：隔年開講（奇数年度開講）

\*2：隔年開講（偶数年度開講）

学部 共通基礎					
学 科 専 門	学科 基礎				
	英語	Discussion & Debate	2 前	英語 E-learning A (1～4年次)	1 後
		English for Business (3・4年次)	1 前		
	言語 コミュニケーション	Academic Writing	2 後		
		英語 E-learning C (1～4年次)	1 後		
		初習外国語	ウイグル式モンゴル文字史料講読 *1	2 後	
		言語と文化	英語学基礎	2 前	通訳ガイド講座 (3,4年)
	多文化 コミュニケーション	言語接触論	2 前	English Lecture G	2 後
		English Lecture E	2 前		
	国際 教養 コミュニケーション	翻訳文化論	2 後		
英米文学講読		2 後			
国際 文化 論	English in Media	2 後			
	English Lecture F	2 後			
演習	▽ 移民社会論A *2	2 後	▽ 移民社会論C	2 後	
	▽ 移民社会論B *1	2 前			
卒論	▽ 文化人類学特論	2 前	▽ 開発人類学 *1	2 後	
	▽ 英語文献講読	2 前	▽ ポストコロニアル論	2 後	
海外留学	▽ 政治経済学 *1	2 後	▽ 国際社会論 *1	2 前	
	▽ 経済学Ⅱ (国際経済を含む)	2 前	▽ サブカルチャー交流論 *2	2 前	
演習	▽ アジア文化特論A *2	2 後	▽ 欧米文化特論A	2 後	
	▽ アジア文化特論B	2 前	▽ 欧米文化特論B	2 後	
卒論	▽ アジア文化特論C	2 前	▽ 欧米文化特論C	2 後	
	◎ 発展演習Ⅰ	1 前	◎ 研究演習Ⅰ	1 前(後)	
卒論	◎ 発展演習Ⅱ	1 後	◎ 研究演習Ⅱ	1 後(前)	
			◎ 卒業研究・論文Ⅰ	4 前(後)	
海外留学			◎ 卒業研究・論文Ⅱ	4 後(前)	
	海外留学 (1～4年次)	上限 12			

【各留学先別の留学着手要件（「海外留学」履修資格）】

国際コミュニケーション学科の学生は、外国の大学等に3週間以上留学した場合、その期間等に  
応じて、「海外留学」として単位認定を申請することができる（上限12単位）。

短期海外研修（3～8週間の語学研修）を除き、中期留学（3～6か月間）、長期留学（9か月～  
1年間）をして「海外留学」の単位認定を申請するには、留学に着手する前に各言語圏別に下表に  
掲げる科目を履修していることを原則とする。ただし、これ以外の言語圏に留学する場合など、こ  
の着手要件を満たさずに「海外留学」の単位認定を申請する場合は、その都度、学科会議で承認を  
得ることとする。

なお、この要件は「海外留学」の履修資格要件であって、留学そのものの要件ではない。また、  
この要件をクリアすれば必ず留学できるというものでもない。留学するには、希望する留学先大  
学が求める要件（TOEFLのスコアなど）をクリアする必要がある場合もある。詳しくは別途説明する  
機会を設ける。

言語圏	履修が必要な科目	
英語	必修8科目	英語ⅠAおよびB、英語ⅡAおよびB、英語ⅢAおよびB、 英語ⅣAおよびB
	以下から3科目 以上	リーディング中級、リスニング(中級)、現代英文法 Integrated English、Public Speaking、Introduction to Discussion & Debate、English Lecture A、同B、同C
ドイツ語	ドイツ語ⅠA、ドイツ語ⅠB、ドイツ語ⅡA、ドイツ語ⅡB ドイツ語コミュニケーションⅠA、ドイツ語コミュニケーションⅠB、 ドイツ語コミュニケーションⅡA、ドイツ語コミュニケーションⅡB、 ドイツ語留学対策	
フランス語	フランス語ⅠA、フランス語ⅠB、フランス語ⅡA、フランス語ⅡB フランス語コミュニケーションⅠA、フランス語コミュニケーションⅠB、 フランス語コミュニケーションⅡA、フランス語コミュニケーションⅡB、 フランス語留学対策	
中国語	中国語ⅠA、中国語ⅠB、中国語ⅡA、中国語ⅡB 中国語コミュニケーションⅠA、中国語コミュニケーションⅠB、 中国語コミュニケーションⅡA、中国語コミュニケーションⅡB、 中国語留学対策	
朝鮮語	朝鮮語ⅠA、朝鮮語ⅠB、朝鮮語ⅡA、朝鮮語ⅡB 朝鮮語コミュニケーションⅠA、朝鮮語コミュニケーションⅠB、 朝鮮語コミュニケーションⅡA、朝鮮語コミュニケーションⅡB、 朝鮮語留学対策	

【履修モデル】

国際コミュニケーション学科では、2年次の後期から1年間の海外留学を推奨しており、1年間  
の留学をしても4年間で卒業できるようなカリキュラムとなっている。

次頁に、以下の3つのケースを想定して、学科専門科目の履修モデルを示す。留学する時期や期  
間はこれ以外もあり得るため、科目についてもあくまでも選択の参考例である。

- ① 英語圏へ1年間留学する場合
- ② 第二外国語圏に1年間留学する場合
- ③ 教職課程を履修して英語圏に1年間留学する場合

なお、学科専門科目のうち、次の必修科目（20単位）は、全員が履修するので示していない。

- |                                        |                  |
|----------------------------------------|------------------|
| ○Introduction to Academic English（1回生） | ○文化人類学概論（1回生）    |
| ○国際文化論（1回生）                            | ○発展演習Ⅰ・Ⅱ（3回生）    |
| ○基礎演習Ⅰ・Ⅱ（2回生）                          | ○卒業研究・論文Ⅰ・Ⅱ（4回生） |
| ○研究演習Ⅰ・Ⅱ（4回生）                          |                  |

国際コミュニケーション学科 履修モデル

学年	学期	言語コミュニケーション科目群*1			多文化コミュニケーション科目群（選択必修で20単位以上）*2
		①英語圏に1年間留学する場合	②第二外国語圏に1年間留学する場合	③教職課程を履修し英語圏に1年間留学する場合	
1	前期	〔英語ⅠA・B～ⅢA・B〕 〔第2外国語ⅠA・B〕 Intermediate Academic English 日本語教育基礎 英語 E-learning B	〔英語ⅠA・B～ⅢA・B〕 〔第2外国語ⅠA・B〕 日本語教育基礎	〔英語ⅠA・B～ⅢA・B〕 〔第2外国語ⅠA・B〕 〔教職論〕 日本語教育基礎 英語 E-learning B	
	後期	〔英語ⅣA・B〕 〔第2外国語ⅡA・B〕 英語学概論 リーディング（中級） Advanced Academic English I・II English Lecture A	〔英語ⅣA・B〕 〔第2外国語ⅡA・B〕 第2外国語コミュニケーションⅠA 第2外国語コミュニケーションⅠB 英語学概論	〔英語ⅣA・B〕 〔第2外国語ⅡA・B〕 英語学概論 リーディング（中級） Advanced Academic English I・II English Lecture A 〔憲法〕	国際関係論 比較宗教論 欧米文化論C 欧米文化論D アジア文化論B
2	前期	リスニング（中級） Integrated English Introduction to Discussion & Debate 英米文学概論 English Lecture B・C 現代英文法 Debating Global Issues Public Speaking	第2外国語コミュニケーションⅡA 第2外国語コミュニケーションⅡB 第2外国語留学対策 現代英文法 Debating Global Issues	リスニング（中級） Integrated English 英米文学概論 English Lecture B 現代英文法 〔教育方法論〕 〔教育学概論〕 〔道徳教育論〕 〔教育心理学〕 〔教育相談・進路指導〕 〔英語科教育法Ⅰ〕	質的調査方法論 （学科基礎科目）  多文化社会論A 西洋史 欧米文化論A 欧米文化論B アジア文化論A アジア文化論C
	後期				アジア文化論D 法学概論 多文化社会論B
3	前期	海外留学	海外留学	海外留学	サブカルチャー交流論 移民社会論B 英語文献講読 経済学Ⅱ 国際社会論
	後期	Academic Writing 翻訳文化論 英米文学講読 英語 E-learning C English in Media English Lecture F	翻訳文化論 英語 E-learning C English in Media English Lecture F	英米文学講読 〔教育課程論〕 〔教育制度論〕 〔教育実習・事前事後指導〕 〔生徒指導論〕 〔特別活動論〕 〔英語科教育法Ⅱ〕 〔英語科教育法Ⅲ〕	移民社会論A 欧米文化特論A 欧米文化特論C 欧米文化特論D アジア文化特論A 政治経済学
4	前期	通訳ガイド講座	通訳ガイド講座 言語接触論 英語 E-learning B	〔英語科教育法Ⅳ〕 〔教育実習・事前事後指導〕	文化人類学特論 アジア文化特論B アジア文化特論C
	後期	英語 E-learning A English Lecture G	英語 E-learning A English Lecture G	英語 E-learning A 英語 E-learning C 〔教育実践演習〕 English Lecture G	移民社会論C ポストコロナル論 欧米文化特論B 開発人類学

\*1 便宜上、全学共通基礎科目の外国語科目を、専門科目に交えて〔 〕内に示してある。また同様に、③については、教職科目を、専門科目に交えて〔 〕内に示してある。（英語の教職課程は中学と高校に必要な単位数が異なるので注意すること。詳細はP.158以降で確認すること）

\*2 多文化コミュニケーション科目群の科目のうち、1・2年次配当科目より10単位以上、3・4年次配当科目より10単位以上を選択必修。配当年次が複数にまたがる科目がほとんどだが、上の履修モデルでは、便宜上、特定の学年に開講する形で示してある。

## 6 人間看護学部科目履修の手引

### 1 人間看護学部人間看護学科の教育目標

- (1) 豊かな人間性のもと、幅広い視野で人間を総合的に理解する看護職が育つ  
人間の生命に対する畏敬の念をもち、その尊厳と権利を尊重し、人の痛みや苦しみを共有し、喜びをともにする豊かな人間性を備えた看護職としての資質を養います。
- (2) 高度な専門的知識や技術、実践的な判断力、指導力を有する看護職が育つ  
看護の専門職としての知識・技術を修得するとともに、社会情勢の変化に的確に対応できる柔軟な思考力を養い、看護における理論と実践の統合を図ります。
- (3) 地域特性に即した実践力を有する看護職が育つ  
地域特性を理解した上で生活実態に即した看護を創造する力を養います。

### ■学位授与方針

- A. 主体的に取り組む姿勢と、他者に共感・協調する態度を兼ね備え、人間の尊厳と権利を擁護する基本的な倫理観を備えている。 <態度・倫理>
- B. 人間に対する深い洞察力と看護学に対する幅広い興味関心をもち、生涯にわたって自らの学術的・専門的能力を高める姿勢を備えている。 <興味・関心>
- C. 看護学の専門知識と科学的根拠に基づき、人間を全人的に理解できる。 <知識・理解>
- D. 健康上のさまざまな課題を科学的に分析・判断して、解決のための方策を考えることができる。 <思考・判断>
- E. 基礎的な看護技術や看護専門職としてのコミュニケーション技術を修得し、多種多様な対象や状況に応じた看護を提供できる。 <技術・技能>
- F. 国際的視点をもつと共に地域における看護の役割を認識し、ヘルスケアチームの一員として、看護活動に取り組む基礎能力を備えている。 <関心・協働性>

### ■教育課程の編成・実施方針

人間看護学部は、本学の「全学共通教育の目標」の達成を前提として、本学部独自のカリキュラムを構成している。興味・関心を持つことで知識・理解を促し、専門職者としての思考・判断能力や技術・技能および倫理観を備えた態度を培うことを目標として6つのディプロマポリシー(DP)を掲げている。

DPを基にしたカリキュラム構成として、1～2年次に基礎となる看護学や対象を理解するための科目(共通科目・専門基礎・看護学科目群等)を配置し、1～2年次で養った能力を応用・発展させることを目的に、3年次に領域別看護学\*の演習・実習科目群を配置している。また、本学部では領域別看護学実習科目群、人間看護学統合実習ならびに卒業研究を、6つのDPの到達を評価するための総括科目として位置づけている。

\*領域別看護学とは、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学の総称です。

#### <人間学・保健体育・専門科目>

A 主体的に取り組む姿勢と、他者に共感・協調する態度を兼ね備え、人間の尊厳と権利を擁護する基本的な倫理観を備えるために、以下の科目を配置している。(CP-A)

人間理解を深め、倫理観のベースを培うための科目として、人間学科目として人間探求学、生命・人間・倫理等を配置し、そこで培った人間に対する尊厳や倫理観を、1～2年次に配置している基礎看護学科目群等を通してさらに深め発展させる。

#### <情報処理・専門科目・地域志向専門科目>

B 人間に対する深い洞察力と看護学に対する幅広い興味関心をもち、生涯にわたって自らの学術的・専門的能力を高める姿勢を備えるために、以下の科目を配置している。(CP-B)

学術的・専門的能力を高める姿勢を備え、人間理解および看護学に対する幅広い興味関心を高めるよう、1年次に情報処理を配当し、1～2年次に看護学概論・基礎看護技術・基礎看護学実習等の基礎看護学科目群を配置している。さらに、地域特性を踏まえ、生活実態に応じた看護を提供する志向を養うため、1年次に地域(健康)生活実習Ⅰ、1～2年次に地域志向専門科目である領域別看護学概論を配置している。

<専門基礎科目・専門科目・地域志向専門科目>

C 看護学の専門知識と科学的根拠に基づき、人間を全人的に理解できるために、以下の科目を配置している。(C P - C)

科学的根拠をもとに人間を全人的に理解するため、1～2年次に解剖生理学・疾病論・栄養学等の専門基礎科目を配置し、さらに看護学の専門知識を踏まえて地域課題解決も志向する領域別看護学概論・看護学各論科目を配置している。

<専門基礎科目・専門科目>

D 健康上のさまざまな課題を科学的に分析・判断して、解決のための方策を考えていくために、以下の科目を配置している。(C P - D)

看護アセスメントに必要な専門知識を修得するため、1～2年次に専門基礎科目群を配置している。さらに専門知識をもとに、健康上のさまざまな課題を科学的に分析し、解決のための方策を考えていく領域別看護学演習・実習科目群を2～3年次に配置している。また、看護を研究的にとらえ発展させる能力を養うため、3年次に看護研究の基礎、4年次にはその総括として卒業研究を配置している。

<専門科目>

E 基礎的な看護技術や看護専門職としてのコミュニケーション技術を修得し、多種多様な対象や状況に応じた看護を提供するために、以下の科目を配置している。(C P - E)

1～2年次に基礎看護学技術に関する科目を配置し、それらの技術を応用・発展するために3年次に領域別看護学演習・実習科目群、さらにその総括として4年次に人間看護学統合実習Ⅰ・Ⅱ、地域(療養)生活実習Ⅱを配置している。また、専門選択必修科目において、専門的な看護実践能力を発展させるための科目群を配置している。

<地域基礎科目・語学・専門科目>

F 国際的視点をもつと共に地域における看護の役割を認識し、ヘルスケアチームの一員として、看護活動に取り組む基礎能力を備えるために以下の科目を配置している。(C P - F)

国際貢献を視野に入れ、1～2年次に外国語科目群を配置している。また、地域基礎科目における地域共生論・地域社会福祉論等の配置、および3年次に在宅看護学実習をはじめとする領域別看護学実習を配置し、地域社会における看護職の役割を学ぶ。

また、専門職者としての社会貢献の在り方を理解するために、3年次に国際看護学を必修科目とし、3～4年次に災害看護学等を含む専門選択科目群、4年次にヘルスケアチームを理解するための看護管理理学を配置している。さらにその集大成として、人間看護学統合実習Ⅰ・Ⅱを4年次に配置している。

## 2 科目の履修について

### (1) 全学共通科目の履修について

「全学共通科目履修の手引」に沿って履修してください。共通基礎科目は、主に1年次、2年次に配当されています。また、地域基礎科目および人間学は、4年間にわたって履修可能ですので個人の学習状況に合わせて効果的に履修をしてください。なお、地域基礎科目の「地域共生論」および人間学の「人間探求学」「生命・人間・倫理」は1年次、地域基礎科目の「地域社会福祉論」は2年次に履修してください。(いずれも必修)

※保健師課程を希望する者は、「資格取得等の手引」をもとに「人間看護学部科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

### (2) 専門基礎科目、専門科目の履修について

①「人間看護学部科目配当表」に単位数、配当時期を示していますので、時間割表を参考に履修計画を立ててください。

- ・講義科目のうち、30時間の授業をもって1単位とする科目があります。シラバスを確認してください。
- ・低学年では専門基礎科目や看護学の講義、演習が配当されています。履修漏れのないように注意してください。
- ・臨地実習は、1年次、2年次の夏季集中時期と、3年次～4年次に集中で配当されていますので、前期に、履修登録をしてください。実習は、届出前までに修得しておくべき科目等が条件として設けられていますので、人間看護学部実習前提科目表で必ず確認してください。

②保健師課程、養護教諭一種免許・二種免許の取得を希望する者は、「資格取得等の手引」をもとに「人間看護学部科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

人間看護学部 カリキュラムマップ

人間看護学部 学位授与方針に対する関与の程度(その1)

		科目名	単位数	配当学年	時期	必・選	DP-A	DP-B	DP-C	DP-D	DP-E	DP-F		
全学共通基礎科目	語学	英語ⅠA(活性化コース)	1	1	前	必						○		
		英語ⅠB(活性化コース)	1	1	後	必						○		
		英語ⅡA(応用コース)	1	1	前	必						○		
		英語ⅡB(応用コース)	1	1	後	必						○		
		英語ⅢA(充実コース)	1	2	前	必						○		
		英語ⅢB(充実コース)	1	2	後	必						○		
		英語ⅣA(展開コース)	1	2	前	必						○		
		英語ⅣB(展開コース)	1	2	後	必						○		
		第二外国語ⅠA(初級コース)	1	1	前	選						○		
		第二外国語ⅠB(初級コース)	1	1	後	選						○		
		第二外国語ⅡA(中級コース)	1	2	前	選						○		
		第二外国語ⅡB(中級コース)	1	2	後	選						○		
		実用英語演習ⅠA	1	2	前	選						○		
		実用英語演習ⅠB	1	2	後	選						○		
		保健	健康・体力科学Ⅰ	1	1	後	必	○						
		体育	健康・体力科学Ⅱ	1	2	前	必	○						
		情報	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	1	前	必			○				
		処理	情報科学概論	2	1	後	必			○				
		全学共通科目	人間学	人間探求学	2	1	前	必	○					
				自然のしくみB	2	1,2,3,4	後	選						
農業と環境A	2			1,2,3,4	後	選								
食と健康	2			1,2,3,4	前	選								
人間と病気	2			1,2,3,4	前	選								
生命・人間・倫理	2			1,2,3,4	後	必	○							
生活と健康	2			1,2,3,4	前	選								
キャリア形成への道B	2			2,3,4	前	選								
経済学	2			1,2,3,4	後	選								
憲法	2			1,2,3,4	後	選	○							
Japan Studies VI	2			1,2,3,4	後	選								
アジアフィールド実習Ⅰ	2			1,2,3,4	後・集	選								
アジアフィールド実習Ⅱ	2			2,3,4	後・集	選								
自然のしくみA	2			1,2,3,4	後	選								
名著から学ぶ環境問題	2			1,2,3,4	後	選								
都市・建築を考える	2			1,2,3,4	前	選								
生活の中にある工学	2			1,2,3,4	後	選								
コンピュータとインターネット	2			1,2,3,4	後	選								
地域と文化	2			1,2,3,4	前	選								
歴史と文化	2			1,2,3,4	後	選								
人間関係の科学A	2			1,2,3,4	前	選								
人間関係の科学B	2			1,2,3,4	後	選								
国際文化学概論	2			1,2,3,4	前	選								
差別と人権(同和問題)	2			1,2,3,4	前	選								
キャリア形成への道A	2			1,2,3,4	前	選								
Japan Studies VII	2			1,2,3,4	前	選								
World Societies I	2			1,2,3,4	前	選								
World Societies II	2			1,2,3,4	後	選								
異文化理解A	2			1,2,3,4	前	選								
都市・建築をつくる	2			1,2,3,4	前	選								
農業と環境B	2			1,2,3,4	後	選								
暮らしの中の材料	2			1,2,3,4	前	選								
自然科学入門	2	1,2,3,4	前	選										
機械の再発見	2	1,2,3,4	後	選										
機械の役割と仕組み	2	1,2,3,4	前	選										
技術の歴史	2	1,2,3,4	後	選										
電子社会と人間	2	1,2,3,4	後	選										
電子システムの最先端	2	1,2,3,4	前	選										
比較住居論	2	1,2,3,4	前	選										
ジェンダー平等をつくる	2	1,2,3,4	前	選										
地域基礎科目	地域基礎科目	地域共生論	2	1	前	必						○		
		地域コミュニケーション論	2	1,2,3,4	後	選						○		
		地域づくり人材論	2	1,2,3,4	後	選						○		
		ひむろ環境行政論	2	1,2,3,4	後	選						○		
		地域社会福祉論	2	1,2,3,4	後	必						○		
		多文化共生論	2	1,2,3,4	前	選						○		
		地域産業・企業から学ぶ社長講義	2	1,2,3,4	後	選						○		
		SDGsと消費のグローバル・イノベーション	2	1,2,3,4	前	選						○		
		近江の美	2	1,2,3,4	前	選						○		
		地域診断法	2	1,2,3,4	後	選						○		
		ソーシャル・ビジネス概論	2	1,2,3,4	後	選						○		

人間看護学部

人間看護学部 学位授与方針に対する関与の程度(その2)

	科目名	単位数	配当学年	時期	必・選	DP-A	DP-B	DP-C	DP-D	DP-E	DP-F
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	2	1	前	必			○	○		
	解剖生理学Ⅱ	2	1	後	必			○	○		
	生化学	1	1	前	必			○	○		
	病理学総論	1	1	後	必			○	○		
	微生物学/免疫学	2	1	後	必			○	○		
	薬理学	2	2	前	必			○	○		
	疾病論Ⅰ	2	2	前	必			○	○		
	疾病論Ⅱ	2	2	後	必			○	○		
	疾病論Ⅲ	2	2	後	必			○	○		
	疫学	2	2	後	必			○	○		
	栄養学	1	2	後	必			○	○		
	精神保健論	2	1	前	必			○	○		
	公衆衛生学	2	2	前	必			○	○		
	看護学概論	2	1	前	必	○	○		○		
基礎看護技術Ⅰ(コミュニケーション・生活環境)	2	1	前	必		○			○		
基礎看護技術Ⅱ(生活行動援助)	2	1	後	必			○	○	○		
基礎看護技術Ⅲ(ワシカルアセスメント・臨床看護)	2	2	前	必			○	○	○		
基礎看護技術Ⅳ(看護過程)	1	2	前	必			○	○			
看護理論	2	2	後	必	○	○					
基礎看護学実習Ⅰ	1	1	前・集	必		○				○	
基礎看護学実習Ⅱ	2	2	前・集	必				○	○		
成人看護学概論	1	1	後	必		○	○				
成人看護学各論	2	2	前	必		○	○	○	○		
健康危機回復支援演習Ⅰ(慢性期)	1	2	後	必				○	○		
健康危機回復支援演習Ⅱ(急性期)	1	3	前	必				○	○		
緩和ケア演習	1	3	前	必				○	○		
健康危機回復支援実習	4	3	通	必					○	○	
緩和ケア実習	2	3	通	必					○	○	
老年看護学概論	1	2	前	必		○	○				
老年看護学各論	2	2	後	必		○	○	○			
在宅療養移行支援演習	1	3	前	必				○	○		
在宅療養移行支援実習	2	3	通	必					○	○	
小児看護学概論	1	1	前	必		○	○				
小児看護学各論	2	2	後	必		○	○	○			
小児看護学演習	1	3	前	必				○	○		
小児看護学実習	2	3	通	必					○	○	
母性看護学概論	1	1	後	必		○	○				
母性看護学各論	2	2	前	必		○	○	○			
母性看護学演習	1	3	前	必				○	○		
母性看護学実習	2	3	通	必					○	○	
精神看護学概論	1	1	後	必		○	○				
精神看護学各論	2	2	後	必		○	○	○			
精神看護学演習	1	3	前	必				○	○		
精神看護学実習	2	3	通	必					○	○	
在宅看護学概論	2	2	前	必		○	○				
在宅看護学各論	2	2	後	必		○	○	○			
在宅看護学演習Ⅰ	1	3	前	必				○	○		
在宅看護学演習Ⅱ	1	3	前	必				○	○		
在宅看護学実習	2	3	通	必					○	○	
地域(健康)生活実習Ⅰ	1	1	前	必	○	○					
地域(療養)生活実習Ⅱ	1	4	前	必					○	○	
看護管理学	2	4	前	必						○	
家族看護学	1	3	前	必					○		
国際看護学	1	3	前	必						○	
公衆衛生看護学概論	2	2	前	必		○	○				
看護研究の基礎	1	3	通	必	○			○			
人間看護学統合実習Ⅰ	1	4	前	必					○	○	
人間看護学統合実習Ⅱ	1	4	前	必					○	○	
卒業研究	4	4	通	必	○			○			
選択必修科目	看護キャリアデザイン論	1	3・4	前	選		○				○
	看護教育と実践	1	4	前	選		○			○	
	健康教育論	2	3	前	選		○			○	
	クリティカルケア実践演習	1	4	前	選		○			○	
	チャイルドライフケア論	1	4	前	選		○			○	
	ホリスティックケア論	1	3・4	前	選		○			○	
	国際看護学実習	1	1-4	通	選		○				○
看護実践	災害看護学	1	3・4	前	選						○
	ボランティア実践演習	1	4	前	選		○				○
地域国際											○
											○

	1年次	2年次	3年次	4年次
	前期	後期	前期	後期
	前期	後期	前期	後期
DP-A	<p>人間探求学</p> <p>地域(健康)生活実習Ⅰ</p> <p>看護学概論</p> <p>生命・人間・倫理</p> <p>健康・体力科学Ⅰ</p> <p>健康・体力科学Ⅱ</p>	<p>看護学概論</p> <p>看護理論</p>	<p>看護研究の基礎</p>	<p>卒業研究</p>
DP-B	<p>情報リテラシー</p> <p>看護学概論</p> <p>基礎看護技術Ⅰ</p> <p>地域(健康)生活実習Ⅰ</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ</p> <p>小児看護学概論</p>	<p>情報科学概論</p> <p>成人看護学各論</p> <p>小児看護学各論</p> <p>精神看護学各論</p> <p>在宅看護学各論</p> <p>看護理論</p>	<p>健康教育論</p> <p>看護キャリアデザイン論</p> <p>ホリスティックケア論</p> <p>在宅看護学</p> <p>看護教育と実践</p> <p>看護キャリアデザイン論</p> <p>クリティカルケア実践演習</p> <p>チャイルド・ライフケア論</p> <p>ホリスティックケア論</p> <p>在宅看護学</p> <p>ホランティア実践演習</p>	
DP-C	<p>解剖生理学Ⅰ</p> <p>生化学</p> <p>精神学概論</p> <p>基礎看護技術Ⅱ</p> <p>小児看護学概論</p>	<p>解剖生理学Ⅱ</p> <p>薬理学</p> <p>疾病論Ⅰ</p> <p>公衆衛生学</p> <p>基礎看護技術Ⅲ</p> <p>基礎看護技術Ⅳ</p> <p>成人看護学概論</p> <p>小児看護学概論</p> <p>母性看護学概論</p> <p>精神看護学概論</p> <p>成人看護学各論</p> <p>母性看護学各論</p> <p>在宅看護学各論</p>	<p>疾病論Ⅱ</p> <p>疾病論Ⅲ</p> <p>栄養学</p> <p>疫学</p>	

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP-D	前期 解剖生理学Ⅰ 生化学 精神保健論	前期 薬理学 疾病論Ⅰ 公衆衛生学	前期 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 成人看護学各論 母性看護学各論	前期 疾病論Ⅱ 疾病論Ⅲ 疾病論Ⅳ 疫学 在宅看護学各論 老年看護学各論 小児看護学各論 精神看護学各論
	後期 解剖生理学Ⅱ 病理学総論 微生物学/免疫学 精神保健論	後期 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学各論 母性看護学各論	後期 健康危機回復支援演習Ⅰ (急性期) 在宅看護学演習Ⅰ・Ⅱ 緩和ケア演習 在宅看護学移行支援演習 小児看護学演習 母性看護学演習 精神看護学演習	後期 健康危機回復支援演習Ⅱ (慢性期) 在宅看護学演習Ⅰ・Ⅱ 緩和ケア演習 在宅看護学移行支援演習 小児看護学演習 母性看護学演習 精神看護学演習
DP-E	前期 解剖生理学Ⅰ 生化学 精神保健論	前期 薬理学 疾病論Ⅰ 公衆衛生学	前期 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 成人看護学各論 母性看護学各論	前期 疾病論Ⅱ 疾病論Ⅲ 疾病論Ⅳ 疫学 在宅看護学各論 老年看護学各論 小児看護学各論 精神看護学各論
	後期 解剖生理学Ⅱ 病理学総論 微生物学/免疫学 精神保健論	後期 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学各論 母性看護学各論	後期 健康危機回復支援演習Ⅰ (急性期) 在宅看護学演習Ⅰ・Ⅱ 緩和ケア演習 在宅看護学移行支援演習 小児看護学演習 母性看護学演習 精神看護学演習	後期 健康危機回復支援演習Ⅱ (慢性期) 在宅看護学演習Ⅰ・Ⅱ 緩和ケア演習 在宅看護学移行支援演習 小児看護学演習 母性看護学演習 精神看護学演習
			看護研究の基礎	卒業研究
				地域(介護) 生活実習Ⅱ 人間看護学統合実習Ⅰ 人間看護学統合実習Ⅱ
				看護教育と実践 クリティカルケア実践演習 チャイルドライフケア論 ホリスティックケア論
				家族看護学 健康教育論 ホリスティックケア論

1年次	2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
DP-F	地域共生論	地域共生論 地域福祉推進	地域福祉科目：語学	健康危機回復支援課程 在宅療養移行支援課程 緩和ケア実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習	地域(情報)生活実習II 看護実習学 人間看護学総合実習I 人間看護学総合実習II	
			国際看護実習		看護キャリアデザイン論 ポランディア実践実習 災害看護学	

### 3 人間看護学部卒業要件について

(1) 2022（令和4）年度以降入学生用、2024（令和6）年度以降3年次編入学生用

以下のとおり、卒業要件が適用されます。

1	全学共通科目	(計 30 単位以上)	必修22 単位、選択必修8 単位以上
	全学共通基礎	18 単位以上	
	語学		
	第一外国語	英語 I A・B、II A・B、III A・B、IV A・B	8 単位
	第二外国語	ドイツ語 I A・I B・II A・II B、フランス語 I A・I B・II A・II B、中国語 I A・I B・II A・II B、朝鮮語 I A・I B・II A・II B、のうちから4 単位以上。 ただし、「第二外国語 II A・II B」は「実用英語演習 I A・I B」で代替可であり、「実用英語演習 I A・I B」の履修を強く推奨する。	
	情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）2 単位（必修） 情報科学概論 2 単位（必修）	4 単位
	保健体育	健康・体力科学 I・II	2 単位
	人間学	8 単位以上（「人間探求学」、「生命・人間・倫理」、は必修）	
	地域基礎	4 単位以上（「地域共生論」、「地域社会福祉論」は必修）	
2	専門基礎科目	(計 23 単位)	
3	専門科目	(計 76 単位以上)	
	必修	73 単位	
	選択必修	3 単位以上 (専門選択必修科目一覧表の中から3 単位以上とする。)	
	合計	129 単位以上	

注：ただし、全学共通科目で30 単位を超えた分の科目や他学部の開講科目については、履修可能ですが、卒業要件には算入できません。

#### 【卒業研究の審査基準】

- 卒業研究（卒業論文）に対しては、以下の評価項目にもとづいて審査する。
  - 研究目的の明確性
  - 研究方法の妥当性
  - 研究結果の明確性
  - 論文の論理展開の一貫性
  - 研究内容の新規性・学術性・社会性
  - プレゼンテーション技法と質疑応答能力
- 卒業研究（卒業論文）は、発表会において学部が定める方法で発表し、質疑を行う。
- 1 および2 による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

科目年次配当表  
【人間看護学部科目配当表】

※：必修科目、選必：選択必修科目、選：選択科目、前：前期、後：後期、通：通年科目、集中：集中授業

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			必要単位数					
	単位数	必	選	単位数	必	選	単位数	必	選	単位数	必	選						
全学共通基礎 人間学 共通科目	英語ⅠA・B	各1	必	前後	英語ⅢA・B	各1	必	前後					18単位					
	英語ⅡA・B	各1	必	前後	英語ⅣA・B	各1	必	前後										
	第二外国語ⅠA・B	各1	選	必	前後	第二外国語ⅡA・B	各1	選	必	前後								
	情報リテラシー（情報倫理を含む）	2	必	必	前後	または実用英語演習ⅠA 実用英語演習ⅠB（実用英語を推奨）	各1	選	必	前後								
	健康・体力科学Ⅰ	2	必	必	前後	健康・体力科学Ⅱ	1	必	前									
人間探求学 生命・人間・倫理	2	2	2	必	必	必	必	必	必	必	必	必	8単位以上					
人間学 必修以外の4単位を4年次までに修得（保健師課程を選択する場合は、2年次までに修得）																		
地域共生論	2	必	前	地域社会福祉論	2	必	後						4単位以上					
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	2	必	前	公衆衛生学	2	必	前					23単位					
	解剖生理学Ⅱ	2	必	後	薬理学	2	必	前										
	生化学	1	必	前	疾病論Ⅰ	2	必	前後										
	病理学総論	1	必	後	疾病論Ⅱ	2	必	後										
	微生物学／免疫学 精神保健論	2	2	2	必	必	必	必	必	必	必	必		必				
専門科目	看護学概論	2	必	前	基礎看護技術Ⅲ	2	必	前	健康危機回復支援実習Ⅰ（慢性期）	1	必	前	看護管理学	2	必	前		
	基礎看護技術Ⅰ	2	必	前	基礎看護技術Ⅳ	1	必	前	緩和ケア演習	1	必	前						
	基礎看護技術Ⅱ	2	必	後	看護理論	2	必	後	在宅療養移行支援実習	1	必	前						
	小児看護学概論	1	必	前	成人看護学各論	2	必	前	小児看護学演習	1	必	前						
	成人看護学概論	1	必	後	健康危機回復支援実習Ⅱ（慢性期）	1	必	後	母性看護学演習	1	必	前						
	母性看護学概論	1	必	前	老年看護学概論	1	必	前	精神看護学演習	1	必	前						
	精神看護学概論	1	必	後	老年看護学各論	2	必	後	在宅看護学演習Ⅰ	1	必	前						
					小児看護学各論	2	必	後	在宅看護学演習Ⅱ	1	必	前						
					母性看護学各論	2	必	前	家族看護学	1	必	前						
					精神看護学各論	2	必	後	国際看護学	1	必	前						
					在宅看護学概論	2	必	前	看護研究の基礎	1	必	通						
					在宅看護学各論	2	必	後										
					公衆衛生看護学概論	2	必	前	専門選択必修科目	2	選	必	前	専門選択必修科目	1	選	必	前
									【領域別実習】					地域（療養）生活実習Ⅱ	1	必	前	
									母性看護学実習	2	必	通		人間看護学統合実習	1	必	前	
								精神看護学実習	2	必	通		人間看護学統合実習Ⅱ	1	必	前		
								小児看護学実習	2	必	通							
								健康危機回復支援実習	4	必	通							
								在宅療養移行支援実習	2	必	通							
								緩和ケア実習	2	必	通							
								在宅看護学実習	2	必	通							
													卒業研究	4	必	通		
単位数	必修単位+人間学必修	前期21・後期18 必修小計 39単位			必修単位+選択必修	前期24・後期23 必修小計 47単位			必修単位+選択必修	前期12・通年17 必修小計 29単位			必修単位+選択必修	前期6・通年4 必修小計 10単位		必修合計 125単位		
	人間学選択可能 単位数（前期または後期）	4単位以上			人間学選択可能 単位数（前期または後期）	2単位			（人間学選択可能 単位数（前期））	4単位以上			（人間学選択可能 単位数（前期または後期））	4単位以上		4単位		
合計														129単位				

\*保健師課程を選択する場合は、上記表の人間学を含む全学共通科目を2年次までに全て修得しておく。他、資格取得の手引きの頁「保健師国家試験受験資格」も必ず確認。

\*保健師課程の履修者は3年次までに専門選択必修科目3単位を修得しておく。

\*保健師課程の履修者は「健康教育論」「災害看護学」が、養教を選択する場合は「健康教育論」が、専門選択必修科目では必修となる。

\*養護教諭一種免許・二種免許の取得には、人間学「憲法」は必修となる。

卒業要件以外 の科目								公衆衛生看護活動論	2	必	前	公衆衛生看護技術論	2	必	前	14単位
												公衆衛生看護管理論	2	必	前	
												公衆衛生看護学演習Ⅰ	1	必	前	
												公衆衛生看護学演習Ⅱ	2	必	通	
												公衆衛生看護学実習	5	必	通	
								小計	2	単位		小計	12	単位		看護士との 合計 143単位

注：教職科目の配当年次は1～4年次であるため、あくまでもモデルとして

卒業要件以外 の科目	1・2年次						3年次			4年次			必要単位数					
	単位数	必	選	前	後	通	単位数	必	選	前	後	通						
教職論	2	必	前	特別支援教育概論	1	必	前	学校保健論	2	必	前	教職実践演習	2	必	後	32単位 (教職科目 28単位)		
教育相談	2	必	前	特別活動論	2	必	後	学校看護論	2	必	前							
教育学概論	2	必	前	教育制度論	2	必	後	道徳教育論	2	必	前							
教育方法論	2	必	前	教育課程論	2	必	後	教育実習・事前事後指導	※	必	後	教育実習・事前事後指導	5	※	必		通	
教育心理学	2	必	前	生徒指導論	2	必	後											
総合的な学習の時間の指導法	1	必	前															
								小計	19	単位		小計	6	単位		小計	7	単位

\*教育実習・事前事後指導は3年次後期および4年次前期後期（通年）に履修する。3年次と4年次で合わせて5単位取得となる。

\*\*「憲法」「教職論」「教育学概論」「教育方法論」「生徒指導論」「道徳教育論」「学校保健論」「学校看護論」は実習までに履修課程が履修中であること。

専門選択必修科目一覧（P151）を参照し履修科目を選択してください。

## 専門選択必修科目一覧

■履修にあたっては下欄の注意書きを参照。

	選択科目分野		科目名	配当学年	単位数
専門 選択必修 3単位	看護探究能力を 育む科目群	3年次以上	看護キャリアデザイン論	3,4・前	1
			看護教育と実践	4・前(集)	1
	看護実践能力を 養う科目群	3年次以上	健康教育論※1	3・前	2
			クリティカルケア実践演習	4・前	1
			チャイルドライフケア論	4・前	1
			ホリスティックケア論	3,4・前	1
	地域・国際看護能 力を高める科目群	1～4年次	国際看護学実習	1～4・通	1
		3年次以上	災害看護学※1	3,4・前	1
			ボランティア実践演習	4・前(集)	1

注1: 保健師課程履修の学生は、※1の科目は必修科目となる。

注2: 保健師課程履修の学生は、3年前期までに専門選択必修3単位をすべて修得しておくこと。

注3: 看護教諭免許の取得を希望する学生は、「健康教育論」を修得すること。

注4: 保健師課程、看護教諭免許取得を希望する学生は実習と重なるため、集中講義の科目は開講時期により受講できない可能性がある。

## 2023(令和5)年度以降 滋賀県立大学人間看護学部 実習計画表

配当 年次	実習科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	地域(健康)生活実習 I			この期間に行う									
	基礎看護学実習 I					⇐							
2年次	基礎看護学実習 II					⇐							
	領域別実習					⇐	⇐	⇐	⇐	⇐	⇐	⇐	⇐
3年次	人間看護学統合実習 I					⇐							
	人間看護学統合実習 II					⇐							
4年次 ※編入 4年次	地域(療養)生活実習 II					⇐							
	教育実習 (看護教諭)		①	この期間で3週間		④	③	③					
	公衆衛生看護学実習 (保健師課程)					④	⇐	⇐	⇐	⇐	⇐	⇐	⇐

計画は実習先の事情等により変更する場合があります。

※教育実習は、この期間内のできるだけ計画・調整してください。

①看護教諭免許取得希望の学生：教育実習期間①(できるだけ)で調整

②養護教諭免許取得希望、かつ保健師課程を選択している学生：教育実習は期間③・公衆衛生看護学実習期間④で調整

人間看護学部実習前提科目

実習名	実習期間	履修要件	修得済み科目・履修科目			
			専門基礎科目		専門科目	
基礎看護学実習Ⅰ	1年次前期集中	○1年前期の看護学概論、基礎看護技術Ⅰを修得していること			看護学概論	1・前
基礎看護学実習Ⅱ	2年次前期集中	○1年次までの専門基礎科目・専門科目における必修科目を修得していること ※生化学、微生物/免疫学、小児看護学概論、成人看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論を除く ○2年次前期の基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳを修得見込みであること ○全学共通科目の生命・人間・倫理を修得していること	解剖生理学Ⅰ	1・前	地域(健康)生活実習Ⅰ	1・前
			解剖生理学Ⅱ	1・後	基礎看護学実習Ⅰ	1・集中(前)
領域別実習	3年次通年	○2年次までの専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること ○3年次前期の専門科目の必修科目を全て修得しておくこと ○全学共通科目の情報科学概論、地域社会福祉論を修得していること	公衆衛生学	2・前	母性看護学概論	1・後
			薬理学	2・前	精神看護学概論	1・後
			疾病論Ⅰ	2・前	基礎看護学実習Ⅱ	2・集中(前)
			疾病論Ⅱ	2・後	看護理論	2・後
			疾病論Ⅲ	2・後	成人看護学各論	2・前
			疫学	2・後	健康危機回復支援演習Ⅰ(慢性期)	2・後
			栄養学	2・後	老年看護学概論	2・前
			情報科学概論	1・後	老年看護学各論	2・後
			地域社会福祉論	2・後	小児看護学各論	2・後
					母性看護学各論	2・前
					精神看護学各論	2・後
					在宅看護学概論	2・前
					在宅看護学各論	2・後
					公衆衛生看護学概論	2・前
					健康危機回復支援演習Ⅱ(急性期)	3・前
					緩和ケア演習	3・前
					在宅療養移行支援演習	3・前
					小児看護学演習	3・前
					母性看護学演習	3・前
		精神看護学演習	3・前			
		在宅看護学演習Ⅰ	3・前			
		在宅看護学演習Ⅱ	3・前			
		家族看護学	3・前			
		国際看護学	3・前			
地域(療養)生活実習Ⅱ	4年次前期	○3年次までの専門科目の必修科目を全て修得しておくこと ○4年次前期の専門科目の必修科目を履修すること			看護研究の基礎	3・通
					母性看護学実習	
					精神看護学実習	
					小児看護学実習	
					健康危機回復支援実習	
					在宅療養移行支援実習	
					緩和ケア実習	
					在宅看護学実習	4・前
					看護管理学	
人間看護学統合実習Ⅰ・Ⅱ	4年次前期	○3年次までの専門科目の必修科目を全て修得しておくこと ○4年次前期の専門科目の必修科目を履修すること			看護研究の基礎	3・通
					母性看護学実習	
					精神看護学実習	
					小児看護学実習	
					健康危機回復支援実習	
					在宅療養移行支援実習	
					緩和ケア実習	
					在宅看護学実習	4・前
					看護管理学	
					地域(療養)生活実習Ⅱ	

※・・・2024年度入学生から[微生物学/免疫学]は後期科目に変更となる。



# 第3章 資格取得の手引

第3章は、「履修の手引」特別編です。

本学に学ぶみなさんが、将来社会で活躍するのに必要な資格の取得について解説していますので、該当部分を熟読の上、履修計画をたててください。

# 1 本学における免許・資格の取得について

## 免許・資格一覧

各学部・学科で取得可能な免許・資格は下表のとおりです。

学 部	学 科	取得可能免許・資格
環 境 科 学 部	環 境 生 態 学 科	中学校教諭一種免許（理科） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（理科） 自然再生士補 甲種危険物取扱者試験受験資格
	環 境 社 会 シ ス テ ム 学 科	高等学校教諭一種免許（公民） 学芸員資格 社会調査士資格 GIS 学術士資格 自然再生士補
	環 境 建 築 デ ザ イ ン 学 科	一級建築士受験資格 二級・木造建築士受験資格 施工管理技士受験資格
	生 物 資 源 管 理 学 科	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科・農業） 甲種危険物取扱者試験受験資格
工 学 部	材 料 化 学 科	高等学校教諭一種免許（理科・工業） 甲種危険物取扱者試験受験資格 毒物劇物取扱責任者資格
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	高等学校教諭一種免許（理科・工業） 施工管理技士受験資格
	電 子 シ ス テ ム 工 学 科	高等学校教諭一種免許（工業・情報） 電気通信主任技術者試験資格(1科目免除) 電気主任技術者資格 施工管理技士受験資格
人 間 文 化 学 部	地 域 文 化 学 科	中学校教諭一種免許（社会） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（地理歴史） 社会調査士資格 地域調査士資格
	生 活 デ ザ イ ン 学 科	中学校教諭一種免許（家庭） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（家庭）二級・木造建築士受験資格 インテリアプランナー登録資格
	生 活 栄 養 学 科	学芸員資格 栄養教諭一種免許 栄養士資格 管理栄養士受験資格 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格
	人 間 関 係 学 科	中学校教諭一種免許（社会） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（公民） 社会調査士資格
	国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	中学校教諭一種免許（英語） 高等学校教諭一種免許（英語）
人間看護学部	人 間 看 護 学 科	看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 養護教諭一種免許
全学部・学科		社会福祉主事任用資格

## 2 各学部・学科における教育職員免許の取得について

### 滋賀県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

教員養成における「教科及び教職に関する科目」

地域に根ざした幅広い視野と豊かな人間性を身につけた教育者を養成するため、教員養成における「教科及び教職に関する科目」を設置します。

その中で、以下の目的に重点を置きながら、全学的な協力・指導体制をもって本学の理念の実現に取り組み、次代の社会と地域を担う教育者の養成を目指します。

- (1) 人に学び人を育てる豊かな人間性の涵養  
教育は、教師が自分という人間を使って、人間である子どもに働きかける仕事です。そのため、教職生涯を通して自らの人格を高めることが求められます。子どもへの深い理解と愛情に根ざした教育者としての使命感を支える豊かな人間性を育みます。
- (2) 求められる専門性を身につけ、課題に応じて具体的実践が展開できる専門的力量的の養成  
子どもの発達の・教育的ニーズに応えるためには、担当教科等に関わる確かな知識と技量、そして、子どもの複雑多様な課題を把握し理解する力量が必要です。この二つの柱に支えられた専門的な実践力量を養成します。
- (3) 同僚・保護者と共同し、自らも研究と修養を持続的に追求する自己教育力の獲得  
教育を巡る様々な課題は複雑さを加えています。同僚や子どもに関わる他の専門職、保護者や地域住民等と共同して解決に当たることが重要です。このような共同遂行力を高め、自らも研修を続ける自己教育力の獲得を目指します。

本学（環境建築デザイン学科、生活栄養学科、人間看護学部を除く。）では、「中学校教諭一種免許」、「高等学校教諭一種免許」を取得可能です。また、生活栄養学科では「栄養教諭一種免許」を、人間看護学部では「養護教諭一種免許」を取得可能です。

- ※ 「栄養教諭一種免許」および「養護教諭一種免許」の取得については、それぞれのページを参照のこと。
- ※ この内容は2026（令和8）年度入学生用です。
- ※ 本学において教育職員免許を取得するためには、次の表1の授業科目（単位数）を修得する必要があります。なお、これは最低単位数ですから、この単位数以上にできるだけ多く修得してください。
- ※ 開講年次については目安を示したものです。低年次から可能なものは履修してください。

表1 本学における最低必要単位数

教育職員免許法上の区分	中学校教諭一種	高等学校教諭一種	備 考
教育の基礎的理解に関する科目等	29単位	25単位	(1) で説明 (表2の②③④)
教科及び教科の指導法に関する科目	32単位	36単位	(2) で説明 (表2の①⑤)
大学が独自に設定する科目			
教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める 科目	○憲法（2単位）		人間学（教職必修科目）
	○健康・体力科学Ⅰ、Ⅱ（各1単位） ○英語ⅡA、英語ⅡB（各1単位） ○情報リテラシー（情報倫理を含む）（2単位）		卒業要件上の必修科目

- (1) 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修方法について（表2の②③④）

「教育の基礎的理解に関する科目等」は、『教科及び教職に関する科目一覧表』の中の「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」を履修してください。

- ・「道徳教育論」は中学校教諭一種免許では必修、高等学校教諭一種免許では選択科目とします。
- ・「教育学概論」「教育方法論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」「道徳教育論」は人間文化学部人間関係学科専門科目です。

- (2) 「教科及び教科の指導法に関する科目」「大学が独自に設定する科目」の履修方法について  
(表2の①⑤)

「教科及び教科の指導法に関する科目」(次ページ以降の免許および教科ごと学科別科目一覧表)の中から、中学校教諭一種免許の場合、32単位以上、高等学校教諭一種免許の場合、36単位以上履修してください。

・高等学校教諭一種免許を希望する者は、『教科及び教職に関する科目一覧表』(表2)から「道徳教育論」を単位取得した場合、それ(2単位)を「大学が独自に設定する科目」の単位の一部として充当することができます。

- (3) 「教育実習・事前事後指導」について

※履修登録は、3年後期および4年前期の2回とも必ず行ってください。

① 事前事後指導

事前指導は、教育実習実施前(3年次)の後期に実施します。

事後指導は、原則として教育実習終了後(4年次)に実施します。

② 教育実習の実施

「教育実習」は、原則として、4年次の前期に出身校において、中学校教諭一種免許は3週間、高等学校教諭一種免許は2週間実施します(受入校の都合により、実施時期を変更することがある)。人間看護学部の養護教育実習および生活栄養学科の栄養教育実習については、それぞれ「養護教諭一種免許」および「栄養教諭一種免許」のページを参照のこと。

③ 教育実習参加の基礎要件

・教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。

「憲法」「教職論」「教育方法論」「教育学概論」「生徒指導論」「道徳教育論」(中学校のみ)を既に修得済であること(ただし、履修上困難な場合は、履修中〔後期の履修登録科目を含む〕であることも可とする)。

・教科及び教科の指導法に関する科目については、「教科教育法Ⅰ・Ⅱ」を含み、中学校教諭一種免許は24単位以上、高等学校教諭一種免許は28単位以上を履修していること。

・中学校教諭一種免許の取得を希望する者は、教育実習受講年度において、後掲(4)の「介護等体験」(7日間)を実習済みか、履修中であること。

- (4) 「介護等体験」について

平成10年4月1日より介護等体験特例法が施行され、平成10年以降入学生から適用を受けることになりました。これは、単位修得とは別に社会福祉施設等において7日間の介護等体験(社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間)が義務付けられるもので、本学では、中学校教諭一種免許の取得を希望するものが、3年次に介護等体験を受けることになります。これに関するオリエンテーションは、2年次の2月頃に開催します。

- (5) 隔年開講科目について

下記の科目は、隔年開講となります。4年生時に不開講で履修できないこともあり得るので3年生まで履修済となるよう計画的に履修してください。

【奇数年開講】

「家庭科教育法Ⅰ」「家庭科教育法Ⅱ」「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」「食物学」「生活経営概論」「政治経済学」

【偶数年開講】

「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「家庭科教育法Ⅲ」「家庭科教育法Ⅳ」「職業指導」「こどもの健康(家庭看護を含む)」「こどもの発達(実習を含む)」

- (6) 「教職実践演習」について

4年次後期に履修してください。

表2 ◆ 教科及び教職に関する科目一覧表 ◆

免許法による 必修単位 <参考> 高等学校	本学開講科目							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
免許法による 必修単位 <参考> 高等学校	※免許及び教科ごと学科別科目一覧表（教科及び教職の指導法に関する科目）を参照のこと。							
28					教科教育法Ⅲ (中高・必修・ 高校選択)		教科教育法Ⅳ (中高・必修・ 高校選択)	
24			教科教育法Ⅰ (中高・必修)  教育学概論 (中高・必修)					
	教職論 (中高・必修)						教育制度論 (中高・必修)	
							教育心理学 (中高・必修)	
							特別支援教育 概論 (中高・必修)	
							教育課程論 (中高・必修)	
合計	中28 高24						中11 高11	
免許法施行規則に定める科目区分	単位 数		8		2		2	
科目	各科目に含める必要事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科に関する専門的事項</li> <li>・各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</li> <li>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</li> <li>・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)</li> <li>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</li> <li>・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</li> <li>・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</li> <li>・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)</li> </ul>		2		2	
① 教科及び指導法の関係する科目								
② 教育の基礎的理解に関する科目								

③道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	2					道徳教育論 (中学必修・高校選択)					
	・総合的な学習の時間の指導法	1				総合的な学習の時間の指導法 (中高・必修)						
	・特別活動の指導法	2					特別活動論 (中高・必修)					
	・教育の方法及び技術	2	中高11			教育方法論 (情報通信技術の活用を含む) (中高・必修)					10	
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	2	高9				生徒指導論 (中高・必修)				8	
	・生徒指導の理論及び方法	2										
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	1					教育相談 (中高・必修)					
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	1					進路指導 (中高・必修)					
	④教育実践に関する科目	中高5 高3	7 5					教育実習・事前事後指導 (中高・必修)			5	3
	⑤大学が独自に設定する科目	2	中 高12							教育実践演習 (中高・必修)	2	2
合 計		61								59	59	

中学61単位 高校61単位 必修

(注)「教職論」は原則として1年次に履修すること。

- ・教科教育法は2年次以降の配当科目であるが、時間割の都合および隔年開講などの理由により、4年次に履修することが困難な場合がある。そのため、「教職論」を履修している場合は、1年次から履修することを可とする。この場合、「教育方法論(情報通信技術の活用を含む)」も1年次で履修することが望ましい。
- ・「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」「家庭科教育法Ⅰ」「家庭科教育法Ⅱ」は奇数年度に開講される。
- ・「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「家庭科教育法Ⅲ」「家庭科教育法Ⅳ」は偶数年度に開講される。
- ・「教科及び教職に関する科目一覽表」の中の「②教育の基礎的理解に関する科目」「③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「④教育実践に関する科目」を全て履修すること。但し、「道徳教育論」は、高等学校教諭一種免許では選択科目とする。
- ・開講年次は目安を示したものであり、年次配当の規定がある科目以外については、低年次から履修可能(年度当初に配布する時間割表で確認すること)。
- ・「教育学概論」「教育方法論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」「道徳教育論」は人間文化学部人間関係学科専門科目。

## 環境科学部 ★環境生態学科

## 中学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	環境物理学Ⅰ	1	○	2		
	環境物理学Ⅱ	3		2		
	環境地下水学	2			2	
	環境水文学	2			2	
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2		
	環境化学Ⅱ	3		2		
	環境疫学	3			2	
	環境汚染システム論	3			2	
	環境毒性学	3			2	
	大気環境学	2			2	
	集水域環境学	2			2	
	環境生物学Ⅰ	1		○	2	
環境生物学Ⅱ	2	2				
森林環境学	2		2			
動物生態学	2		2			
陸域物質循環論	3		2			
海洋環境学	2		2			
遺伝学	2		2			
生物資源統計学Ⅰ	1		2			
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		
	地球科学Ⅱ	2		2		
	土壌環境化学	3			2	
	湖沼環境学	2			2	
	地球環境化学	3			2	
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	環境物理学実験	2	○	2		
	環境化学実験	1		2		
	環境生物学実験	1		2		
	地球科学実験	2		2		
	陸域環境学・同実験	3			4	
	水域環境学・同実験	3			4	
	集水域環境学・同実験	2			4	
	環境解析学・同実験	2			4	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
			合計	32	52	

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修科目は全て修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考	
				必修	選択		
物理学	環境物理学Ⅰ	1	○	2			
	環境物理学Ⅱ	3		2			
	環境地下水学	2			2		
	環境水文学	2			2		
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2			
	環境化学Ⅱ	3		2			
	環境疫学	3			2		
	環境汚染システム論	3			2		
	環境毒性学	3			2		
	大気環境学	2			2		
	集水域環境学	2			2		
	生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		
環境生物学Ⅱ		2	2				
森林環境学		2			2		
動物生態学		2			2		
陸域物質循環論		3			2		
海洋環境学		2			2		
遺伝学		2			2		
生物資源統計学Ⅰ		1			2		
分子生物学		1			2		
微生物機能論		3			2		
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2			
	地球科学Ⅱ	2		2			
	土壌環境化学	3			2		
	湖沼環境学	2			2		
	地球環境化学	3			2		
「物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験」	環境物理学実験	2	○※	2	}	うち4単位以上	
	環境化学実験	1		2			
	環境生物学実験	1		2			
	地球科学実験	2		2			
	環境解析学・同実験	2					4
	陸域環境学・同実験	3					4
	水域環境学・同実験	3					4
	集水域環境学・同実験	2					4
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目	
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目	
合計				24	60		

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。(※除く)

※環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

## 環境科学部 ★環境社会システム学科

## 高等学校教諭一種免許(公民)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
「法律学(国際法を含む。)、 政治学(国際政治を含む。)」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		
	政治学Ⅰ	3			2	
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	3			2	
	環境法	3			2	
	地域環境政策論	2			2	
	環境政策学	2			2	
「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	社会学	2	○	2		
	経済学Ⅰ	1			2	
	経済学Ⅱ(国際経済を含む)	2			2	
	地域開発論	3			2	
	環境経済学入門	1			2	
	環境経済学	2			2	
	地域調査法	1			2	
	地域調査法演習	2			1	
	環境社会システム演習Ⅰ	3			1	
	環境社会システム演習Ⅱ	3,4			1	
	環境社会システム演習Ⅲ	4			1	
	環境監査	3			2	
	環境社会学	1			2	
「哲学、倫理学、 宗教学、心理学」	哲学概論A	3	○	2		人間文化学部専門科目
	心理学基礎	3			2	人間文化学部専門科目
	環境公正論	3			2	
	環境心理学	2			2	
各教科の指導法(情報機器 及び教材の活用を含む。)	公民科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	公民科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
合計				10	36	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より26単位以上を修得しなければならない。

## 環境科学部 ★生物資源管理学科

## 中学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考	
				必修	選択		
物理学	環境物理学Ⅰ	1	○	2		環境生態学科専門科目	
	環境物理学Ⅱ	3		2			
	土壌環境物理学	2			2		
	環境水文学	2			2		
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2			
	環境化学Ⅱ	3		2			
	環境疫学	3			2		
	環境汚染システム論	3			2		
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2			
	環境生物学Ⅱ	2		2			
	森林環境学	2			2		
	動物生態学	2			2		
	遺伝学	2			2		
	生物資源統計学Ⅰ	1			2		
	環境植物生理学	2			2		
	分子生物学	1			2		
植物栄養学	2		2				
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境生態学科専門科目	
	地球科学Ⅱ	2		2			
	土壌環境化学	2			2		
	湖沼環境学	2			2		
物理学実験・化学実験・ 生物学実験・地学実験	環境物理学実験	2	○	2			
	環境化学実験	1		2			
	環境生物学実験	1		2			
	地球科学実験	2		2			
	生物資源管理理学実験・実習Ⅱ	3			2		
	生物資源管理理学実験・実習Ⅳ	3			2		
	生物資源管理理学実験・実習Ⅴ	2			2		
	生物資源管理理学実験・実習Ⅵ	3			2		
	生物資源管理理学実験・実習Ⅶ	3			2		
	生物資源管理理学実験・実習Ⅸ	2			2		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目	
合計				32	38		

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修科目は全て修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

## 環境科学部 ★生物資源管理学科

## 高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	環境物理学Ⅰ	1	○	2		環境生態学科専門科目
	環境物理学Ⅱ	3		2		
	土壌環境物理学	2			2	
	環境水文学	2			2	
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2		
	環境化学Ⅱ	3		2		
	環境疫学	3			2	
	環境汚染システム論	3			2	
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		
	環境生物学Ⅱ	2		2		
	森林環境学	2			2	
	動物生態学	2			2	
	遺伝学	2			2	
	生物資源統計学Ⅰ	1			2	
	環境植物生理学	2			2	
	分子生物学	1			2	
植物栄養学	2		2			
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境生態学科専門科目
	地球科学Ⅱ	2		2		
	土壌環境化学	2			2	
	湖沼環境学	2			2	
「物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験」	環境物理学実験	2	○※	2	}	うち4単位以上
	環境化学実験	1		2		
	環境生物学実験	1		2		
	地球科学実験	2		2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	3		2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	3		2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅴ	2		2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅵ	3		2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅶ	3		2		
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	2	2				
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
合計				24	46	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。(※除く)

※環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

高等学校教諭一種免許(農業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
農業の 関係科目	生物資源管理学概論	1	○	2		
	園芸学	2			2	
	作物学	2,3			2	
	植物遺伝資源学	2			2	
	動物資源管理学	3			2	
	家畜生産学	2			2	
	植物生産学	1			2	
	植物病害防除論	3			2	
	害虫管理学	3			2	
	植物資源開発学	3			2	
	微生物工学	3			2	
	水資源利用学	2			2	
	水資源保全学	3			2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	3			2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2			2	
	地域資源管理学	2			2	
	農業経済学	3			2	
	農業経営学	2			2	
	水理学	2			2	
	農業環境学	3			2	
作物保護学	2			2		
職業指導	職業指導	1,2,3,4	○	2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	農業科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
	農業科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
合計				8	40	

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修の全ての科目と、選択科目より28単位以上修得しなければならない。

## 工学部 ★材料化学科

## 高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	基礎力学	1	○	2		
	基礎熱力学	1		2		
	基礎電磁気学	1		2		
	材料力学	2		2		
化学	基礎化学	1	○	2		
	電子と化学結合	1		2		
	無機化学基礎	1			2	
	化学熱力学	2			2	
	反応速度論	2			2	
	無機化学Ⅰ	2		2		
	無機化学Ⅱ	2			2	
	有機化学Ⅰ	1		2		
	有機化学Ⅱ	2		2		
	有機化学Ⅲ	2			2	
	分析化学	1			2	
	物理化学総合および同演習	3			2	
	無機化学総合および同演習	3			2	
	有機化学総合および同演習	3			2	
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		環境科学部専門科目
	環境生物学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
	生化学Ⅰ	2			2	
	生化学Ⅱ	3			2	
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境科学部専門科目
	地球科学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
「物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験」	物理学実験	2	○	2		
	分析・環境化学実験	1		2		
	定量・機器分析および同実験	2		2		
	材料科学実験Ⅰ	3		3		
	材料科学実験Ⅱ	3		3		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
合計				42	26	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修科目は全て修得しなければならない。選択科目については履修することを推奨する。

## 工学部 ★材料化学科

## 高等学校教諭一種免許(工業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
工業の関係科目	材料科学概論	1	○	2		
	環境調和化学	3		2		
	化学工学	2			2	
	機器分析Ⅰ	2			2	
	機器分析Ⅱ	3			2	
	電気化学	2			2	
	金属材料	3			2	
	セラミックス材料	3			2	
	材料計算化学および同演習	3			2	
	材料組織学	3			2	
	高分子物性	3			2	
	エネルギー・界面科学	3			2	
	複合材料	3			2	
	高分子合成	3			2	
	固体物性基礎	2			2	
分子・統計力学	3			2		
技術者倫理	3			2		
職業指導	職業指導	1,2, 3,4	○	2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	工業科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	工業科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
合計				10	30	

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修の全ての科目と、選択科目より26単位以上修得しなければならない。

## 工学部 ★機械システム工学科

## 高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	基礎力学	1	○	2		
	基礎電磁気学	1		2		
	熱力学Ⅰ	2		2		
	工業力学	1			2	
	材料力学Ⅰ	2			2	
	材料力学Ⅱ	2			2	
	熱力学Ⅱ	3			2	
	伝熱学	3			2	
	流体力学Ⅰ	2			2	
	流体力学Ⅱ	3			2	
化学	基礎化学	1	○	2		
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		環境科学部専門科目
	環境生物学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境科学部専門科目
	地球科学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	物理学実験	1	○	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
合計				22	18	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上修得しなければならない。

高等学校教諭一種免許(工業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
工業の関係科目	機械システム工学概論	1	○	2		
	機械工学基礎実験	3		2		
	機械力学Ⅰ	3			2	
	制御工学Ⅰ	3			2	
	生産工学	3			2	
	機械製作	1			2	
	機械力学Ⅱ	3			2	
	機械要素	2			2	
	制御工学Ⅱ	3			2	
	メカトロニクス	3			2	
	計測工学	3			2	
	機械材料学	2			2	
	機械設計演習Ⅰ	2			2	
	機械設計演習Ⅱ	3			2	
	機械設計演習Ⅲ	3			2	
	機械製作実習	2			2	
	機械システム創造実験	3			2	
	金属加工学	3			2	
職業指導	職業指導	1,2,3,4	○	2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	工業科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	工業科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
合計				10	32	

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修の全ての科目と、選択科目より26単位以上を修得しなければならない。

## 工学部 ★電子システム工学科

## 高等学校教諭一種免許(工業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
工業の関係科目	電子システム工学概論	1	○	2		
	基礎電磁気学	1		2		
	工業数学	2		2		
	電磁気学 I	2		2		
	電気回路 I	2		2		
	電子回路 I	2		2		
	半導体基礎	2		2		
	基礎電気電子回路	1			2	
	電磁気学 II	2		2		
	電気回路 II	2		2		
	電子回路 II	3		2		
	量子力学概論	2		2		
	物性デバイス基礎論	2		2		
	電気エネルギーシステム工学	3		2		
	半導体デバイス	3		2		
	電磁波工学	3		2		
	電子デバイス	3		2		
	パワーエレクトロニクス	4		2		
職業指導	職業指導	1,2, 3,4	○	2	教職用科目 隔年開講(偶数年)	
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	工業科教育法 I	2,3		2	教職用科目 隔年開講(奇数年)	
	工業科教育法 II	2,3		2	教職用科目 隔年開講(奇数年)	
合計				22	20	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

## 高等学校教諭一種免許(情報)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
情報社会(職業に関する 内容を含む)・情報倫理	電子社会と人間	1,2, 3,4	○	2		人間学科目
コンピュータ・情報処理	コンピュータハードウェア	2	○	2		
	アルゴリズムとデータ構造	2		2		
	プログラミング言語	2		2		
	プログラミング基礎	2		2		
	情報処理基礎	2		2		
	電気電子計測Ⅰ	3			2	
	電気電子計測Ⅱ	3			2	
	制御工学	3			2	
	通信情報理論	2			2	
情報システム	コンピュータアーキテクチャ	3	○	2		
	コンピュータソフトウェア	3		2		
	情報科学概論	1		2		全学共通基礎科目(情報処理)
	集積回路設計基礎	3			2	
	ロボット工学	4			2	
情報通信ネットワーク	情報通信工学	3	○	2		
	通信ネットワーク工学	3		2		
	電子システム工学実験Ⅱ	2		2		
マルチメディア表現・ マルチメディア技術	通信システム工学	3	○	2		
	電気電子設計製図	3		1		
	デジタル信号処理	2			2	
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	情報科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	情報科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
合計				31	14	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より6単位以上を修得しなければならない。

## 人間文化学部 ★地域文化学科

## 中学校教諭一種免許(社会)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
日本史・外国史	日本史概説	1,2	○	2		
	日本社会論	1,2		2		
	西洋史概説	2,3		2		
	東洋史概説	1,2		2		
	考古学	1,2		2		
	基層文化論	1,2			2	
	日本文化史論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	日本文化史論B	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)
	日本・地域交流特論	3,4			2	
	対外文化交流論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	古文書演習Ⅰ	2,3			1	
	古文書演習Ⅱ	2,3			1	
	考古学特論A	3,4			2	隔年開講(偶数年)
	中国地域文化論	2,3			2	
	朝鮮地域文化論	2,3			2	隔年開講(偶数年)
東アジア世界論	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)	
地理学(地誌を含む。)	人文地理学A	1,2	○	2		
	自然地理学	3,4		2		
	地誌学	3,4		2		
	人文地理学B	2,3,4		2		
	地域研究論	1,2				2
「法学、政治学」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		人間関係学科専門科目
	政治学Ⅰ	2			2	人間関係学科専門科目
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2			2	人間関係学科専門科目
「社会学、経済学」	社会学概論	1,2	○	2		
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論A	2,3	○	2		
	哲学概論B	2,3			2	隔年開講(奇数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	社会科教育法Ⅰ	2			2	教職用科目
	社会科教育法Ⅱ	2			2	教職用科目
	社会科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	社会科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
			合計		32	28

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修全ての科目を修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

## 人間文化学部 ★地域文化学科

## 高等学校教諭一種免許(地理歴史)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
日本史	日本史概説	1,2	○	2		
	日本社会論	1,2		2		
	考古学	1,2		2		
	基層文化論	1,2			2	
	日本文化史論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	日本文化史論B	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)
	日本・地域交流特論	3,4			2	
	対外文化交流論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	古文書演習Ⅰ	2,3			1	
	古文書演習Ⅱ	2,3			1	
考古学特論A	3,4			2	隔年開講(偶数年)	
外国史	西洋史概説	2,3	○	2		
	東洋史概説	1,2		2		
	中国地域文化論	2,3			2	
	朝鮮地域文化論	2,3			2	隔年開講(偶数年)
	東アジア世界論	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)
人文地理学・自然地理学	人文地理学A	1,2	○	2		
	自然地理学	3,4		2		
	人文地理学B	2,3,4			2	
	地域研究論	1,2			2	
地誌	地誌学	3,4	○	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	地理歴史科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	地理歴史科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
合計				22	22	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

## 人間文化学部 ★生活デザイン学科

## 中学校教諭一種免許(家庭)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	生活経営概論	2,3	○	2		隔年開講(奇数年)
被服学(被服実習を含む。)	生活素材論	2	○	2		
	服飾造形論	3		2		
	比較衣装論	1			2	
	服飾デザイン論	3			2	
	服飾文化論	2			2	
	服飾デザイン演習Ⅰ	2	○	2		
	服飾デザイン演習Ⅱ	2			2	
	服飾デザイン演習Ⅲ	3			2	
食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	食物学(調理実習を含む)	1,2	○	2		隔年開講(奇数年)
住居学	比較住居論	1	○	2		
	一般構造	2			2	
	建築計画論	2			2	
	住居計画論	3			2	
	住環境論	3			2	
	道具計画論	3			2	
	基礎設計製図	1	○	2		
	住環境設計演習Ⅰ	2			2	
	住環境設計演習Ⅱ	2			2	
保育学	こどもの健康(家庭看護を含む)	1,2	○	1		隔年開講(偶数年)
	こどもの発達(実習を含む)	1,2	○	1		隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	家庭科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目(奇数年)
	家庭科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目(奇数年)
	家庭科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目(偶数年)
	家庭科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目(偶数年)
合計				24	24	

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修の全ての単位と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

## 人間文化学部 ★生活デザイン学科

## 高等学校教諭一種免許(家庭)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む。)	生活経営概論	2,3	○	2		隔年開講(奇数年)
被服学(被服実習を含 む。)	生活素材論	2	○	2		
	服飾造形論	3		2		
	比較衣装論	1			2	
	服飾デザイン論	3			2	
	服飾文化論	2			2	
	服飾デザイン演習Ⅰ	2	○	2		
	服飾デザイン演習Ⅱ	2			2	
服飾デザイン演習Ⅲ	3			2		
食物学(栄養学、食品学及 び調理実習を含む。)	食物学(調理実習を含む)	1,2	○	2		隔年開講(奇数年)
住居学	比較住居論	1	○	2		
	一般構造	2			2	
	建築計画論	2			2	
	住居計画論	3			2	
	住環境論	3			2	
	道具計画論	3			2	
	基礎設計製図	1	○	2		
	住環境設計演習Ⅰ	2			2	
住環境設計演習Ⅱ	2			2		
保育学	こどもの健康(家庭看護を含む)	1,2	○	1		隔年開講(偶数年)
	こどもの発達(実習を含む)	1,2	○	1		隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	家庭科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目(奇数年)
	家庭科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目(奇数年)
	家庭科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目(偶数年)
	家庭科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目(偶数年)
合計				20	28	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない。

## 人間文化学部 ★人間関係学科

## 中学校教諭一種免許(社会)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
日本史・外国史	日本史概説	1,2	○	2		地域文化学科専門科目
	日本社会論	1,2		2		
	東洋史概説	1,2		2		地域文化学科専門科目
	西洋史概説	2,3		2		地域文化学科専門科目
地理学(地誌を含む。)	人文地理学A	1,2	○	2		地域文化学科専門科目
	自然地理学	3,4		2		地域文化学科専門科目
	地誌学	3,4		2		地域文化学科専門科目
	人文地理学B	2,3,4		2		地域文化学科専門科目
「法学、政治学」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		
	政治学Ⅰ	2			2	
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2			2	
	社会運動論	3,4			2	隔年開講(偶数年)
「社会学、経済学」	社会学概論	1	○	2		
	政治経済学	3,4		2		隔年開講(奇数年)
	社会変動論	3,4			2	隔年開講(奇数年)
	社会調査論	1			2	
	人間行動論	1			2	
	社会問題の社会学	2,3			2	隔年開講(奇数年)
	現代社会福祉論	3,4			2	
	社会学演習	2			2	
	行動論演習	2			2	
形成論演習	2			2		
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論A	2	○	2		
	哲学概論B	2,3			2	隔年開講(奇数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	社会科教育法Ⅰ	2			2	教職用科目
	社会科教育法Ⅱ	2			2	教職用科目
	社会科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	社会科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
合計				30	26	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より2単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★人間関係学科

高等学校教諭一種免許(公民)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
「法律学(国際法を含む。)、 政治学(国際政治を含む。)」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		
	政治学Ⅰ	2		2		
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2		2		
	社会運動論	3,4			2	隔年開講(偶数年)
「社会学、経済学(国際 経済を含む。)」	社会学概論	1	○	2		
	政治経済学	3,4		2		隔年開講(奇数年)
	社会変動論	3,4		2		隔年開講(奇数年)
	社会調査論	1		2		
	人間行動論	1			2	
	社会問題の社会学	2,3			2	隔年開講(奇数年)
	現代社会福祉論	3,4			2	
	社会学演習	2			2	
	行動論演習	2			2	
	形成論演習	2			2	
「哲学、倫理学、宗教学、 心理学」	哲学概論A	2	○	2		
	心理学基礎	1		2		
	哲学概論B	2,3			2	隔年開講(奇数年)
	臨床心理学	3,4		2		
	社会心理学	2,3			2	隔年開講(偶数年)
	コミュニケーション論	3,4			2	
各教科の指導法(情報機 器及び教材の活用を含 む。)	公民科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	公民科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
合計				24	20	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

## 人間文化学部 ★国際コミュニケーション学科

## 中学校教諭一種免許(英語)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
英語学	英語学概論	1	○	2		
	現代英文法	2			2	
	英語学基礎	3			2	
英語文学	英米文学概論	2	○	2		
	英米文学講読	3			2	
英語コミュニケーション	リスニング(中級)	2			2	
	リーディング(中級)	1			2	
	Introduction to Academic English	1	○	2		
	Advanced Academic English I	1			2	
	Advanced Academic English II	1			2	
	Integrated English	2			2	
	Introduction to Discussion & Debate	2	○	2		
	English in Media	3			2	
異文化理解	English Lecture A	1			2	
	English Lecture B	2			2	
	English Lecture C	2			2	
	English Lecture D	2			2	
	English Lecture E	3			2	
	English Lecture F	3			2	
	欧米文化論C	1,2			2	
	欧米文化論D	1,2	○	2		
	欧米文化特論C	3,4			2	
	欧米文化特論D	3,4	○	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅳ	4		2		教職用科目
合計				20	34	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

高等学校教諭一種免許(英語)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
英語学	英語学概論	1	○	2		
	現代英文法	2			2	
	英語学基礎	3			2	
英語文学	英米文学概論	2	○	2		
	英米文学講読	3			2	
英語コミュニケーション	リスニング(中級)	2			2	
	リーディング(中級)	1			2	
	Introduction to Academic English	1	○	2		
	Advanced Academic English I	1			2	
	Advanced Academic English II	1			2	
	Integrated English	2			2	
	Introduction to Discussion & Debate	2	○	2		
	English in Media	3			2	
異文化理解	English Lecture A	1			2	
	English Lecture B	2			2	
	English Lecture C	2			2	
	English Lecture D	2			2	
	English Lecture E	3			2	
	English Lecture F	3			2	
	欧米文化論C	1,2			2	
	欧米文化論D	1,2	○	2		
	欧米文化特論C	3,4			2	
	欧米文化特論D	3,4	○	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ	2			2	教職用科目
	英語科教育法Ⅱ	2			2	教職用科目
	英語科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	英語科教育法Ⅳ	4			2	教職用科目
合計				16	38	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より20単位以上を修得しなければならない。

# 人間看護学部における養護教諭免許の取得について

## ◆養護教諭一種免許取得のための科目履修方法について

- 次表および次ページの「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」(表 1)、「養・教育の基礎的理解に関する科目等」「養護に関する科目」(表 2)～(表 4)、「大学が独自に設定する科目」(表 5)をすべて修得してください。(すべて必修)

「養護に関する科目」は次ページ以降の「養護教諭一種免許に係る養護に関する科目」から 48 単位以上修得してください。

表 1

## ◆教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	本学開講科目	単位数	備考
日本国憲法	2	憲法	2	人間学・教職科目
体育	2	健康・体力科学 I、II (各 1 単位)	2	全学共通基礎科目
外国語コミュニケーション	2	英語 II A、英語 II B (各 1 単位)	2	全学共通基礎科目
情報機器の操作	2	情報リテラシー (情報倫理を含む)	2	全学共通基礎科目

表 2

## ◆養・教育の基礎的理解に関する科目等◆

免許法施行規則に定める科目区分		単位数	合計	本学開講科目 配当年次は 1～4 年次	免許法による 必修単位
科目	各科目に含める必要事項				
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2	11	教育学概論	8
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	2		教職論	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	2		教育制度論	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	2		教育心理学	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	1		特別支援教育概論	
	・教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	2		教育課程論	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	2	10	道徳教育論	6
	・教育の方法及び技術 (情報機器及び機材の活用を含む。)	2		総合的な学習の時間の指導法	
	・生徒指導の理論及び方法	2		特別活動論	
	・教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	1		教育方法論 (情報通信技術の活用を含む)	
	・教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	1		生徒指導論	
教育実践に関する科目	・養護実習	5	7	教育実習・事前事後指導 (養護教諭)	5
	・教職実践演習	2		教職実践演習 (養護教諭) ※ 4 年次後期	2
合 計		本学では 28 単位必修			21

表 3

## ◆養護に関する科目◆

養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学 (予防医学を含む。)、学校保健、養護概説・健康相談活動の理論・健康相談活動の方法、栄養学 (食品学を含む。)、解剖学・生理学、「微生物学、免疫学、薬理概論」、精神保健、看護学 (臨床実習及び救急処置を含む。)	48	養護教諭一種免に係る養護に関する科目 (表 4) から履修	28
合 計		本学では 48 単位必修		28

表 5

## ◆大学が独自に設定する科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目		免許法による 必修単位	
	科目	科目名		単位数
大学が独自に設定する科目		小児看護学概論	1	7
		成人看護学概論	1	
		精神看護学演習	1	
		小児看護学演習	1	
		健康危機回復支援演習Ⅱ	1	
		基礎看護技術Ⅱ	2	
		基礎看護技術Ⅲ	2	
合 計	本学では9単位必修		7	

- ・ 「教育実習・事前事後指導」について
    - ①履修登録は、3年次後期および4年次前期後期とも必ず行うこと。
    - ②事前指導は、教育実習実施前（3年次）の後期に実施します。
    - ③事後指導は、原則として教育実習終了後（4年次）に実施します。
    - ④「教育実習」は、原則として、4年次に出身校において3週間実施します。
    - ⑤教育実習参加の基礎要件  
教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。  
「憲法」、「教職論」、「教育学概論」、「教育方法論」、「生徒指導論」、「道徳教育論」、「学校保健論」、「学校看護論」を履修済か履修中（後期の履修登録科目を含む）であること。
    - ⑥3年次では、国際看護学実習と重複登録をすることはできません。
  - ・ 「教職実践演習（養護教諭）」について  
4年次後期に履修すること。
  - ・ それ以外の「養・教育の基礎的理解に関する科目」については年次配当の規定はありませんので、年度当初に配布する時間割表で十分に確認し、低年次にできるだけ修得してください。
- ◆養護教諭二種免許取得のための科目履修方法について
- ・ 保健師国家試験受験資格に必要な科目および人間学科目である「憲法」を修得してください。
  - ・ 「憲法」は1・2年次に修得してください（3年次には領域別実習、4年次には公衆衛生看護学実習と重複するため履修できない場合があります）。
  - ・ 保健師資格を取得後、在住する教育委員会に申請することで二種免許を取得することができます。

## 人間看護学部 ★人間看護学部

表4

## 養護教諭一種免許に係る養護に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	単位数		備考
			必修	選択	
衛生学・公衆衛生学 (予防医学を含む。)	公衆衛生学	2	2		
	疫学	2	2		
学校保健	学校保健論	3	2		教職用科目
養護概説	学校看護論	3	2		教職用科目
健康相談活動の理論・健康相談活動 の方法	健康教育論	3		2	
	公衆衛生看護学概論	2	2		
栄養学(食品学を含む。)	栄養学	2	1		
	生化学	1	1		
解剖学・生理学	解剖生理学Ⅰ	1	2		
	解剖生理学Ⅱ	1	2		
「微生物学、免疫学、薬理概論」	病理学総論	1	1		
	微生物学/免疫学	1	2		
	薬理学	2	2		
精神保健	精神保健論	1	2		
	精神看護学概論	1	1		
	精神看護学実習	3	2		
看護学 (臨床実習及び救急処置を含む。)	小児看護学各論	2	2		
	成人看護学各論	2	2		
	小児看護学実習	3	2		
	健康危機回復支援実習	3	4		
	看護学概論	1	2		
	看護理論	2	2		
	基礎看護技術Ⅰ	1	2		
	基礎看護技術Ⅳ	2	1		
	基礎看護学実習Ⅰ	1	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2	2			
	合計		46	2	

(注1)必修の全ての科目と、選択科目より2単位を修得しなければならない。

# 生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について

## ◆栄養教諭一種免許取得のための科目履修方法について

- 次表の「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」(表1)、「栄・教育の基礎的理解に関する科目等」(表2)、「栄養に係る教育に関する科目」(表3)をすべて修得してください。(すべて必修)
- 栄養教諭一種免許の取得には、栄養士免許の取得および管理栄養士養成課程の修了が必要となります。

表1

### ◆教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	本学開講科目	単位数	備考
日本国憲法	2	憲法	2	人間学・教職科目
体育	2	健康・体力科学Ⅰ、Ⅱ(各1単位)	2	全学共通基礎科目
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡA、英語ⅡB(各1単位)	2	全学共通基礎科目
情報機器の操作	2	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	全学共通基礎科目

表2

### ◆栄・教育の基礎的理解に関する科目等◆

科目	免許法施行規則に定める科目区分		単位数	合計	本学開講科目 配当年次は1～4年次	免許法による 必修単位
	各科目に含める必要事項					
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		2	11	教育学概論	8
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		2		教職論	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		2		教育制度論	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		2		教育心理学	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		1		特別支援教育概論	
	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		2		教育課程論	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		2	10	道徳教育論	6
	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		2		総合的な学習の時間の指導法 特別活動論	
	・生徒指導の理論及び方法		2		教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。の理論及び方法		1		生徒指導論 教育相談	
教育実践に関する科目	・栄養教育実習		2	4	栄養教育実習・事前事後指導	2
	・教職実践演習		2		教職実践演習(栄養教諭) ※4年次後期	2
合 計			本学では25単位必修		8	

表3

### ◆栄養に係る教育に関する科目◆

栄養に係る教育に関する科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項		2	4	学校栄養指導論	4
	・食に関する指導の方法に関する事項					
	・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項					
合 計			本学では4単位必修		4	

- ・「栄養教育実習・事前事後指導」について
  - ①履修登録は、3年後期および4年前期とも必ず行うこと。
  - ②事前指導は、栄養教育実習実施前（3年次）後期に実施します。
  - ③事後指導は、原則として栄養教育実習終了後（4年次）に実施します。
  - ④「栄養教育実習」は、原則として、4年次に出身校において1週間実施します。
  - ⑤教育実習参加の基礎要件  
教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。  
「憲法」「教職論」「教育方法論」「教育学概論」「学校栄養指導論」「食生活教育論」を履修済か履修中（後期の履修登録科目を含む）であること。
- ・「教職実践演習（栄養）」について  
4年後期に履修すること。
- ・ 隔年開講科目について  
「学校栄養指導論」「食生活教育論」は隔年開講です。4年次に不開講で履修できないこともあり得るので、計画的に履修してください。  
「学校栄養指導論」は偶数年度開講  
「食生活教育論」は奇数年度開講

### 3 「学芸員」の資格取得について

学芸員は、博物館の専門職員です。学芸員の資格は、「博物館法」に基づいて授与されます。学芸員となるための資格は、「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したものと」なっています。本学においては、学芸員の資格取得に必要な授業科目は別表1、2に示されています。

履修にあたっては、次の点に留意してください。

- ①学芸員の資格を取得する者は、必修の全ての科目と、選択科目より10単位以上を修得しなければならない。なお、必修科目「博物館学概論」は、2回生で履修すること。
- ②4年次開講の「博物館実習」を履修しようとする者は、原則として3回生までに「博物館学概論」、「博物館資料論」、「博物館情報・メディア論」および「生涯学習論」を含む10単位以上を修得しなければならない。
- ③学内実習施設の都合により、4年次開講の「博物館実習」の受講人数を制限する場合があります。

別表1 学芸員の資格取得に必要な授業科目（環境科学部） ※2026（令和8）年度入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備 考
		必修	選択	
博物館学概論	2	2		学芸員用科目
博物館経営論	3,4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館資料論	2,3	2		学芸員用科目
博物館資料保存論	3,4	2		学芸員用科目
博物館展示論	3,4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館教育論	3,4	2		学芸員用科目
生涯学習論	2	2		人間文化学部人間関係学科専門科目
博物館情報・メディア論	2,3	2		学芸員用科目
博物館実習	4	3		学芸員用科目
自然のしくみA	1,2,3,4	2		人間学
環境科学概論Ⅰ	1	2		環境科学部学部共通基礎科目
環境科学概論Ⅱ	1	2		環境科学部学部共通基礎科目
環境生物学Ⅰ	1	2		環境生態学科, 環境社会システム学科, 生物資源管理学科専門科目
環境生物学Ⅱ	2	2		環境生態学科, 生物資源管理学科専門科目
地球科学Ⅰ	2	2		環境科学部複数学科共通科目
環境地下水学	2	2		環境科学部複数学科共通科目
森林環境学	2	2		環境生態学科, 環境社会システム学科, 生物資源管理学科専門科目
遺伝学	2	2		環境生態学科, 生物資源管理学科専門科目
湖沼環境学	2	2		環境科学部複数学科共通科目
動物生態学	2	2		環境生態学科, 環境社会システム学科, 生物資源管理学科専門科目
分子生物学	1	2		環境生態学科, 生物資源管理学科専門科目
理論生態学	3	2		環境科学部複数学科共通科目
環境リスク解析法	3	2		環境生態学科専門科目
環境微生物学	3	2		環境科学部複数学科共通科目
陸域生態系保全修復論	3	2		環境科学部複数学科共通科目
集水域生態系保全修復論	3	2		環境科学部複数学科共通科目
水域生態系保全修復論	3	2		環境生態学科専門科目
琵琶湖環境学	1	2		環境生態学科専門科目
地球科学Ⅱ	2	2		環境生態学科専門科目
環境変遷学	1	2		環境生態学科専門科目
海洋環境学	2	2		環境生態学科専門科目
大気環境学	2	2		環境生態学科専門科目
集水域環境学	2	2		環境生態学科専門科目

※別表は2026（令和8）年度入学生用です。2025（令和7）年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得の手引」の該当部分を参照してください。

別表2 学芸員の資格取得に必要な授業科目（人間文化学部） ※2026(令和8)年度入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備 考
		必修	選択	
博物館学概論	2	2		学芸員用科目
博物館経営論	3,4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館資料論	2,3	2		学芸員用科目
博物館資料保存論	3,4	2		学芸員用科目
博物館展示論	3,4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館教育論	3,4	2		学芸員用科目
生涯学習論	2	2		人間文化学部人間関係学科専門科目
博物館情報・メディア論	2,3	2		学芸員用科目
博物館実習	4	3		学芸員用科目
日本文化論	1,2		2	地域文化学科専門科目
考古学	1,2		2	地域文化学科専門科目
考古学特論B	3,4		2	地域文化学科専門科目 * 隔年開講（奇数年度開講）
民俗学	1,2		2	地域文化学科専門科目
西洋史概説	2,3		2	地域文化学科専門科目
芸術学	1,2		2	地域文化学科専門科目
美術史A	2,3,4		2	地域文化学科専門科目 * 隔年開講（偶数年度開講）
美術史B	2,3,4		2	地域文化学科専門科目 * 隔年開講（奇数年度開講）
人文地理学A	1,2		2	地域文化学科専門科目
人文地理学B	2,3,4		2	地域文化学科専門科目
文化財・保存修景論A	2,3		2	地域文化学科専門科目 * 隔年開講（偶数年度開講）
文化財・保存修景論B	3,4		2	地域文化学科専門科目 * 隔年開講（奇数年度開講）
比較住居論	1		2	人間学、人間文化学部専門科目
比較道具論	1		2	生活デザイン学科専門科目
比較衣装論	1		2	生活デザイン学科専門科目
近代デザイン史	1		2	生活デザイン学科専門科目
服飾文化論	2		2	生活デザイン学科専門科目
現代産業デザイン論	3		2	生活デザイン学科専門科目 * 隔年開講（偶数年度開講）

※別表は2026(令和8)年度入学生用です。2025(令和7)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得の手引」の該当部分を参照してください。

## 4 「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について

栄養士の免許は、「栄養士法」に基づいて授与されます。本学において栄養士の免許取得に必要な授業科目は、以下の別表1に示されています。なお、栄養士の免許を取得できるのは、人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

「管理栄養士受験資格」は、別表2に示された管理栄養士受験資格取得に必要な授業科目の単位を取得するか、あるいは栄養士免許の取得後、1年の栄養士実務経験を経れば与えられます。

単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

別表1 栄養士の免許取得に必要な授業科目

栄養士法施行規則別表第一			本学の授業科目				
教育内容	単位数		授業科目	単位数			
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習	講義又は演習計	実験又は実習計
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2		4	5
人体の構造と機能	8		社会福祉概論	2		8	
			生体の構造と機能	2			
			疾病の成り立ちⅠ	2			
			病態生理学実習		1		
			運動と健康	2			
			栄養生化学	2			
食品と衛生	6		栄養生化学実験		1	6	
			食品学総論	2			
			食品機能科学	2			
		食品基礎実験		1			
		食品機能科学実験		1			
栄養と健康	8	食品衛生学	2		12		
		食品衛生学実験		1			
		基礎栄養学Ⅰ	2				
		基礎栄養学Ⅱ	2				
		基礎栄養学実験		1			
		応用栄養学Ⅰ	2				
		応用栄養学Ⅱ	2				
		応用栄養学実習		1			
		臨床栄養学Ⅰ	2				
		臨床栄養学Ⅱ	2				
栄養の指導	6	臨床栄養学実習Ⅰ		1	6		
		臨床栄養学実習Ⅱ		1			
		栄養教育論Ⅰ	2				
		栄養教育論実習		1			
		栄養教育論Ⅱ	2				
		公衆栄養学	2				
給食の運営	4	公衆栄養学実習		1	6		
		食品の調理と加工	2				
		食品加工実習		1			
		嗜好と調理実習Ⅰ		1			
		嗜好と調理実習Ⅱ		1			
		給食経営管理論Ⅰ	2				
		給食経営管理実習（校内実習）		1			
		給食衛生管理実習（校内実習）		1			
		給食経営管理臨地実習（校外実習）		1			
		給食経営管理論Ⅱ	2				
小計	36	14	小計	42	17	42	17
合計	50		合計	59			

別表2 管理栄養士受験資格に必要な授業科目

栄養士法施行規則別表第四				本学の授業科目		
教育内容		単位数		科目名	単位数	
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
専 門 基 礎 分 野	社会・環境と健康	6	10	社会福祉概論	2	
				生命科学と人間	2	
				公衆衛生学	2	
				健康情報管理実習		1
				社会・環境と健康の小計	6	1
	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	14		生体の構造と機能	2	
				分子生物学基礎	2	
				疾病の成り立ちⅠ	2	
				疾病の成り立ちⅡ	2	
				運動と健康	2	
				疾病の成り立ちⅢ	2	
				栄養生化学	2	
				病態生理学実習		1
				栄養生化学実験		1
				栄養生理学実習		1
	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ちの小計	14		3		
	食べ物と健康	8		食品学総論	2	
				食品機能科学	2	
				食品衛生学	2	
				食品の調理と加工	2	
食品基礎実験				1		
食品機能科学実験				1		
食品衛生学実験				1		
嗜好と調理実習Ⅰ				1		
嗜好と調理実習Ⅱ				1		
食品加工実習				1		
食べ物と健康の小計	8	6				
小計	28	10	専門基礎分野小計	28	10	

栄養士法施行規則別表第四				大学の授業科目		
教育内容		単位数		科目名	単位数	
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
専門	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学Ⅰ	2	
				基礎栄養学Ⅱ	2	
				基礎栄養学実験		1
				基礎栄養学の小計	4	1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2	
				応用栄養学Ⅱ	2	
				スポーツ栄養学	2	
				応用栄養学実習		1
	応用栄養学の小計	6		1		
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2	
				栄養教育論Ⅱ	2	
				栄養教育論Ⅲ (含カゼリクガ 論演習)	2	
栄養教育論実習				1		
栄養教育論の小計	6	1				
臨床栄養学	8	臨床栄養学Ⅰ	2			
		臨床栄養学Ⅱ	2			
		臨床栄養学Ⅲ	2			
		臨床栄養活動論	2			
		臨床栄養学実習Ⅰ		1		
		臨床栄養学実習Ⅱ		1		
		臨床栄養学の小計	8	2		
		公衆栄養学	4			
公衆栄養学	4	公衆栄養学	2			
		栄養疫学論	2			
		公衆栄養学実習		1		
		公衆栄養学の小計	4	1		
		給食経営管理論	4	給食経営管理論Ⅰ	2	
				給食経営管理論Ⅱ	2	
				給食経営管理実習		1
				給食衛生管理実習		1
給食経営管理論の小計	4			2		
総合演習	2	管理栄養士総合演習	1			
		臨地実習事前事後指導	1			
		総合演習の小計	2			
臨地実習	4	地域保健臨地実習		1		
		給食経営管理臨地実習		1		
		臨床栄養臨地実習Ⅰ		1		
		臨床栄養臨地実習Ⅱ		1		
		臨地実習の小計		4		
小計	32	12	専門分野の小計	34	12	
合計	82		合計	84		

## 5 「看護師国家試験受験資格」について

「看護師国家試験受験資格」は、下記に示す科目および単位数を修得し、人間看護学部人間看護学科の課程を卒業（見込みを含む。）した者が受験できます。

## 資格取得に必要な科目

分野	授 業 科 目				必修 単位数	
全学共通科目	地域基礎科目：「地域共生論」および「地域社会福祉論」（必修）				4	
	人間学：「人間探求学」「生命・人間・倫理」（必修） その他に、2科目選択必修				8	
	英語ⅠA、ⅠB（活性化コース）		英語ⅡA、ⅡB（応用コース）		8	
	英語ⅢA、ⅢB（充実コース）		英語ⅣA、ⅣB（展開コース）			
	（選択科目） ドイツ語ⅠA・ⅠB、フランス語ⅠA・ⅠB、中国語ⅠA・ⅠB、朝鮮語ⅠA・ⅠB から2科目および実用英語演習ⅠA・ⅠBまたは第2外国語ⅡA・ⅡB <span style="float: right;">（各1単位）</span>				4	
	健康・体力科学Ⅰ		健康・体力科学Ⅱ		2	
情報リテラシー （情報倫理を含む）		情報科学概論		4		
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	2	微生物学／免疫学	2	疾病論Ⅰ	23
	解剖生理学Ⅱ	2	精神保健論	2	疾病論Ⅱ	
	生化学	1	薬理学	2	疾病論Ⅲ	
	病理学総論	1	公衆衛生学	2	栄養学	
	疫学	2				
専門科目	看護学概論	2	在宅看護学概論	2	在宅療養移行支援演習	1
	基礎看護技術Ⅰ	2	公衆衛生看護学概論	2	小児看護学演習	1
	基礎看護技術Ⅱ	2	成人看護学各論	2	母性看護学演習	1
	小児看護学概論	1	老年看護学各論	2	精神看護学演習	1
	成人看護学概論	1	小児看護学各論	2	在宅看護学演習Ⅰ	1
	母性看護学概論	1	母性看護学各論	2	在宅看護学演習Ⅱ	1
	基礎看護技術Ⅲ	2	精神看護学各論	2	家族看護学	1
	基礎看護技術Ⅳ	1	在宅看護学各論	2	国際看護学	1
	看護理論	2	健康危機回復支援演習Ⅰ（慢性期）	1	看護研究の基礎	1
	精神看護学概論	1	健康危機回復支援演習Ⅱ（急性期）	1	看護管理学	2
	老年看護学概論	1	緩和ケア演習	1		
	（専門選択必修科目）3単位選択					
	看護キャリアデザイン論、看護教育と実践、健康教育論、クリティカルケア実践演習、チャイルドライフケア論、ホリスティックケア論、国際看護学実習、災害看護学、ボランティア実践演習				3	
	地域（健康）生活実習Ⅰ	1	小児看護学実習	2	地域（療養）生活実習Ⅱ	1
基礎看護学実習Ⅰ	1	健康危機回復支援実習	4	人間看護学統合実習Ⅰ	1	
基礎看護学実習Ⅱ	2	在宅療養移行支援実習	2	人間看護学統合実習Ⅱ	1	
母性看護学実習	2	緩和ケア実習	2	卒業研究	4	
精神看護学実習	2	在宅看護学実習	2			
計（卒業要件）					129	

## 6 「保健師国家試験受験資格」について

◇2026(令和8)年度以降入学生用

「保健師国家試験受験資格」の取得要件は以下のとおりです。

- 1) 「看護師国家試験受験資格」に必要な科目をすべて修得し、人間看護学部の卒業要件を満たしていること。
- 2) 下記に示す科目および単位数をすべて修得していること。

※この資格を取得するには、保健師課程（3～4年次）を選択する必要があります。  
本課程を希望する者のなかから2年次終了時にGPAにより選抜された者のみが選択できます。

※本課程を選択する者は、卒業要件に係る必修科目を配当年次に修得し、かつ2年次までに人間学を含む全学共通科目を全て修得している必要があります。  
本課程の者のみが履修する科目（卒業要件以外）も、配当年次に修得する必要があります。

### 資格取得に必要な科目

	保健師課程授業科目	開講	単位数
学部共通科目	情報科学概論	1年 後期	2
	公衆衛生学	2年 前期	2
	公衆衛生看護学概論	2年 前期	2
	地域社会福祉論	2年 後期	2
	疫学	2年 後期	2
	精神保健論	1年 前期	2
	家族看護学	3年 前期	1
	国際看護学	3年 前期	1
選択必修科目	健康教育論	3年 前期	2
	災害看護学	3年 前期	1
卒業要件外の科目	公衆衛生看護活動論	3年 前期	2
	公衆衛生看護技術論	4年 前期	2
	公衆衛生看護管理論	4年 前期	2
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	4年 前期	1
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	4年 通年	2
	公衆衛生看護学実習	4年 通年	5
	合計		31

注) 上記の表のうち卒業要件外の科目は、保健師課程選択者のみ履修する科目です。公衆衛生看護活動論は、3年次で必ず修得してください。

注) 保健師免許取得後に養護教諭二種免許の申請をする場合には、「憲法」を修得しておくことが必要になります。この場合、憲法を履修するにあたっては「教職論」も履修することになります。履修の手引「全学共通科目Ⅱ人間学 科目一覧 注3」を参照してください。

## 7 「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について（環境建築デザイン学科）

### 1. 一級建築士について

環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表1に示す所定の単位数を取得すると、一級建築士試験の「受験資格」が得られます。また、建築士試験に合格した上で、大学卒業後の建築実務の経験が、取得単位数に応じた年数（表2）以上であれば、一級建築士として「免許登録」することができます。

表1 一級建築士試験「受験資格」の取得に必要な科目・単位数

分類	授業科目	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計製図	設計演習Ⅰ	必修	3	9単位
	設計演習Ⅱ	必修	3	
	設計演習Ⅲ	必修	3	
②建築計画	環境設計Ⅰ	選択	2	8単位以上
	環境設計Ⅱ	選択	2	
	内部空間論	選択	2	
	日本建築史	選択	2	
	アジア建築史	選択	2	
	西洋建築・思潮史	選択	2	
③建築環境工学	建築環境工学	必修	2	2単位以上
	建築環境工学演習	選択	2	
④建築設備	環境設備	必修	2	2単位
⑤構造力学	構造力学Ⅰ	必修	2	4単位
	構造力学Ⅱ	必修	2	
⑥建築一般構造	建築一般構造	選択	2	4単位
	構造計画	必修	2	
⑦建築材料	構造材料実験	必修	2	2単位
⑧建築生産	建築生産施工	必修	2	2単位
⑨建築法規	建築法規	必修	2	2単位
⑩その他	環境・建築デザイン概論	必修	2	適宜
	イメージ表現法	必修	2	
	地域環境計画	選択	2	
	CAD演習Ⅰ	必修	2	
	設計基礎演習	必修	2	
	環境造形論	選択	2	
	環境共生論	選択	2	
	景観計画	選択	2	
	ランドスケープデザイン	選択	2	
	サステナブルデザイン論	選択	2	
	環境職能論	選択	2	
	環境技術史	選択	2	
	CAD演習Ⅱ	選択	2	
	都市・地域計画	選択	2	
①～⑩の合計単位数			—	40単位以上

表2 一級建築士の「免許登録」に必要な実務経験年数

表1の①～⑩の合計単位数	実務経験年数
60単位以上	2年
50単位以上 60単位未満	3年
40単位以上 50単位未満	4年

## 2. 二級・木造建築士について

環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表3に示す所定の単位数を取得すると、二級・木造建築士試験の「受験資格」が得られます。また、建築士試験に合格した上で、大学卒業後の建築実務の経験が、取得単位数に応じた年数（表4）以上であれば、二級・木造建築士として「免許登録」することができます。

表3 二級・木造建築士試験「受験資格」の取得に必要な科目・単位数

分類	授業科目	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計製図	設計演習Ⅰ	必修	3	9単位
	設計演習Ⅱ	必修	3	
	設計演習Ⅲ	必修	3	
②建築計画、 ③建築環境工学 または ④建築設備	環境設計Ⅰ	選択	2	8単位以上
	環境設計Ⅱ	選択	2	
	内部空間論	選択	2	
	日本建築史	選択	2	
	アジア建築史	選択	2	
	西洋建築・思潮史	選択	2	
	建築環境工学	必修	2	
⑤構造力学、 ⑥建築一般構造 または ⑦建築材料	建築環境工学演習	選択	2	6単位以上
	環境設備	必修	2	
	構造力学Ⅰ	必修	2	
	構造力学Ⅱ	必修	2	
⑧建築生産	建築一般構造	選択	2	2単位
	構造計画	必修	2	
⑨建築法規	構造材料実験	必修	2	2単位
	建築生産施工	必修	2	
⑩その他	建築法規	必修	2	適宜
	環境・建築デザイン概論	必修	2	
	イメージ表現法	必修	2	
	地域環境計画	選択	2	
	CAD演習Ⅰ	必修	2	
	設計基礎演習	必修	2	
	環境造形論	選択	2	
	環境共生論	選択	2	
	景観計画	選択	2	
	ランドスケープデザイン	選択	2	
	サステナブルデザイン論	選択	2	
	環境職能論	選択	2	
	環境技術史	選択	2	
	CAD演習Ⅱ	選択	2	
都市・地域計画	選択	2		

表4 二級建築士の「免許登録」に必要な実務経験年数

表3の①～⑩の合計単位数	実務経験年数
40単位以上	0年
30単位以上 40単位未満	1年
20単位以上 30単位未満	2年

## 8 「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について（生活デザイン学科）

人間文化学部生活デザイン学科の課程を修了し、下表に示す所定の単位数【試験時】を取得しているものには、「二級・木造建築士受験資格」が与えられます。

また、試験に合格した上で、大学卒業後の建築実務経験年数が必要年数を満たしていれば、免許登録を行うことができます。※必要となる実務経験年数は取得単位により異なります。

### 資格の取得に必要な科目

分類	授業科目名	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計・製図	基礎設計製図	必修	2	6単位以上
	住環境設計演習Ⅰ	選択必修	2	
	住環境設計演習Ⅱ	選択必修	2	
	住環境設計演習Ⅲ	選択必修	2	
②建築計画、 ③建築環境工学 または ④建築設備	比較住居論	選択	2	8単位以上
	近代デザイン史	選択	2	
	建築計画論	選択	2	
	空間デザイン論	選択	2	
⑤構造力学、 ⑥建築一般構造または ⑦建築材料	住居計画論	選択	2	6単位以上
	住環境論	選択	2	
	構造力学Ⅰ	選択	2	
⑧建築生産	一般構造	選択	2	2単位
	構造計画	選択	2	
⑨建築法規	建築生産施工 ※1	選択	2	2単位
⑩その他	建築法規	選択	2	2単位
	デジタルデザイン演習B	選択必修	1	適宜
	色彩学演習	選択必修	1	
	人間工学	選択	2	
	人間工学実習	選択	1	
	地域文化財論B ※1	選択	2	
	文化財・保存修景論A ※1	選択	2	
	ソーシャルデザイン論	選択	2	
	木匠塾	選択	2	
	都市・建築をつくる ※2	選択	2	
	環境共生論 ※1	選択	2	
	都市・地域計画 ※1	選択	2	
	日本建築史 ※1	選択	2	
インテリアコーディネート概説	選択	2		
必要な実務経験年数 ①～⑩の合計単位数	【試験時】	実務経験0年	20単位以上	
	【登録時】	実務経験0年	40単位以上	
		実務経験1年	30単位以上（40単位未満）	
		実務経験2年	20単位以上（30単位未満）	

※1 他学部・他学科の開講科目

※2 「人間学」科目

## 9 「インテリアプランナー登録資格」について

「インテリアプランナー登録資格」は、インテリアプランナー試験の合格者で下記に示す科目および単位数を履修し、人間文化学部生活デザイン学科の課程を卒業した後、実務経験なしで与えられます。また、二級建築士、木造建築士資格を取得した者も、実務経験なしで登録資格が得られます。

また、学科試験の合格者は、登録を受けることにより「アソシエイト・インテリアプランナー」（通称：准インテリアプランナー、略称 AIP）が付与されます。

### 資格取得に必要な科目

授業科目	単位数	必修単位数
色彩学	2	A (36 - B - C) 単位以上
色彩学演習	1	
デッサン法	1	
生活デザイン基礎演習	2	
現代産業デザイン論	2	
近代デザイン史	2	
道具計画論	2	
道具デザイン演習 I	2	
道具デザイン演習 II	2	
道具デザイン演習 III	2	
比較住居論	2	
ソーシャルデザイン論	2	
建築計画論	2	B (22 - C) 単位以上
空間デザイン論	2	
人間工学	2	
人間工学実習	1	
住環境論	2	
構造計画	2	
構造力学 I	2	
一般構造	2	
建築法規	2	
基礎設計製図	2	
デジタルデザイン演習 B	1	
インテリアコーディネーター概説	2	
住環境設計演習 I	2	C 2 単位以上
住環境設計演習 II	2	
住環境設計演習 III	2	

## 10 「自然再生士補資格」について

下の分野別科目対応表にある科目を、コース1またはコース3の条件を満たして履修・修得し卒業した者が、「一般財団法人 日本緑化センター」に所定の申請を行った場合に自然再生士補に認定されます。

口分野別科目対応表(環境生態学科)

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・環境解析学・同実験 ・集水域環境学・同実験 ・陸域環境学・同実験 ・水域環境学・同実験	①自然再生・自然環境概論	・環境科学概論Ⅰ ・環境科学概論Ⅱ ・森林環境学 ・環境地下水学 ・海洋環境学 ・大気環境学 ・集水域環境学 ・湖沼環境学
②動・植物同定調査に係る実習・演習(森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)		②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学	・理論生態学 ・環境リスク解析法 ・環境微生物学
③地域環境資源調査に係る実習・演習		③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	
④自然環境保全活動に係る実習・演習		④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・陸域生態系保全修復論 ・集水域生態系保全修復論 ・水域生態系保全修復論
⑤生態学実習・演習	・環境生態学基礎演習 ・環境生態学特別実習	⑤植物(草本類、木本類、水生植物等)分類・生態・生理学	
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・環境生態学演習Ⅰ ・環境生態学演習Ⅱ	⑥動物(哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等)分類・生態・生理学	・動物生態学
		⑦環境リスクマネジメント学	・環境アセスメント
		⑧環境経済学	・環境経済学入門 ・環境財政
		⑨環境社会学	・環境政策学
		⑩地域環境学・地域生態論	・地域環境政策論
		⑪環境関連法規	・環境法

□分野別科目対応表(環境社会システム学科)

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・環境フィールドワークⅠ	①自然再生・自然環境概論	・環境科学概論Ⅰ
②動・植物同定調査に係る実習・演習(森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)		②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学	・環境計画学 ・環境政策学
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・地域調査法演習	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	
④自然環境保全活動に係る実習・演習		④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	
⑤生態学実習・演習		⑤植物分類・生態・生理学	
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・合意形成支援技法・演習 ・ファシリテーション技法・演習	⑥動物分類・生態・生理学	
		⑦環境リスクマネジメント学	・環境アセスメント
		⑧環境経済学	・環境経済学入門 ・環境経済学 ・環境財政
		⑨環境社会学	・環境社会学
		⑩地域環境学・地域生態論	・地域環境政策論
		⑪環境関連法規	・環境法

□コース選択表(両学科共通。コース1または3を選択)

	実験・実習分野	講義分野	特別講義	規定合計単位数
コース1	実験・実習分野より3科目以上6単位以上の履修・修得	講義分野より2科目以上4単位以上の履修・修得	—	実験・実習、講義分野より5科目以上10単位以上の履修・修得があること。
コース2	実験・実習分野又は講義分野より1科目2単位以上の履修・修得		自然再生講義・演習特別講義(必修)の履修・修得	特別講義及び実験・実習、講義分野より2科目以上4単位以上の履修・修得があること。
コース3	実験・実習分野又は講義分野より6科目12単位以上の履修・修得		—	実験・実習、講義分野に関係なく6科目以上12単位以上の履修・修得があること。

# 1.1 「社会調査士資格」について

## ◆環境科学部環境社会システム学科

「環境社会システム学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は一般社団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

授 業 科 目	開講年次	単位数	備考
地域調査法	1	2	
基礎統計	1	2	
地域調査法演習	2	1	
応用統計学Ⅰ	2	2	
応用統計学Ⅱ	2	2	
社会調査実習	3	1	

## ◆人間文化学部地域文化学科および人間関係学科

「地域文化学科」および「人間関係学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は、一般社団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

授 業 科 目	開講年次	単位数	備考
統計学基礎	1	2	人間文化学部共通科目
社会調査論	1	2	
社会調査方法論	2	2	
※地域文化学科			} いずれか1科目選択必修
地域統計学Ⅰ	2, 3	2	
地域統計学Ⅱ	2, 3	2	
質的データ解析論	2, 3	2	
※人間関係学科			} いずれか1科目選択必修
量的データ解析論Ⅰ	2	2	
量的データ解析論Ⅱ	3, 4	2	
質的データ解析論	2	2	
地域社会調査実習	3	1	

※ 原則として、地域文化学科は「質的データ解析論」、人間関係学科は「量的データ解析論Ⅱ」を選択すること。

◆在学中に所定の単位数を修得した者は、一般社団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士（キャンディデイト）」の資格を取得することができます。

## 12 「地域調査士資格」について

### ◆人間文化学部地域文化学科

「地域文化学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得し、地域調査に関する卒業論文を完成させた者が、「地域調査士講習」を受講していた場合、「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「地域調査士」の資格を取得することができます。

授業科目	開講年次	単位数	備考
人文地理学 A	1, 2	2	地域の概念を扱う科目
地誌学	3, 4	2	日本の地域特性を扱う科目
自然地理学	3, 4	2	地域の自然的特性を扱う科目
地域統計学 I	2, 3	2	統計処理に関する科目
地域統計学 II	2, 3	2	
人文地理学 B	2, 3, 4	2	地図に関する科目
地域社会調査実習	3, 4	1	地域の人文的・自然的特性に関する調査

## 13 「GIS 学術士資格」について

「環境社会システム学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「GIS 学術士」の資格を取得することができます。

授業科目	開講年次	単位数	備考
情報リテラシー（情報倫理を含む）	1	2	
情報科学概論	1	2	
地理情報システム論	3	2	
環境フィールドワークⅢ	3	3	GISを使用すること
卒業研究Ⅰ	4	3	GISを使用すること
卒業研究Ⅱ	4	3	GISを使用すること

## 14 「毒物劇物取扱責任者」について

毒物及び劇物取締法第7条第1項の規定により、毒物又は劇物を直接に取り扱う製造所、営業所又は店舗ごとに、専任の毒物劇物取扱責任者を置き、毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止に当たらせなければならないとされています。

本学材料化学科を卒業した者は、毒物劇物取扱責任者の資格を有することになります。

## 15 「甲種危険物取扱者受験資格」について

消防法の規定により、一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければならないとされています。危険物取扱者には、甲種・乙種・丙種があり、そのうち甲種危険物取扱者は、全類の危険物について、取扱いと定期点検、保安の監督ができます。また、甲種もしくは乙種危険物取扱者が立ちえば危険物取扱者免状を有していない一般の者も、取扱いと定期点検を行うことができます。

受験にあたっての詳細事項については、一般財団法人消防試験研究センターのホームページを参考にしてください。(http://www.shoubo-shiken.or.jp/)

### ◆ 工学部 材料化学科

材料化学科を卒業した者は、自動的に甲種危険物取扱者の受験資格が得られます。また、在学中の学生は、化学に関する分野の科目を15単位以上修得すれば受験資格を得ることができます。対象科目の詳細については、上記一般財団法人消防試験研究センターのホームページを参照してください。

### ◆ 環境科学部

環境科学部（およびその他の学部）の学生は、以下の一覧表のうち15単位以上を修得すれば、甲種危険物取扱者の受験資格を得ることができます。なお、受験に際しては取得単位の内容を記載した単位取得証明書が必要です。

甲種危険物取扱者受験資格に関連した「化学に関する授業科目」一覧表(環境科学部)

科目名	単位数	配当学科	備考
環境化学Ⅰ	2	環境生態学科・環境社会システム学科・生物資源管理学科	
環境化学Ⅱ	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境リスク解析法	2	環境生態学科	
集水域環境学	2	環境生態学科	
環境汚染システム論	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
地球環境化学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境毒性学	2	環境生態学科	
大気環境学	2	環境生態学科	
環境疫学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境化学実験	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境解析学・同実験	4	環境生態学科・生物資源管理学科	
遺伝学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
微生物工学	2	生物資源管理学科	
家畜生産環境学	2	生物資源管理学科	
家畜生産生理学	2	生物資源管理学科	
環境植物生理学	2	生物資源管理学科	
植物遺伝資源学	2	生物資源管理学科	
植物栄養学	2	生物資源管理学科	
植物資源開発学	2	生物資源管理学科	
水質管理学	2	生物資源管理学科	
土壌環境化学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
農業環境学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
分子生物学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
水資源保全学	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	2	生物資源管理学科	

## 16 「施工管理技士受験資格」について

建築業法に規定する許可の要件としての営業所に置かれる専任技術者および工事現場に置かれる主任技術者または監理技術者の資格を満たす者として扱われる国家資格です。建築機械施工技士、土木施工管理技士、建築施工管理技士、電気工事施工管理技士、管工事施工管理技士、造園施工管理技士の6種類について、1級および2級に区分して定められています。

下記の指定学科を卒業（一部、履修条件あり）した者については、資格取得に際し、級に応じて実務経験年数の短縮や、学科試験の免除が行われます。

○指定学科：環境科学部環境建築デザイン学科

○条件：基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、建築数学・物理のうちから2単位以上修得し、指定学科を卒業した者

種別	受検要件 【1級技術検定】 受検に必要な実務経験	【2級技術検定】 受検に必要な実務経験	
		学科試験	実務試験
建設機械施工管理技士	卒業後3年以上 ※1	卒業後6月以上	卒業後1年以上
土木施工管理技士		卒業後1年以上	卒業後1年以上
建築施工管理技士		なし ※2	卒業後1年以上
電気工事施工管理技士			
電気通信工事施工管理技士			
管工事施工管理技士			
造園施工管理技士			

※1 実務経験年数には、指導監督の実務経験年数1年以上が含まれていなければならない。

※2 卒業見込時、または大学卒業後1年以内に学科試験のみを受検することができる。

○指定学科：工学部機械システム工学科、電子システム工学科

○条件：指定学科を卒業した者

種別	受検要件 【1級技術検定】 受検に必要な実務経験	【2級技術検定】 受検に必要な実務経験	
		学科試験	実務試験
建設機械施工管理技士	卒業後3年以上 ※1	なし ※2	卒業後1年以上
建築施工管理技士			
電気工事施工管理技士			
電気通信工事施工管理技士			
管工事施工管理技士			

※1 実務経験年数には、指導監督の実務経験年数1年以上が含まれていなければならない。

※2 卒業見込時、または大学卒業後1年以内に学科試験のみを受検することができる。

## 17 「電気通信主任技術者資格」について

電気通信主任技術者は、電気通信ネットワークの工事、維持および運用の監督責任者です。

電気通信事業者は、その事業用電気通信設備を、総務省令で定める技術基準に適合するよう、自主的に維持するために、電気通信主任技術者を選任し、電気通信設備の工事、維持および運用の監督にあたらなければなりません。

試験の種類は、「伝送交換主任技術者試験」と「線路主任技術者試験」があり、試験科目は、次の4科目となっています。

- (1) 電気通信システム
- (2) 専門的能力
- (3) 伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）
- (4) 法規

このうち、電子システム工学科の所定の単位（表1）を修得すると、電気通信システムの試験が免除になります。

表1 電気通信主任技術者試験における「電気通信システム」科目試験免除に関する授業科目

昭和60年郵政省告示第241号の別表第1号及び第2号に規定する科目別授業時間数 (注：1コマ90分は2時間として計算する)		電子システム工学科生が履修する科目及び授業時間数 (注：○は必修科目)			
科目		授業時間数	授業科目名	授業時間数	単位数
基礎専門教育科目	数学	60	○微積分Ⅰ	30	2
			○線形代数Ⅰ	30	2
	物理学	60	○基礎力学	30	2
			○基礎電磁気学	30	2
	電磁気学	60	○電磁気学Ⅰ	30	2
			電磁気学Ⅱ	30	2
	電気回路	60	○電気回路Ⅰ	30	2
			電気回路Ⅱ	30	2
	電子回路	60	○電子回路Ⅰ	30	2
			○電子回路Ⅱ	30	2
デジタル回路	30	○JIPPI-カートウェア	30	2	
情報工学	30	○アルゴリズムとデータ構造	30	2	
電気計測	60	○電気電子計測Ⅰ	30	2	
		電気電子計測Ⅱ	30	2	
専門教育科目	伝送線路工学	30	電磁波工学	30	2
	交換工学	30	デジタル信号処理	30	2
	電気通信システム	30	情報通信工学	30	2

## 18 「電気主任技術者資格」について

電気主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持および運用に関する専門的な知識を有する者に与えられる資格で、事業用電気工作物の設置者(所有者)は電気事業法の定めにより電気主任技術者等の主任技術者を有資格者の中から専任することが義務づけられています。電子システム工学科では、開講している授業単位を必要数(表1)修得した上で、卒業後一定の期間の実務経験(表2)を経て、申請により次の種別の電気主任技術者資格が取得できます。

表1 授業科目

【区分】 必要科目数	授業科目および単位数	【区分】 必要科目数	授業科目および単位数
【理論】  ●科目全てと○科目3科目以上	● 電磁気学Ⅰ 2	【機械】  ●科目全てと○科目2科目以上	● 電気機器 2
	● 電磁気学Ⅱ 2		● パワーエレクトロニクス 2
	● 電気回路Ⅰ 2		● 制御工学 2
	● 電気回路Ⅱ 2		○ コンピュータハードウェア 2
	● 電気電子計測Ⅰ 2		○ ロボット工学 2
	● 電気電子計測Ⅱ 2		○ 光エレクトロニクス 2
	○ 電子回路Ⅰ 2		○ 情報通信工学 2
	○ 電子回路Ⅱ 2		○ 電磁波工学 2
	○ 半導体基礎 2		【法規】
	○ 半導体デバイス 2		●科目
	○ 電子デバイス 2	● 電気関係法規・施設管理 2	
	【電力】  ●科目全てと○科目1科目以上	● 電力工学Ⅰ 2	【実験・実習】
● 電力工学Ⅱ 2		● 電子システム工学実験Ⅱ 2	
● 物性デバイス基礎論 2		● 電子システム工学実験Ⅲ 2	
○ プラズマ工学 2		【設計・製図】	● 電気電子設計製図 1
○ 電気エネルギーシステム工学 2			●科目全て
		● 集積回路設計基礎 2	

●印は、必ず取得しなければならない授業科目  
(卒業要件の必修科目とは異なります。)  
○印は、選択科目

表2 電気主任技術者資格取得のための実務経験

電気主任技術者の種類	実務の経験	
	実務の内容	経験年数
第1種電気主任技術者免状	電圧 5万V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が5年以上
第2種電気主任技術者免状	電圧 1万V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が3年以上
第3種電気主任技術者免状	電圧 500V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が1年以上

## 19 「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について

食品衛生法第 48 条の規定により、製造または加工にあたり、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品、食肉製品、食品添加物などについて、営業者はその製造または加工を衛生的に管理させるために、食品衛生管理者を置かなければならないことになっています。

食品衛生監視員は、飲食に起因する衛生上の危害を防止するために、食品を取り扱う営業施設等への監視指導、立入検査および食品等からの試験品を採取する権限を、厚生労働大臣または都道府県等の長から付与された公務員です。

そのため、食品衛生管理者は、食品等の製造・加工の施設を衛生的に管理させるための専門的な知識を、食品衛生監視員は、食品等の衛生に関する専門的な知識を持っていなければなりません。

資格取得には、別表の A～D の各群から 1 科目以上を履修し、その単位の合計が 22 単位以上であり、かつ A～E 群あわせて合計 40 単位以上を履修することが必要です。単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

資格取得に必要な科目（別表）

	基礎科目名	本学科目名	必選	単位数
A群 化学関係	分析化学、有機化学、無機化学	天然物化学基礎	必修	2
B群 生物化学関係	生物化学、食品化学、 生理学、食品分析学、 毒性学	生命科学と人間	必修	2
		分子生物学基礎	必修	2
		栄養生化学	必修	2
		食品学総論	必修	2
		食品基礎実験	必修	1
		食品機能科学 食品機能科学実験	必修	2 1
C群 微生物学関係	微生物学、食品微生物学、 食品保存学、食品製造学	食品微生物学	必修	2
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学、食品衛生学、 環境衛生学、衛生行政学、 疫学	公衆衛生学	必修	2
		食品衛生学	必修	2
		食品衛生学実験	必修	1
		栄養疫学論	必修	2
		給食衛生管理実習	必修	1
			小計	24
E群 その他 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保蔵学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目	生体の構造と機能	選択	2
		疾病の成り立ち I	選択	2
		疾病の成り立ち II	選択	2
		病態生理学実習	選択	1
		栄養生理学実習	選択	1
		栄養生化学実験	選択	1
		食品の調理と加工	選択	2
		食品加工実習	選択	1
		公衆栄養学	選択	1
		公衆栄養学実習	選択	2
		給食経営管理論 I	選択	2
		給食経営管理論 II	選択	2

○A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計が 22 単位以上であること。(本学は 24 単位必修) さらに、E群の科目を含めての総単位数が 40 単位以上であること。

## 20 「社会福祉主事任用資格」について

社会福祉主事とは、社会福祉法において規定されている資格であり、都道府県・市町村の福祉事務所等において、生活保護法等に定める援護等の事務にあたる職員として任用される者に要求される資格(任用資格)です。また、社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。

任用資格とは、公務員として採用された後で、特定の業務に任用されるときに必要な資格で、任用されて初めてその資格を名乗ることができる資格のことです。資格認定証は発行されませんので、必要であれば単位取得証明書等で証明することになります。

「社会福祉主事任用資格」は、厚生労働大臣の指定する科目の中から3科目以上を修得し、卒業した場合に取得できます。本学では次の科目の中から3科目以上を修得してください。

- 社会福祉概論（人間文化学部生活栄養学科専門科目）または地域社会福祉論（地域基礎科目）
- 法学概論（環境科学部環境政策・計画学科専門科目、人間文化学部人間関係学科専門科目、国際コミュニケーション学科専門科目）
- 社会学（環境科学部環境政策・計画学科専門科目、生物資源管理学科専門科目）または社会学概論（人間文化学部地域文化学科専門科目、人間関係学科専門科目）
- 教育学概論（人間文化学部人間関係学科専門科目）
- 公衆衛生学（人間文化学部生活栄養学科専門科目）
- 基礎栄養学Ⅰ（人間文化学部生活栄養学科専門科目）、基礎栄養学Ⅱ（人間文化学部生活栄養学科専門科目）または栄養学（人間看護学部専門科目）
- 精神保健論（人間看護学部専門科目）
- 看護学概論（人間看護学部専門科目）

# 令和8年度 授業科目一覽

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
A	Academic Lectures in English	1120815	後期	全学
	Academic Writing	1400014	後期	国際
	Advanced Academic English I	1120695	後期	全学、国際
	Advanced Academic English II	1120705	後期	全学、国際
C	CAD演習 I	1200020	後期	建築
	CAD演習 II	1200030	後期	建築
D	Debating Global Issues	1400985	前期	国際
	Discussion & Debate	1400013	前期	国際
E	English for Business	1120715	前期	全学、国際
	English in Media	1120725	後期	全学、国際
	English Lecture A	1400091	後期	国際
	English Lecture B	1400092	前期	国際
	English Lecture C	1400093	前期	国際
	English Lecture D	1400094	後期	国際
	English Lecture E	1400095	前期	国際
	English Lecture F	1400096	後期	国際
	English Lecture G	1400097	後期	国際
I	Essay Writing	1120675	後期	全学、国際
	Integrated English-a	1120632	前期	全学、国際
	Integrated English-b	1120633	前期	全学、国際
	Intensive Japanese Culture	1150026	前期	全学 (交留学生)
	Intensive Japanese Language	1150025	前期	全学 (交留学生)
	Intermediate Academic English	1120686	前期	全学、国際
	Introduction to Academic English	1400981	前期	国際
	Introduction to Discussion & Debate-a	1120653	前期	全学、国際
J	Introduction to Discussion & Debate-b	1120654	前期	全学、国際
	Japan Studies I Art in Japan	1150011	前期	全学 (交留学生)
	Japan Studies II History of Japanese Film	1150012	前期	全学 (交留学生)
	Japan Studies III Japanese Society through Pop Culture	1150013	前期	全学 (交留学生)
	Japan Studies IV Japanese Society and Culture in Japanese	1150014	前期	全学 (交留学生)
	Japan Studies VII Japanese Security	1150555	前期	全学
	Japan Studies VI Societal Challenges for Modern Japan	1150545	後期	全学
	Japan Studies V Localization of Japanese Media	1150015	後期	全学 (交留学生)
L	Japanese Culture and Society in Community I	1150027	前期	全学 (交留学生)
	Lecture and Discussion in English	1120805	後期	全学
M	MB A入門 (副専攻)	1170210	前期	副専攻
P	Public Speaking	1402624	前期	国際
S	SDGs と滋賀のグローバル・イノベーション	1170190	前期	全学
T	Traditional Japanese Culture (前期)	1150592	前期	全学 (交留学生)
	Traditional Japanese Culture (後期)	1150593	後期	全学 (交留学生)
W	World Societies I America in Focus	1150560	前期	全学
	World Societies II America on the Global Stage	1150570	後期	全学
あ	アジア・フィールド実習 I	1150116	前期、後期	全学
	アジア・フィールド実習 II	1150117	前期、後期	全学
	アジア建築史	1200060	後期	建築
	アジア交流論	1400050	前期	地域
	アジア社会論	1400060	後期	地域
	アジア文化特論 A	1400057	前期	国際
	アジア文化特論 B	1400058	前期	国際
	アジア文化特論 C	1400059	前期	国際
	アジア文化論 A1-7/7周縁地域における東西交流:歴史と現実	1400061	前期	国際
	アジア文化論 B	1400062	後期	国際
	アジア文化論 C	1400063	前期	国際
	アジア文化論 D	1400064	後期	国際
	アジア文献講読 A	1400065	前期、後期	地域
	アジア文献講読 B	1400066	前期、後期	地域

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
あ	アジア文献講読C	1400067	前期、後期	地域
	アルゴリズムとデータ構造	1300010	前期	電子
い	一般構造	1400070	前期	デザ
	遺伝学	1200070	前期	生態、資源
	異文化理解A	1150020	前期	全学
	移民社会論A	1400072	後期	国際
	移民社会論B	1400073	前期	国際
	移民社会論C	1400074	後期	国際
	イメージ表現法	1200110	前期	建築
	インターンシップA (キャリア)	1601020	前期	キャリア
	インターンシップB (キャリア)	1601030	前期	キャリア
	インターンシップE (キャリア)	1601033	前期	キャリア
う	インテリアコーディネート概説	1400088	前期	デザ
	ウイグル式モンゴル文字史料講読	1403063	後期	国際
え	運動と健康	1400100	前期	栄養
	英語 I A (活性化コース) (環境①)	1110011	前期	環境科学部
	英語 I A (活性化コース) (環境②)	1110021	前期	環境科学部
	英語 I A (活性化コース) (環境③)	1110031	前期	環境科学部
	英語 I A (活性化コース) (環境④)	1110041	前期	環境科学部
	英語 I A (活性化コース) (環境⑤)	1110051	前期	環境科学部
	英語 I A (活性化コース) (環境⑥)	1110061	前期	環境科学部
	英語 I A (活性化コース) (工学①)	1110071	前期	工学部
	英語 I A (活性化コース) (工学②)	1110081	前期	工学部
	英語 I A (活性化コース) (工学③)	1110091	前期	工学部
	英語 I A (活性化コース) (工学④)	1110101	前期	工学部
	英語 I A (活性化コース) (工学⑤)	1110111	前期	工学部
	英語 I A (活性化コース) (人文①)	1110121	前期	人間文化学部
	英語 I A (活性化コース) (人文②)	1110131	前期	人間文化学部
	英語 I A (活性化コース) (人文③)	1110141	前期	人間文化学部
	英語 I A (活性化コース) (人文④)	1110151	前期	人間文化学部
	英語 I A (活性化コース) (人文⑤)	1110161	前期	人間文化学部
	英語 I A (活性化コース) (看護①)	1110181	前期	人間看護学部
	英語 I A (活性化コース) (看護②)	1110191	前期	人間看護学部
	英語 I A (活性化コース) (再履修)	1110201	前期	全学
	英語 I A (活性化コース) (国際a)	1120505	前期	国際
	英語 I A (活性化コース) (国際b)	1120507	前期	国際
	英語 I B (活性化コース) (環境①)	1110012	後期	環境科学部
	英語 I B (活性化コース) (環境②)	1110022	後期	環境科学部
	英語 I B (活性化コース) (環境③)	1110032	後期	環境科学部
	英語 I B (活性化コース) (環境④)	1110042	後期	環境科学部
	英語 I B (活性化コース) (環境⑤)	1110052	後期	環境科学部
	英語 I B (活性化コース) (環境⑥)	1110062	後期	環境科学部
	英語 I B (活性化コース) (工学①)	1110072	後期	工学部
	英語 I B (活性化コース) (工学②)	1110082	後期	工学部
	英語 I B (活性化コース) (工学③)	1110092	後期	工学部
	英語 I B (活性化コース) (工学④)	1110102	後期	工学部
	英語 I B (活性化コース) (工学⑤)	1110112	後期	工学部
	英語 I B (活性化コース) (人文①)	1110122	後期	人間文化学部
	英語 I B (活性化コース) (人文②)	1110132	後期	人間文化学部
	英語 I B (活性化コース) (人文③)	1110142	後期	人間文化学部
	英語 I B (活性化コース) (人文④)	1110152	後期	人間文化学部
	英語 I B (活性化コース) (人文⑤)	1110162	後期	人間文化学部
	英語 I B (活性化コース) (看護①)	1110182	後期	人間看護学部
	英語 I B (活性化コース) (看護②)	1110192	後期	人間看護学部
	英語 I B (活性化コース) (再履修)	1110202	後期	全学
	英語 I B (活性化コース) (国際a)	1120506	前期	国際

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
え	英語ⅠB(活性化コース)(国際b)	1120508	前期	国際
	英語ⅡA(応用コース)(環境①)	1110221	前期	環境科学部
	英語ⅡA(応用コース)(環境②)	1110231	前期	環境科学部
	英語ⅡA(応用コース)(環境③)	1110241	前期	環境科学部
	英語ⅡA(応用コース)(環境④)	1110251	前期	環境科学部
	英語ⅡA(応用コース)(環境⑤)	1110261	前期	環境科学部
	英語ⅡA(応用コース)(環境⑥)	1110271	前期	環境科学部
	英語ⅡA(応用コース)(工学①)	1110281	前期	工学部
	英語ⅡA(応用コース)(工学②)	1110291	前期	工学部
	英語ⅡA(応用コース)(工学③)	1110301	前期	工学部
	英語ⅡA(応用コース)(工学④)	1110311	前期	工学部
	英語ⅡA(応用コース)(工学⑤)	1110321	前期	工学部
	英語ⅡA(応用コース)(人文①)	1110331	前期	人間文化学部
	英語ⅡA(応用コース)(人文②)	1110341	前期	人間文化学部
	英語ⅡA(応用コース)(人文③)	1110351	前期	人間文化学部
	英語ⅡA(応用コース)(人文④)	1110361	前期	人間文化学部
	英語ⅡA(応用コース)(人文⑤)	1110371	前期	人間文化学部
	英語ⅡA(応用コース)(看護①)	1110391	前期	人間看護学部
	英語ⅡA(応用コース)(看護②)	1110401	前期	人間看護学部
	英語ⅡA(応用コース)(再履修)	1110411	前期	全学
	英語ⅡA(応用コース)(国際a)	1120515	前期	国際
	英語ⅡA(応用コース)(国際b)	1120517	前期	国際
	英語ⅡB(応用コース)(環境①)	1110222	後期	環境科学部
	英語ⅡB(応用コース)(環境②)	1110232	後期	環境科学部
	英語ⅡB(応用コース)(環境③)	1110242	後期	環境科学部
	英語ⅡB(応用コース)(環境④)	1110252	後期	環境科学部
	英語ⅡB(応用コース)(環境⑤)	1110262	後期	環境科学部
	英語ⅡB(応用コース)(環境⑥)	1110272	後期	環境科学部
	英語ⅡB(応用コース)(工学①)	1110282	後期	工学部
	英語ⅡB(応用コース)(工学②)	1110292	後期	工学部
	英語ⅡB(応用コース)(工学③)	1110302	後期	工学部
	英語ⅡB(応用コース)(工学④)	1110312	後期	工学部
	英語ⅡB(応用コース)(工学⑤)	1110322	後期	工学部
	英語ⅡB(応用コース)(人文①)	1110332	後期	人間文化学部
	英語ⅡB(応用コース)(人文②)	1110342	後期	人間文化学部
	英語ⅡB(応用コース)(人文③)	1110352	後期	人間文化学部
	英語ⅡB(応用コース)(人文④)	1110362	後期	人間文化学部
	英語ⅡB(応用コース)(人文⑤)	1110372	後期	人間文化学部
	英語ⅡB(応用コース)(看護①)	1110392	後期	人間看護学部
	英語ⅡB(応用コース)(看護②)	1110402	後期	人間看護学部
	英語ⅡB(応用コース)(再履修)	1110412	後期	全学
	英語ⅡB(応用コース)(国際a)	1120516	前期	国際
	英語ⅡB(応用コース)(国際b)	1120518	前期	国際
英語ⅢA(充実コース)(環境①)	1110421	前期	環境科学部	
英語ⅢA(充実コース)(環境②)	1110431	前期	環境科学部	
英語ⅢA(充実コース)(環境③)	1110441	前期	環境科学部	
英語ⅢA(充実コース)(環境④)	1110451	前期	環境科学部	
英語ⅢA(充実コース)(環境⑤)	1110461	前期	環境科学部	
英語ⅢA(充実コース)(環境⑥)	1110471	前期	環境科学部	
英語ⅢA(充実コース)(工学①)	1110481	前期	工学部	
英語ⅢA(充実コース)(工学②)	1110491	前期	工学部	
英語ⅢA(充実コース)(工学③)	1110501	前期	工学部	
英語ⅢA(充実コース)(工学④)	1110511	前期	工学部	
英語ⅢA(充実コース)(工学⑤)	1110521	前期	工学部	
英語ⅢA(充実コース)(人文①)	1110531	前期	人間文化学部	
英語ⅢA(充実コース)(人文②)	1110541	前期	人間文化学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
え	英語ⅢA (充実コース) (人文③)	1110551	前期	人間文化学部
	英語ⅢA (充実コース) (人文④)	1110561	前期	人間文化学部
	英語ⅢA (充実コース) (人文⑤)	1110571	前期	人間文化学部
	英語ⅢA (充実コース) (看護①)	1110591	前期	人間看護学部
	英語ⅢA (充実コース) (看護②)	1110601	前期	人間看護学部
	英語ⅢA (充実コース) (再履修)	1110621	前期	全学
	英語ⅢA (充実コース) (国際a)	1120525	前期	国際
	英語ⅢA (充実コース) (国際b)	1120527	前期	国際
	英語ⅢB (充実コース) (環境①)	1110422	後期	環境科学部
	英語ⅢB (充実コース) (環境②)	1110432	後期	環境科学部
	英語ⅢB (充実コース) (環境③)	1110442	後期	環境科学部
	英語ⅢB (充実コース) (環境④)	1110452	後期	環境科学部
	英語ⅢB (充実コース) (環境⑤)	1110462	後期	環境科学部
	英語ⅢB (充実コース) (環境⑥)	1110472	後期	環境科学部
	英語ⅢB (充実コース) (工学①)	1110482	後期	工学部
	英語ⅢB (充実コース) (工学②)	1110492	後期	工学部
	英語ⅢB (充実コース) (工学③)	1110502	後期	工学部
	英語ⅢB (充実コース) (工学④)	1110512	後期	工学部
	英語ⅢB (充実コース) (工学⑤)	1110522	後期	工学部
	英語ⅢB (充実コース) (人文①)	1110532	後期	人間文化学部
	英語ⅢB (充実コース) (人文②)	1110542	後期	人間文化学部
	英語ⅢB (充実コース) (人文③)	1110552	後期	人間文化学部
	英語ⅢB (充実コース) (人文④)	1110562	後期	人間文化学部
	英語ⅢB (充実コース) (人文⑤)	1110572	後期	人間文化学部
	英語ⅢB (充実コース) (看護①)	1110592	後期	人間看護学部
	英語ⅢB (充実コース) (看護②)	1110602	後期	人間看護学部
	英語ⅢB (充実コース) (再履修)	1110622	後期	全学
	英語ⅢB (充実コース) (国際a)	1120526	前期	国際
	英語ⅢB (充実コース) (国際b)	1120528	前期	国際
	英語ⅣA (展開コース) (環境①)	1110631	前期	環境科学部
	英語ⅣA (展開コース) (環境②)	1110641	前期	環境科学部
	英語ⅣA (展開コース) (環境③)	1110651	前期	環境科学部
	英語ⅣA (展開コース) (環境④)	1110661	前期	環境科学部
	英語ⅣA (展開コース) (環境⑤)	1110671	前期	環境科学部
	英語ⅣA (展開コース) (環境⑥)	1110681	前期	環境科学部
	英語ⅣA (展開コース) (工学①)	1110691	前期	工学部
	英語ⅣA (展開コース) (工学②)	1110701	前期	工学部
	英語ⅣA (展開コース) (工学③)	1110711	前期	工学部
	英語ⅣA (展開コース) (工学④)	1110721	前期	工学部
	英語ⅣA (展開コース) (工学⑤)	1110731	前期	工学部
	英語ⅣA (展開コース) (人文①)	1110741	前期	人間文化学部
	英語ⅣA (展開コース) (人文②)	1110751	前期	人間文化学部
	英語ⅣA (展開コース) (人文③)	1110761	前期	人間文化学部
	英語ⅣA (展開コース) (人文④)	1110771	前期	人間文化学部
	英語ⅣA (展開コース) (人文⑤)	1110781	前期	人間文化学部
	英語ⅣA (展開コース) (看護①)	1110801	前期	人間看護学部
	英語ⅣA (展開コース) (看護②)	1110811	前期	人間看護学部
	英語ⅣA (展開コース) (再履修)	1110831	前期	全学
	英語ⅣA (展開コース) (国際a)	1120535	後期	国際
	英語ⅣA (展開コース) (国際b)	1120537	後期	国際
	英語ⅣB (展開コース) (環境①)	1110632	後期	環境科学部
	英語ⅣB (展開コース) (環境②)	1110642	後期	環境科学部
英語ⅣB (展開コース) (環境③)	1110652	後期	環境科学部	
英語ⅣB (展開コース) (環境④)	1110662	後期	環境科学部	
英語ⅣB (展開コース) (環境⑤)	1110672	後期	環境科学部	
英語ⅣB (展開コース) (環境⑥)	1110682	後期	環境科学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当	
え	英語ⅣB（展開コース）(工学①)	1110692	後期	工学部	
	英語ⅣB（展開コース）(工学②)	1110702	後期	工学部	
	英語ⅣB（展開コース）(工学③)	1110712	後期	工学部	
	英語ⅣB（展開コース）(工学④)	1110722	後期	工学部	
	英語ⅣB（展開コース）(工学⑤)	1110732	後期	工学部	
	英語ⅣB（展開コース）(人文①)	1110742	後期	人間文化学部	
	英語ⅣB（展開コース）(人文②)	1110752	後期	人間文化学部	
	英語ⅣB（展開コース）(人文③)	1110762	後期	人間文化学部	
	英語ⅣB（展開コース）(人文④)	1110772	後期	人間文化学部	
	英語ⅣB（展開コース）(人文⑤)	1110782	後期	人間文化学部	
	英語ⅣB（展開コース）(看護①)	1110802	後期	人間看護学部	
	英語ⅣB（展開コース）(看護②)	1110812	後期	人間看護学部	
	英語ⅣB（展開コース）(再履修)	1110832	後期	全学	
	英語ⅣB（展開コース）(国際a)	1120536	後期	国際	
	英語ⅣB（展開コース）(国際b)	1120538	後期	国際	
	英語E-learning A	1400965	後期	国際	
	英語E-learning B	1400966	前期	国際	
	英語E-learning C	1400967	後期	国際	
	英語学概論	1400102	後期	国際	
	英語学基礎	1400634	前期	国際	
	英語文献講読	1400103	前期	国際	
	英書講読(地域文化)	1400105	前期、後期	地域	
	英米文学概論	1400107	前期	国際	
	英米文学講読	1400108	後期	国際	
	栄養疫学論	1400120	後期	栄養	
	栄養学	1500328	後期	人間看護学部	
	栄養教育実習・事前事後指導（栄養教職）(4年次)	1600480	前期	教職	
	栄養教育実習・事前事後指導（栄養教諭）(3年次)	1600490	後期	教職	
	栄養教育論Ⅰ	1400151	前期	栄養	
	栄養教育論Ⅱ	1400152	後期	栄養	
	栄養教育論Ⅲ（カウンセリング論演習を含む）	1400153	前期	栄養	
	栄養教育論実習	1400160	前期	栄養	
	栄養生化学	1400190	前期	栄養	
	栄養生化学実験	1400200	前期	栄養	
	栄養生理学実習	1400210	前期	栄養	
	疫学	1500080	後期	人間看護学部	
	エネルギー・界面科学	1300030	前期	材料	
	エネルギー変換工学	1300040	後期	機械、社会	
	園芸学	1201440	後期	資源	
	お	欧米文化特論A	1400221	後期	国際
		欧米文化特論B	1400222	後期	国際
		欧米文化特論C	1400223	後期	国際
		欧米文化特論D	1400224	後期	国際
欧米文化論A		1400225	前期	国際	
欧米文化論B		1400226	前期	国際	
欧米文化論C		1400227	後期	国際	
欧米文化論D		1400228	後期	国際	
近江商人論		1400230	後期	地域	
近江の美		1170200	前期	全学	
応用栄養学Ⅰ		1400240	前期	栄養	
応用栄養学Ⅱ		1400250	後期	栄養	
応用栄養学実習		1400260	前期	栄養	
応用数学		1200150	後期	社会	
応用数学Ⅱ		1200151	前期	社会	
応用統計学Ⅰ		1200160	前期	社会	
応用統計学Ⅱ		1200170	後期	社会	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
か	海外環境政策演習	1253200	前期	社会
	海外留学	1400261	前期、後期	国際
	害虫管理学	1200190	前期	資源
	開発人類学	1400262	前期	国際
	解剖生理学Ⅰ	1500105	前期	人間看護学部
	解剖生理学Ⅱ	1500115	後期	人間看護学部
	海洋環境学	1200200	前期	生態
	カウンセリング論	1400305	前期	人関
	科学英語Ⅰ	1200730	前期	生態
	科学英語Ⅱ	1200740	後期	生態
	科学技術英語(材料)	1300090	前期	材料
	科学技術英語(機械)	1300070	前期	機械
	科学技術英語(電子)	1300080	前期	電子
	化学工学	1300100	後期	材料
	科学作文	1201090	後期	生態
	化学熱力学	1300110	前期	材料
	確率統計(機械)	1300120	後期	機械
	確率統計(電子)	1300121	後期	電子
	家族看護学	1500083	前期	人間看護学部
	家族の心理と社会	1403240	後期	人関
	家畜生産学	1200275	前期	資源
	家畜生産環境学	1200260	前期	資源
	学校看護論	1600450	前期	教職
	学校栄養指導論(栄養教諭)	1600500	前期	教職
	学校保健論	1600460	前期	教職
	環境・建築デザイン演習	1200280	後期	建築
	環境・建築デザイン概論	1200290	前期	建築
	環境アセスメント	1200300	前期	環境科学部
	環境疫学	1203240	前期	生態、資源
	環境汚染システム論	1201670	前期	生態、資源
	環境会計	1200330	前期	社会、資源
	環境解析学・同実験	1200340	後期	生態、資源
	環境化学Ⅰ	1200370	前期	生態、社会、資源
	環境化学Ⅱ	1200380	後期	生態、資源
	環境科学概論Ⅰ	1200390	前期	環境科学部
	環境科学概論Ⅱ	1200400	後期	環境科学部
	環境化学実験a	1200420	後期	生態、資源
	環境化学実験b	1200410	後期	生態、資源
	環境学野外実習Ⅰ	1200450	前期	生態
	環境学野外実習Ⅱ	1200460	前期	生態
	環境学野外実習Ⅲ	1200470	前期	生態
	環境監査	1200480	前期	環境科学部
	環境技術史	1200520	後期	建築
	環境共生論	1200542	後期	建築
	環境経営学	1200555	後期	社会、資源
	環境計画学	1200560	後期	社会、建築
	環境経済分析の基礎	1200571	後期	社会
環境経済学	1200580	後期	社会、資源	
環境経済学入門	1200581	前期	環境科学部	
環境公正論	1201085	前期	社会、建築	
環境財政	1200582	前期	環境科学部	
環境シミュレーション	1200620	後期	社会、資源	
環境社会学	1200630	後期	社会	
環境社会システム演習Ⅰ	1201930	前期	社会	
環境社会システム演習Ⅱ	1201940	後期	社会	
環境社会システム演習Ⅱ(特例用=前期)	1201941	前期	社会	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
か	環境社会システム演習Ⅲ	1201950	前期	社会
	環境社会システム演習Ⅲ(特例用=後期)	1201951	後期	社会
	環境社会システム演習Ⅳ	1201960	後期	社会
	環境社会システム演習Ⅳ(特例用=前期)	1201963	前期	社会
	環境社会システム基礎演習Ⅰ	1201961	前期	社会
	環境社会システム基礎演習Ⅱ	1201962	後期	社会
	環境情報	1200645	後期	社会
	環境機能論	1200650	前期	建築
	環境植物生理学	1200660	後期	資源
	環境心理学	1200661	後期	社会
	環境水文学	1200665	前期	生態、社会、資源
	環境数学Ⅰ・演習	1200670	前期	生態、資源
	環境数学Ⅱ・演習	1200680	後期	生態、資源
	環境政策学	1200700	後期	環境科学部
	環境政策デザイン論・演習	1200102	後期	社会
	環境生態学演習Ⅰ	1200710	前期	生態
	環境生態学演習Ⅱ	1200720	後期	生態
	環境生態学基礎演習	1200750	後期	生態
	環境生態学特別実習	1200760	後期	生態
	環境生物学Ⅰ	1200770	後期	生態、社会、資源
	環境生物学Ⅱ	1200780	後期	生態、資源
	環境生物学実験 a	1200790	前期	生態、資源
	環境生物学実験 b	1200800	前期	生態、資源
	環境設計Ⅰ	1200810	前期	建築
	環境設計Ⅱ	1200820	前期	建築
	環境設備	1200840	前期	建築
	環境造形論	1200860	後期	建築
	環境地下水学	1200255	前期	生態、資源
	環境調和化学	1300150	後期	材料
	環境統計解析学	1200920	前期	生態、資源
	環境動物学	1200940	後期	資源
	環境毒性学	1201840	後期	生態
	環境微生物学	1201820	前期	生態、資源
	環境フィールドワークⅠ	1200960	前期	環境科学部
	環境フィールドワークⅡ	1200970	前期	環境科学部
	環境フィールドワークⅢ	1200980	前期、後期	環境科学部
	環境物理学Ⅰ	1200990	後期	生態、社会、資源
	環境物理学Ⅱ	1201000	前期	生態
	環境物理学実験	1201010	前期	生態、資源
	環境変遷学	1201030	後期	生態
	環境法	1201039	前期	生態、社会、資源
	環境マネジメント論	1201060	前期	社会
	環境リスク解析法	1201640	後期	生態
	看護学概論	1500734	前期	人間看護学部
	看護管理学	1500129	前期	人間看護学部
	看護キャリアデザイン論	1500142	前期	人間看護学部
	看護教育と実践	1500143	前期	人間看護学部
	看護研究の基礎	1500145	前期、後期	人間看護学部
	看護理論(看護学部)	1500162	後期	人間看護学部
	環琵琶湖文化論実習(地域文化)	1400360	前期、後期	地域
	環琵琶湖文化論実習(生活デザイン)	1400340	前期、後期	デザ
	環琵琶湖文化論実習(生活栄養)	1400350	前期、後期	栄養
環琵琶湖文化論実習(人間関係)	1400330	前期、後期	人間	
環琵琶湖文化論実習(国際)	1400361	前期、後期	国際	
漢文講読	1400370	前期、後期	地域	
管理栄養士総合演習	1400380	後期	栄養	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
か	緩和ケア演習	1500081	前期	人間看護学部
	緩和ケア実習	1500082	前期、後期	人間看護学部
き	機械工学基礎実験	1300195	前期	機械
	機械材料学	1300160	後期	機械
	機械システム工学概論	1300170	前期	工学部
	機械システム工学セミナー	1300210	前期	機械
	機械システム創造実験	1300205	後期	機械
	機械製作	1300240	後期	機械
	機械製作実習	1300250	前期	機械
	機械設計演習Ⅰ	1300260	後期	機械
	機械設計演習Ⅱ	1300270	前期	機械
	機械設計演習Ⅲ	1300280	後期	機械
	機械設計製図	1300290	前期	機械
	機械の再発見	1150520	後期	全学
	機械の役割と仕組み	1170300	前期	全学
	機械要素	1300300	前期	機械
	機械四力学演習	1302180	前期	機械
	機械力学Ⅰ	1300320	前期	機械
	機械力学Ⅱ	1300330	後期	機械
	機器分析Ⅰ	1300340	前期	材料
	機器分析Ⅱ	1300350	前期	材料
	技術者倫理	1300360	後期	工学部
	技術の歴史	1170310	後期	全学
	基層文化論	1400390	後期	地域
	基礎栄養学Ⅰ	1400400	後期	栄養
	基礎栄養学Ⅱ	1400410	前期	栄養
	基礎栄養学実験	1400420	後期	栄養
	基礎演習Ⅰ(国際コミュニケーション)	1400421	前期	国際
	基礎演習Ⅱ(国際コミュニケーション)	1400422	後期	国際
	基礎化学(材料)	1300380	前期	材料
	基礎化学(機械)	1300370	前期	機械
	基礎化学(電子)	1300390	前期	電子
	基礎看護学実習Ⅰ	1500163	前期	人間看護学部
	基礎看護学実習Ⅱ	1500164	前期	人間看護学部
	基礎看護技術Ⅰ(コミュニケーション・生活環境)	1500165	前期	人間看護学部
	基礎看護技術Ⅱ(生活行動援助)	1500166	後期	人間看護学部
	基礎看護技術Ⅲ(フィジカルアセスメント・臨床看護)	1500168	前期	人間看護学部
	基礎看護技術Ⅳ(看護過程)	1500167	前期	人間看護学部
	基礎数学Ⅰ	1201110	前期	環境科学部
	基礎数学Ⅱ	1201120	後期	環境科学部
	基礎設計製図	1400430	後期	デザ
	基礎電気電子回路	1300420	後期	工学部
	基礎電磁気学(材料)	1300450	後期	材料
	基礎電磁気学(機械)	1300440	後期	機械
	基礎電磁気学(電子)	1300460	後期	電子
	基礎統計	1201130	後期	社会
	基礎熱力学	1300470	後期	材料
	基礎服飾デザイン	1400440	後期	デザ
	基礎力学(材料)	1300520	前期	材料
基礎力学(機械)	1300510	前期	機械	
基礎力学(電子)	1300530	前期	電子	
キャリア形成への道A(基礎)	1150511	前期	全学	
キャリア形成への道B(発展)	1150530	前期	全学	
キャリアステップA(キャリア)	1601034	前期	キャリア	
キャリアステップB(キャリア)	1601035	前期	キャリア	
キャリアステップC(キャリア)	1601036	前期	キャリア	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
キ	給食衛生管理実習	1400450	後期	栄養
	給食経営管理実習	1400461	前期	栄養
	給食経営管理臨地実習	1400470	前期	栄養
	給食経営管理論Ⅰ	1400481	後期	栄養
	給食経営管理論Ⅱ	1400485	前期	栄養
	教育学概論（教職・人関）	1400510	前期	人関、教職
	教育課程論（教職・人関）	1600251	後期	人関、教職
	教育観察実習	1400520	前期	人関
	教育実習・事前事後指導（教職）（中学高校免許・3年次）	1600020	後期	教職
	教育実習・事前事後指導（養護教諭・3年次）	1600030	後期	教職
	教育実習・事前事後指導（教職）（中学校免許・4年次）	1600040	前期	教職
	教育実習・事前事後指導（教職）（高等学校免許・4年次）	1600010	前期	教職
	教育実習・事前事後指導（養護教諭・4年次）	1600050	前期、後期	教職
	教育心理学（教職・人関）	1400530	前期	人関、教職
	教育制度論（教職・人関）	1400540	後期	人関、教職
	教育相談（教職）	1600071	前期	教職
	教育方法論（教職・人関）	1400555	前期	人関、教職
	教科教育法（英語科教育法Ⅰ）	1600151	前期	教職
	教科教育法（家庭科教育法Ⅰ）	1600090	前期	教職
	教科教育法（工業科教育法Ⅰ）	1600100	前期	教職
	教科教育法（公民科教育法Ⅰ）	1600110	前期	教職
	教科教育法（社会科教育法Ⅰ）	1600120	後期	教職
	教科教育法（情報科教育法Ⅰ）	1600330	前期	教職
	教科教育法（地歴科教育法Ⅰ）	1600130	前期	教職
	教科教育法（農業科教育法Ⅰ）	1600140	前期	教職
	教科教育法（理科教育法Ⅰ）	1600150	前期	教職
	教科教育法（英語科教育法Ⅱ）	1600221	後期	教職
	教科教育法（家庭科教育法Ⅱ）	1600160	後期	教職
	教科教育法（工業科教育法Ⅱ）	1600170	後期	教職
	教科教育法（公民科教育法Ⅱ）	1600180	後期	教職
	教科教育法（社会科教育法Ⅱ）	1600190	前期	教職
	教科教育法（情報科教育法Ⅱ）	1600340	後期	教職
	教科教育法（地歴科教育法Ⅱ）	1600200	後期	教職
	教科教育法（農業科教育法Ⅱ）	1600210	後期	教職
	教科教育法（理科教育法Ⅱ）	1600220	前期	教職
	教科教育法（英語科教育法Ⅲ）	1600241	後期	教職
	教科教育法（家庭科教育法Ⅲ）	1600230	前期	教職
	教科教育法（社会科教育法Ⅲ）	1600245	前期	教職
	教科教育法（理科教育法Ⅲ）	1600243	前期	教職
	教科教育法（英語科教育法Ⅳ）	1600242	前期	教職
	教科教育法（家庭科教育法Ⅳ）	1600240	後期	教職
	教科教育法（社会科教育法Ⅳ）	1600246	後期	教職
	教科教育法（理科教育法Ⅳ）	1600244	後期	教職
	教職実践演習（中学校・高等学校）	1600270	後期	教職
	教職実践演習（養護教諭）	1600290	後期	教職
	教職実践演習（栄養教諭）	1600260	後期	教職
	教職論（教職）	1600300	前期	教職
魚類学	1200545	前期	資源	
近世近江論	1400560	前期	地域	
金属加工学	1300540	前期	機械	
金属材料	1300550	前期	材料	
近代デザイン史	1400570	前期	デザ	
ク	空間デザイン論	1400580	後期	デザ
	暮らしの中の材料①	1150140	前期	全学
	暮らしの中の材料②	1150141	前期	全学
	クリティカルケア実践演習	1500181	前期	人間看護学部

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
け	景観計画	1201160	後期	社会、建築、資源
	経済学	1150110	後期	全学
	経済学Ⅰ	1201170	後期	社会、資源
	経済学Ⅱ（国際経済を含む）	1201180	前期	社会、資源、国際
	芸術学	1400600	後期	地域
	形成論演習	1400610	前期、後期	人間
	計測工学	1300570	前期	機械
	研究演習Ⅰ（国際コミュニケーション）	1400611	前期	国際
	研究演習Ⅱ（国際コミュニケーション）	1400612	後期	国際
	健康・体力科学Ⅰ（フィットネスプログラム）	1140010	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（フィットネスプログラム）	1140020	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（フィットネスプログラム）	1140030	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）	1140040	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）	1140050	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）	1140055	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（卓球）	1140090	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（卓球）	1140110	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（テニス）	1140120	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（テニス）	1140130	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（テニス）	1140140	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（ヘルスサイエンス）	1140150	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（ヘルスサイエンス）	1140160	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（ヘルスサイエンス）	1140170	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（バスケットボール）	1140180	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（バスケットボール）	1140190	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（バスケットボール）	1140200	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（ボディコンディショニング）	1140470	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（ボディコンディショニング）	1140480	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（ボディコンディショニング）	1140490	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（2限）	1140070	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（3限）	1140080	後期	全学
	健康・体力科学Ⅰ（4限）	1140060	後期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（ニューススポーツ）	1140240	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（ニューススポーツ）	1140320	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（ニューススポーツ）	1140400	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール）	1140250	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール）	1140330	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール）	1140410	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（バドミントン）	1140260	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（バドミントン）	1140350	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（バドミントン）	1140420	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（フィットネスプログラム）	1140290	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（フィットネスプログラム）	1140370	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（フィットネスプログラム）	1140440	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（卓球）	1140310	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（卓球）	1140390	前期	全学
	健康・体力科学Ⅱ（卓球）	1140460	前期	全学
健康・体力科学Ⅱ（テニス）	1140340	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（テニス）	1140415	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（ボディコンディショニング）	1140500	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（ボディコンディショニング）	1140510	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（ボディコンディショニング）	1140520	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（2限）	1140530	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（3限）	1140540	前期	全学	
健康・体力科学Ⅱ（4限）	1140550	前期	全学	
健康危機回復支援演習Ⅰ（慢性期）	1500455	後期	人間看護学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目担当	
け	健康危機回復支援演習Ⅱ（急性期）	1500453	前期	人間看護学部	
	健康危機回復支援実習	1500454	前期、後期	人間看護学部	
	健康教育論	1500212	前期	人間看護学部	
	健康情報管理実習	1400620	前期	栄養	
	言語接触論	1400632	前期	国際	
	現代英文法	1400633	前期	国際	
	現代産業デザイン論	1400640	前期	デザ	
	現代ジャーナリズム論	1400650	後期	地域、人関	
	現代社会福祉論	1400670	後期	人関	
	現代中国論	1400690	前期	地域	
	建築一般構造	1201200	前期	建築	
	建築環境工学	1201210	後期	建築	
	建築環境工学演習	1201220	後期	建築	
	建築計画論	1400705	後期	デザ	
	建築数学・物理	1201250	後期	建築	
	建築生産施工	1201260	前期	建築	
	建築構造プログラミング	1203330	後期	建築	
	建築法規	1201270	後期	建築、デザ	
	現場心理学	1400710	前期	人関	
	憲法	1600320	後期	全学	
	こ	合意形成支援技法・演習	1201331	後期	社会
		工業数学(材料・機械)	1300600	後期	材料、機械
		工業数学(電子)	1300605	後期	電子
		工業力学	1300620	後期	機械
		考古学	1400740	前期	地域
		考古学実習Ⅰ	1400741	前期	地域
		考古学実習Ⅱ	1400742	後期	地域
考古学特論A		1400751	後期	地域	
考古学特論B		1400752	後期	地域	
公衆衛生学(栄養)		1400790	前期	栄養	
公衆衛生学(看護)		1500213	前期	人間看護学部	
公衆衛生看護学演習Ⅰ(保健師)		1600721	前期	看護(保健師)	
公衆衛生看護学演習Ⅱ(保健師)		1600720	前期、後期	看護(保健師)	
公衆衛生看護学概論		1500216	前期	人間看護学部	
公衆衛生看護学実習(保健師)		1600730	前期、後期	看護(保健師)	
公衆衛生看護活動論(保健師)		1501045	前期	看護(保健師)	
公衆衛生看護管理論(保健師)		1600700	前期	看護(保健師)	
公衆衛生看護技術論(保健師)		1600690	前期	看護(保健師)	
公衆栄養学		1400800	前期	栄養	
公衆栄養学実習		1400810	後期	栄養	
構造計画(建築デザイン)		1201340	後期	建築	
構造計画(生活デザイン)		1400820	後期	デザ	
構造材料実験		1201350	後期	建築	
構想デザイン演習Ⅰ		1404110	前期	デザ	
構想デザイン演習Ⅱ		1404120	後期	デザ	
構想デザイン演習Ⅲ		1404130	前期	デザ	
構造力学Ⅰ(建築デザイン)		1201360	前期	建築、資源	
構造力学Ⅰ(生活デザイン)		1400830	後期	デザ	
構造力学Ⅱ		1201370	後期	建築	
行動デザイン論		1401370	前期	デザ	
行動論演習		1400840	前期、後期	人関	
高分子合成		1300640	前期	材料	
高分子物性		1300650	後期	材料	
国際関係論		1400861	後期	国際	
国際看護学		1500217	前期	人間看護学部	
国際看護学実習		1500123	前期、後期	人間看護学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当	
こ	国際社会論	1400685	前期	地域、人間、国際	
	国際文化学概論	1170340	後期	全学	
	国際文化論	1403300	前期	国際	
	湖沼環境学	1201400	後期	生態、資源	
	固体物性基礎	1300660	後期	材料	
	こどもの健康（家庭看護を含む）	1600444	前期	デザ、教職	
	こどもの発達（実習を含む）	1600445	前期	デザ、教職	
	コミュニケーション論	1400880	前期	人間	
	古文書演習Ⅰ	1400890	後期	地域	
	古文書演習Ⅱ	1400900	前期	地域	
	コンピュータアーキテクチャ	1300670	前期	電子	
	コンピュータソフトウェア	1300680	前期	電子	
	コンピュータとインターネット	1170280	後期	全学	
	コンピュータハードウェア	1300690	後期	電子	
	さ	災害看護学	1500221	前期	人間看護学部
		在宅看護学演習Ⅰ	1500222	前期	人間看護学部
在宅看護学演習Ⅱ		1500227	前期	人間看護学部	
在宅看護学概論		1500223	前期	人間看護学部	
在宅看護学各論		1500226	後期	人間看護学部	
在宅看護学実習		1500225	前期、後期	人間看護学部	
在宅療養移行支援演習		1500998	前期	人間看護学部	
在宅療養移行支援実習		1501042	前期、後期	人間看護学部	
材料開発工学		1300710	前期	材料	
材料科学概論		1300720	前期	工学部	
材料科学実験Ⅰ		1300732	前期	材料	
材料科学実験Ⅱ		1300733	後期	材料	
材料計算化学および同演習		1300760	後期	材料	
材料組織学		1300770	後期	材料	
材料力学		1300791	前期	材料	
材料力学Ⅰ（機械）		1300780	前期	機械	
材料力学Ⅱ		1300800	後期	機械	
作物学		1201450	後期	資源	
作物保護学		1201460	後期	資源	
サステナブルデザイン論		1201465	前期	社会、建築	
サブカルチャー交流論		1400911	前期	国際	
差別と人権（同和問題）		1150150	前期	全学	
産業心理学		1400920	後期	人間	
し		ジェンダー平等をつくる	1170330	後期	全学
		視覚伝達デザイン	1403290	後期	デザ
		色彩学	1400930	前期	デザ
		色彩学演習	1400940	後期	デザ
	資源経済学	1201470	前期	社会、資源	
	嗜好と調理実習Ⅰ	1400950	後期	栄養	
	嗜好と調理実習Ⅱ	1400960	前期	栄養	
	システム工学	1300840	前期	機械	
	システム思考法（副専攻）	1170050	前期	副専攻	
	自然科学入門	1150180	前期	全学	
	自然地理学	1400970	前期	地域	
	自然のしくみA	1150190	後期	全学	
	自然のしくみB	1150185	後期	全学	
	質的調査方法論	1400425	前期	国際	
	質的データ解析論	1400980	後期	地域、人間	
	疾病の成り立ちⅠ	1401001	前期	栄養	
	疾病の成り立ちⅡ	1402761	後期	栄養	
	疾病の成り立ちⅢ	1400991	前期	栄養	
	疾病論Ⅰ	1500311	前期	人間看護学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目担当
し	疾病論Ⅱ	1500325	後期	人間看護学部
	疾病論Ⅲ	1500326	後期	人間看護学部
	実用英語演習ⅠA①(火1限)	1120730	前期	全学
	実用英語演習ⅠA②(火1限)	1120731	前期	全学
	実用英語演習ⅠA③(火2限)	1120732	前期	全学
	実用英語演習ⅠA④(火2限)	1120733	前期	全学
	実用英語演習ⅠA⑤(火2限)	1120734	前期	全学
	実用英語演習ⅠA⑥(火2限)	1120735	前期	全学
	実用英語演習ⅠA⑦(火3限)	1120736	前期	全学
	実用英語演習ⅠA⑧(火3限)	1120737	前期	全学
	実用英語演習ⅠA⑨(火3限)	1120738	前期	全学
	実用英語演習ⅠA⑩(火3限)	1120739	前期	全学
	実用英語演習ⅠB①(火1限)	1120740	後期	全学
	実用英語演習ⅠB②(火1限)	1120741	後期	全学
	実用英語演習ⅠB③(火2限)	1120742	後期	全学
	実用英語演習ⅠB④(火2限)	1120743	後期	全学
	実用英語演習ⅠB⑤(火2限)	1120744	後期	全学
	実用英語演習ⅠB⑥(火2限)	1120745	後期	全学
	実用英語演習ⅠB⑦(火3限)	1120746	後期	全学
	実用英語演習ⅠB⑧(火3限)	1120747	後期	全学
	実用英語演習ⅠB⑨(火3限)	1120748	後期	全学
	実用英語演習ⅠB⑩(火3限)	1120749	後期	全学
	市民参加論	1201550	後期	社会
	社会運動論	1401875	前期	人関
	社会学	1201560	前期	社会、資源
	社会学演習	1401040	前期、後期	人関
	社会学概論	1401050	前期	地域、人関
	社会学史	1401060	前期	地域、人関
	社会システム分析設計・演習	1201621	後期	社会
	社会心理学(人間関係)	1401100	前期	人関
	社会精神医学	1401110	後期	人関
	社会調査実習(環境社会システム)	1201630	前期、後期	社会
	社会調査方法論	1401130	後期	地域、デザ、人関
	社会調査論	1401140	前期	地域、デザ、人関
	社会福祉概論	1401170	後期	栄養
	社会変動論	1401180	後期	地域、人関
	社会問題の社会学	1401190	前期	人関
	住環境設計演習Ⅰ	1401210	前期	デザ
	住環境設計演習Ⅱ	1401220	後期	デザ
	住環境設計演習Ⅲ	1401230	前期	デザ
	住環境論	1401250	後期	デザ
	住居計画論	1400715	前期	デザ
集水域環境学	1201650	後期	生態	
集水域環境学・同実験	1201660	後期	生態	
集水域生態系保全修復論	1201680	後期	生態、資源	
集積回路設計基礎	1300850	後期	電子	
生涯学習論(学芸員・人関)	1401340	前期	学芸員、人関	
小児看護学演習	1500345	前期	人間看護学部	
小児看護学概論	1500321	前期	人間看護学部	
小児看護学各論	1500329	後期	人間看護学部	
小児看護学実習	1500365	前期、後期	人間看護学部	
消費科学Ⅰ	1401350	後期	デザ	
消費科学Ⅱ	1401360	前期	デザ	
情報科学概論(環境a)	1130140	後期	環境科学部	
情報科学概論(環境b)	1130150	後期	環境科学部	
情報科学概論(環境c)	1130160	後期	環境科学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
し	情報科学概論(環境d)	1130170	後期	環境科学部
	情報科学概論(材料)	1130240	後期	材料
	情報科学概論(機械)	1130250	後期	機械
	情報科学概論(電子)	1130260	後期	電子
	情報科学概論(人文a)	1130210	後期	人間文化学部
	情報科学概論(人文b)	1130200	後期	人間文化学部
	情報科学概論(人文c)	1130220	後期	人間文化学部
	情報科学概論(人文d)	1130230	後期	人間文化学部
	情報科学概論(看護a)	1130180	後期	人間看護学部
	情報科学概論(看護b)	1130190	後期	人間看護学部
	情報処理基礎	1300880	前期	機械、電子
	情報通信工学	1300890	前期	電子
	情報と職業	1600350	前期	教職
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境a)	1130010	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境b)	1130020	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境c)	1130030	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境d)	1130040	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(材料)	1130060	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(機械)	1130050	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(電子)	1130130	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文a)	1130090	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文b)	1130100	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文c)	1130110	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文d)	1130120	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(看護a)	1130070	前期	全学
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(看護b)	1130080	前期	全学
	職業指導	1600360	前期	教職
	食生活教育論	1600510	前期	教職
	食と健康	1170250	前期	全学
	食品衛生学	1401400	後期	栄養
	食品衛生学実験	1401410	後期	栄養
	食品学総論	1401420	前期	栄養
	食品加工実習	1401430	前期	栄養
	食品基礎実験	1401440	後期	栄養
	食品機能科学	1401450	後期	栄養
	食品機能科学実験	1401460	後期	栄養
	食品の調理と加工	1401470	前期	栄養
	食品微生物学	1401481	後期	栄養
	植物遺伝資源学	1201710	後期	資源
	植物栄養学	1201725	後期	資源
	植物資源開発学	1201730	後期	資源
	植物資源管理学	1201740	前期	資源
	植物生産学	1201760	後期	資源
	植物病害防除論	1201780	前期	資源
	食物学(調理実習を含む)	1600800	前期	テザ
	人文地理学A	1401500	後期	地域
	人文地理学B	1401510	後期	地域
心理・発達・行動学実験演習	1401520	前期、後期	人間	
心理学基礎	1401540	前期	テザ、人間	
森林環境学	1201790	前期	生態、社会、資源	
進路指導(教職)	1600072	前期	教職	
す	水域環境学・同実験	1201830	前期	生態
	水域生態系保全修復論	1201850	後期	生態
	水産資源学	1201870	前期	資源
	水質管理学	1201880	前期	資源
	水理学	1201910	後期	資源

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
す	水利環境施設学	1201920	前期	資源
	数値解析	1300940	前期	機械
	スポーツ栄養学	1401541	後期	栄養
せ	生化学	1500125	前期	人間看護学部
	生化学Ⅰ	1300990	後期	材料
	生化学Ⅱ	1301000	前期	材料
	生活栄養論演習Ⅰ	1401546	後期	栄養
	生活栄養論演習Ⅱ a	1401542	前期	栄養
	生活栄養論演習Ⅱ a (後期)	1401543	後期	栄養
	生活栄養論演習Ⅱ b	1401544	後期	栄養
	生活栄養論演習Ⅱ b (前期)	1401545	前期	栄養
	生活経営概論	1401561	後期	デザ、人関
	生活素材論	1401620	前期	デザ
	生活デザイン学外演習	1401630	前期、後期	デザ
	生活デザイン基礎演習	1401580	前期	デザ
	生活デザイン論	1401640	後期	デザ
	生活デザイン論演習Ⅰ	1401690	前期	デザ
	生活デザイン論演習Ⅱ	1401701	後期	デザ
	生活と教育	1401575	後期	人関
	生活と健康	1150225	前期	全学
	生活の中にもみる力学	1170270	後期	全学
	生活法	1401710	前期	人関
	制御工学	1301010	前期	電子
	制御工学Ⅰ	1301020	前期	機械
	制御工学Ⅱ	1301030	後期	機械
	政策形成・施設演習	1201970	後期	社会
	生産工学	1301040	前期	機械
	政治学Ⅰ	1201980	前期	社会、人関
	政治学Ⅱ (国際政治を含む)	1201990	後期	社会、人関
	政治経済学	1401720	後期	人関、国際
	精神看護学演習	1500845	前期	人間看護学部
	精神看護学概論	1500847	後期	人間看護学部
	精神看護学概論 (旧カリ・特別開講)	1500947	前期	人間看護学部
	成人看護学概論	1500452	後期	人間看護学部
	精神看護学各論	1500844	後期	人間看護学部
	成人看護学各論	1500465	前期	人間看護学部
	精神看護学実習	1500846	前期、後期	人間看護学部
	精神保健論	1500327	前期	全学、人間看護学部
	生体の構造と機能	1401730	後期	栄養
	生徒指導論 (教職)	1600370	後期	教職
	生物資源管理学演習Ⅰ	1202060	前期	資源
	生物資源管理学演習Ⅱ	1202070	後期	資源
	生物資源管理学概論	1202080	前期	資源
	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	1202090	前期	資源
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	1202120	後期	資源
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	1202130	前期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	1202140	後期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	1202150	後期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	1202160	前期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	1202180	前期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	1202190	前期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	1202100	後期	資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	1202110	後期	資源	
生物資源統計学Ⅰ	1202315	後期	生態、資源	
生物資源統計学Ⅱ	1202905	後期	資源	
生命・人間・倫理	1150230	後期	全学、人間看護学部	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目担当	
せ	生命科学と人間	1401740	後期	栄養	
	西洋建築・思潮史	1202320	前期	建築	
	西洋史	1401759	前期	国際	
	西洋史概説	1401750	前期	地域	
	世界遺産学概論	1402711	前期	地域	
	世界遺産学特論	1150480	後期	地域	
	設計演習Ⅰ	1202340	前期	建築	
	設計演習Ⅱ	1202350	後期	建築	
	設計演習Ⅲ	1202360	前期	建築	
	設計演習Ⅳ	1202365	後期	建築	
	設計基礎演習	1202370	後期	建築	
	セラミックス材料	1301080	前期	材料	
	線形代数Ⅰ(材料)	1301100	前期	材料	
	線形代数Ⅰ(機械)	1301090	前期	機械	
	線形代数Ⅰ(電子)	1301091	前期	電子	
	線形代数Ⅱ(材料)	1301125	後期	材料	
	線形代数Ⅱ(機械)	1301130	後期	機械	
	線形代数Ⅱ(電子)	1301135	後期	電子	
	先端材料科学	1301140	後期	材料	
	専門外書講義	1401781	後期	栄養	
	専門外書講読Ⅰ	1202400	前期	資源	
	専門外書講読Ⅱ	1202410	後期	資源	
	そ	総合的な学習の時間の指導法(教職)	1600830	前期	教職
		ソーシャル・ビジネス概論	1170225	後期	全学、副専攻
		ソーシャルデザイン論	1400910	後期	デザ
		測量学	1202420	後期	生態、資源
		卒業研究Ⅰ(環境生態)	1202470	前期	生態
卒業研究Ⅱ(環境生態)		1202490	後期	生態	
卒業研究Ⅰ(環境社会システム)		1202441	前期	社会	
卒業研究Ⅰ(環境社会システム)(特例用=後期)		1202440	後期	社会	
卒業研究Ⅱ(環境社会システム)(特例用=前期)		1202445	前期	社会	
卒業研究Ⅱ(環境社会システム)		1202442	後期	社会	
卒業研究・卒業制作Ⅰ(環境建築デザイン)		1202450	前期	建築	
卒業研究・卒業制作Ⅱ(環境建築デザイン)		1202460	後期	建築	
卒業研究Ⅰ(生物資源)		1202480	前期	資源	
卒業研究Ⅱ(生物資源)		1202500	後期	資源	
卒業研究Ⅰ(材料化学)		1301172	前期	材料	
卒業研究Ⅱ(材料化学)		1301173	後期	材料	
卒業研究(機械システム)		1301160	前期、後期	機械	
卒業研究(電子システム)		1301180	前期、後期	電子	
卒業研究・論文Ⅰ(地域文化)		1401832	前期	地域	
卒業研究・論文Ⅰ(地域文化)(後期)		1401833	後期	地域	
卒業研究・論文Ⅱ(地域文化)(前期)		1401836	前期	地域	
卒業研究・論文Ⅱ(地域文化)		1401835	後期	地域	
卒業研究・制作/論文Ⅰ(生活デザイン)		1401802	前期	デザ	
卒業研究・制作/論文Ⅰ(生活デザイン)(後期)		1401803	後期	デザ	
卒業研究・制作/論文Ⅱ(生活デザイン)(前期)		1401806	前期	デザ	
卒業研究・制作/論文Ⅱ(生活デザイン)		1401805	後期	デザ	
卒業研究・論文Ⅰ(生活栄養)		1401811	前期	栄養	
卒業研究・論文Ⅰ(生活栄養)(後期)		1401812	後期	栄養	
卒業研究・論文Ⅱ(生活栄養)(前期)		1401816	前期	栄養	
卒業研究・論文Ⅱ(生活栄養)		1401815	後期	栄養	
卒業研究・論文Ⅰ(人間関係)		1401822	前期	人間	
卒業研究・論文Ⅰ(人間関係)(後期)		1401823	後期	人間	
卒業研究・論文Ⅱ(人間関係)(前期)		1401825	前期	人間	
卒業研究・論文Ⅱ(人間関係)	1401824	後期	人間		

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
そ	卒業研究・論文Ⅰ(国際コミュニケーション)	1401826	前期	国際
	卒業研究・論文Ⅰ(国際コミュニケーション)(後期)	1401827	後期	国際
	卒業研究・論文Ⅱ(国際コミュニケーション)(前期)	1401829	前期	国際
	卒業研究・論文Ⅱ(国際コミュニケーション)	1401828	後期	国際
	卒業研究(人間看護)	1500580	前期、後期	人間看護学部
た	対外文化交流論A	1401840	前期	地域
	対外文化交流論B	1401850	後期	地域
	大気環境学	1202510	後期	生態
	タイポグラフィ	1403330	後期	デザ
	多文化共生論	1170170	前期	全学
	多文化社会論A	1401865	前期	国際
	多文化社会論B	1401866	後期	国際
ち	地域開発論	1202550	後期	社会、資源
	地域環境計画	1202570	後期	建築
	地域環境政策論	1202580	前期	生態、社会
	地域共生論(2限)	1170010	前期	全学
	地域共生論(1限)	1170020	前期	全学
	地域計画概論	1403270	前期	地域
	地域計画実習	1403280	後期	地域
	地域経済史論	1401900	後期	地域
	地域研究論	1401920	前期	地域
	地域考古学A	1401930	前期	地域
	地域考古学B	1401940	後期	地域
	地域考古学C	1401950	前期	地域
	地域考古学D	1401960	後期	地域
	地域コミュニケーション論	1170130	後期	全学
	地域産学連携実習Ⅰ	1202621	前期	建築
	地域産学連携実習Ⅱ	1202622	後期	建築
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	1170180	後期	全学
	地域資源管理学	1202630	後期	資源
	地域システム論	1202640	前期	社会
	地域社会調査実習	1401125	前期、後期	地域、人関
	地域社会福祉論	1170120	後期	全学
	地域社会論	1403250	後期	人関
	地域情報処理学	1202650	後期	資源
	地域診断法	1170040	後期	副専攻
	地域(健康)生活実習Ⅰ	1501043	前期	人間看護学部
	地域調査法	1202660	前期	社会、資源
	地域調査法演習	1202670	前期	社会
	地域づくり人材論	1170140	後期	全学
	地域デザインA(副専攻)	1170070	前期	副専攻
	地域デザインB(副専攻)	1170080	前期	副専攻
	地域デザインC(副専攻)	1170090	後期	副専攻
	地域デザインD(副専攻)	1170100	前期	副専攻
	地域統計学Ⅰ	1402461	前期	地域
	地域統計学Ⅱ	1402462	後期	地域
	地域と行政	1402665	後期	地域
	地域と空間	1401980	後期	地域
	地域と経済	1402705	前期	地域
	地域と文化	1170290	前期	全学
	地域文化演習Ⅰ	1401990	前期、後期	地域
	地域文化演習Ⅱ	1402000	前期、後期	地域
	地域文化演習Ⅲ	1402012	前期	地域
	地域文化演習Ⅲ(後期)	1402013	後期	地域
地域文化演習Ⅳ	1402015	後期	地域	
地域文化演習Ⅳ(前期)	1402016	前期	地域	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
ち	地域文化基礎演習	1402011	後期	地域
	地域文化財論A	1402020	前期	地域
	地域文化財論B	1402030	後期	地域
	地域保健臨地実習	1402040	前期	栄養
	地域(療養)生活実習Ⅱ	1501044	前期	人間看護学部
	地球科学Ⅰ	1200890	前期	生態、社会、資源
	地球科学Ⅱ	1200900	前期	生態
	地球科学実験	1200910	前期	生態、資源
	地球環境化学	1201690	前期	生態、資源
	地球環境システム論	1202710	後期	生態、社会、資源
	地誌学	1402050	前期	地域
	チャイルドライフケア論	1500732	前期	人間看護学部
	中国語ⅠA(初級コース)(国際)	1120581	前期	国際
	中国語ⅠA(初級コース)(水1限)	1120271	前期	全学
	中国語ⅠA(初級コース)(水2限)	1120291	前期	全学
	中国語ⅠA(初級コース)(水2限)	1120325	前期	全学
	中国語ⅠA(初級コース)(水3限)	1120311	前期	全学
	中国語ⅠA(初級コース)(水3限)	1120321	前期	全学
	中国語ⅠA(初級コース)(水4限)	1120251	前期	全学
	中国語ⅠB(初級コース)(国際)	1120582	前期	国際
	中国語ⅠB(初級コース)(水1限)	1120272	後期	全学
	中国語ⅠB(初級コース)(水2限)	1120292	後期	全学
	中国語ⅠB(初級コース)(水2限)	1120327	後期	全学
	中国語ⅠB(初級コース)(水3限)	1120312	後期	全学
	中国語ⅠB(初級コース)(水3限)	1120322	後期	全学
	中国語ⅠB(初級コース)(水4限)	1120252	後期	全学
	中国語ⅡA(中級コース)(国際)	1120591	後期	国際
	中国語ⅡA(中級コース)(火1限)	1120351	前期	全学
	中国語ⅡA(中級コース)(火1限)	1120336	前期	全学
	中国語ⅡA(中級コース)(火2限)	1120361	前期	全学
	中国語ⅡA(中級コース)(火2限)	1120346	前期	全学
	中国語ⅡA(中級コース)(火3限)	1120406	前期	全学
	中国語ⅡB(中級コース)(国際)	1120592	後期	国際
	中国語ⅡB(中級コース)(火1限)	1120352	後期	全学
	中国語ⅡB(中級コース)(火1限)	1120337	後期	全学
	中国語ⅡB(中級コース)(火2限)	1120362	後期	全学
	中国語ⅡB(中級コース)(火2限)	1120347	後期	全学
	中国語ⅡB(中級コース)(火3限)	1120407	後期	全学
	中国語コミュニケーションⅠA	1402081	後期	国際
	中国語コミュニケーションⅠB	1402082	後期	国際
	中国語コミュニケーションⅡA	1402083	前期	国際
	中国語コミュニケーションⅡB	1402084	前期	国際
	中国語留学対策	1402087	前期	国際
	中国地域文化論	1402110	後期	地域
	中国地域文化特論	1402100	前期	地域
中世近江論	1400565	後期	地域	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(国際)	1120601	前期	国際	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(水1限)	1120409	前期	全学	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(水2限)	1120411	前期	全学	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(水2限)	1120413	前期	全学	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(水3限)	1120421	前期	全学	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(水4限)	1120425	前期	全学	
朝鮮語ⅠA(初級コース)(水4限)	1120427	前期	全学	
朝鮮語ⅠB(初級コース)(国際)	1120602	前期	国際	
朝鮮語ⅠB(初級コース)(水1限)	1120410	後期	全学	
朝鮮語ⅠB(初級コース)(水2限)	1120412	後期	全学	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当	
ち	朝鮮語 I B (初級コース) (水2限)	1120414	後期	全学	
	朝鮮語 I B (初級コース) (水3限)	1120422	後期	全学	
	朝鮮語 I B (初級コース) (水4限)	1120426	後期	全学	
	朝鮮語 I B (初級コース) (水4限)	1120428	後期	全学	
	朝鮮語 II A (中級コース) (国際)	1120611	後期	国際	
	朝鮮語 II A (中級コース) (火1限)	1120429	前期	全学	
	朝鮮語 II A (中級コース) (火2限)	1120431	前期	全学	
	朝鮮語 II A (中級コース) (火3限)	1120441	前期	全学	
	朝鮮語 II B (中級コース) (国際)	1120612	後期	国際	
	朝鮮語 II B (中級コース) (火1限)	1120430	後期	全学	
	朝鮮語 II B (中級コース) (火2限)	1120432	後期	全学	
	朝鮮語 II B (中級コース) (火3限)	1120442	後期	全学	
	朝鮮語コミュニケーション I A	1402151	後期	国際	
	朝鮮語コミュニケーション I B	1402152	後期	国際	
	朝鮮語コミュニケーション II A	1402153	前期	国際	
	朝鮮語コミュニケーション II B	1402154	前期	国際	
	朝鮮語留学対策	1402157	前期	国際	
	朝鮮地域文化論	1402171	前期	地域	
	朝鮮地域文化特論	1402170	前期	地域	
	地理学実習 I	1402201	前期	地域	
	地理学実習 II	1402202	後期	地域	
	地理情報システム論	1200050	後期	社会	
	つ	通信システム工学	1301921	後期	電子
		通信情報理論	1300901	前期	電子
		通信ネットワーク工学	1300021	後期	電子
		通訳ガイド講座	1402203	前期	国際
		デジタル信号処理	1301200	後期	電子
て	定量・機器分析および同実験	1301210	前期	材料	
	テキスタイルデザイン	1402206	後期	デザ	
	デザイン思考	1403320	前期	デザ	
	デジタルデザイン演習 A	1402331	前期	デザ	
	デジタルデザイン演習 B	1402332	後期	デザ	
	哲学概論 A	1402240	前期	地域、人関	
	哲学概論 B	1402250	前期	地域、人関	
	デッサン法	1402260	前期	デザ	
	電気エネルギーシステム工学	1301220	前期	電子	
	電気回路 I	1301230	前期	電子	
	電気回路 II	1301240	後期	電子	
	電気化学	1301251	後期	材料	
	電気関係法規・施設管理	1301260	後期	電子	
	電気機器	1301270	後期	電子	
	電気電子計測 I	1301290	前期	電子	
	電気電子計測 II	1301300	後期	電子	
	電気電子設計製図	1301381	前期	電子	
	電子回路 I	1301310	後期	電子	
	電子回路 II	1301320	前期	電子	
	電磁気学 I	1301330	前期	電子	
	電磁気学 II	1301340	後期	電子	
	電子システム工学概論	1301390	前期	工学部	
	電子システム工学実験 I	1301400	前期	電子	
	電子システム工学実験 II	1301410	後期	電子	
	電子システム工学実験 III	1301420	前期	電子	
	電子システム工学実験 IV	1301430	後期	電子	
	電子システム工学セミナー	1301440	前期	電子	
	電子システムの最先端	1170320	前期	全学	
	電子社会と人間	1150270	後期	全学	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目担当
て	電子デバイス	1301450	後期	電子
	電子と化学結合	1301460	後期	工学部
	電磁波工学	1301470	前期	電子
	伝熱学	1301480	後期	機械
	天然物化学基礎	1402280	前期	栄養
	電力工学Ⅰ	1301490	前期	電子
	電力工学Ⅱ	1301500	後期	電子
	と	ドイツ語ⅠA(初級コース)(国際)	1120541	前期
ドイツ語ⅠA(初級コース)(水2限)		1120011	前期	全学
ドイツ語ⅠA(初級コース)(水2限)		1120056	前期	全学
ドイツ語ⅠA(初級コース)(水3限)		1120021	前期	全学
ドイツ語ⅠA(初級コース)(水3限)		1120031	前期	全学
ドイツ語ⅠA(初級コース)(水4限)		1120051	前期	全学
ドイツ語ⅠB(初級コース)(国際)		1120542	前期	国際
ドイツ語ⅠB(初級コース)(水2限)		1120012	後期	全学
ドイツ語ⅠB(初級コース)(水2限)		1120057	後期	全学
ドイツ語ⅠB(初級コース)(水3限)		1120022	後期	全学
ドイツ語ⅠB(初級コース)(水3限)		1120032	後期	全学
ドイツ語ⅠB(初級コース)(水4限)		1120052	後期	全学
ドイツ語ⅡA(中級コース)(国際)		1120551	後期	国際
ドイツ語ⅡA(中級コース)(火2限)		1120061	前期	全学
ドイツ語ⅡA(中級コース)(火2限)		1120071	前期	全学
ドイツ語ⅡA(中級コース)(火3限)		1120091	前期	全学
ドイツ語ⅡB(中級コース)(国際)		1120552	後期	国際
ドイツ語ⅡB(中級コース)(火2限)		1120062	後期	全学
ドイツ語ⅡB(中級コース)(火2限)		1120072	後期	全学
ドイツ語ⅡB(中級コース)(火3限)		1120092	後期	全学
ドイツ語コミュニケーションⅠA		1402281	後期	国際
ドイツ語コミュニケーションⅠB		1402282	後期	国際
ドイツ語コミュニケーションⅡA		1402283	前期	国際
ドイツ語コミュニケーションⅡB		1402284	前期	国際
ドイツ語留学対策		1402287	前期	国際
道具計画論		1402290	前期	デザ
道具デザイン演習Ⅰ		1402300	前期	デザ
道具デザイン演習Ⅱ		1402310	後期	デザ
道具デザイン演習Ⅲ		1402320	前期	デザ
統計学基礎		1402360	後期	地域、デザ、栄養、人関
道徳教育論(教職・人関)		1600390	前期	人関、教職
動物資源管理学		1202730	後期	資源
動物生態学		1202750	後期	生態、社会、資源
東洋史概説		1402370	後期	地域
特殊加工学		1301530	前期	機械
特別活動論(教職)		1600400	後期	教職
特別支援教育概論(教職)		1600820	前期	教職
都市・建築を考える		1150451	前期	全学
都市・建築をつくる		1150470	前期	全学
都市・地域計画		1202760	前期	建築
土壌環境化学	1202780	前期	生態、資源	
土壌環境情報学	1202800	前期	資源	
土壌環境物理学	1202810	前期	資源	
な	内部空間論	1202840	後期	建築
に	日本・地域交流特論	1402380	後期	地域
	日本建築史	1202850	前期	建築
	日本語ⅠA	1120461	前期	全学(留学生)
	日本語ⅠB	1120462	後期	全学(留学生)
	日本語ⅡA	1120471	前期	全学(留学生)

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
に	日本語ⅡB	1120472	後期	全学(留学生)
	日本語ⅢA	1120481	前期	全学(留学生)
	日本語ⅢB	1120482	後期	全学(留学生)
	日本語ⅣA	1120491	前期	全学(留学生)
	日本語ⅣB	1120492	後期	全学(留学生)
	日本語基礎(初級)ⅠA	1120771	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初級)ⅠB	1120772	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初級)ⅡA	1120773	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初級)ⅡB	1120774	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初級)ⅢA	1120775	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初級)ⅢB	1120776	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅠA	1120777	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅠB	1120778	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅡA	1120779	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅡB	1120780	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅢA	1120781	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅢB	1120782	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅣA	1120783	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(初中級)ⅣB	1120784	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(中級)ⅠA	1120785	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(中級)ⅠB	1120786	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(中級)ⅡA	1120787	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(中級)ⅡB	1120788	後期	全学(交留学生)
	日本語基礎(中級)ⅢA	1120789	前期	全学(交留学生)
	日本語基礎(中級)ⅢB	1120790	後期	全学(交留学生)
	日本語教育基礎	1400635	前期	国際
	日本史概説	1402390	前期	地域
	日本社会論	1402400	後期	地域、人関
	日本史料講読	1402420	前期、後期	地域
	日本文化史論A	1402441	前期	地域
	日本文化史論B	1402442	前期	地域
	日本文化論	1402450	前期	地域
	人間関係論基礎演習	1402481	後期	人関
	人間関係の科学A	1150135	前期	全学
	人間関係の科学B	1150130	後期	全学
	人間関係論演習Ⅰ	1402460	前期、後期	人関
	人間関係論演習Ⅱ	1402471	前期	人関
	人間関係論演習Ⅱ(後期)	1402472	後期	人関
	人間関係論演習Ⅲ	1402475	後期	人関
	人間関係論演習Ⅲ(前期)	1402476	前期	人関
	人間看護学統合実習Ⅰ	1500742	前期	人間看護学部
	人間看護学統合実習Ⅱ	1500743	前期	人間看護学部
	人間形成論A	1402501	後期	人関
	人間形成論B	1402502	後期	人関
	人間工学	1402510	後期	デザ
人間工学実習	1402520	前期	デザ	
人間行動論	1402530	前期	人関	
人間探求学(環境生態)	1150310	前期	生態	
人間探求学(環境社会システム)	1150300	前期	社会	
人間探求学(環境建築デザイン)	1150290	前期	建築	
人間探求学(生物資源管理)	1150380	前期	資源	
人間探求学(材料化学)	1150330	前期	材料	
人間探求学(機械システム)	1150320	前期	機械	
人間探求学(電子システム)	1150400	前期	電子	
人間探求学(地域文化)	1150390	前期	地域	
人間探求学(生活デザイン)	1150360	前期	デザ	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当	
に	人間探求学(生活栄養)	1150370	前期	栄養	
	人間探求学(人間関係)	1150350	前期	人間	
	人間探求学(国際コミュニケーション)	1150391	前期	国際	
	人間探求学(人間看護)	1150340	前期	人間看護学部	
	人間と病気	1150430	前期	人間看護学部	
	人間文化論A	1402540	前期	人間文化学部	
	人間文化論B	1402550	後期	人間文化学部	
	人間文化論C	1402560	後期	人間文化学部	
	認知心理学	1402570	前期	人間	
ね	熱力学Ⅰ	1301550	後期	機械	
	熱力学Ⅱ	1301560	前期	機械	
の	農業経営学	1202870	後期	資源	
	農業経済学	1202880	前期	資源	
	農業と環境A	1150456	後期	全学	
	農業と環境B	1150223	後期	全学	
	農業環境学	1202940	前期	生態、資源	
は	パーソナリティ心理学	1403260	前期	人間	
	廃棄物管理論	1202950	前期	社会	
	博物館学概論(学芸員)	1600551	前期	学芸員	
	博物館教育論(学芸員)	1600555	前期	学芸員	
	博物館経営論(学芸員・地域)	1402601	前期	学芸員、地域	
	博物館実習(学芸員)	1600556	前期	学芸員	
	博物館情報・メディア論(学芸員)	1600554	後期	学芸員	
	博物館資料保存論(学芸員)	1600553	後期	学芸員	
	博物館資料論(学芸員)	1600552	前期	学芸員	
	博物館展示論(学芸員・地域)	1402602	後期	学芸員、地域	
	発達支援論(人間関係)	1402609	後期	人間	
	発達心理学	1402615	前期	人間	
	発展演習Ⅰ(国際コミュニケーション)	1402621	前期	国際	
	発展演習Ⅱ(国際コミュニケーション)	1402622	後期	国際	
	パワーエレクトロニクス	1301570	前期	電子	
	半導体基礎	1301580	後期	電子	
	半導体デバイス	1301590	前期	電子	
	反応速度論	1301600	後期	材料	
	ひ	比較衣装論	1402630	前期	デザ
		比較宗教論	1403075	後期	国際
比較住居論		1150460	前期	全学、デザ、人間	
比較道具論		1402680	後期	デザ	
比較認知発達論		1402690	後期	人間	
比較文化論(地域)		1402710	前期	地域	
東アジア世界論		1402712	後期	地域	
光エレクトロニクス		1301610	前期	電子	
ビジネス・プランニング(副専攻)		1170230	後期	副専攻	
美術史A		1402731	前期	地域	
美術史B		1402732	前期	地域	
美術史実習		1402741	前期	地域	
微生物機能論		1201860	前期	生態	
微生物学/免疫学		1500205	後期	人間看護学部	
微生物工学		1200180	前期	資源	
微積分Ⅰ(材料)		1301631	前期	材料	
微積分Ⅰ(機械)		1301620	前期	機械	
微積分Ⅰ(電子)		1301630	前期	電子	
微積分Ⅱ(材料)		1301650	後期	材料	
微積分Ⅱ(機械)		1301640	後期	機械	
微積分Ⅱ(電子)		1301660	後期	電子	
微積分統論		1301670	前期	電子	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
ひ	微分方程式(材料)	1301690	前期	材料
	微分方程式(機械)	1301680	前期	機械
	微分方程式(電子)	1301700	前期	電子
	病態生理学実習	1402750	後期	栄養
	病理学総論	1500195	後期	人間看護学部
	琵琶湖環境学	1203030	後期	生態
か	びわこ環境行政論	1170150	後期	全学、社会
	ファシリテーション技法・演習	1203061	後期	社会
	複合材料	1301710	後期	材料
	服飾造形論	1402830	前期	デザ
	服飾デザイン演習Ⅰ	1402860	前期	デザ
	服飾デザイン演習Ⅱ	1402870	後期	デザ
	服飾デザイン演習Ⅲ	1402880	前期	デザ
	服飾デザイン論	1402900	後期	デザ
	服飾文化論	1402780	前期	デザ
	物性デバイス基礎論	1301720	後期	電子
	物理化学総合および同演習	1301770	前期	材料
	物理学実験(材料)	1301840	後期	材料
	物理学実験(機械)	1301830	後期	機械
	物理学実験(電子)	1301850	後期	電子
	プラズマ工学	1301860	前期	電子
	フランス語ⅠA(初級コース)(国際)	1120561	前期	国際
	フランス語ⅠA(初級コース)(水2限)	1120151	前期	全学
	フランス語ⅠA(初級コース)(水3限)	1120161	前期	全学
	フランス語ⅠA(初級コース)(水4限)	1120141	前期	全学
	フランス語ⅠB(初級コース)(国際)	1120562	前期	国際
	フランス語ⅠB(初級コース)(水2限)	1120152	後期	全学
	フランス語ⅠB(初級コース)(水3限)	1120162	後期	全学
	フランス語ⅠB(初級コース)(水4限)	1120142	後期	全学
	フランス語ⅡA(中級コース)(国際)	1120571	後期	国際
	フランス語ⅡA(中級コース)(火2限)	1120191	前期	全学
	フランス語ⅡA(中級コース)(火3限)	1120201	前期	全学
	フランス語ⅡB(中級コース)(国際)	1120572	後期	国際
	フランス語ⅡB(中級コース)(火2限)	1120192	後期	全学
	フランス語ⅡB(中級コース)(火3限)	1120202	後期	全学
	フランス語コミュニケーションⅠA	1402901	後期	国際
	フランス語コミュニケーションⅠB	1402902	後期	国際
	フランス語コミュニケーションⅡA	1402903	前期	国際
	フランス語コミュニケーションⅡB	1402904	前期	国際
	フランス語留学対策	1402907	前期	国際
	プレゼンテーション技法	1402910	後期	デザ
	プログラミング基礎(機械)	1301866	前期	機械
	プログラミング基礎(電子)	1301867	前期	電子
	プログラミング言語	1301870	後期	電子
	プロダクト素材論	1400725	後期	デザ
	文化財・保存修景論A	1402920	前期	地域、建築
	文化財・保存修景論B	1402930	後期	地域
	文化財情報論	1402940	後期	地域
	文化社会学	1402950	前期	地域、人関
	文化人類学概論	1402960	後期	地域、国際
	文化人類学特論	1402980	前期	地域、国際
	分子・統計力学	1301880	後期	材料
	分子生物学	1203100	後期	生態、資源
分子生物学基礎	1402990	前期	栄養	
分析・環境化学実験(材料化学)	1301900	前期	材料	
分析化学	1301910	前期	材料	

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
ほ	法学概論（国際法を含む）	1203110	前期	社会、人関、国際
	ポストコロナル論	1402991	後期	国際
	母性看護学演習	1500063	前期	人間看護学部
	母性看護学概論	1500061	後期	人間看護学部
	母性看護学各論	1500062	前期	人間看護学部
	母性看護学実習	1500064	前期、後期	人間看護学部
	ボランティア活動(前期) (キャリア)	1601060	前期	キャリア
	ボランティア活動(後期) (キャリア)	1601070	後期	キャリア
	ボランティア実践演習	1500841	前期	人間看護学部
	ホリスティックケア論	1500842	前期	人間看護学部
	翻訳文化論	1402992	後期	国際
ま	マーケティング論	1403000	後期	デザ、人関
み	水環境政策論	1203150	後期	生態、社会、資源
	水資源保全学	1203160	後期	資源
	水資源利用学	1203170	後期	資源
	民俗学	1403020	後期	地域
	民俗学実習	1403030	後期	地域
	民俗学特論	1403031	後期	地域
む	無機化学Ⅰ	1301930	前期	材料
	無機化学Ⅱ	1301940	後期	材料
	無機化学総合および同演習	1301950	前期	材料
	無機化学基礎	1300500	後期	材料
め	名著から学ぶ環境問題	1170260	後期	全学
	メカトロニクス	1302000	後期	機械
も	木匠塾(建築デザイン)	1203180	前期、後期	建築
	木匠塾(生活デザイン)	1401635	前期、後期	デザ
	モンゴル語コミュニケーションA	1403051	後期	国際
	モンゴル語コミュニケーションB	1403052	前期	国際
	問題解決デザイン論(副専攻)	1170060	後期	副専攻
や	薬理学	1500941	前期	人間看護学部
ゆ	有機化学Ⅰ	1302010	後期	材料
	有機化学Ⅱ	1302020	前期	材料
	有機化学Ⅲ	1302030	後期	材料
	有機化学Ⅳ	1302040	後期	材料
	有機化学総合および同演習	1302100	前期	材料
	養魚飼料学	1203320	後期	資源
ら	ランドスケープデザイン	1203200	前期	建築、資源
り	リーディング(中級) a	1120620	後期	全学、国際
	リーディング(中級) b	1120621	後期	全学、国際
	陸域環境学・同実験	1203230	前期	生態
	陸域生態系保全修復論	1203250	後期	生態、資源
	陸域物質循環論	1203260	後期	生態
	リスニング(中級) a	1120640	前期	全学、国際
	リスニング(中級) b	1120641	前期	全学、国際
	流域環境管理学	1203310	後期	資源
	流体力学Ⅰ	1302130	後期	機械
	流体力学Ⅱ	1302140	前期	機械
	量子力学概論	1302150	前期	電子
	量的データ解析論Ⅰ	1403100	前期	地域、人関
	量的データ解析論Ⅱ	1403110	後期	地域、人関
	理論生態学	1203220	前期	生態、資源
	臨床栄養学Ⅰ	1403130	後期	栄養
	臨床栄養学Ⅱ	1403140	前期	栄養
	臨床栄養学Ⅲ	1403141	後期	栄養
	臨床栄養学実習Ⅰ	1403151	後期	栄養
	臨床栄養学実習Ⅱ	1403152	前期	栄養

	授業科目名	授業コード	開講期	科目配当
り	臨床栄養活動論	1403160	後期	栄養
	臨床栄養臨地実習Ⅰ	1403170	前期	栄養
	臨床栄養臨地実習Ⅱ	1403180	前期	栄養
	臨床心理学	1403190	後期	人間
	臨地実習事前事後指導（2回生）	1403200	後期	栄養
	臨地実習事前事後指導（3回生）	1403205	前期、後期	栄養
れ	歴史的地域論	1403210	前期	地域
	歴史と文化	1170110	後期	全学
ろ	労働・社会政策論	1401025	前期	人間
	老年看護学概論	1500991	前期	人間看護学部
	老年看護学各論	1500997	後期	人間看護学部
	ロボット工学(機械システム)	1302160	前期	機械
	ロボット工学(電子システム)	1302170	前期	電子

隔年開講（奇数年）科目

	授業科目名	授業コード	科目担当
あ	アジア交流論	1400050	地域
い	移民社会論B	1400073	国際
う	ウイグル式モンゴル文字史料講読	1403063	国際
か	開発人類学	1400262	国際
き	教科教育法Ⅰ（家庭科教育法Ⅰ）	1600090	教職
	教科教育法Ⅰ（工業科教育法Ⅰ）	1600100	教職
	教科教育法Ⅰ（情報科教育法Ⅰ）	1600330	教職
	教科教育法Ⅱ（家庭科教育法Ⅱ）	1600160	教職
	教科教育法Ⅱ（工業科教育法Ⅱ）	1600170	教職
	教科教育法Ⅱ（情報科教育法Ⅱ）	1600340	教職
け	現代ジャーナリズム論	1400650	地域、人間
こ	考古学特論B	1400752	地域
	国際社会論	1400685	地域、人間、国際
し	社会変動論	1401180	地域、人間
	社会問題の社会学	1401190	人間
	情報と職業	1600350	教職
	食生活教育論	1600510	教職
	食物学（調理実習を含む）	1600800	デゼ、教職
す	水環境施設学	1201920	資源
せ	生活経営概論	1401561	デゼ、人間
	政治経済学	1401720	人間、国際
た	対外文化交流論A	1401840	地域
	多文化共生論	1170170	全学
ち	地域経済史論	1401900	地域
	地域考古学C	1401950	地域
	地域考古学D	1401960	地域
	地域文化財論A	1402020	地域
て	哲学概論B	1402250	地域、人間
に	日本文化史論A	1402441	地域
	人間形成論A	1402501	人間
は	パーソナリティ心理学	1403260	人間
	発達心理学	1402615	人間
ひ	比較認知発達論	1402690	人間
	美術史B	1402732	地域
ふ	文化財・保存修景論B	1402930	地域
ろ	労働・社会政策論	1401025	人間

隔年開講（偶数年）科目

	授業科目名	授業コード	科目担当
あ	アジア社会論	1400060	地域
	アジア文化特論A	1400057	国際
い	移民社会論A	1400072	国際
お	近江の美	1170200	全学
か	家族の心理と社会	1403240	人間
	学校栄養指導論（栄養教諭）	1600500	教職
き	教科教育法Ⅰ（農業科教育法Ⅰ）	1600140	教職
	教科教育法Ⅱ（農業科教育法Ⅱ）	1600210	教職
	教科教育法Ⅲ（家庭科教育法Ⅲ）	1600230	教職
	教科教育法Ⅳ（家庭科教育法Ⅳ）	1600240	教職
け	現代産業デザイン論	1400640	デゼ
こ	考古学特論A	1400751	地域
	国際関係論	1400861	国際
	こどもの健康（家庭看護を含む）	1600444	デゼ、教職
	こどもの発達（実習を含む）	1600445	デゼ、教職
さ	サブカルチャー交流論	1400911	国際
し	社会運動論	1401875	人間
	社会学史	1401060	地域、人間
	社会心理学（人間関係）	1401100	人間
	職業指導	1600360	教職
せ	生活法	1401710	人間
た	対外文化交流論B	1401850	地域
ち	地域考古学A	1401930	地域
	地域考古学B	1401940	地域
	地域社会論	1403250	人間
	中国地域文化特論	1402100	地域
	朝鮮地域文化論	1402171	地域
と	土壌環境情報学	1202800	資源
に	日本文化史論B	1402442	地域
	人間形成論B	1402502	人間
	認知心理学	1402570	人間
ひ	美術史A	1402731	地域
	東アジア世界論	1402712	地域
ふ	文化財・保存修景論A	1402920	地域、建築

注) 授業科目一覧中「科目配当」欄の略称は次のとおり

全学： 全学共通

全学（留学生）： 留学生用

全学（交留学生）： 交換留学生用

環境科学部： 環境科学部共通

生態： 環境生態学科

社会： 環境社会システム学科

建築： 環境建築デザイン学科

資源： 生物資源管理学科

工学部： 工学部共通

材料： 材料化学科

機械： 機械システム工学科

電子： 電子システム工学科

人間文化学部： 人間文化学部共通

地域： 地域文化学科

デザ： 生活デザイン学科

栄養： 生活栄養学科

人関： 人間関係学科

国際： 国際コミュニケーション学科

人間看護学部： 人間看護学部

看護（保健師）： 保健師資格取得関連

副専攻： 地域学副専攻関連

教職： 教員免許取得関連

学芸員： 学芸員資格取得関連

キャリア： キャリア教育・ボランティア関連



# 本手引の内容はWebポータルにも掲載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。

（トップページの「学部・大学院」からアクセスし、「教育情報」の「履修の手引」を押下してください）

各科目の講義概要（シラバス）については、県大ポータルUSPo（以下「USPo」という。）で確認してください。

USPo <https://unipa.usp.ac.jp/uprx/>

この冊子は 2026（令和8）年度入学生用です。2025（令和7）年度以前入学生は「自分の入学した年度の履修要件（卒業要件を含む）」を確認してください。